

幼児の文構造の発達：3歳～6歳児の場合

著者	国立国語研究所
発行年月日	1973-03
シリーズ	国立国語研究所報告；50
URL	http://doi.org/10.15084/00001297

国立国語研究所報告 50

幼児の文構造の発達
— 3 歳～ 6 歳児の場合 —

大久保 愛

国立国語研究所

1 9 7 3

刊 行 の こ と ば

幼児がどのような文構造を使って話しているかは、学問的にはまだ十分な検討が行われていないと言ってよい。

この研究は、幼児の文構造研究の分野を開拓しようとし、幼児の話しことばを、(1)単文や複文の構造と用法、(2)連体修飾語や文末の構造と用法、(3)接続詞の用法などの面から分析したものである。

対象を、集団生活をしている、保育園・幼稚園児にとり、5・6歳児を中心にして、3歳児からの発達を見た。

この研究は、コミュニケーション研究の一つとして、幼児のコミュニケーション能力の発達を文形成の上からとらえようとしたものであり、言語効果研究室員大久保愛が、室長高橋太郎と計画・実施にあたった。その間、屋久茂子・鈴木美都代が調査・整理分析等の作業を助けた。本書の執筆は大久保愛が担当した。

この研究を進めるにあたり、東京自由保育園、赤いとり幼稚園、小川幼稚園、神谷保育園の先生がたにご協力をいただき、また、補充資料採集のため、特定幼児の父母のかたがたにご参加いただいた。記して、厚くお礼を申しあげる。

昭和48年3月

国立国語研究所長 岩淵悦太郎

目 次

はじめに	1
第1部	3
第1章 調査研究の概要	4
1.1 目的	4
1.2 調査担当者	4
1.3 調査のあらまし	4
1.3-1 計画準備	4
1.3-2 録音資料の採集	4
1.3-3 調査園および幼児数	5
1.3-4 「幼児のことばカード集」およびカードの作成	6
第2章 幼児の話しことばの実態	9
2.1 話題に対する幼児の反応	9
2.2 幼児の話しことばの事例	15
第2部	61
第1章 文構造の分析の方法	62
1.1 3歳までの文の発達	62
1.2 幼児の文構造分析のための方法	63
1.2-1 チョムスキーの生成文法	63
1.2-2 『話しことばの文型(2)』	66
1.2-3 この本の方法と略号	68
第2章 幼児の単文の構造と用法	71
2.1 幼児の文の種類	71
2.2 文の認定	71
2.3 幼児の単文の構造	72
2.3-1 省略構文	73
2.3-2 述語構文	73
2.3-3 主述構文	76
2.3-4 題目語をもつ構文	77
2.4 まとめ	77
第3章 幼児の複文の構造と用法	108
3.1 一つの接続助詞によって文が成立している場合	108
3.1-1 主語一つからなる構文	108
3.1-2 主語二つからなる構文	110
3.1-3 題目語をもつ構文	110
3.2 二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合	111
3.2-1 主語一つからなる構文	111
3.2-2 主語二つからなる構文	111

3.2-3	主語三つからなる構文	111
3.2-4	主語四つからなる構文	112
3.2-5	主語五つからなる構文	112
3.2-6	題目語をもつ構文	112
3.2-7	その他の構造からなる文	112
3.2-8	不明文	113
3.3	接続助詞たり、しをもつ文	114
3.4	まとめ	114
第4章 連体修飾語の構造と用法		153
4.1	連体修飾語の構造	154
4.1-1	一語よりなる連体修飾語の構造	154
4.1-2	二語以上よりなる連体修飾語の構造	154
4.1-3	まとめ	157
4.2	連体修飾語の修飾、被修飾の意味的關係	157
4.2-1	修飾語が被修飾語の所有者あるいは所屬を規定する	158
4.2-2	修飾語が被修飾語の位置や時間、順序、数量を規定する	158
4.2-3	修飾語が被修飾語の属性を規定する	158
4.2-4	修飾語が被修飾語の成立に關与する度合の強いもの	159
4.2-5	修飾語と被修飾語が同格の關係になっているもの	159
4.2-6	まとめ	159
第5章 文末の形式と用法		184
5.1	平叙文の文末形式	185
5.1-1	平叙文の文末形式(1)	186
5.1-2	平叙文の文末形式(2)	188
5.2	疑問文の文末形式	189
5.3	命令文の文末形式	190
5.4	まとめ	191
第6章 接続詞の用法		212
6.1	接続詞の種類	212
6.2	接続詞使用の実態	216
6.2-1	それで	217
6.2-2	それから	218
6.2-3	そして	219
6.2-4	そしたら	219
6.2-5	だから	220
6.2-6	だって	220
6.2-7	だけど	220
6.2-8	でも	220
6.2-9	そうすると	220
6.2-10	その他	220

6.3 まとめ	220
おわりに	249
付録	253
付1 幼児の話す長さ	254
付2 補足文の構造の分析	257
2.1 補足文の構造	257
2.1-1 文の成分の欠けているものの追加補充	257
2.1-2 内容の追加や成分の訂正補充	258
2.1-3 くりかえしての追加	259
2.1-4 意味不明のもの	259
2.2 まとめ	259
〔用例表索引〕	
幼児の単文構造の使用例	80
省略構文	80
述語構文	81
主述構文	95
題目語をもつ構文	106
幼児の複文構造の使用例	118
一つの接続助詞によって文が成立している場合	118
二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合	131
接続助詞たり、しをもつ文	150
二語以上よりなる連体修飾語の構造使用例	161
連体修飾語の修飾、被修飾の意味的關係—名詞と名詞のくみあわせの 場合の使用例	174
平叙文の文末形式(1)の使用例	193
平叙文の文末形式(2)の使用例	197
疑問文の文末形式使用例	202
命令文の文末形式使用例	209
幼児の接続詞の使用例	222
幼児の補足文の使用例	261

はじめに

——この報告書の構成——

幼児の話しことばがどのような構造をしている文(sentence)から成り立っているかについての研究は少ない。特に幼児後期の話しことばの構造についての研究は幼児前期に比べて文が複雑になることもあって、皆無であるといっても過言ではない。

この研究は、幼稚園と保育園（各二園計四園）の協力を得て、幼児（年少児、年中児、年長児、年齢3歳3から6歳6まで）の話しことばを録音、文字化したものを資料として行なったものである。3万近くの文を分析した。

文構造の分析研究に当っては、最近までの現代語構文の研究法を参考にしながら、幼児の話しことばの文構造研究に適当と思われる方法をさぐっていくという研究法をとったが、定説の部分はともかく、学問上問題のあるところなどあって、幼児の文構造の発達を概観するにとどまった。今後この調査研究が踏み台となって、より細かく、幼児の文構造の発達の研究並びに研究法の生まれることを期待する。

この報告書は1部2章、2部6章、付録2から成っている。

第1部ではこの調査の研究概要、及び録音を文字化した幼児の話しことばの実際を紹介、解説した。

第2部では、以下のように6章にわけて、調査研究の結果をくわしく報告した。第1章 文構造の分析の方法、第2章 幼児の単文の構造と用法、第3章 幼児の複文の構造と用法、第4章 連体修飾語の構造と用法、第5章 文末の形式と用法、第6章 接続詞の用法。付録として、1 幼児の話す長さ、2 補足文の構造の分析。

なお、おわりに、この研究に関するまとめと将来の課題について付記した。

第 1 部

第1章 調査研究の概要

この調査研究はこれからのべる目的および計画のもとに行なわれた。

1.1 目的

幼児のコミュニケーション機能の発達は、言語の獲得あるいは言語活動の形式の分化の中にさまざまな形であらわれるが、これを、幼児の文表現が成立し、文形式が形成されていく過程でとらえようとする。

そのために、まず伝達機能の単位としての文をとりあげ、文を構文、陳述の両側面から文法的に分析する。

選ばれた幼児は、まず、到達点としての5～6歳児を対象にする。次に、発達の観点に立って1～6歳児の問題を扱う。ただし、ここで報告するのは前者5～6歳児のものであり、その比較のため3、4歳児も扱ってある。

1.2 調査担当者

この調査は室長高橋太郎（1970年9月まで）、芦沢節（1970年9月より）のもとで、主として大久保愛が担当し、研究補助員屋久茂子（1968年5月まで）、鈴木美都代（1968年6月より）が、調査および「幼児のことはカード集」の作成、構文の整理分析等の作業を助けた。その他臨時補助者中島通善、原口嘉代、設楽晴美の助力も得た。

1.3 調査のあらまし

この調査は、1965年からはじまり、1971年に一応完結した。以下に調査のあらましをのべる。

1.3-1 計画準備

第1年目は、調査の計画のための準備を行なった。

(1)対象への接近の観点の検討——このような調査についての内外の文献調査、幼稚園、保育園の園児の観察、手持ちの録音資料の分析等を行なった。

(2)調査法の検討——録音採集の方法、記録の方法などの検討。文構造をみる上での効果的調査法は何か。そのため、集団的、個人的に録音をとって検討してみた。また、記録法としては、カード方式についての検討とか、発音式か現代かなづかい式か、かな表記か音声記号表記か、などの表記法の検討も同時に行なった。

1.3-2 録音資料の採集

以上の検討の結果、以下の方法で、幼児の話しことばの採集を行なった。

(1)場面——大きく(a)つくられた場面、(b)自然の場面が考えられる。(b)の自然の場面で話しことばの採集をするのができれば理想的であるが、録音機のパフォーマンスとか、採集の場所などを考え、また分析の目的が文構造ということなどのため、(a)の場面で採集することにした。(a)の中でも、幼児

同士の対話をとることもできるが、場面を固定してやれる利点から、調査者のいる別室に幼児を招き、調査者と幼児である被験者との問答形式で話しことばをとることを採用した。(以下この調査を「問答式」と略称する) 結論的には、文の構造の分析には、この方法が自由の場より整った文形式がとれたのではないかという意味で有効であったと思っている。ただ、伝達機能の面の調査としては、この「問答式」では不十分である。そのためには、たとえば「役割遊び」などの場面を設定しての調査も考えられる。しかし、こんど場合は行なわなかった。補充資料としては、自由の場での幼児の話しことばの一つとして、幼児をもつ3家庭に委託して採集してもらい、この欠を補った。「自由の場」と略称する)

「問答式」の問に当る部分については、前もって検討した。幼児の生活を観察して、幼児の生活場面の全体がおおえるように努めた。

(2)話題について——10の問を用意した。以下のようである。

- (a)本人(幼児)の名まえと年齢
- (b)家族について(構成メンバー、だれが好きか、両親の仕事など)
- (c)新しい、あるいは印象深い経験(運動会、お祭、夏休み、旅行、休日など)
- (d)園や家庭での生活(昨日何をしたか、どういう遊びをするか、幼稚園での生活、友だちのこ
と、趣味、夢など)
- (e)園へ、あるいは家への道順
- (f)両親から聞いた話や自分で読んだ本
- (g)テレビで見た漫画、その他の筋や感想
- (h)社会的話題(ニュースその他)
- (i)筋のある絵を見せて話を作らせる
- (j)その他

これらを幼児に質問することによって、文構造の形態ばかりでなく、幼児の精神的傾向もあわせて見られるようにした。すなわち、経験したものの再生力や、他人に筋道をたてて話す能力や、話を作り構成する創作力、構成力などもみられたり、幼児が何に関心をもっているかの興味のありかたもわかるようになっていく。これら資料は、「幼児のことばカード集」として印刷した。印刷の面では、文の分析用としても使用するため、カードに裁断できるように組んだ。のちに見本を示す。

(3)時間について——時間は制限せず、できるだけたくさんしゃべらせるようにした。それは何分間に何文字、あるいは何文節しゃべるか进行调查するのを目的とせず、どのような文構造を使用するかをみるためだからである。(長くしゃべった子で30分、平均10分前後だった。)

1.3-3 調査園および幼児数

この調査には、次の園の先生がたにお世話になった。

東京板橋区、東京自由保育園(1965、66、70年各9月)

東京北区、赤羽台幼稚園(現在、「赤いとり幼稚園」と改称)(1965、66、70年各9月)

東京千代田区、小川幼稚園(1968年6月)

東京北区、神谷保育園(1968年5月)

園児の人数は次表のとおり。

調査園および人数			* 年中、年長が同一幼児の人数、男 22、女 16、計 38 名						
	年 長（5:5～6:6）			年 中（4:1～5:6）			年 少（3:3～4:4）		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
T 園	30 名 * 12	23 名 * 8	53 * 20	14 * 12	8 * 8	22 * 20	7	5	12
A 園	35 * 10	27 * 8	62 * 18	12 * 10	12 * 8	24 * 18	16	6	22
K 園				17	14	31	12	8	20
O 園				31	13	44	10	5	15
計	65	50	115	74	47	121	45	24	69

この中には 1965 年に年中児だったものが 1966 年に年長児になって、同じ質問に答えたものがある。*で示した。男 22 名、女 16 名である。これで同一児の場合の発達もみられる。

これら園児の家庭の職業、兄弟関係の記録もある。おおざっぱな職業分布は、東京自由保育園は、商人、小企業の工場主などが中心で、赤羽台幼稚園はホワイトカラー、小川幼稚園は小企業、商人、公務員、神谷保育園はブルーカラーのニュアンスがある。

1.3-4 「幼児のことはカード集」およびカードの作成

前にのべた話題を中心に、一人の幼児と別室で向い合って、調査者が質問するという問答形式で、幼児の話しことは録音テープに採集する。そのテープを文節分かち書き、かな表記で文字化する。それをのちにのべる形式で「幼児のことはカード集」と分析用カードにしたものが、この研究の資料となっている。以後用例としてあげるときの理解のため、少しくわしく述べる。

「幼児のことはカード集」およびカードは次のようになっている。カード集の最初にあげた凡例から関係のあるところを述べる。

凡 例

- 1 カード毎に園名、幼児略名、性別、年齢、幼児毎のカードナンバー、採集年を、この順で入れた。また、環境とことばの関係もみたいと思い、その一つの方法として兄弟姉妹の記入をした。「本」は被験者本人の意である。
赤＝赤羽台幼稚園 自＝東京自由保育園 小＝小川幼稚園 神＝神谷保育園 長＝年長児 中＝年中児 少＝年少児 a・b・c……, A・B・C……, a'・b'・c'……＝幼児名のかわりに用いた記号である。(本人の名一字をとり漢字で示したカード集もある)
- 2 カードのはじまりに前のカードのあと二行を繰返し、そのカードだけでも文脈がわかるようにした。長い点線で区別した。
- 3 発話者のうち、対象になる幼児の発話をかたかな・調査者の発話を漢字まじりひらがな・外来語をかたかな・書き、横書きとした。
- 4 幼児の発話にかぎり文節分かち書きを用い、文節毎に一字あけた。(発話のとぎれた場合は文節中でも一字あけた)
- 5 表記は現代かなづかいとし、長音符号は、語をのばして発音している場合と外来語のみに使った。

「ネー」「ナーニ」「ジェッター」など。

- 6 一枚のカードに幼児の**ことば**をなるべくたくさん入れたいため、調査者の発話は、必要最少限にとどめた。録音のとおりでない。
- 7 幼児の発音はできるだけ忠実に写すよう心がけたが、アクセント、イントネーションは記録されていない。
- 8 以下に、使用した記号の説明をする。

○＝幼児の発話のはじまりを示す

。＝ふつうの文末

；＝倒置あるいは補足文

，＝長文での句末，文の中断，文節中のとぎれ

？＝疑問文

！＝感嘆

()＝発話の不明瞭

{ }＝二様にきこえるばあい

……＝間（ポーズ）

＃＝調査者の合づち「うん」「ん」の略

然＝調査者の応答「そう」「そうね」などの略

ことば＝同時発言
ことば

[]＝ことばや状況の注釈

/ /＝文中に別の発話者のことばが入ってきたばあい

「 」＝直接話法ほか

次頁の表は「幼児の**ことば**カード集」の一ページを縮めたものである。これを八つに裁断すると分析用カードができる。カード集各70部カード1枚について80枚ずつをつくった。分析用カードは、次のようである。

赤中-1男(4:8)-1	1965
いくつですか？	
○ミッツ。	
ん？	
○ミッツ。 然	
あのねうちだれとだれいます？	
○パパト ジュンコチャント オバアサン。 然	
だれ一番好き？	
○パパ。	
どして？	
○パパ ヤサシイカラ。 然	
大きな声で言ってよね。パパのお仕事知ってる？	

補充調査用として、「自由の場」での録音もとったが、この報告書では「文末の形式と用法」（第2部第5章）で使用したのみである。自由の場での発話では、これまでの経験からそう複雑な文形式が出ず、「問答形式」でのあらたまった場での文形式に吸収されるように思われたからである。しかし、たしかなことは、今後の調査に待たなければならないが、この本では、そこまでは扱っていない。

自由の場で採集した幼児は次のようである。

赤中-1 男 (4:8) -1 1965
 いくつですか？
 ○ミッツ。
 ん？
 ○ミッツ。 然
 あのねうちだれとだれいます？
 ○パパバ ジュンコチャント オバアサン。 然
 だれ一番好き？
 ○パパバ。
 どして？
 ○パパ ヤサシイカラ。 然
 大きな声で言ってよね。パパのお仕事知ってる？

赤中-1 男 (4:8) -2 1965
 ○パパ ヤサシイカラ。 然
 大きな声で言っつてよね。パパのお仕事知ってる？
 ○ん。
 なーに？
 ○アノネ # オミヨツゲ ツクツタリ /ん？/ オソバ ツクツ
 タリ スンノ。 然
 お母さんにしてらっしゃる？
 ○オカアサン！ # アノー オチャワンアライ シテンノ。 然
 きのうね幼稚園から帰ってなにしました？
 ○ヨウチエンカラ カエッテ キタラ？ # ス マナブチャンノ
 ウチ イッタノ。

赤中-1 男 (4:8) -3 1965
 ○ヨウチエンカラ カエッテ キタラ？ # ス マナブチャンノ
 ウチ イッタノ。
 でなにしたい？
 ○(ソ) イデネ # アソソ プー ナラシテモネ # デテ コナ
 イカ(ラ) モイチド ヤッテ ミタラネ # マダ デテ コナ
 イカラ # カイシャ イッタノカナート オモツテ # サ(ツ
 キ) アノ カエツチャツタノ。 然
 運動会おもしろかったでしょう。なにがたのしかった？
 ○スズワリ。 然
 お休みの日ね。あの日曜日なんかねえ。なににする？
 ○ニチヨウビ？ # オヤスミノ トキ？ # パパバ？ # パバ

赤中-1 男 (4:8) -4 1965
 お休みの日ね。あの日曜日なんかねえ。なににする？
 ○ニチヨウビ？ # オヤスミノ トキ？ # パパバ？ # パバ
 (ハ) ネー # ジドウシヤ ナンデモ ツクツタ クレル(ノ)。
 それからどういふことするの？
 ○アノネー # エートネー # パバ？ # エートネ ナンカ
 イロンカ モノ ツクツタネー # ボクニネ # クレンノ。
 然
 大きくなったらなんになりたい？
 ○オオキクナツタラ？ # ヒコウキ。
 どして？
 ○ヒコウキ イ(イ)ンダモ (ノ)
 (ン)。

赤中-1 男 (4:8) -5 1965
 どして？
 ○ヒコウキ イ(イ)ンダモ (ノ)
 (ン)。
 幼稚園は楽しいけどなにが一番楽しい？
 ○ヨウチエン？ # ボールナゲ。
 ぼくちね幼稚園から行くにはどう行けばいいの？
 ○マガッテ イケバ (イイノ)。
 テレビ見る？なにが一番好き？
 ○テツシン。
 どんなの？鉄人のお話。
 ○モンスタートカ ロボットカ ナンデモ デンノ。
 でどういふことするの？

赤中-1 男 (4:8) -6 1965
 ○モンスタートカ ロボットカ ナンデモ デンノ。
 でどういふことするの？
 ○テツシン？ # テツシンネー # {3} レンドブツ(ト) ナ
 ンカ テルミ ヤッ (テ)
 (ツク) ルノ。
 どんなところおもしろい？
 ○エ？
 鉄人のなかでねどういふところが一番おもしろい？
 ○ショウタロウ。
 どうして正太郎がいいの？
 ○ショウジュウキ モツテル トコロ /ん？/ ショウジュウキ。
 然

赤中-1 男 (4:8) -7 1965
 ○ショウジュウキ モツテル トコロ /ん？/ ショウジュウキ。
 然
 お母さんね絵本読んでくださったりお話してくださる？どんなお話
 聞いた？
 ○モモタロウサン。
 やってみて。
 ○「モモタロウサン」ッテ (イウノ)。
 そのお話聞かせてよ。先生に。
 ○ん。 # タカラネー # キツ(イ)ノネー # アノーネー
 アノ オバアサンガ センタク シテルトネー # アノーネ カワ
 デネ センタク シテ イター オバアサンガネー アノーネ ウー

赤中-1 男 (4:8) -8 1965
 アノ オバアサンガ センタク シテルトネー # アノーネ カワ
 デネ センタク シテ イター オバアサンガネー アノーネ ウー
 モモガネ ナガレテ キチネー # ビックリシテネー # ソイ
 デ オシイサンノ オミヤゲデ モツテ カエツタノ。 # ソイ
 デネー モグ アノ ソイデ オバアサント オシイサンガ コノ
 モモヲ タベヨウト オモツタ(ラ) ナカカラ ポキヨント
 アカチャンガ デテ キタノ。 # ソイデ コレハ モモカラ
 ウマレタ モモカラ デテ キタカラネ、# モモタロウツテ ナ
 ヲ ツケタンダツテ。 然 ソイデ オオキク ナツタネ # ハ
 タラクヨウニ ナツタノ。 # ソイデネ オニガシマニ イカラ
 オニタイジニ イッタンダヨ。 # タカラ オニ イッテネ #

対象児 宮島さおり 1965 年 5 月生 3 歳児 渡辺真史 1963 年 4 月生 5 歳児
 泉奈津子 1964 年 6 月生 4 歳児

このようにして出来た「幼児のことばカード集」は 7 冊、そのうち「問答形式」6 冊、「自由の
 場」1 冊、カードの枚数(ことなり)問答形式 5,152 枚、自由の場 1,530 枚で、問答形式の内訳
 は、年少 863 枚、年中 1,996 枚、年長 2,293 枚となっている。

第2章 幼児の話しことばの実態

2.1 話題に対する幼児の反応

幼児の話しことばがどんなものか、われわれは常に聞いていてわかっているつもりだったが、実は一面しかわかっていなかったということを、幼児の話しことばを録音、文字化してみてもはじめて理解できた。あらたまった場面でも案外しゃべれるということも知った。くわしいことは徐々にのべることにして、まず、前述の話題で聞いた場合の全体的な反応をのべておくことにする。

(a)名前と年齢については、名前を言わない幼児もいたがほとんどの幼児が答え、幼児音の残っている幼児もみられた。年少に多く、年長に少ない。年齢については、まちがえる幼児や答えない幼児もいたが大部分が答えた。「よっつ」「いつつ」が多く、中には「マン○サイ」「○サイデス」という幼児もみられた。

(b)家族についての質問では、構成メンバーを聞いたため助詞「と」で名前を並べてのべる形式が多く出た。すなわち「ノリコトネ ママト オトウサント ボク。」というように。だれが好きかでは、母親が圧倒的に多かったが、父親という幼児もいて、やさしい、おみやげを買ってきてくれるなどと理由づけていた。父親が何の仕事をしているかについては知らないという幼児が多かった。家で仕事をしている父親の仕事については、具体的にこんな仕事をしていると答えてくれた。母親はせんたく、掃除をしたり、弟妹のことをみているという発言が多かった。

(c)印象深い経験としては、この調査の時期が9月（一部5、6月の時期もある）だったので、夏休みのこと、運動会のことを聞いた。また、それとは関係なく、日曜日などの休日の生活のことを聞いたり、遠い所に行ったことの経験を話してもらった。

(d)園や家庭での生活については、幼稚園ではどういうことをするか、何をするのが好きか、家では何をするか、だれと仲良しか、昆虫採集など好きか、夢をみることがあるか、家のまわりに何があるかなど聞いた。話がはずまない場合は、今何をしていたか、きのう何をしたか、などの質問形式にした場合もある。幼児の趣味、たとえば図鑑などをみて古い時代の動物などを知っている幼児とか乗物にくわしい幼児は、話がそこにくると、生き生きと話してくれた。話がはずまないときは好きな食べものを聞いたこともある。

(e)家から園への道順、あるいは園から家への道順を聞いてみた。これについては、それぞれの幼児の家の位置をしらべ、話した事実と一致しているかどうかのたしかめが必要であるが、こんど場合は文構造をみるのを目的にしたので、全部の幼児についてのたしかめは行なわなかった。しかし、ほとんどの子どもの表現では目的地にたどりつくことは不可能である。この年齢でこういう質問はまだ無理のようである。これは分析資料としては一部にしか用いなかった。

(f)両親から聞いた話や自分で読んだ話を、調査者に話してもらった。どの幼児もが聞いた話を話してはくれなかった。忘れたというのが多かった。また、親が話してくれないとか、小さいときは話してくれたが今は話してくれないので話せないという幼児もいた。しかし、一方、たいへんよく覚えていて楽しく話してくれた幼児もいた。次表のような作品である。（順不同、調べられ

るものは調べたがどういう本が土台になっているかわからないものもある。表記は漢字まじりにした)その他、母親が物語絵本とか、テレビ漫画の絵本を買ってくれて、読んでくれたり、自分でも読むというのがあった。

幼児が話してくれたお話

年 長	年 中	年 少
さるかに合戦 桃太郎 浦島太郎 金太郎(坂田の金時) こぶとり爺さん いなばの白うさぎ シンデレラ姫 赤ずきん どろんこハリー 家なき子 孫悟空 ジャックとマメの木 プレーメンの音楽隊 親指姫 あわてどろぼう 子鹿のパンピ いばったおんどり エルマーの冒険 はめるんのふえふき くろうさぎとしろうさぎ イソップえばなし はなのすきなうし ふしぎの国のアリス いやいやえん	さるかに合戦 桃太郎 かぐや姫 舌切雀 シンデレラ姫 赤ずきん どろんこハリー ちびくろサンボ ガリバー ヘンゼルとグレーテル 三匹のこぶた 三匹の山羊のがらがらどん しなの五人のきょうだい おだんごばん いたずらチュウチュウ たいへんたいへん すてごのゼミ チムとゆうかなん船長 あまんじゃく 玉ねぎ玉ちゃん かたつむりのお話	桃太郎 浦島太郎 赤ずきん ちびくろサンボ 三匹のこぶた 三匹の山羊のがらがらどん

(g)テレビで見た漫画やその他の筋や感想を聞くと、本のとくと比べて、どの子もはずんだ声でみているテレビ番組の名まえを言ったり、出てくる登場人物の名前をあげたりした。ただ、その内容を聞くと、いっぱいみてるから、あるいは前みたのでわからない、などの理由で話してくれない幼児が多かった。概括してのべることはむずかしいし、そうかといって、どの時点での物語を話したらよいか迷ったからでもあろう。たまたま、きのう好きな番組をみていた幼児がくわしく話してくれるというケースもあったかもしれない。

次表は幼児が見ていると言ったり、その一部を話してくれたりしたテレビ番組である。(坂元昂「幼児向け番組とその周辺(上)」放送文化1968.6とか、当時の新聞縮刷の放送番組を参考にし検討しなおしたが、それらに見出せない番組名もあった)かっこの中の年数は採集した年である。

幼児がみているといったテレビ番組

年 長	年 中	年 少
いいものつくろ (1965) 宇宙少年ソラン 宇宙人ピピ オバケのQ太郎 スーパージェッター チャコちゃんハイ! 鉄人28号 鉄腕アトム トムとジェリー ビッグX ひょっこりひょうたん島 ブーフォーウー ポパイ まんが大行進 遊星少年パピイ ワンダースリー ジャングル大帝 ぼっこちゃん	宇宙エース (1965) 少年ジェット スーパーマン 0 戦はやと 鉄人28号 ビッグX ブーフォーウー ポパイ 遊星少年パピイ 私の秘密 エイトマン 奥様は魔女 ジャングル大帝 ターザン 秘密探偵クルクル 遊星仮面 アップダウンクイズ (1968) ウルトラセブン ウルトラマン 怪物くん カエルのぼうけん 巨人の星 ゲゲゲの鬼太郎 コメットさん ジャイアント・ロボ チャコちゃん ひょっこりひょうたん島 冒険少年シャダー ポパイ マイティ・ジャック 魔法使いサリー ママとあそぼう!ピンポンパン 遊星仮面 リボンの騎士 ロンパー・ルーム わんぱく探偵団 パーマン ハリスの旋風 ヤダモン	ウルトラQ (1968) ウルトラセブン ウルトラマン 黄金バット 怪物くん カエルのぼうけん キャプテン・ウルトラ 巨人の星 コメットさん ジャイアント・ロボ 魔法使いサリー アタック No.1 (1970) ウルトラマン 怪物くん ゲゲゲの鬼太郎 光速エスパー サインはV タイガーマスク チビラくん ひみつのアッコちゃん マグマ大使 みんなであそぼう!ピンポンパン ムーミン もーれつア太郎 オバケのQ太郎 キングコング ポパイ
ウルトラマン (1966) おそ松くん おはなはん おはよう!こどもショー サンダーバード チャコちゃんハイ 鉄腕アトム ひょっこりひょうたん島 マグマ大使 ウッドベッカー 宇宙少年ソラン(?) 子鹿ものがたり		

(h)社会的話題については、大部分の幼児から聞くことができなかった。ひとり年長の男子が吉展ちゃん事件のニュースをみた話を少し長くしてくれた。あとは交通事故、地震などについて視聴したことがあるといった程度である。

(i)筋のある絵を見せて話を作らせるというのでは、一つは幼児向けの絵本(「よいこのかくしゅう」学研 1963.4)から選んだもの。あと三つは、幼児の夏休み帳に出ていたものを使わせてもらった。三こまの絵からなっていて(のちに実物を示す)、それらを幼児にみせ、お話をつくらせるというものである。絵をみて話す場合は、絵が目の前にあるので、とにかく何かをしゃべらねばならないというのではほとんどの幼児が何らかの反応を示している。それは絵本を読んでもらったの

しまうまといおんの話



とかテレビをみてその話を思い出して（再生）話するとき、全く話せない幼児がいるのと対照的である。（付録1として、話題によってどのような反応のちがいがあったかを文節数その他で示す。）

(i) その他の中には、次のような問がある。

(イ) 大きくなったらなにになりたいか

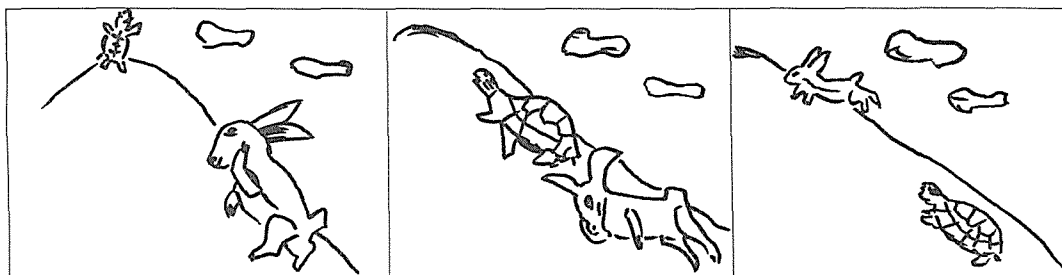
(ロ) 右、左が言えるか



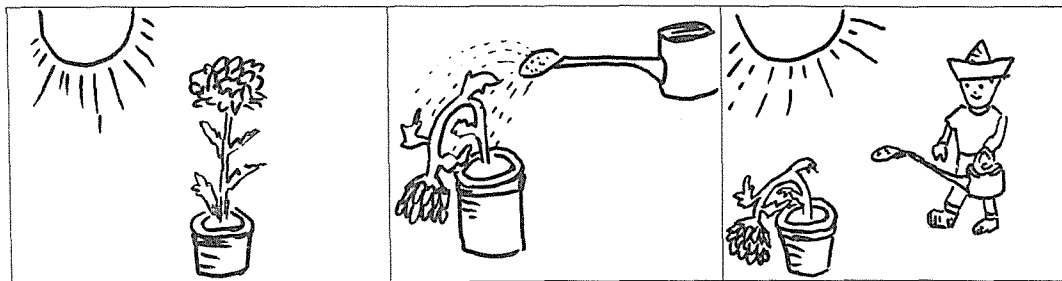
- (イ) 数はどれだけ唱えられるか、10 から 1 まで逆に唱えられるか
- (ロ) 絵「しまうまといおん」に書かれている文字が読めるか
- (ハ) その他、幼児が積極的に話したもの

三こまの絵からなる話

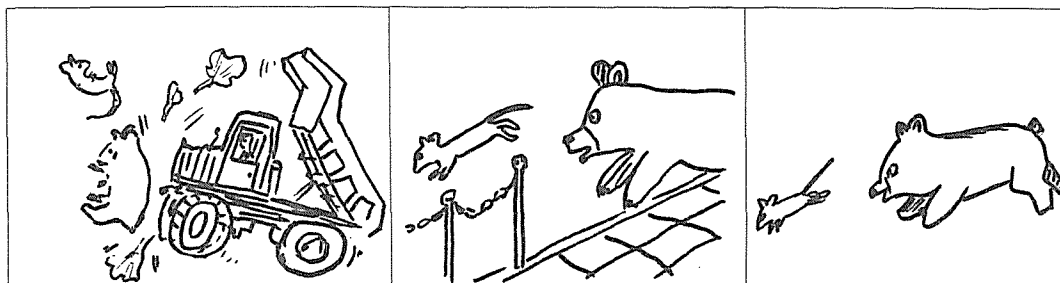
1 うさぎとかめ



2 男の子と花



3 ねずみとくま



2.2 幼児の話しことばの事例

幼児がどのような発話をしたかの実例をあげる。どの幼児を事例としてあげるとよいか迷ったが、文節数で発話の長さをはかったがあるので、それを基準として選んでみた。次表は話しことばを採集できた全幼児のものである。(文の長さ、発話の長さ、文節の長さについては付録1でも述べる。)これらの中から年長、年中、年少とも、一番文節数の多い幼児3名、すなわち赤E女、小久女、神三男と、文節数の一番少ない幼児3名、自F女、神長男、赤h男(自j男は、2文節しか話していないので、次点の赤h男の例をとる)をあげる。ついで、ひとりの幼児の発達をみる意味から、年中、年長同一幼児のもの男と女の例をあげる。年中のとき一番よく話した自s男と、年長のとき女で一番よく話した赤o女を選んでみた。o女は年中のときは、調査児の中位以下しか話せていなかった幼児である。

幼児の発話の長さ——個人別の文節数一覧表——

* 表中○印は年中、年長同一幼児。(5:8)とは調査当時5歳8ヵ月だったの意。太字の幼児は、のちに、その幼児がどういう話しぶりをしたかの事例を示す。

年 長	文節数	年 中	文節数	年 少	文節数
赤E女 (5:8)	979	小久女 (4:7)	835	神三男 (4:0)	1,496
自A女 (6:5)	940	小高女 (4:8)	732	赤d男 (4:2)	739
自o女 (6:1)	875	神桑女 (4:10)	707	神古男 (4:5)	727
自P女 (6:1)	836	○自s男 (4:10)	605	小原女 (3:7)	647
赤I女 (5:8)	817	神規男 (4:6)	598	神高男 (4:4)	605
赤L女 (5:9)	810	小西女 (4:9)	578	赤a女 (3:10)	575
○赤w男 (6:3)	780	○自t男 (5:3)	575	神佐女 (3:7)	539
自l'男 (5:7)	773	○自j女 (4:7)	550	小佐男 (4:3)	498
自m'女 (6:4)	765	小寛女 (4:7)	549	赤t女 (4:4)	443
赤m'女 (6:3)	746	小西男 (4:3)	534	神大男 (3:10)	423
○赤o女 (6:1)	724	小岡女 (4:8)	496	神寺男 (4:4)	414
赤o'男 (6:2)	693	神松女 (4:8)	496	神秋男 (3:11)	386
○自b男 (6:0)	689	神村男 (4:3)	487	小相男 (4:4)	384
○自d女 (5:11)	680	小押女 (5:1)	476	神狗女 (4:3)	374
赤K男 (5:11)	651	小山女 (5:0)	464	神折女 (4:3)	346
赤J女 (5:8)	638	小川男 (4:10)	459	赤b男 (4:0)	337
赤c男 (5:10)	565	小福男 (4:3)	456	自d男 (3:10)	323
○自k男 (5:8)	558	○自k男 (4:8)	452	小矢女 (4:0)	322
○自s男 (5:9)	557	神遠男 (5:1)	439	神大男 (3:11)	311
○自g'女 (5:11)	556	神鎌女 (4:5)	434	小神女 (4:1)	301
○自u女 (6:5)	554	神井男 (5:0)	428	赤f女 (4:2)	300
○赤k女 (6:2)	550	○赤p女 (5:2)	420	自b女 (3:10)	296
○自t男 (6:2)	529	神永男 (4:1)	378	赤i男 (4:2)	291
自a'男 (5:11)	529	赤q女 (5:2)	374	小福男 (4:2)	278
赤F男 (5:9)	528	神宮男 (5:0)	370	自a男 (4:0)	269
○赤s男 (6:6)	521	小小男 (4:2)	351	神鈴男 (3:6)	259

自 i'男 (6:5)	503	神関女 (5:0)	344	神宮男 (3:8)	246
○赤 a 男 (5:11)	488	神伊男 (4:2)	334	小加男 (4:1)	236
赤 e'男 (5:10)	486	小横男 (4:4)	334	赤 r 男 (3:8)	233
自 y'男 (6:0)	467	○赤 t 男 (5:1)	320	神坂女 (4:0)	232
○赤 m 男 (5:10)	460	小篠男 (5:1)	318	赤 q 男 (4:1)	229
赤 u'女 (5:11)	460	小山女 (4:5)	311	赤 n 男 (3:7)	219
赤 h'女 (6:6)	459	神山男 (4:9)	309	赤 e 男 (4:1)	219
赤 j'女 (6:6)	459	神増女 (4:11)	308	自 i 男 (3:5)	205
○赤 u 男 (6:5)	452	赤 i 女 (5:3)	305	小長男 (3:5)	205
自 c'男 (6:3)	444	神渡男 (4:6)	302	赤 p 男 (3:7)	200
赤 q'男 (5:11)	443	○自 r 女 (4:8)	302	赤 v 女 (4:0)	193
自 t'女 (6:4)	434	神大女 (4:6)	301	小金男 (4:1)	184
赤 g'男 (5:10)	432	小村男 (4:9)	301	赤 c 男 (3:8)	182
自 g'男 (5:8)	430	○赤 k 女 (5:3)	295	神渡女 (3:10)	180
赤 k'女 (5:8)	427	○赤 f 女 (4:10)	294	小藤女 (3:10)	176
自 q'女 (6:1)	424	○自 u 女 (5:5)	293	赤 m 男 (4:1)	169
自 h'男 (5:7)	424	赤 l 男 (4:8)	285	自 h 男 (3:5)	163
赤 B 女 (5:8)	416	自 c 男 (4:7)	285	小竹男 (4:1)	156
赤 s'女 (5:8)	416	小藤男 (4:9)	283	赤 l 男 (4:3)	155
○赤 f 女 (5:9)	410	小成男 (4:7)	282	神玉男 (4:0)	155
○赤 c 男 (6:3)	399	赤 e 女 (4:9)	281	赤 u 女 (3:7)	154
○自 a 男 (5:8)	398	○赤 d 男 (5:4)	280	赤 s 女 (4:3)	153
自 B 男 (5:7)	397	小槌男 (4:3)	279	赤 o 男 (4:2)	148
赤 D 男 (5:11)	395	○赤 s 男 (5:6)	277	自 e 女 (3:9)	144
赤 O 女 (6:1)	382	小有男 (4:7)	275	小新男 (3:10)	141
赤 N 女 (5:7)	373	○自 p 男 (4:7)	273	赤 g 男 (3:5)	132
赤 P 男 (5:11)	371	小大男 (4:6)	263	自 k 男 (3:4)	131
○自 n 男 (6:5)	369	小小女 (4:2)	261	神村女 (3:6)	127
○赤 t 男 (6:0)	367	赤 g 女 (4:8)	256	神新女 (4:2)	126
自 e'男 (6:1)	362	小永男 (4:4)	254	自 m 女 (3:10)	106
○赤 p 女 (6:2)	354	小徳男 (4:5)	250	小岸男 (3:11)	93
自 r 女 (5:8)	353	○自 h 女 (4:7)	244	自 l 女 (3:3)	91
自 f'男 (5:5)	350	小谷男 (4:1)	242	神勝男 (3:7)	91
赤 Q 男 (6:4)	346	神柳男 (4:5)	241	小千女 (4:2)	88
○赤 x 女 (6:2)	341	○自 n 男 (5:5)	238	自 g 女 (3:5)	67
自 D 女 (5:11)	341	小足男 (5:0)	236	小北男 (4:4)	52
赤 C 男 (5:6)	340	小伊男 (4:3)	228	自 c 男 (3:10)	46
赤 b'男 (6:5)	334	神高男 (4:10)	228	赤 k 男 (4:4)	44
自 x'女 (5:6)	331	小福女 (5:1)	224	神柿男 (3:7)	34
○自 e 女 (5:7)	326	小市男 (4:5)	217	赤 j 男 (3:7)	12
○赤 d 男 (6:4)	322	小安男 (4:2)	216	神清女 (3:7)	10
赤 d'男 (6:4)	322	神師女 (4:11)	215	赤 h 男 (3:6)	9
赤 i'男 (6:2)	313	赤 b 男 (5:6)	211	自 j 男 (3:5)	2
○赤 r 女 (5:10)	309	○自 b 男 (5:1)	210		
赤 l'男 (6:3)	306	○自 g 女 (5:0)	208		
赤 f'男 (6:3)	303	○自 d 女 (4:11)	199		
赤 r'男 (6:3)	284	小原男 (5:0)	198		
自 E 男 (5:7)	278	○自 a 男 (4:9)	197		

赤 y' 男 (5:7)	272	小志男 (4:2)	196		
○自 l 男 (6:0)	271	神敷男 (4:3)	192		
○自 v 男 (5:7)	269	小上男 (4:7)	191		
自 z' 男 (5:8)	269	○赤 n 男 (5:2)	191		
○自 j' 女 (5:7)	268	小小男 (4:3)	190		
赤 a' 男 (5:9)	262	神北男 (4:11)	183		
赤 M 男 (5:8)	261	○赤 w 男 (5:3)	179		
赤 G 男 (6:1)	258	小清女 (4:8)	173		
自 w' 女 (6:5)	257	小嘉女 (4:8)	173		
○自 i 男 (6:4)	256	○赤 x 女 (5:2)	166		
自 d' 男 (6:1)	255	○赤 o 女 (5:1)	160		
○自 p 男 (5:6)	253	小山男 (4:11)	159		
赤 t' 女 (6:4)	251	○赤 r 女 (4:10)	157		
自 b' 男 (5:9)	247	神織男 (4:4)	155		
赤 A 女 (6:1)	238	小高男 (5:11)	152		
○自 r 女 (5:7)	233	小森男 (4:6)	150		
赤 H 女 (5:8)	233	神福女 (4:7)	144		
自 x' 男 (6:1)	231	○赤 m 男 (4:10)	141		
○自 o 男 (6:3)	231	○赤 u 男 (5:6)	137		
自 s' 女 (6:3)	226	小神男 (4:8)	136		
赤 n' 男 (6:2)	223	○自 e 女 (4:8)	135		
○自 h 女 (5:7)	221	○赤 h 女 (5:4)	133		
自 v' 女 (5:10)	221	自 q 男 (5:4)	129		
赤 R 男 (5:11)	219	神加女 (5:0)	128		
○赤 j 女 (5:7)	212	○自 f 女 (4:9)	123		
赤 v' 男 (6:5)	208	神堀女 (4:1)	122		
○赤 n 男 (6:2)	203	小中男 (4:6)	120		
○赤 v 男 (6:1)	191	○自 i 男 (5:5)	120		
自 c' 男 (5:11)	191	○自 v 男 (4:7)	119		
自 k' 男 (5:8)	191	○赤 v 男 (5:1)	114		
自 u' 女 (6:3)	185	○赤 a 男 (4:11)	113		
○赤 h 女 (6:4)	180	○自 l 男 (5:1)	112		
赤 w' 女 (6:2)	161	○赤 j 女 (4:7)	112		
○自 m 男 (6:4)	159	○自 o 男 (5:4)	110		
○自 f 女 (5:8)	141	小関男 (5:0)	98		
自 j' 男 (5:7)	140	神島男 (4:4)	96		
赤 P' 女 (6:3)	132	小森女 (5:1)	95		
赤 x' 女 (5:7)	123	小長男 (4:6)	92		
自 n' 女 (6:1)	105	神金女 (5:0)	89		
赤 z' 男 (6:5)	98	小浅男 (4:2)	76		
自 F 女 (5:7)	96	神須女 (4:7)	76		
		○赤 c 男 (5:3)	75		
		神高男 (4:10)	72		
		神内女 (4:3)	71		
		○自 m 男 (5:4)	56		
		神野女 (4:6)	53		
		神長男 (4:7)	31		
平 均	390	平 均	260	平 均 三男をとった場合	260 242

文節数を基準にした理由であるが、長くしゃべった幼児の文がどんなものか、少ししかしゃべらない幼児の文がどんなものかが比較して見られるということ、同一幼児の場合では、年中のときに長くしゃべったからといって、年長でも同じように長くしゃべるものでないこと、調査者との問答の答だけからでは、その幼児の能力（あいまいなことばだが）は断定できないということなど、文節を手がかりに推量できると思ったからである。大人でもそうだが、幼児の場合は特に心身が不安定なので、そのときよく話したからその幼児は能力があるなどと、気軽に言えないのである。

平均の文節数をあげると年長 390、年中 260、年少 260（年少の場合は人数も少なく、一人の幼児がばか長く話しているので、平均数が多くなっているが、一応そのままにしておく）。次に最長と最短をあげておく。

年長児 最長 979～最短 96

年中児 最長 835～最短 31

年少児 最長 1,496（次点 739）～最短 2

幼児は、前にのべたような質問をして話させると、この程度の発話の長さの反応ができるということがわかる。

以下に、8名の幼児の話した話しことばの実例を、右側に筆者の気づいた解説をつけて参考までにあげておく。

年長児で文節数の一番多い幼児

赤長-E女（5:8） 1966 本 弟

○T・T。

Tちゃんはね、去年やった？

○ヤンナイ。

やらなかった？／○ウン。／いくつ？

○ゴサイ。然

おうちにだれとだれいます？

○エートネー # オカアサントネー オトウサントネー アト
ヒサシクントネー # アト オニイサン フタリ イルノ。然
お兄さんは何年生？

○ガッコ イッテナイヨ。ダイクサン。然

じゃーもう大きいのね。だれいちばん好き？

○ウーントネー オニイサン。然

お父さまのお仕事は？

○ウーントネー ダイクサン。然

お兄ちゃんも大工さんね。

○お兄 # オニイチャン フタリ イルカラ # オトウサン
オニ # ダイクサンノ オテツダイ シテル。然

どしてお兄ちゃんが好きなの？

○ウーントネー # イツモ アソンデ クレルノ。然

どんなお遊びしてくれるの？

○ウーントネー # トランプトカネー # ゲームトカ ソイウノ
ヤッテ クレル。然

○「イツツ」という子が大部分。

○「～カラ」は終助詞ととれる。

○「ソウイウノ」で並立関係をまとめている。

むずかしいでしょう。／○ウン。／ほめられることある？／○ウン。
 どういう時？
 ○ウーントネ ウント トランプ ヨク デキタッテ。然
 叱られるときある？
 ○アンマリ ナイ。然
 運動会があったわね。／○ウン。／そのお話してくださる？
 ○ウンドウカーイ？# ウンドウカ^(エ)_(イ)？然 ウン アノネー
 # アタシ サントウダッタケドネー ヨウコチャンテ イウ
 コ イルデショ、# アノ コ イットウショウダッタノ。然
 それからどういうことあった？
 ○モット？# アノネ ダレカ センシデ カッタ ヒト イタ
 ノ。然 ソレデ オッキイ ハタ モラッタノ。
 いちばんおもしろかったのはなに？
 ○ウンドカイ。
 運動会の中で、おもしろかったもの。
 ○ウーントネー ツナヒキ。然
 どして綱引きがおもしろい？
 ○アノネー ウントネ ダレカネ ツマヅイテ ワラッテル ヒト
^(ハ)_(ガ) イルンダヨ。然
 きのう幼稚園でなにをした？
 ○ウーントネ、……ナンカ シテタ。
 いつも幼稚園でどういうことします？
 ○ウーントネ # アノネ # オソトデ アソンドリネ # ジ
 ャングルジム ノッタリネ # オスベリダイ ノッタリー
 ジャナクテ スナバ イッタリネ ソイカラ テツボウ シタリ
 シテ アソンドルノ。然 お教室では？
 ○オキョウシツ？然 ウント オエカキトカ ネンドトカ (シテ
 ル)。
 何いちばん好き？
 ○ウーント オエ オエカキ。然
 どの書くの？
 ○ウーントネ # イツモネ # オニンギョサントカ ソウイウ
 ノシカ カカナイケドネ # アノネ ウーント (ヤマモトカズ
 オ) ノ ウマック カクノ。
 上手でしょ。
 ○ウン。然
 おうちに帰ってなにしました？
 ○ウーントネ # オカアサンノ オテツダイ シタノ。然
 どんなことやるの？
 ○ウーントネ # オソウジ シタリネ # アノネ アカチャン
 ネ # ウーント モリ シテタリ ヤッタリネ # ソシタリ
 ネ ウーント アカチャンニネー # ウントネ ウート オサ
 ンボ サシテ アゲタリネ # イロンナ コト スルノ。然
 感心ね。大きくなったらなんになりたい？
 ○ウーントネ ……ウーント ……カミイーサン。
 うん？
 ○カミイーサン。

○質問者の発問「運動会」をくりかえしている。

○「センシ」→「せんしゅ」(選手)の意。

○「たり～たり」を使つての並列。

○かっこの中は発音不明瞭ではつきりききとれなかった場合。

○「イロンナ コト」と総括している。

かみいさん。

○ウン。

どして？

○イツモネー # オカアサンガネー # 「アタマ イタイ イタイ」 ッテ イウ トキ チャント トイテ クレル。然 ウン。幼稚園で先生がお話してくださったりなんかするでしょ。／○ウン。／そのお話でおぼえているのある？

○オハナシ？ # アンマリ オボエテ ナイケド スコシ オボエテ イルノ (アル)。

きかせて先生に。

○アノネ # ウントネ オベント タベタタ トキネ # スグネ アソングラ スグ カエツチャウノネ。# オエカキ シテネ # ソイデ 「オカエリモ シマショウ」 ッテ イツテネ # ソイデネ オカエリ スルノネ。# スルトネ ダレカハ
イツモ イチバンサイショニネ イツモネ ゴホン ヨンデルノネ。# 「^(ダ)_(ラ)メダ」 ッテ イツテモ キカナイカラネ センセイニ イイツケチャウ (ノ) ネ。ソウスットネ スグ シマツチャッテ アノ ……アノネ # ウントネ オカエリノ シタクシテルンネ。ソシテネ イツモサー ダレカネ ガクタイノ レンシュウシタ トキネ カスタネットガ オッコッテンノネ。# アレーツ オモツテ センセエノ (オツクエ) ミルト ダレカ オッコトシトクンダッテ イツテ ^(ン)_(ル)ノネー。タカヤクンガネー；ソシトラ アタシー イツモ ミテルカラ ミンナ イチクミノ ヒトガ オッコトシトクノネ。ソイデ アタシ イツモネ 「オッコトサナイデ チョウダーイ」 ッテ イツクノネ。ソウスト オッコトサナイ、イツモ オッコッテナイノネ。然
おうちからね、幼稚園にくるにはね、どういう道とおってくるの？

○ウーントネ イツモ チカイ ミチ。然

どういうふうにくるの？

○アタシ オカアサン ムカエニ コナクッテモネ ヒトリデ カエレルヨ。然

団地のなか？

○チガウ。バスドウリ。然

テレビ見るでしょう？

○ウン。

どんなの見えます？

○イツモネ オトナノ モン ミナイデネ (マンガ) スコシ ミテネ ソイデ ヤメトクノ。然 ハンブングライ ミタラ；
どして？

○アノネー オニカイハネ イツモネ イタク ナツチャウカラネ。オカアサンガ；／どこがいたくなるの？／○メガ イタクナル。然 ダカラネ # イツモ ハンブングライデ ヤメトク。
然

なんか見たのでおもしろいの先生にお話して下さる？

○ウン。アノネ マンガノ ナカノ トーミートネ # スーパージェッタートネ # アトネ ウーント ……ネ ウント ウント テツワンアトムネ ソレダケガ オモシロイ (ノ)。

ポピーっていうのはどういの？

○ポピー？

○質問者のことばを一度繰返して
いうくせがある。「オハナシ？」

○長く発話しているのだが、よく
わからない。

○道順を聞くが、説明できない。

○質問に対する答ではない。

○「スコシ」→「ハンブングライ」
とくわしく補足している。

うん。どういいうお話？

○ロビー？／あロビー。ロビーってのどいいうお話？／○ウーント
ネー # ハジメネ ウントネ フツウノ コドモナノネ。#
ソイデ ナンカ ワリイ コトラ シタラ スグネ ロボット
カエチャウノ。然 フンデネ アノネ ロボットグッたらネ ア
ノ アノ ソウジキミタイノガ ロ スグ ロケットノ トコロ
ガネ デンワデモ ツイテンノネ。# ムセンキガ ツイテ ス
グネ ワルイ コト シタ^(ノ)_(ラ) シラセルノネ。ダレカニネ；#
ソウスツトネ (テ) ノ ナカニ パティーガ アッタノネ。#
ソイデ キレイナ ヒトネ アノ ポッテタノ オドッテタノネ。
ソシテ ミー^(ラ)_(ダ) ミタイノ ソレ キレイナ ヒトノ オトウ
サン イナク ナッチャッタノネ。ソイデネ ミーラミタイ カッ
コ シテンノ、カオ シテンノネ。スポーツカー ノッ^(タシ)_(テ)
ドッカ ドライブニ イッタノネ。ソシタラ ソノ ヒトネー
ワルイ ヒトダト オモッテ マチガエテ ウッタノネ。オトウ
サングネ ロケットノネ カオネ キズ ハイッチャッタカラネ
ソイデ オトウサン シンジャッタ。然
あとはなにが好きだっていった？

○ウーントネ パーピートネ # アト ウントネ マグマタイ
ショウトネ # ソイウノ ニンギョミタイノ デキテンノ。#
ソイカラ ウルトラマントネ # ウント オバケノキュウタロ
ウガ スキ(ナノ)。然

おばけのQ太郎ってどいいうお話？

○アノネ # ウーントネー アタ アタマノ ケガネ サンボン
シカ ナイノネ。然 ソイデ ホントノ オバケナノネ。然 ソイ
デネ ウチンチネ オバケノネ ネジ マクト ウゴクノ アル
ヨ。然 ソイデ ピーコトネ # アトネ ドロンパッテ イウ
ノモ アメリカノ オバケナノネ。然 ソレガ アトラシクネ
アノネ デテ キテネ ドロンパッテ イウノガネ アノ オバ
ケノキュウタロウノ オトモダチデネ ピーコハ アノー オバ
ケノキュウタロウノ イモウト。然 ショウチャントネ # ア
ト オニイサント オカアサントネ オトウサンハネ ウーント
ネ ホテル イッタノネ。# ソシタラ ワラッテバッカリ イ
ルノネ。アラー アノ ヒトハ キュウタロウ ウントネ ウー
ント キチガイカナト オモッテ ミタラネ アノネ ナンカ
ワラッタノネ。キチガイダト オモッテ クシュグッテ ミテ
ヨケイ ワラッテ ワライガ トマンナク ナッテネ # アノネ
ビョウキダト オモッタノネ。ソシテネ クスリ ノマシチャッ
タラネ ヨケイネ ワライガ トマンナク ナッチャッタノネ。
ワライ ワライガ トマル クスリ ノマシタラ スグ トマッ
テネ # ウーントネ ナオッタノネ。ソシタラ ソノ ウチノ
ウチ タズネテッタノネ。# ソシタラ キュウタロウノ オトウ
サングネ ウント キテタンダッテ。

お母さんがね絵本よんでくださったりお話してくださったりしま
す？

○ウン。

どんなお話ききました？

○モモタロウトカネ # ウントネ ウルトラマンノネ # アノ

○テレビについて聞くとよく話
すが、内容ははっきりわからない。

○話しことばなのでなまった言い
方が出る。「ワリイ(悪い)」「フ
ンデ(それで)」。

○話す過程の中で連想して、筋か
らはずれたことを挿入する。

○「クシュグッテ」→「くすぐ
て」の意。

ネ ゴホン ヨンデ モラッタノ。然

桃太郎さんのお話かせて？

○ウン。アノネ ウントネ ハジメネ オバアサンガ カワヘ オ
センタクニ イッタノネ。ソシタラ オッキイネ モモガ アッ
タノネ。ス オイシソウダッテ オモッテ オウチヘ モッテッ
テ キッタノネ。ソシタラ オジイサンガ チョウド カエッテ
キタ(ラ) キリマショウ テ(タラ) ナカカラ カワイイネ エー
ト マンマルイ ラシイネ コドモガ デテ(キチャウ)。# (ソ
レガ) オトコノ コダッタノネ。ソレデ「ソダテマショウ」ッテ
ユッテ ソダテタノネ。ソシタラネ ウントネ ドンドン オッ
キク ナッテ イッテネ、ソイデ オジイサントチガ タスカッ
タノネ。ソイデネ ソノ コハネ トテモ(ニンキ) スゴイ オ
オキイコデネ ウント ナゲトバシチャウダッテネ。ソイデネ
ソイデ「オジイサンニ マキワリヲ イタシマショウ。オミズ
クミマショウ」ッテ イッタラネ ソイデ オジイサントチハ
タスカッテ「モモタロウニ マカセマショ(ス)」テ (イウンデ)
マカセタノネ。ソイデ オショウガツン ナッテネ「モモタロウ
オダンゴヲ ヒトツ タベナイカ」ッテ イッタラネ ソン ト
キネ ウントネ # ウント モモタロウ コウ イッタノネ。
「スコシ オジカンヲ クダサイ」ッテ イッタラネ「オニ オ
ニノ^(ス) エバツヘ イッテ キマス」ッテ イッテ カブトト
ネ アノー カタナヲ モッテネ オイシイ キビダンゴヲ モ
ラッタラネ ソイデ イッテ キタノネ。# ソシタラネ「モシ
モシ」アノー コノ サルガ キタノネ。ア サルジャナイ イ
ヌガ キタノネ。「モシモシ モモタロウサン ドチラヘ オ、
オコシデスカ」ッテ イッテ「オニノ セエバツヘ イクン
ダ」ッテ イッテ ソシタラ「ワタシモ ツレテッテ クダサイ」
ッテ^(ユ)_(イ) ッタノネ。コンダ ヤマヘ イッタノネ。「モシモシ
モシ」オサルサンガ キタノネ。「モシモシ モモタロウサン
ドコヘ イクンデスカ」ッテ イッタラネ「ワタシ オニノ セエ
バツヘ イクンデスヨ」ッテ イッタラネ ソシタラネ「ワタクシ
モ アタシモ アタシモ ツレテッテ クダサイ。」「キビダンゴ
アゲマショウ」ッテ イッテ ソイデ コンダア ネ アノ コ
トリガ キタノネ。# 「モシモシ モモタロウサン ドチラヘ
オコシデスカ」チュッタラネ「オニノ セエバツヘ イクンダ
ヨー」ッタラネ ソイデ オダンゴ アゲタラネ ソシテネ
ヤット ツイタノネ。# ソシタラネ ウントー オニガ イタ
ノネ。ソイデ アノネ モモタロウハネ ウント オニノ ウチ
ヘ アノ ハイッテテネ ソイデネ アノネ ウント ソイデネ
アノ ウント ……ネ オニガ オオ ウント オオサマノネ
オニ オウサマノ オニノネ オウサ オニノ オウサマハネ
テー トラレチャッタノネ。「モウ シマセンカラ」ッテ イッ
(テ) タカラモノ センバ モモタロウサンニ ヤッタノネ。#
ソシタラネ ウントネ ソレデ カエッテ キタラネ ソシタラ
オジイサント オバアサンハ ニョー ニョー・クル「ア アノ
カエッテ キタノカ」ッテ イッテネ ソイデ「ソノ タカラモ
ノヲ ハ ネ ミンナ モモタロウサンニ アゲマス」ッテ モ
ラッテネ オジイサントチハネ ウント オカネモチニ ナッタ
ノ。然

○「アノネ」「ウントネ」の間投詞
が非常に多い。

○「マンマルイ ラシイ」かわつ
た使い方。

○「セ」の発音がはっきりしない。
「セエバツ」→せいばつ(征伐)。
二重母音(ei)なので発音しにく
いのか(eー)になっている。

○一文を切らないで長く続けてい
う傾向が幼児期の終わりに出て
きて、それは一種の発達である
が、そのため文のみだれがめだ
つ。

○鬼の言ったことばと、お爺さん
たちが金持になった原因の関係
がはっきりしない。「モラッテ
ネ」でなく「……テキタノデ」
とするとこっか。

そいでね、その時おばあさん川へ洗濯にいったっていったでしょう。／○ウン。／どういうふうに洗濯していたと思う？

○ネー # アマリ ワカンナイケドネー # ウントネ ムカシ
ハサー # ウントサー センタクキ ナカッタカラサー #
オッケ ウントサー タライミタイノデ ヤルデショ。# ソレ
デサー # ナカヘサー ミズ イレデサー ソイデ アラッテ
ルンデショ。然

よく知ってるわね。そういうのどうして知ってた？

○エデ ワカッチャウモン。然
ニュースなんか見る？

○ミル。然
ニュースってどういうこと教えてくれる？

○ウントネー # ウントネー ダイヤ トラレタ トキカネ
ー # ダイヤ トラレタ トキトカネー # ソレトカネ ア
ノネ # ウチュウノ ロケットガネ # ヤマニ ツイラクシ
タトカネー # ウーントネー アノネー ウント ソイデ
ネ # ショウネンガネ # オカネヲネ トットトカネ #
ソイウ コト オシエテ クレル。

それどうして知っているの？ テレビで見るの？ 新聞は？

○シンブンネ アンマリ ヨメナイ (デ カイチャウンダ)。
かずはいくつまでかぞえられる？

○カズ？ # ゴジユウ。然
十からね逆にかぞえられる？

○……
夢みる？／○ウン？／ゆめをみる？

○アンマリ ナイ。然
絵本もってきたのね、／○ウン。／この絵本をね／○ウン。／こ
れよんでみて？

○ココ？ # シ マ ウ マ ト ラ イ オ ン。
それから？

○エー ヲ ヲ？ # エ ヲ ミ テ オ ハ ナ シ ……シ？
マ ……ショ。
ライオンがどうしましたか？ これお話してください。

○アノネ # ウントネ ナンカネ ゴ^(シ)_(チ) ソウ ナイカッテ
サガシテトラネ。# ライオンガネ；# ソシテネ シマウマガ
イタノネ。# ソイデネ 「アレガ イイヤ」ッテ イッテネ
ソレデネ オイカケテ イッタ^(ノ)_(ヲ) ネ、ソシテ ソノ シマウ
マネ ウーントネー イッパイ シマウマガ イル トコヘ
イッタノネ。ダカラ ライオンネ ビックリシテネ ウントネ
モウ コナク ナッタノ。然

このお話してみて？

○コレ？
こちらから。

○イチバン？ # ウントネー カメガ カメ ジャナイ ウント
ネー ウサギサンガ ネンネシテタノネー。ソシトラ カメガ
キタノネ。……ソイデネ アッ 「カメサンカー」ッテ イッテ
アノネ 「カメサンカー」ッテ イッテネ ソイデネー キョウ
ソウシタノネ。カケッコネ； ソシトラネ アノネ ウサギサンノ
カ ウーント カチンナッタノ。# ソシトラネ # ソ アノ

○絵本をみせてお話をさせたと
き、題が書いてあるのでためし
に読ませてみた。

○この「ソシテ」は「そしたら」
の意である。

○「ネンネシテタ」と幼児語を使っ
ている。

○「ソシトラ」も使えないわけで
はない。

カメサンネ ノロイデショ。ダカラ ウサギサンガ イットウ
ショウン ナッタノ。

そういうお話きいたことある？

○アル。

上手にお話したわね。／○ウン。／じゃここから、二番目の絵ね。

○アノネー # ハナガネ タオレチャッタノネー。デ ミズ ア
ゲテモネ タタナカッタノネ。ソイデネ ナンカデ タッテタラ
ネ アノネ タッテネ ダンダン オオキク ナッタノ。

こんどこれね。

○アノネー # ウーントネ クマガネ ネテタノネ。ソシテネ
ネズミガ イタノネ。ソイデネ チュウチュウテ ネズミ ナイ
テタノネ。ソイデ クマサン 「ア ネズミ サンダ」ッテ オ
イカケテ イッタラ ジドウシャ オオドオリマデ オイカケテ
イッタラネ ウンデ ジドウシャガ キテネ ウント サン
アッ クマサントネ ネズミサンネ トバサレチャッタノ。

日曜日何したの？ お話して。

○アノネ オハナシ シタリネ # ゴホンネ ゴホンノ オハナ
シ シタリネ # ウントネ サッキノネ アレ ヤッタリネ
イロンナ コト シタノ。然

夏休みのことおぼえてる？

○ナツヤスミ？ # イッタ トコ？ #

なんか楽しかったおもしろかったお話。

○ウントネー オーイソロングビーチネ センセエト アッタノ。然
ソレカラネ ウーントネ オトウサントネ オヤマヘ イッタノ
ネ。オトウサンノ オトモダチノ オジサンノ ジドウシャデ
ネ； # キョウコチャンテ イウ コネ # ソイデ ネチャッ
タノネ。ズイブン ネタラネ ユウガタン ナッチャッタノネ。
デ「キョウコチャン キョウコチャン オキナサイヨ」ッテ「オ
ジサン ノボロウネ」ユッタト オモッタラ イチバン タカイ
トコロ イッテネ「キョウコー！ キョウコ！」ッテ ヨンデ
ルネ。リックサック モッテ テッペンマデ イッタラ ス
ルーットネ ウーントネ カマキリガ イタノネ。チョウド ビ
ニール モッテ イツカラ モッテツカラ リン ナカヘ
イレ（テ）オウチ モッテタ。ソイデネ ナニヲ アゲルカ ワ
カラナイッテ ソノマンマニ シトイタラ シンジャッタノ。然
かわいそうだったわね。

○ソイデ オハカ ツクッテ アゲタノ。然 タイフウデ タオレ
チャッタ。

お墓？

○ウン。

台風の時どうだった？

○タイフウノ トキ？ # ウーントネー ヤネガ モッチャッタ
ノ。# タタミ ビッショリン ナッチャッタ。然 ヤネガネ
アナ アイチャッタ。ネ ソイデネ ウチノ オトウサン ダイク
サンダカラネ アノネ アタシモ クギ モッテ キテネ オト
ウサンニ オテツダイ シタノ。然

まだほかに先生にお話してくださることある？

○エートネー #……アル（ナンカチュットネ）アノネ # ウー
ントネ # アノネ # ウントネ オカアサンガネ #（ ）

○第3の話を、この幼児はうまく
まとめているが、二匹ともとば
されたかどうか、はっきりし
ない話し方の幼児が多かった。

○まだいくらかでも話をしそうだ
たので追加して聞いてみた。

○「リックサック」→「りゅっく
さっく」の意。

○「オウチモッテタ」→「うちに
持って帰った」の意。

○「オトウサンニ」「の」の意。助
詞の誤用は多い。

ソイデ アタシガネ イツモ ネカシ ネカシテ アゲルノネ。
ソイデ ミルク オカアサン ツクットイテ クレルノネ。ソレ
デ「ノマシテネー」ッテ イウカラ「ハイ」ッテ ユッテ
クジン ナッたらネー ソシタラ ノマシテ ヤルノネ。アサン
ナッテ アタシ イチバン ハヤク オキテネ ダカラ オカア
サンハ ヨル ミルクネ アノ アツカイ トコ(ロ)ヘ オ
イトクノネ。# ソウストネ アカチャン ナクノネ。ダカラ
ミルク シタカラ トッテ キテネ ソレデ ノマシトクト マ
タ ネチャウノ。オヒルゴロ;

感心ね。みんなしてあげるの? お友達がいる?

○^(エ)
(イ)ル。
だれ?

○アノネー キョウコチャンテ イウ コトネー # アトネ ア
ベクント ヨシー アト リーチャンテ イウ アッ リエコ
チャントネ アトネ ウント マミチャンテ ガッコウノ トナ
リノ コネ # ミツチャンテ イウ コ イッショニ ガッコ
ウヘ イクトキノ ヒトネー # コノ ヒトト エリコチャン
ト キヌチャン。# ヒトツ ヒトリ フタリ サンニン ヨニ
ン ゴニン ロクニン ヒチニン イル。然
その子たちとなにして遊ぶの?

○イツモネー # ハンカチオトリ ハンター ハンカチ オトシ
タラネ ソウスト アタシガ イツモ マケチャウノネ。ダカラ
イツモ マンガヨミ シテ クレルノ。

○前にもあるが、直接話法の話し
方は幼児に多い。

○はっきりしない。

年中児で文節数の一番多い幼児

小中一久女(4:7) 1968 本 弟

お名前言ってください。

○K・A。

お年いくつ?

○ヨンサイ。然

Aちゃんのお家誰と誰います?

○() オトウトガ イル()。ヒトリダケ。/それから?
/○アトハー ヨコヤマ、トミコッテ イウ イナカカラ キタ
オネエサン。/お母さんは?/○K ノリコ。

お父さんは?

○シンジャッタ。/何の御病気で?/○ワカンナイ。/であとどなた
がいるの?/○アト オバアチャン。然 K マチコ。然/みんな
の名前よく知っているわね。/○オジイチャンハ K マタイチ。
じゃ全部で何人?

○エートネ # ト() (イシイサン) トイウ ヒトガネ #
イツモ ハイタツニ クルノ。然 ()。

誰が一番好き? おうちの人の中で。

○エートネ ママ。/どうして?/ /どこがいいの?/○ワ
カラナイ。

おじいちゃんはお仕事していらっしゃるの?

○シテル。/何のお仕事?/○ントネー # (イシイ)サンニ ハ
イタツ タノムッテ イウ コトヤネ /ん?/○(イシイ)サン
ニ ハイタツ タノムッテ イウ コトヤネ # エート ドッ

○父親の仕事の説明ができる
幼児は少ない。

カニ イク トキ ()。

配達って何をしていらっしゃるの？

○エート フトン ト、トドケ (ル) ッタリ (カストブ) エート
ネ トリニ イッタリ スル。

お母さんは何をしていらっしゃるの？

○エートネ # エート (イツモ) / いつも何をしていらっしゃる？
/ ○ワカンナイ。然 ヨルハ ワカルケド。ヨルハ ナンカ オ
ヨウフク ツカッタリ スカート ツクッタリ ワンピース ツ
カ ツクッタリ スル。# (ヨウチエン) カラ カエッテ クル
ト ママガ シゴト スル トキ アルカラ アンマリ ダカラ
ワカンナイ。然 (音楽の音うるさく聞きとりにくし)

お家にいつもいらっしゃるの？

○コ、コウエントカ / 大きな声してね。/ ○コ、コ コウエントカ
ドッカデ イク トキモ アル。

昨日日曜日だったわね。何した？ おうちで。

○エート ドヨウビ ヨウチエンカラ カエッテッカラ オヒルゴハ
ン タベテ エート # ムラヤマノ オウチ オトマリニ
イッタ。# ソシテ ニチヨウビノ ユウガタ カエッテ キタ。
/ どこ行っただって？ / ○ムラヤマ。

何があるの、その辺に？ / ○ナ エートネー …… # / どう
いう所？ / ○アノネ # イナカ。

お母さんのお家？ / ○チガウ。/ 違うの？ / ○オトモダチノ ウチ。
然 ダケドネ # ヨソニ スンデテネ ソコノ ウチニモ ク
ルコトガ アルノ。然 ()。

楽しいことあった？

○エート ワナゲ モッ モッテネ # (ボクネ) エート ント
トウキョウノ ハズレ () ツレテッテッテ チカイカラ ツ
レテッテネ ソウシタラ コドモタチニ (イチバン) ()
マチガエチャッタ。

お母さんに叱られることある？ どういう時？

○ () カッタ トキ。

ほめられる時は？

○イイ コト スル トキ。

遠くに旅行したことある？

○ナイ。然

幼稚園では何をするのが楽しい？

○ント サンリンシャニ ノルッテ イウ コトハ ブランコデ
アソブッテ イウ コトト オママゴトト アトハ オトモダチ
ト オニゴッコカ タコアゲカ ナンカ スム ゴト。然
おままごとってどんなふうにするの？

○エートネ # ミンナガ ナカマヲ サキニ スコシ オトモダ
チ アツメテ ヤッテッテ エート コンド ナカマニ イレ
テッテ オトモダチガ キタラ ナカマニ イレテ アゲル。然
ダケド ナカマニ イレル トキ ナカマニ イレナイ コガ
アルンダヨネ。

どうして？

○ダッテ ワルイ コノ オトコノ コト イイ コノ オトコノ
コ アルデショ。ソノ ナカデ ワルイ コノ オトコノ コハ、
イレナイノ。然 マ、チュウグライデモ イレナイ コトハ イ

○「ドッカデ」→「どっかに」の
意。

○この幼児声が小さく、聞きとり
にくい。

○E女と比べると年中にもかかわ
らず大人っぽい構文で話してい
る。文と文が理論的に関連づけ
られている。

イケド。# チュウグライノ イレル コトモ アルケド イレ
ナイ コトモ アル。

幼稚園にいろんなお部屋があるでしょう。何組がどんなお部屋
かって、この前きかせてくれたわね。

○エートネ # イチバン アッチガ # エート ワカンナイダ
ケドネ # トナリノ コッチガ アノ ショクインシツッテ
イッテ センプノ センセイガ イル トコ。然 ハラダ(セン
セイ) () ダレモ () ナル。然 ソシテネー #
……ソノ トナリガ デル トコ。然 オニイサントチガ; 然
ソコノ ソノノ ソノ ショクインシツノ トナリ アガッテ
イクト ント マタ ニカイニ イク ワケ。ウエニ イクノ。
階段があるのね。/○ソノ カイ ソレデー アトー コウティ
ニ イク トキノ アノ カイダン ノボッテ イクトネ #
ソイデ アスコノ コウドウノ シタッ、 カワニ デテネ #
ソノー () ソコノ コウドウカラ ウエニ アガッテ イ
クトー # エート アスコノ ウエニ イカレテ ベンジョガ
アル トコロ。然

どこで遊ぶのが一番楽しい?

○オソト。然

動物がいっぱいいるでしょう?/○ン?/かたつむりなんか。何
と遊ぶのが一番好き?

○カタツムリトネ # オタマジャクシ。# カエルン ナツトリ
(シテル)。然

何かまだいたでしょう。おとなしいのが。抱いていたでしょう。

○モルモット。# ト ウサギ; # アレモ スキダケド。キョウ
ヒトリデ ダコウト オモッタケド ダケナカッタカラ アキラ
メチャッタ。然
こちらの手はどっちの手って言うの?

○…… ヒダリ。

よく知ってるわね。こっちの耳は?

○ヒダリ。

そうよね。大きくなったら何になりたい?

○ネコ。/ん?/○ネコ。/猫、どうして?/○タベルカラ。タク
サン タベルカラ。

お魚好きなの?

○キラйна サカナモ スキナ サカナモ アルケド。

数はいくつまで数えられる?

○ヒャク。然 キュウ、キュウ。ヒャクキュウジュウキュウ マデ。
然

じゃー10から逆に数えられる?

○ワカンナイ。然

夢なんか見る?

○ミナイ。/どんな夢見る?/○カジノ ユメトカ ヨウチエン
ノ アソビトカネー # オウチガ ヒニ モエチャッタラ カ
イジュウガ キタッテ ウ コトカ、ヤ エートネ モウ
ヨッコガ オウチニ マダ イルトカ ソウイウ ユメカナン
カ。然

Aちゃんは弟さんがいるのね。いくつ?

○ヨンサイ。/弟さん?/○ニサイ。然

○「ニカイニ イク ワケ」など
という言いまわしを使っている。

○「ケド」の接続助詞を上手に使っ
ている。前の「ケド」は終助詞。

○「ヒニ」→「ひで」の意。

○「コトカ」の「カ」を「ヤ」と
言いなおしているところなど、
しっかりしている。

「モウ」も「マダ」に言いなお
している。

お家で遊ぶ？

○アソブ。

お家へ行くにはどういう道通って行く？

○エート ヨウチエン デテカラネ エート ミドリノ オバサントコ ワタッテ コンド スズランドオリ ハイッチャッテネ エート ワタッテ ハイッテ デテ エート ソレデネー エート サクラドオリノ ホウニ ワタッテ (ヤ) サンテ イウ () ナイ ホウニ イッテ スーット イクト フトン ヤサダカラ フトンヤサン, ナノ。／お布団屋さんの？ お家。／○オダヤッテ トコ アッテ ソノ ミセノ ナカニ アンノ。然

一人で来られるの？

○コラレナイ。然 タクサン ワタル トコガ アッテ。然 交通事故って見たことある？

○ミタ コト アル。

どんなの見た？

○エート オバアチャンガネー # エート オウチノ マエ ヒーロクッテ シンゴウナド () エート エート オショウガツニ ナッテ ママ ワリバシ カッタノヨネ。ソン トキカイニイッテ カド ワタロウト オモッテ シロイ セン トコネ エッ, テ テ ケガ シチャウ。然 モウ ナオッタケド。テレビなんか見ます？

○ミル。

どんなの見てる？

○エート コドモショートカ ピンポンバントカ アト ケロチャントカ () トカネ ロンパールーム ミナイデショ。コノゴロ; アトハー アト (ティティティティティ) ターザン。キョウ オバケノ キュウチャン。# エート ミテタケド モウ ミナイ。

何が一番好きで見ている？

○ンートネ キュウチャン。

お話聞かせて。どんなお話だった？

○ワスレチャッタ。然

今見ているのでお話できるのある？

○エートネ ケロチャン ()。

ピンポンパンていうのは？

○アノネ # ハジメ オウタ ウタッテ アツマッテネー エート アト ナンダッケー。ソレカラ タイソウ ヤンノ。然 オニイチャン ヨンデ。# ソレデー アトハ ドッカ カケッテ イッテー # ツギノ オカアサントチガ () ニ イッテ コンド アトハ ワスレチャッタ, モウ スコシ アッタケドネ # (タイソウミタイ)。ソロッテ コンド オカアサントチガ () オカアサング キテ, サイゴニ マタ タイソウ スコシ ヤッテ ヤメル。# ソウシテ チョット () ヤルンダッテ () ダケド () ハネ エート コンドハエ カクノ。／こどもショー？／○バンピンポン。／あ, ピンポンパン。／○ソイデネ # エート () アルンダケド ソノツギハー エート () アレガ (モモ) チャンダッケー。アレタシカ (モモ) チャンダヨネ。タシカ (ボンボ) チャンガ ア

○通りの名前を覚えていて道の説明のときに使っている。

○「ケガ シチャウ」過去形を使うべきところ。

○文不明瞭

○声が細く, 低く聞きとりにくい。残念。

ツマッテ (オウタガ) アツマッテ コンド (ドレ) イクノ。#
() ナッテ アト ワスレチャッタ。然

大人のものなんか見ます？

○ミル。アップダントクイズ。

そのお話を聞かせて。

○ナンカイモ ヤッテネー スワッテ エート マルイノ ブーッ
ト オシテネ バツ フタツニ ナッタラ モウ () (ビッ
コノ) トキ アル。() オッコチナイデ ウエマデ イク
トネ ドッカ イカレンノ。然 ソノ ナカノネ # オンナジ
トコダケド コンド ウエマデ イカレンノ。然 ダッテ ム
ズカシーイ モンダイガ デテネ アタラナイト コンド アタ
ルトネ ウエマデ イカレンノ。ゼンブ; 然 ゼンブジャナクテ
／ああ／○イ, ワカルッテ イウ コト。／アップダウン・クイ
ズね。／○マチガエルトネ # マタ オッコッチャウ。然 デ
ネ デネ マチガエルトネ # ダレモ イワナイ。ト オッ,
トネ ソイデ マチガエルト オッコッチャウケド ダレモ イ
ワナイト ダ, スコシ タッテ ブーッテ ナル イッテネ
エート (ナンテ) ソノ ユッテル ヒトガ オシエテ クレ
ル。# ソレカラ カミガ ハッテ アッテ ワカラナクテ カゲ
ガ (デル)。ソン ナカニ ヒトガ ハイッテテネ エート ム
ズカシーイ トイ ダスندگانデネ。# エート アトカラ; エー
ト サンダイ アルندگانデ ソントキネ ン (ナンテ) エー
ト …… エートネ # ソントキ アノ エート ダレデス
カッテ アタルデショ。ソウシテ アタルト エート ウエ
エート サンダン アガ サンダンカイ アガッテ エート カ
ミガ ウエニ イクノ。# ソウシテ デラレルノ。然
ニュースなんかも見ると？

○ミナイ。

お母さんが絵本読んでくださったりお話して下さったりする？

○スル。／どんなお話聞いた？／○オハナシハ スルケドネ (オモ
ウ) ハネー オハナシハ オバアチャンガネ # オシエテ ク
レル。

どんなお話おばあちゃんから聞いた？

○キンタロウトカネ # ソレカラ () ト モモタロウトネ
アトハー # ワスレチャッタ。然

桃太郎のお話して下さる？ おばあちゃんから聞いたのやって
みて。

○ (ダメダヨ)。エート オバアサンガネー カワニ センタクニ
(ト) オジイサンガ () ソウシテ イッタラ バアサンガ
イル センタクシテル トキ オオキナ モモガ カワニ ナガ
レテ キテネー ソレデ エー オオキナノ ソノ モモヲネ
モッテネ カエッテ オジイサンガ カエッテ キタラ アケヨウ
ト シタラ ヒトリデニ アケテ ナカカラ チイチャイ アカ
チャンノ コドモガ エートネ ニンゲンガ デテ キタノ。ソ
シテ オオキク ナッ アノネ オ, オジイサンタチ ナンカ
タクサン ツクッテ モラッテネ オニ ヤッツケニ イッタ
ノ。ソシテ キジト イヌト サルニ アッテ イッショニ
イッテネ ソウシテ キジガ イチバンニ アケテ ハイッテ
イッタノ。ソウシテネ ミンナガ ソシテ アト オニ ヤッツ

○テレビの「アップダウン・クイズ」についての説明がしっかり
している。

○「モンダイ」とか「トイ」その
他「サンダイ」「サンダンカイ」
などという語彙をつかっている。

○「トイ」

○「サンダイ」大人のことばを使
う背のび現象。

○「サンダンカイ」

○「アケヨウ」→「わる」の意。

○「アケテ」→あいて→「われて」
の意。

ケテネ ソレデ エート ミン ホカノ ヒトノ タカラモノ
カエシテ クレテネ エート タクサン タカラモノヲ モラッ
テ カエッテ キタノ。# オシマイ。然
先生から聞いたので覚えているのある？

○……ナイ。

この前かたつむりのお話聞いていたでしょう。覚えている？

○ドウィウンダッケナ。ワスレチャッタ。然 エート サクラグミッ
テ イチバン サンサイダケド ソノ トキモ ハイッテ コン
ド キクニ ケテネ # ソン トキモ エート カミシバイ
ミテネ キクニ ナッテカラモ カミシバイ ミタ。然
覚えているのある？

○エート キクデハ オボエテンノガネ オヤユビヒメヤ チョッ
ト ワカッテテモ ムズカシイノガ タクサン アッテネ、
これは、ライオンと竊馬のお話なのよ。絵を見ながらお話してみ
て。

○ドレカラ ハジマルノ？

こうやって見よう。ライオンがどうしました？

○ヒトリボッチデネー # シマウマガネ # (ナシ) トッタ
ノ。# シマウマガ ニゲテネ ライオンガ オイカケテ イッ
タノ。然 ソノ ツギ コッチデショ。# シマウマガ タクサ
ン シマウマガ タクサンネ (ハイ ヤリナオシ)チャッタカラ
ダカラ コッチ イッテ スグ ライオン アルイテ カエッテ
イッタラ シマウマハ ヨロコンデンノ。然 コレハ アト ド
レカ (+)。

もうないのね。じゃこの字読めますか？

○ヨメル。／じゃ読んでみて。／○シ、マ、ウ、マ、ト、ラ、イ、オ
ン。エ、ヲ、ミ、テ、オ、ハ、ナ、シ、ヲ、シ、マ、ショウ。
字は誰にならった？

○エートネ # アイウエオノ ジュンデ オボエタ。然
絵本を買ってもらったの？ アイウエオの。それで自分一人で覚
えたの？

○ソウイウノハ ナイケドネ # エート コヤッテ ツメデモ
カケテ ボールペン イッコ ワケテモ デキルケド アレ カ
ケテ マタ コウ ヒツパッテ クルト アウ アイウエオガ
デタリ メチャクチャ カイテモ マタ キエルヨウニ ナッテ
ンノガ アッテネ # アレ カッテ モラッタ。然 マツザカ
ヤデ；／それにアイウエオがかいてあるの？／○ソノ ソレ コ
ウ ト、トッテ ミルト。然

この絵本を持って来たの、お話してみて。ここから。

○エート ドウィウンダ。／こっちからね。／○エートネ エー
ト エート オヤマノハ、ハタ ハタヲ イチバン ウエニ カ
イテ ダシ トッテ ウサギガ サキニ ソイデ トチュウデ
ナカナカ カメ コナイノデ ネチャッテ ソウシタラ カメガ
サキニ イッテ カケテ イットウショウニ ナッチャッタノ。
()。

このお話何ていうお話？

○エート ワスレチャッタ。然

今度はこれね。

○オヒサマガ アツカカイ ヒカリ アタリ ダレカガ ジョウロ

○「サンサイ」

○落ちついて聞く。

○ひろい読みだが読める。

○「ので」の接続助詞を使ってい
る。

デ オハナニ ミズヲ アゲヨウト オモツラ アノネー タ
オレチャッタノ。／こっちからこうね。／○ソイデ ジョウロデ
ハナ ミズ アゲトラ ント エート オヒサマガ デテ キ
テー エート ノビタノ。

今度はこのお話は？

○エートネ コレ。コレ ナンダロウ？／熊。／○クマガ ネズミ
ヲ オイカケテネー ネズミガ サキニ イッテ ズーッ
イッたら エートネー クルマニ ブツカッチャッタノ。

どうなったと思う？ ぶつかったら。

○コウツウジコデ アツタリ エート テヤ テヤ アシ アタマ
ブツケテネ アノ (バクシ) スルノ。

これ何のしるしですか？

○コレ ワカンナイ。＃ キョウ センセイ キイテ ミル、ワカ
ンナイ。

これ何？

○ソレハネ ．＃ オーガタヤ エーガタヤ アルノ。然

血液型なのね。AちゃんはO型なのね？／○ソウ。／この上のは？

○ワカンナイ。

○絵がまずいせいか、聞く子ども
がいた。

○「バクシスル」ときこえたが、
そう使えるのだろうか。この文
全体にはっきりしない。

年少児で文節数の一番多い幼児

神少一三男(4:0) 1968 本

名前を教えてください。

○アノネ ．＃ M・M。

年いくつ？

○ミッツ。コンダケ。／これだけはいくつ？／○タ アノネ ヨッ
ツ。／四つに今度なったのね。／○ン。アネ ．＃ ズット マエ
ボクノ タンジョウビダッタノ。然 ソイデ ケーキ カッテ
キテ クレタ(ノ)。然 バーラガ サイタ(ケーキ)。然 バラ
ダッテ タペラレルンダヨ。然 アノネ ローソクナンカ
ネー ．＃ フターツモ ツイテタ(ヨ)。＃ ダケド ナカミガネ
イッポン ジ イッポン(ブン) タヨ。イッパイナダヨ。然
ソイデ フタツン ナッテンノ。然

おうち誰と誰います？

○アノネ ババト ママトネ ソレダケ。然 オニイチャンハ
ネ ．＃ アノ ドッ アノ フジパンヤサンニ イッチャッタ
ノ。然 ダカラ イナイノ。

おとうさんは何していらっしゃるの？

○アノネー ．＃ イツモネ ．＃ ネ ネルノガ オソク アノネ
ネルノガ イツモ ア ヨルネ ネンノガ ．＃ オソクッテ
ネ ．＃ アノ アサン ナッテモ マダ オキナイ。然 ン。

お仕事は何？

○オシゴト？ バパノ？ ．＃ アノネ ．＃ イツモ ヨルネ ．＃
アノ オカネ モッテ ナンカ ヤッテンノ。然

おかあさんは？

○オカアサン？ ．＃ オカアサンハネ ．＃ ネナイデネ オコメ
トイダリ ヨルネ オコメ トイダリナンカ シタノ。然 ソイ
デ ボクネ ヒトリデ ネットタ(ノ)。然

誰いちばん好き？ おうちの中で。

○この幼児はすごくしゃべる。
年長、年中児よりも文節数が多
い。話がどんどん横道に発展し
ていく傾向がある。

○こここのところよくわからない。

○職業のことと思わなかったた
め。

○「シテイルノ」「ネテイルノ」と
言うべきところ。

○アノネー # アノー オニイチャンガ スキ。然 ン。

お兄ちゃんいないんでしょう？

○オニイチャン フジバンヤサン イッテテ コンドハ ズット
コナインダ。然 ソ ズット マエハ キタケド # アノ
ズーット コナインダ (モン)。コンドハ； 然 ソ ソコニ オ
ウジノ オジ オジイチャントネ オバアチャント ボクト
ネ # ントネ ソレカラ、ネ ママト イッショニネ # オ
ニイチャンガ イルネ フジバンヤサン トコネ # タクシー
ノッテ イッタノ。

どうしてお兄ちゃんが好きなの？

○アノネ # オニイチャンネ イツモ ナンデモ クレルカラ。
／どんなものもらった？／○アノネ ガムネ フジバンヤサンデ
モラッタノ。然 コンナ カタナミタイナ コウイウ ガム。然
フターツ； キイロイノトネ ソレカラネ # ソレカラネ #
アレ。アノネ # アオ。然 アオト フターチュ。／よかった
ね。／○ソノ トキ アメ フッタ トキネ イッテネ ナ ナ
ンカ キテネ ナンカ キテ イッタノ。カップ キテ； 然
ン。

お休みの日は何して遊んでいますか？

○オヤチュミカ？ # アノネ # ント オテンキガ イイ オ
ヤスミン トキハネ カミヤコウエン イッテ アソブノ。然
何して遊ぶの？

○カミヤコウエンテ シッテルデショ？／知らないの。／○アノ
ネ # ココ アノ ココ ココノネ デルト コウイウ コ
アソコニ コ コッチニ コウエンガ アルデショ？ マッスグ
ミルト； アソ アソコノ コウエン イツモ ヒトリデ イク
ノ。／で何するの？／○アノネ オカアサンガ イソ イソガシイ
トキ。然 イクノ； 然 エート アソンデンノ。

何して遊ぶの？

○ボクネ # アノ ブランコン トコデネ コウ イウ テツボ
ウガ アッテ コウイウ ボウガ アッテネ コウ ヤッテ ソ
コニ ツカマッテネ グルリッテ ソコデ マワレンノ。# ソ
ウイウニ ソレ シタリネ # オスベリダイ シタリ # ジ
ャングル ノッタリネ # ソレカラ アトハネ # アトハ
ネー # ……／いろんなものあるのね。／○イロン オスナバ
ヤネ # コウイウ ユリカゴミタイナ ブランコヤネ # ナ
ンカガ イッパイ アンノ。然 ソイデ コンナ メノ マワル
(マド) カナンカ アンノ。然

夏にはどこか行った？ 遠い所行った？

○アノネ アノ # ナツニ？ # トオイ トコ イカナカッ
タ。チカイ トコ。
どんな所行った？

○アノネ カミヤコウエンノ モット サキヨリネ # アソコ
ニ オウジコウエンテ アルデショ。／知らないね／○アノ ホ
ラ カミヤコウエンノ () ワタッタ トチュウニ。然
ソウイウ ジャングルミタイノ。オサルミタイノ； 然 ジャ ア
ノ アソコノ アカバネコウエンハネ # コンナ フンスイ
デテ (ンノ)。然 ウマノネ # コッカラネ ジャアッテ デ
テン。然 ヨルハ イケナイヨ。ユウガタハサ ユウガタハ ト

○「ココノ」→「ここを」の意。

○補足文で話す傾向がある。

○質問のことはを反復する。「夏に
は？」に対して「ナツニ？」前
にも「お休みの日？」に対して
「オヤチュミカ？」とあった。

○「サキヨリ」「より」の使い方お
かしい。

○文の切り方がはっきりしない。

ケイダイガ アッテサ トケイダイカラサ # ミズイロガ デ
ンノ。然 ミズイロガ ヒカッテンノ。／ねおんさいん？／○エ？
／ネオンが光ってんの？ きれいねえ。／○ヨク ワカンナイケ
ド。然 ン。

うちのまわりには何がある？

○オウチノ マワリ？ # オウチノ マワリニハネ # ナンニ
モ ナクッテネ # レコード カケンノシカ (オヤネ) ナイ
ノ。ソノネ サンジョウニガ アルンダヨ。# ウラノネ サン
ジョウニ アッテネ # ウラッテ シッテルヨ。# ソコノネ
ソコニネ # アノ サンジョウガ アンノ。アソコデ イツモ
ネテンノ。然 ヒトリデ；

一人で寝られるの？

○ン。ソコニ オモチャバコガ アンノ。ヒトツ； 然
どんなおもちゃが入っているの？

○アノネ ホントハ ズット マエハネ # フタアツネ オモ
チャバコガ アッタダケドネ # ナクナッチャッタノ。然
ソイデ イッコニ ナッチャッタノ。然 ソイデネ ナニ ナン
デモ ハイッテルヨ。然 ン。

うちのお部屋はそんなふうなの。

○レコードヤナンカ カケル トキハネ # アノネ # レコー
ド ボクンチ イッパイ ナイノ。# フタアツシカ ナクッテ；
ダカラ イツモネ ソコデ カッテ クル(ノ)。ケンチャン
ガ オニイチャンガ イッテルネ アソコノ フジパンヤサンデ
ネ イツモ ハナビヤナンカネ ヨルネ カイニ イクノ。アソ
コニ； 然 トマル トキ トマルノ。然 アソコニネ オニイ
チャンガ イル フジパンヤサンニネ # ニカイガ アッテ
ネ # ソレカラネ アノ カエル カエルッテ カエルガ イル
トコモ アッテネ ハッパガ アッテネ カエルガ イル
トコガ アンノ。アメ フッタヒハ カエルネ ドッカ イッ
チャウンダヨネ。然 カクレチャッタノ。# ソイデ ミ ミラ
ンナクッタ、ミランナカッタノ。

困ったことある？

○コマッタ コト？ # アル。／どういうこと？／○アノネ カ
エリタイ コト。／どこへ帰りたいの？／○オウチ。／いつ？今？
／○ン？／今帰りたいの？／○チガウヨ。／どこへ行った時帰
りたいの？／○(フ) アノ オニイチャン {カ} フジパンヤサン
(イク) トキ。(カエレ)，／帰りたくなった時困るの？／○ン。
おもしろかったことない？

○オモシロカッタ コト？ # アルヨ。／聞かせて。／○アノネ
ココニ アノネー ジャングルヤナンカ アッテネ (オンナジ
デ) ジャングルガ アンノ。# ソッカラネ ナンカ ノッタノ。
アソッカラ、オフネ； 然 オフネ ノッテ モ モウ イッカイ
ネ モドッタノ。# モドッテ ナンカ ワスレモン シタノ。
ボク、# パパト ント ママトネ ボクト； # ワスレモン
シテネ モウ イッカイ モドッテ モッテ キテ モウ イッ
カイネ キテネ ソイデネ ト ソコニ トマッタノ。然 ン。

今度は話を変えて幼稚園の話をしよう。

○ヨウチエンノ ハナシ？／幼稚園で好き？／○スキ。／何するの
がいちばん好き？／○アノネ # カミヤ アノネ コッチ

○「ネオンサイン」ということは知らないらしい。

○ここでも「オウチノ マワリ？」と問の反復がある。

○「けど」が使える。

○補足的表現が多い。

マッスグ イッテネ カミヤコウエンノネ ソコデネ アソ ア
ノネ イツモ イツモ アノネ オヤスミ ナツン トキ ボウ
シ カブッテネ # アツイ トキネ アセ カク トキネ #
ボウシ カブッテネ # ソイデネ カミヤコウエン イッテ
ネ # ミンナネ アノネ # アノ ノウ アノネ ボウシヲ
ネ # トッチャウ コダッテ アルンダヨ。然 イジワルナ
コガネ # ボウシヲ トッチャウ コダッテ イルノ。然 セ
ンセイハ アノ ミニ キタノ? ワルイコガ ドコニ イル
カッテ。/そう。/○ミニキタノ。/そうじゃないわ。お話聞き
に来たの。/○ホント? /悪い子なんか見に来たんじゃないよ。
/○ジャ イツモ ジャ ココニ イツモ キテンノ? /いつも
来てないよ。/○キテル。

M君みたいな子がどんなお話できるかききに來たの。

○ホント? /だからきいているでしょ今でも。/○ン。

何して遊ぶの? 幼稚園では。

○ヨウチエン? #
ああ保育園だ。~~幼稚園じゃなくて。~~イヤ カミヤ ホイクエンダ。
では何して遊ぶの? /○ホイクエン。

○アノネ # ナンカ イロンナ モノ シテ アソブ。# コッ
チノネ # コッチニ ベランダガ アルデショ。# アソコ
デネ プールガ コウ ヤッテテネ ナンカ カケテ アル ト
キハネ アソバナイノ。センセイガ「ダメヨ」ッテ チュッタ
トキハネ ママモ「ダメヨ」チュッタ トキハ アソバナイノ。
然「イイデスヨ」チュッタ トキハ アソブノ。然
僕ね、/○ン。/いろんな人の所行ってはおもちゃとってたでしょ
う。そんなことしなかった?

○ン。アノ ドロボウ ダケダヨ。オコメヤナンカ トッチャウノ
ハ ドロボウダケダモン。然 キンカヤナンカモ ナンデモ
トッチャウ ヒトハ # ドロボウダ(ケ)。然
僕はいろんなこといってはお友だちが遊んでいるものちょうだ
いって言っていたでしょう?

○イワナイヨ。/それ違った? /○ン。

そんなことしないよね。

○ズッ ズット マエハネ # チーグサ イッテル トキハ #
「チョウダイ」チュッタケドネ。# カミヤホイクエン キテル
トキハ # イワナイ。然 オマツリン トキハネ # オマツ
リン トキハ ジュースヤナンカ ク^(ラ)_(レ)ルデショウ? 然
ダカラ; コンドネ ボクンチノネ # オジイチャンチ オ
オジイチャント オバアチャン ネ # ウチ コンド イナカ
(ノ) オウチナノ。然 イナカノ オウチガ コンドネ # オ
ジイチャンガ オジイチャント オバアチャンガ イル。然 ボ
クンチノ オジイチャント オバアチャン。/いいわね。/○ソコ
ニネ # デンシャ イッパイ ノッテ キシャポッポモ ミテ
ネ # ケムリネ ダシダスネ キカンシャ ノッテネ、/煙出
す機関車があるの? /○ン。ソレ ノッテネ アカバネネ #
トマッテネ # ソレカラ マタ ツル^(セ)_(サ)ン イクネ デン
シャ(ン) ノッテネ # ソイデ ソコデ ツル(サ)ン トコ
デ オリテネ ソイデネ イナカノ オバアチャンチナノ。ソコ
ガ; おばあちゃんちには何がある?

○話がだんだんそれていく。「あつ
いのでぼうしをかぶる」→「ぼ
うしをとっちゃう子がいる」
→「その子はいじわるの子」
→「わるい子をみにきたのか」
と。

○質問者の「幼稚園」という間に
疑問を出す。

○「コウ ヤッテテネ」は「コウ
ナッテテ」と使うべきところ。

○自分の所業に対する言いわけが
おもしろい。

○オバアチャンチ? # オバアチャンチハ ボクト オンナ
 ボクンチト オンナジネ アノネ # イッコネ オモチャバコ
 ガ アンノ。然 アノネ カゴニ ハイッテテネ # カゴニ
 ゼンバ ハイッテテネ オモチャガ。# ソコニ ソコンナ ソ
 コノネ ハイッテル トコハネ コウ ビニールデ コウ カゴ
 ガ ハイッテンノ。ソン ナカ; # ダカラ チラカシテモ ダ
 イジョブナンダヨ。オジイチャンチハ; 然 アノネ アノネ #
 ツクエハネ サンジョウニ アッテネ # ソイデ マエノ オ
 ニイチャンハ イツモネ # ボク スキナノ。然 ソイデ イ
 ツモネ キタ トキ アソンデンノ。/いいわねえ。/○ソイデ
 サ ボクンチノ # チカクニハネ ボクノネ バスノ ノル
 トコ アッテネ # コッチガワニネ # サユウウツチュウ
 トコ アッテネ # ナンデモ オクジョウデモネ デモネ タ
 ベラレル トコガ アンノ。サイユウストア。/あ、西友ストア。
 /○ン。

西友ストアは近くなの?

○ボクンチノ? # ウウン。# モット サキ、# サキニ。#
 ホラ ジドウシャガ トマッテル トコ アルデショ。#
 (コレ) ヘンナ エ。~~/いっぱいね。/~~エイガノ コウイウ カ
 ンバンガ デテル。然 アソコ シッテルデショ。/知ってる。
 /○アソコノネ # コッチガワニ アンノ。然 ^(セ)_(サ) イユウカ
 イ。

何売ってんの?

○アノネ アノネ # アソコノネ # エイゴノ カイ エイゴ
 デネ # ナツヤスミノ トコ シッテルデショ。(コウ ヤッ
 テ)。

英語で夏休み? 知らない。

○エイゴデネ # ナツヤスミノネ # トキネ アノ ド エイ
 ガカンニ イッテネ # クマサンヤナンカ ミテ キタ。然
 ソノ ナマエハネ # ジャングルブック。

ジャングルブック見たの。どんなお話だった?

○ダ ダケドネ カラーナンダヨ。アレハ;
 きれいだったわねえ。

○ダケド イロ イロガ デテンノ。/カラーだから色が出てんの
 ね。

○ン。ソレカラ ペンキデ ヌッタミタイニ コウ イロガ デテ
 ルノ。然 ボクンチダッテネ カラーナンダヨ。カラーテレビ; /
 あるの? /○ダケド シロクロン トキダッテ アルヨ。然 (ホ
 シデ) モ ナンデモネ コウ。コウ ヤッテ マウス トコ ア
 ンデショ。/手をふりながら一生懸命話してくれるわね。/○ア
 アレネ アレヲネ、# シタノ オシチャウトネ # コウ
 ヤッテ コウ マワシチャウトネ/チャンネル回すと? /○チャ
 ンネルジャナクッテネ コウイウネ # コウイウノ マウス
 チャンネル マワスト シロクロ ネットリネ # デタリ
 ネ # オカシイ トキダッテ アンノ。然 センガ イッパイ
 デチャウ トキダッテ アンノ。

ジャングルジムってどんなお話だった?

○ジャングルブックダヨ。

ジャングルブックってどんなお話だった?

○話がどんどん発展していく。質
 問者が質問をはさまないと止ま
 らない。

○「ダケド」口ぐせ的。

○アノネ # トラヤネ # ショウヤネ # ヘビヤネ # ナ
ンカガ イッパイ デテ キタノ。然 ン。

それでどうしたの？

○デ アレネ ダケドネ # ボク サイショハネ ボクネ アレ
ネ アノ ヒトダト オモッチャッタ。然 ン。ホントニ シャ
ベルンダヨ。アレ；／しゃべらないよ。／○ホントニ ヘビダヨ。
ヘビダヨ。然 ヘビガ シャベッテ ソイデネ # アノネ オ
ニイサンノ アカチャンガネ サイショ デテ キテネ ソイ
デ ジャングルブクッテネ # ダンダン オオキク ナッテ
キテネ # ジャングルブクン ナッテネ # ソイデネ
ドッカニ キリンヤ カンガルーヤナンカガ イテネ # ソウ
サンヤネ # ナンカガ イッパイ デテ キタノ。# ケモノ
バックシ；／よく覚えているわねえ。／○ケモノバックシガ
イッパイ デテ キタノ。ライボンモ デテ キタノ。ライオン
モ；／ん？／○ライオンモ デテ キタノ。然

僕大きくなったら何になりたい？

○アノネ バスノ シャショウサン ナリタイ。

どうして？

○ダッテ バク ボクネ バスガネ # ボク ダイスキナノ。然
ン。ダッテ バスノ シャショウサンテサ # トマ サイユウ
ノ トキナンカサ # イク トキナンカ（トオク イク トキ
ナンカ）シュウーッテ（ヒイテ）ズーッテ ント ハヤインダ。
チョウトツキウヨリ；然 ヒューツ。／本当？／○ホントダヨ。
じゃあね、数いくつまで数えられる？

○アノネ # アノネ # サンジュウマデ。然 ゴジュウマデカ
ナ。ア ゴジュウマデ。

こっちの手どっちの手っていう？

○アノネ # オハシネ モツ ホウハネ コッチデショ。# コ
ッチ オハシ モツ。

お箸持つ方の手はどっちの手って言うの？

○アノ コッチ？ コッチハ オチャワン モツ ホウデ コッチ
ガ オハシ モツ 然 オハシヤ アノ # コウイウ オシャ
ジヤナンカ モツ ホウ。コッチハ；然 ソイデ コッチハ コ
ウ オチャワンヲ オサエタリ コウ。然

お茶碗をおさえている方の手はどっちの手って言うの？

○アノネ コッチノ テッテ イウノ。然

夢見る？

○ユメ？ # ミル トキ ダンダンネ # ダンダン ミル ト
キモ アル。

どんな夢見た？

○キョウハ ミナイケドネ # ズット マエ オジイチャンチニ
トマッタ トキ ヒトリデネ オジイチャンチ イナカノ オジ
イチャンチ トマッタ トキネ # アノネ ユメ ミタ コト
ハ アル。然

僕のうちに保育園から行くにはどういう道通って行くの？

○アノネ カミヤコウエンノネ # アノ ミチ トオッテ イク
ノ。ソノ ミチ マッスグ イカナイデ チョット ソコニ カ
ミヤコウエンガ アルデショ。コウ マッスグニ；# ソコニ
チョット マガッテ ズーット イクノ。

○「ショウ」→「ひょう」の意。

発音についてはこの本では取り
あげていない。

○右とか左が出るかためしてみた
が出なかった。

○「ダンダン」の使い方おかしい。

○「ミナイケドネ」→「みなかつ
た」と過去形を使った方がいい。
「キョウ」もおかしいが。

○「アノ ミチ」「ソノ ミチ」「コ
ウ」「ソコニ(を)」などというこ
とばで片づけている。

神谷公園の近くなのね。

○ドコガ？／僕のうち。／ボクンチ？　チガウヨ。然　ソッカラサ　＃　ズーッ

ト　ウチノ　アッチニ　シャシンヤサンガ　アルデショ。＃　ア
ソコ　ズーッ　トオッテ　イッテネ　＃　アソコニ　ギュウ
ニュウヤサン　アルデショ。＃　ソコ　マタ　ズーッテ。ソイデ
タバコヤサンガ　アルデショ。ソノ　アガッタ　トチュウニ；＃
ント　ハナヤガ　アッテ　ソノ　ソ　トリヤガ　アッテ　＃　ソ
ノ　ヨウフクヤガ　アッテ　ソノ　ツギニ　ント　タ　トリヤノ
マエニ　タバコヤサンガ　アルデショ。＃　ソコーネ　ソコノネ
ソノ　トナリガ　ボクンチ。然　ン。／公園の近くじゃないの？
／○ン。／然　だって公園に遊びに行くんでしょ。近いのかと
思った。

○ダッ　チ　チカイン、チョット　チカイケドサー。＃　ダケド
コウエン　イク　トキハサー　＃　ハイル　トキハ　ダイジョウ
ブダケドサー。＃　オフロヘ　イッテサ　＃　マルブロニ　ガッ
コウノサー　トコ　トオルトサ　オフロ　イク　トキ　マルプロ
イッタラサ　カエル　トキガ　トオク　インダモン。然　イク
トキハ　トオク　ナイ　チカイケドサ。＃　イク　トキハネ　＃
カンジガネ　＃　ントネ　アノネ　アレダト　オモウ。チカイト
オモッテネ　＃　カエル　トキガネ　＃　カ　カンジガネ　＃
トオクイト　オモッチャウ。／どうしてかしらね。／○ワカンナ
イヨ。

僕テレビ見る？／○ミル？ミルヨ。／どんなの見てる？

○マンガ　イツモネ　＃　ケロヨントカ　カエルガ　デテ　クル　マ
ンガトカネ　＃　ナンカ　イツモ　ナンデモ　ミテンノ。ヨルハ
ネ　＃　ヤキュウノ　ヒューマクン　ミテンノ。／飛馬君？／○
ン。

飛馬君のお話聞かせて？

○アノネ　＃　コイデネ　ヤキュウ　イツモネ　オトウサンニ　オ
コラレテ　ヤキュウ　ヤッテンノ。然　オトウサンニ　イツモ
オコラレテンノ。ソイデ　オネエサンガ　イテネ　＃　ヒューマ
クンニ、ソノ　ヒトガネ　＃　イツモネ　アノネ　＃　イツモ
デテ　キテネ　＃　アノネ　オワリノネ　アノネ　ウタン　トキ
ハネ　＃　アノ　ヒューマノネ　ナンデモネ　ワッターナンカ
シテンノ。然　ソコ　ミチャッタモン。然　ア、

いちばん好きなの？　それが。

○ン。イチバン　スキダネ。コンドハ　ヨルダヨ。＃　ヨル　ヨル
ネ　ヒューマクン　ヤッテナイン（ダ）。コンドハ　アタラシク
ヤンノ。ウルトラセブン、ウルトラマン、＃　ウルトラセブン；
（ガーッテ　ナゲ）コウ　アタマヲ　ジャーッテ　ナゲルトネ
＃　ココデ　ドッカ　ピーント　アタルトネ　＃　カイジュウノ
チカラモチノ　^{（ギュ）}ットモ　^{（ジュ）}ヒュッテ　ナゲルトネ　ナゲヨウ
ト　オモッテネ　ピーッテ　ヤルトネ　＃　モイッカイ　ピーッ。
マタ　トンデ　クンノ。然　モイッカイ　ピー　ヨッツモ　デテ
クンノ。コ　コンダケモ　コンダケモ　デテ　クン／ジェスチャー
うまいね。こんだけってそれいくつ？／○ヨッツ。然　ゴジュウ
モ　デテクン。然　バンバン。然　ソイデ　ドコデモ　ピンピン
テ　アタルカラ　＃　コウイウ　トコモ（ドンドン）ポコン

○「カンジ」おもしろい使い方。

○「トオクイ」→「遠い」の意。

○「見る？」に対して一応「ミル？」
と言い、「ミルヨ」という。エコ
ラリーと言われているよくない
癖。

○「オコラレテ」は「おこられなが
ら」が言えないからだろうか。

○ジェスチャーに音まね語をまじ
えて生き生きと話す。

ポコンテ トレチャウンダ。然 (コケナンカ); ／^{キーン}昔なんかが
 トレチャッテ ドカーンテ ソイデ カイブツクン カイブツガ
 ドカンドカンテ ドカーンテ ドッカニ タオレチャウンダ。
 お母さんね絵本なんて読んでくださる? / ○アノー イツモ? /
 お話なんかしてください?

○ヨルネ # オジイチャンジャ ナクツチャ オハナシ シテ ク
 レナイ。然 ン。

おじいちゃんからきいたお話きかせて。

○アノネ # ／^{アノネ}どういいうお話がある? アノネ ハナガ (トン
 コウ) ナガクツテネ # ナンカ ソウイウ オハナシ シテ
 モラッタノ。／おぼえている? / ○オボエテナイ。然 ワスレ
 チャッタ。然 ムズカシイカラ。然

保育園の先生お話して下さる?

○ヨウチエンノ センセイ? ボクノ? # ボクノ セン ボク
 ノモ ボクノ ボクノ? / そう先生。 / ○アノネ # カツモトセ
 ンセイトネ # ヤキバセンセイト # クボタセンセイ。#
 コレダケ;

どんなお話して下さった? / ○ネル トキ? / 寝る時でもいい
 わ。

○ネル トキハネ # アノネ # アサ ハヤク ネテネ アサ
 ハヤク ネチャッタノ。然 ソイデ フトングミハネ タオルノネ
 # コウイウネ # コウイウノ カケテ クレテネ # ソイ
 デ オニノ ホン ズット マエ ヨンデ ハヤクネ (キモ)
 アノネ ネー # ^{じゃあ}_{アノネ} # …… / 何? いいわ。 / ○パジャ
 マ キル トキ # パジャマ ハヤク キタラネ # ナンデ
 モ ヨンデ クレルノ。然

これ縞馬とライオンの絵なのよ、こういうふうに絵をみながらお
 話してみて。 / ○ン。 / ライオンがどうしたの? / ○ナンチュ
 イエバ イイノ? / お話すればいいの。ライオンがどうしたのか
 自分で好きなように。

○アノネー エートネ # ナンカ コウイウノ シマウマガ キ
 タカラネ # カミツコウト オモツテネ ドンドン イッテ
 オイカケテンノ。然 ソイデネ コノ ライオン コノネ コッ
 チノ ライオンハネ # ツカレテネ ココデ ネテテネ ソイ
 デネ コノ シマウマタチガ # ココニ アツマツテネ #
 マアルク ナッテンノ。

字が読める?

○ジ? # ヨメナイ。

じゃあね、もう一つ。

○モウ ヒトツェ? # ナニ (コレ)
 (コンド)?
 今度はこのお話してみて。

○ナニ コレ? ナンダ コレ? / こちらからこういうふうにお話
 してみて。 / ○アノネ # コツチカラネ? / こっちからよ。 / ○
 カメガネ # ウサギガ サキニ ドンドン イッテネ ソイデ
 カメガネ ノロノロ イッテネ # ソイデネ アノネ ナンカ
 ネ ウサギガ ドッカデ ヒトヤスミ シテネ # アノネ カメ
 ガ サキニ イッテネ イットウショウ ナツチャウノ。 / 何の
 お話? / ○アノネ # カメトネ # ウサギノ カケッコ。#

○二重否定文、幼児にはめずらし
 い使い方。

○質問をよく理解していないため
 か。

○調査者に質問している。時々こ
 ういう幼児もいる。

○「ライオンが」の主語を言わな
 い。

このお話きいたことがある？

○アルヨ。ズット マエニ # アノネ ズット マエネ ママネ
ヨンデ クレタノ。

じゃ今度これは？

○コレ？ # コレ ナアニ？／こっちからよ、こっちから。／○
コッチカラ？ # ナンダ コレ？ コレ ヨンダ コト アッ
ナイ。

なくていいの。自分で絵を見ながら考えたとおりに言えばいいの。

○アノネ # コ コノ コウ コウ ナッテタ コウ アノネ
コウレネ ドウシテ コウ ナッタカッチュウトネ # コウ
マッスグ ナッテタノガネ カレチャッテ コンナ ナッチャッ
タノ。ソイデネ カケテモ コンナニ ナッ ソイデ コウ プ
チント ^(オ)_(ナ) ッタノ。

じゃこれは何でしょう。

○コレ？／こっちからよ。／○コッチカラ？ # アノネ クマガ
ネ コノ ネズミノ コトネ オイカケテネ イッテネ ソコ
コノ トラックニ ポント ブツカッテネ ココネ ドントネ
スワッチャッテネ コレ モウ コノ ソラネ ポーット オチ
テ ポーット コッチ イク。アノネ # コウ ヤッテネ
オッコッチャウノ。# ココデ、# コウ；

熊とねずみが落っこちゃったのね。／○ン。／先生が読んでく
ださった三匹の山羊のがらがらどんのお話できる？／○デキル。
／じゃやってみて。

○アノネー # サイショハネ # クサヲネ オオキイ ヤギト
チ、チ チビヤギノ ガラガラドンガネ アノネ ヤマニネ ナ
ンカ ハッパ タベニ イクノ。ソイデネ ソノ ツギ ニバン
ハネ アノネ アノネ ハシノ ハシヲネ ハシノ シタ ()
ガネ キミノ ワルイ トロルガ イテネ # ソイデネ ハナ
ガネ ツギデタ ハナデネ ヒカキボウノヨウナ # コンナ
トンガッテテ コウ ナッテテネ # ソイデネ ソコヲネ ワ
タラナクチャ イケナイノ。# ソイデネ ソコヲ ワタル (ト)
チビヤギノ ガラガラドンガ サイショニネ イチバンニ キ
テネ トロルガネ 「ダレダ」ッテ イッテネ # 「チビヤギノ
ガラガラドンデス」チュッテネ 「オマエヲ ヒトノミニ シテ
ヤルゾ」チュッテ 「オット タベナイデ クダサイ。モット ボ
クヨリ モット オオキイ ヤギノ ガラガラドンガ クル」 「
ソレナラ マッ トットト キエウセロー」ッテ イッテネ コ
ンド ニバンメ ヤギノ ガラガラドンガ ヤッテ キテネ、#
ソイデ 「ダレダ オレノ ハシヲ カタコト ガタゴト サセ
ル ヤツハ？」チュウテネ 「チビヤギ ニバンメ ヤギノ ガ
ラガラドンダー」チュウテ 「ソノ ヒトモ ヒトノミニ シテ
ヤルゾ」ッテ ユッテネ ソイデネ 「モット オオキイ ヤギ
ノ ガラガラドンガ クル」チュッテネ 「トットトネ キエウ
セロ」チュウテネ ドンドン イッテネ コノ アトデ モウ
ヤッテ キタノガネ オオキイ ヤギノ ガラガラドンガネ キ
テネ # 「イッタイゼンタイ ナニ モノダー」ッテネ ユッテ
ネ トロルガ ドナリツケタラネ 「オオキイ ヤギノ ガラガ
ラドンダー」チュウトネ ソレハ ガラガラゴエダッタノ。(笑)
ソイデネ (ツキデ) メダマハ デンガクザシデネ トロ ア

○「ドウシテ コウ ナッタカッ
チュウトネ」と、言わんとする
ことをまず提示する文脈導入形
式を話しているところなど年少
らしくない。

○「～カケテモ」の「何を」がはっ
きりしない。「水をかけても」の
意。

○「サイショハ」「ニバンハ」とい
う。ひとりっ子で20歳前後と見
られる使用人(?)と親しくして
いた影響か。大人の表現。
おしゃべりではあるが、筋の通
らない話し方も多い。
E女に近い。

イシデ イシモ フタツツ アル オマケニ オオキナ イシモ
フタツ アル チュッテネ トロル(ヲ) ラ タニガワニ オト
シテ シマツチャッタノ。ドボーンテ オトシチャッター。#
ソイデネ イッショニ トロルハ イッショニネ バラバラニ
ナッテネ # ソイデ ドッカ カ カワ タニガワト イッ
ショニ ナガレテ イッチャッタノ。ソイデ オワリナノ。

よくおぼえていたわね。

○ダッテ ズット マエネ # オソイ トキダッテネ # ボク
ハヤイ トキネ ズット マエネ イッパイ ミテ ズット マ
エ ズツ ズーット マエ(ニネ) # ネ ガラガラドンネ
ヨンダカラネ # アノネ オボエタノ。然
どこがおもしろい? いちばん。

○イチバン サキ? /どこがいちばんおもしろい? /○アノネ #
トロ トロルガ ドナリツケタバッカシガ オモシロイ。然「
イッタイゼンタイ ナニモノダー」チュウ トコロガ オモシロ
イ。

○何度も先生からこの絵本を読ん
でもらったらしい。要領よく話
せず、聞いた順序で何もかも話
そうとするのがこのころの幼児
の特色である。

年長児で文節数の一番少ない幼児

自長-F女(5:7) 1966 姉 姉 兄 本 弟
お名前いって。

○S・Y。

いくつですか? それいくつっていうの? かぞえてごらん。い
つつね。お家だれとだれいる?

○オニイサント オネエサン フタリデネ # ウーントネ #
オトコノ コネ フタリデネ # オカアサント オトウサン。
だれ一番好き?

○アカチャンモ イ^(ル)_(ツ)カラ アカチャン。然
どして赤ちゃん好き?

○カワイイカラ。然

お父さんのお仕事知ってる? なにしてらっしゃるの?

○ハコー ツクッテル。然

お母さんは何してらっしゃる?

○ナンカネ オトウサント オンナジノ モノヲ シテル。然
お祭あったでしょ? どんなだった?

○イカナカッタカラ ワカンナカッタ。然
お休みしてたの? お家でなにしてた?

○カゼ^(シ)_(ヒ) イテタカラネ # オイシャサン イッタリネ ウチ
デ ネテタリ。然

寒かったものね。いつも保育園では何する?

○ブロックデ アソンデンノ。

なにつくるの? ブロックで。

○オウチ。然

それからどんなお遊びする?

○ソレカラネ ソトノネ オニワデネ ブーランコ ノッタリ テ
ツボウ シタリ アソンドル。

何が一番好き? 保育園でやることでは。

○ブロック。然

ほかはどんなの好き? /○……/先生どんなお話してくださる?

○指で示すが、口で言えない。

○家族構成はまちがいないいう。
弟ということばは出ないが。

○「オンナジノ」の「ノ」は不用。
こういう言い方が残っている幼
児は年長には少ないがいるので
ある。

○「～ノッタリ～シタリ アソ
ンドル」並立関係の文の不十分な
例。「～したりしてあそんでる」
と言える幼児は年長にはいるが
少ない。

<p>／○……／じゃお家から保育園に来るにはどんな道通ってきます？お家を出てから、どういうふうにくるの？</p> <p>○イシガ アル トコ トオッテ キテネ ソレカラネ タイラナ トコ トオッテ キテ ソレ ソイデ クル。然 テレビを見るの好き？ どんなの見てる？</p> <p>○ナンカ マンガトカネ ダイマツッテ イウ ヤツ デテ クル ヤツ。然 大人のものも見る？ みない。何が一番面白くてよくみる？</p> <p>○マンガ。 まんがの中で、いろんなのやってるでしょ？</p> <p>○アトム。 アトムってどんなふうな子ども？</p> <p>○ロボットノ（ヤツ）デネ オシリカラデモネ ヒガ デテ キテネ アシカラモ デテ キテ トベル ヤツ。 アトムのどこが好き？ 気に入ってる？</p> <p>○ゼンブ。 特にどういうことやるから好き？</p> <p>○ワカンナイ。然 お母さんがね絵本読んでくださったりお話してくださったりする？ 全然しない？ そう。どんなお話きいた？</p> <p>○ワスレチャッタ。然 先生がね絵本持ってきたのこの字読める？ まだ読めない。そう。じゃこういうふうに絵をみてお話してみて。／○……／ライオンがどうしたの？ 縞馬どうしたの？／○……／これはどうしてる ところ？</p> <p>○オッカケテル トコロ。 そしてこれはどうしたんでしょ。お話するのいや？ そう。じゃこのお話してみて、こちらからね。／○……／じゃ夏休みはどうした？ なにしたお家で。</p> <p>○オソトデ アソンデタ。 保育園から合宿いった？ どうだった？</p> <p>○オモシロカッタ。 何したのがおもしろかった？</p> <p>○ベットデネ アソンダ トキガ。然 ベットで何したの？</p> <p>○ナンカネ オニゴッコミタイ コト。然 じゃこのお話は？</p> <p>○ワカンナイ。然 これは？ これは熊よ。熊がどうしたの？</p> <p>○ネズミヲ オイカケテ イル トコロ。 そして？</p> <p>○トラックニ ブツカッタ トコロ。</p>	<p>○この道順の説明はめずらしい言い方。</p> <p>○テレビの題名がはっきり言えない。</p> <p>○一語文で話すのが多い。</p> <p>○絵をみての話はほとんど話さない。</p> <p>○別の話をさせる。</p> <p>○「ミタイナ コト」と言えない。</p> <p>○もう一度絵にもどって聞く。まちがったことを言っているわけではないが少ししか話さない。</p>
--	---

年中児で文節数の一番少ない幼児

<p>神中一長男（4：7） 1968 本 弟</p> <p>お名前いってください。／○……／はくの名前は？</p> <p>○N・M。 お年いくつ？</p>	
---	--

- ヨンサイ。然
おうち誰と誰います？
- オトウサント オカアサント アカチャン、(ト) アカチャン。
誰一番好き？
- オカアサン。
どして？／○……／お母さんのどこがいい？
- ワカンナイ。然
お父さんのお仕事知ってる？／○……／お母さんはいつも何して
らっしゃるの？
- チャワン アラッターネー # オベントウヲ アラッター シ
テル。然
朝起きてからどうする？／○……／保育園で何する？ 何が一番
楽しい？／○ウン？／保育園で何するのが一番楽しい？
- ツミキ。
積木で何つくる？ 自動車？ 飛行機？／○……／お当番ってど
ういうことするの？
- オヤチュヲネー ハコンダリ モッテ キタリ、ネー # ツク
エ フイタリ。#
大きくなったら何になりたい？／○……／ぼくね数いくつまで数
えられる？
- ヒャク。然
10から逆に数えられる？ やってみて。
- ヒトーチュ フターチュ ミッツ ……。
それはできないのね。保育園からぼくのうちへ行くにはどういう
道通る？
- ワカレミチ。／うん？／○ワカレミチ。然
そしてどう行くの？／○……／夢見る？ 見ない。テレビ見てい
る？ ど／なの見てる？ ウルトラ・セブンなんか見てる？ ど
んなお話？
- コンド スル。然
絵本持って来たのね。このお話してみて。ライオンと縞馬のお話
なの。ライオンがどうしました？／○……／この字読める？
- シーマーウーマートーラーイーオーンーエーラーミーテーオーハ
ーナーシーヲー シーマーシーヨーウ。
誰に習った？
- ヒトリデ ()。
自分で読んだ絵本のお話して。どんなご本読んでいる？
- ショウネン・マガジントカネ # (ヒバリノ ホン) トカ。
これはどういいうお話かしてみて、ここからここまで。／○……／
兎と亀がどうした？／○……／これは？／○……／じゃーね僕本
を読んでみて。
- エーンーニーイールートーオーブーツーヒーローコーサーンーイ
ーヌーサーンーアーソービーマーシーヨーウ。ミ／ずっと読んで。
／○ミーンーナーオ、トーモーダーチャーデー (シュ) #
 (ス)。
どういいうこと書いてあった？
- ンー。

○この幼児も一語文で答える。

○この幼児はお話はしないが、字
は、ひろい読みで読める。(拗音
は読めない)

○字を追っているだけで意味はわ
かっている。

年少児で二番目に文節数の少ない幼児

<p>赤少-h 男 (3:6) 1970 本</p> <p>名前なんて言うの? / ○…… / 名前言ってちょうだい。I・Sくんね。いくつ? S君は。 / ○サンシャイ。 / ん? / ○サンシャイ。 / 大きな声で言ってごらん。 / ○サンシャイ。 / おうちには誰と誰がいるの? / ○……。 / お父さん何してる? いつも。 / ○オシゴト シテル。 / おうちで? / ○……。 / どんなふうによってるか見たことある? / ○……。 / 何してたの? お父さん。机の上向かってんの? / ○……。 / お母さんはいつも何してらっしゃる? / ○オリョウリ。 / 大きい声で。 / ○オリョウリ ツクッテル。 / どっち好き? お父さんとお母さんと。 / ○……。 / 両方とも好き? / ○……。 / ふんふんなんて言ったんじゃだめよ。ことばで言わないと。</p> <p>幼稚園から帰って何した? / ○……。 / きのう何した? / ○……。 / 今何してた? 幼稚園で。 / ○……。 / お遊び? お歌? / ○……。 / 夏休みだったでしょう、ね、どっか行った? / ○イカナイ。</p>	<p>○名前も言わない。 ○幼児音</p>
---	---------------------------

同一幼児(男)の年中、年長期の話しことば

<p>自中-s 男 (4:10) 1965 本 弟</p> <p>はくの名前を言ってください。</p> <p>○S・^(ヒ)_(シ)ロシ。 いくつ?</p> <p>○イツツ。 きのう面白いことあった? / ○ン? / きのう何か面白いことあった? / ○ン。 / お話して。</p> <p>○ン。アノネー ウント キノウハ シャムカッタッテネ カゼ シイタケドモネー シート ドウブツエン イッチャッタノ。カゼ シイテタケ^(ド)_(ロ)モ。然で?</p> <p>○ババニ オンブシテ、カエリ ネムッチャッタノ。 重かったでしょう。</p> <p>○カエリネー ボク ネムッチャッタカラネ エッオ ダレ^(ラ)_(タ)ト オモッタラ ママラッタノ。然 ママン トコニネ コウナッタノ。然 何見た? 動物園では。</p> <p>○ドウブツエンデネー ント ゾウトネー ウント コウラクエンモ ハイッテッタヨ。然 ン。アン カバトネー アト キリン ト ゾウト キバ アル ゾウ。 / ん? / ○キバ アル ゾウモイタヨ。 どういの牙ある象って?</p> <p>○キバ アル ゾウネ ココニ キバ フタツ アルノ。シテネ オハナガ ナガクテネー ソシテ ミミガ オー ウーント オッキイノ。然 (ゾ)ンテッ ト ミズン ナカ ハイッテタノモ イッタヨ。然 ドウイ(ウ) (オヨ) オヨギ オヨギ(イ) ッタカ シッテル? 知らない知らない、教えて。</p>	<p>○この幼児は「ヒ」を「シ」と発音する。幼児音が残っている。</p> <p>○「ババニ オンブシテ」→「おんぶされて」となるところか。あるいは「おんぶしてもらって」となるところか。</p> <p>○この文は途中から話題が変わってくる。</p> <p>○このへん動詞の使い方おかしい。</p>
---	---

○アノネ オヨギ イッタカラネ シッポー ウゴカシテ イ……
イー ヤッテタノ。

水の中泳ぐの？

○ン。然 ソレカラネー ウント カエリハネー ウント オー ド
マンスカー ノッテ キタノ。

あら、よかったわねえ。

○ソシテネ シカリゴウモ ノッテ キタノ。然 ツカレタカラ；
然 タクシーナンカ コナカッタカラ バス ノッテ キチャッ
タノ。然 ヨコハママデ イッチャッタングダヨ。フタリデ；ヨコ
ハマノ ドウブツエン。然 ン。# カエリハ ウエンニ イッ
チャッタカラネ ント ウエンニチ イッチャッタノ。然 ヨウ
チエン イカナイデ；

ああら、さばったの？

○ン？

幼稚園さばっちゃったの？

○ウン。然 ヨコハマカラネ キトラ マタネ モ ヨコハマ
ズット ムコウ ホ イッチャッタノ。然 ムコウノ トオイ
トコロダカラ。然 デンシャン ノッテ ズーット。然 トオク
ノ イナカノ ホウニ。然 ズット マエハネ ウント # ズ
ーット マエニネ スンデタ トキハ イナカ イッチャッタ
ノ。然 イナガ イッタ トキネ、
田舎って？

○イナカニネー ント ハタケニ トンボガ イッパイ イテネ
ツカマエテ キタノ。
よかったね。

○カブトモ イタヨ。然 アトネー ウント カエリハネー ウン
ト ヨルン ナッテネー トマッテ キタノ。然 ミッツダケ；
然 ソレカラネー ント カエッテ キタ アトニハネー エー
ト # ネチャッタノ。# エ デ ネムタク ナッテネ #
アサ オキトラネー キョウ ヨウチエン キタノ。然
幼稚園って好き？

○ン？

幼稚園って好き？ どういうとこいい？

○ドウ イウ トコ？ オヘヤ？

いろんなとこ、いいとこあるでしょう。好きなところあるでしょ
う。

○ウン。

どこ？

○ドコッテネ、
どういうもの？

○ツミキ？ オッキイ ツミキ。然
なに作るの？

○ボートヤネエ オッキイ フネヤ。然 ツクレンノ。ボク；
上手なんでしょうね。

○ジ(ロ) ウシャダッテ ツクレンノ。然 トラククラッテ ナン
デモ。

こんど見せてね。／○ン。／それからなにが好き？

○アト？ # ウントネー …… チッチャ(ナ) ツミキモ ス
キ、ダシネ # アトネー ウント ナニカナー …… オママ

○「ドマンスカー」→「ロマンス
カー」ラ行がダ行になる。幼児
音

○「疲れたからひかり号に乗って
きた」と言わないで、理由を補
足している。

○「ウエンニ」→「上野」か。

○話がとんでいく。

○この幼児は、あるいは倒置的(補
足的)な言い方が癖なのかもしれ
ない。

○「ドウ イウ トコ」と、質問
者の問を反復している。

○ダ行とラ行の発音の混同が多
い。

ゴト ^(ヒ)_(イ) ッショニ ヤッタ トキネ ウント # スキダシ
 ネ、ソングケガネ スキナノ (ハ)。然 マタ (ナー) キノウノ
 (ツギヲ) イー ミッツボ イッタノ。# イッパイ イッタン
 ダヨ。ヤスンデタ トキ； 然 シテネ キョウカラ ヤメ
 チャッタノ。イクノ； 然 ン アトネ イッタ トコハネ ウン
 ト ジュウホイクエンノネ チガウ ヨウチエンネ。ズット マ
 エ イッテタンダ。然 ズーット トオイイ トコ。然 ボク
 ズーット マエネ トオクノ ホウニ イタノ。然 ソシタラ
 コッチニ コシテ キタノ。然 ウチノ オトナリ (アネント)
 ボクー コッチ ガワノネー オウチ(ダト) モウ ニカイダ
 テ ツクッテンノ。然 フルイ オウチ カリテンダ。然 アト
 ネ ウント, # (トナリノ) オウチ モウ デキアガッタカラネ
 カ…… ン…… ボク ズーット マエ ヤスンデタカラネ
 チョ…… アノー オソトデ サムカッタノ。# シテ デ ト
 デン ノッテネー # ント バスン ノッテネー # ント
 タクシー ノッテ ロマンスカー ノッテ キ キュウコウレッ
 シャ ノッテ ズット ヨコハマ イッチャッタノ。# イナカ
 ニ； 然

幼稚園でおままごとするでしょう。／○ン。／その時にははく何
 になるの？／○ナニ。／おままごとする時はく何になるの？

○オニイサンヤネー ント オニイサンヤー オトウサン。然
 お兄さんやお父さんになった時どういうふうに言うの？

○アノネー ウント カイシャ イ ^(グ)_(ク) トキハネー イン 「ハ
 イチャ」ッテ ^(イウ)_(シ) ノ。然 アカチャン イルカラ； 然 スッ
 トムーハ 「ハイチャイ」ッテ イウンダ。然 ストムモ ボクガ
 「ハイチャイ」ッテ (イエバ) ストムモ 「ハイチャイ」ッテ。
 じゃーね／○ウーン。／ぼくのうちにはねえ、／○ウン。／だれ
 とだれがいるの？

○アノネ ウント オバアチャン ンー ハタライテルケ ^(ド)_(ロ) ネー
 ウント オトウサントネ ウント オトウサン シンジャッ
 タンダケ ^(ロ)_(ド) モネー, 然 ウント マター モウ ニュウイン
 シタカラネー モウ ナオッタノ。ニュウイン シタノ。

死んじやって入院したの？

○ウン シンダラ ニュウイン シテ モウ ナオッチャッタノ。
 然 ドコモ； 然 (ソ) シテネ # ウント …… ボクガ
 ネ # ウント…… イッタ トキハネー # ウント # ズ
 ーット マエデ シンデタノ。然 ニュウイン シテタラネ #
 ウント ボク ズーット ニュウイン シテタノ。然 シテネ
 ント ボクガ ナオッタ トキ パパガ コンド シンジャッ
 タノ。然 ボクノ ホウネー ニュウイン シテタ (オリ) ニ
 キタノ。

で、お父さんいないの？

○ン？ モ モウネー ナオッチ ウチニ ズーット インノ。

何してるのおうちで？

○オウチデ？ # オトウサン？ # カイシャ イカナイデネー
 然 ントー キカイヲ ヤッテンノ。然 オッキイ キカイ； 然
 お母さんは？

○オカアサン？ # ントネ ボクノ フユズボントネー #

○話がずんずんそれていく。

○「ストム」→「つとむ」の意。

○「死」とはなにかわかっていな
 い。

ンート フユ ナツノ、ネ ポウシ (ミガ) (ムイ) ワラボウシ ヌッテ
クレテンノ。

いいお母さんね。

○ヒトツダケ デキタノ。然 ボクノ ポウシ シュトムノ ポウ
シモ フミチャンノ ポウシモ。然

おじい、おばあちゃんとお父さんとお母さんとぼくと、それから
だれがいるの？

○アトネ ストムト フミチャン。

ちっちゃいの？

○ン？

大きいの？ ちっちゃいの？ その人たちは？

○オネエサン？

お姉さんなの。お姉さんはふみちゃん？／○ソウ。／つとむ君は
弟？／○ソウ。／

○チカウ イモウト。じゃ、おうちで遊ぶ？

○オウチデ？ # アソブヨ。ボクト イッショニ；

何して？

○アソンデ (ン) トキネ ストム ヘンジ シラレルノ。「アジャ
アジャ」トカ。然 (ス) (シュ) トムツ チ ウマ (レ) タ トキ
「(オ) (ア) ンギヤアンギヤ」ッテ イッタノ。
かわいいわねえ。

○「オンギヤオンギヤ」ッテ # イッテタツ (ト) キハネエ ウ
ント ストムガネ # ンート (ノー マーイ) カイッテ ナ
カッタノ。「オンギヤオンギヤ」ッテ イッタ トキ；然 ソシ
テ ネ ンート 「オンギヤオンギヤ」ッテ イッテタ トキネ
コンド ン…… ンマ…… ユ…… 「マユミチャン」ッテ ユッ
タノ。

おうちからね幼稚園に来るにはどういう道通って来るの？

○ミチ？ # ミチネー アノ コ (ウ) バン トコ タ (ル)。ン
コ (ウ) バン トコ (ア) ラ クンノ。然 ボクノー オウチハ
ネ ンート モウ ニカイダテ ツクレテネ ボクノ オヘヤ
ニカイダテナノ。然 ヒトリ ネラ (レ) (エ) ンノ。イツ イツツダ
カラ。

感心ね。テレビ見る？

○テレビ？ # ドコデ？

おうちで。／○ン。／何好き？

○アノネー ンート パピーヤ ミテルシネー # ンート
ジェットーラッテ ナンデモ ミテル。

どれが一番好き？

○アノネ パピートネ ント ジェッタート アトムト ン エー
ス。

一つお話聞かせて、そのうちどれでもいいから。

○オウチノ？

テレビのお話よ。

○アノネ ント マンガ ヤッテル トキ？

漫画でも何でもいい。ぼくが一番好きなもの。

○イチバン スキナ トキハネエ。# ント パピー (デモ) ス
キ (ア) (ガ) ノ。
キ (ナ) ノ。

○「シラレルノ」の使い方はおか
しい。

○「ツクレテ」の言い方はおか
しい。

○この幼児も、質問者の間をもう
一度くりかえして言ってから答
える癖がある。

じゃ、そのパピーのお話して。

○パピーノ ……ネ ント ミタ トキネ # ント パピーネ
ント アノ コイウ ヤッテ ヤルトネ # ント # パピー
ネ # ン ナッチャウノ。然 パピーッテネ マケナカッタヨ。
然 ミタラ；然 チョット ダケ ^(バ)_(マ) ケタモン。アシダケ；
お母さんねお話をしてくださったり、絵本読んでくださったりす
る？

○ン。

どんなお話してくださる？

○ネタ トキ オハナシ シテ クレンノ。然 アノネー # ン
ート ナンノ ホンカ ワカラナイ？ 然 ジャー オシエタゲ
ル。ホン； # アノネ # ウント # ジドウシャノ ホン
ジャ ナイモン。然 ボクノ オニイサン トキノ ホン。 然
アノネー ウント # ナンダツケナー ……ウントネー #
ン ジェッターノ ホントネー # ゼロセンハヤトノ ホント
アトー…… ビックエックスノ ホン。

ひとつお話聞かせて、この先生にも。

○アノネー# ント ……アノー ンー ボクネー # ント
ママガー ンー ヨンデ クレタ ホンネー ナニ ツイテルカ
シッテル？

知らないから教えて。

○ダイオンデモ ツイテタヨ。然 ゼロセンハネ ゼロセンシコウ
キバッカイ ツイテタ(ヨ)。然 パピーノ ホンモ アッタヨ。
然 パピーノ ホンネー # ント パピーバッカリ ツイテン
ノ。然 オンナノ コ ツイテルヨ。

これね、縞馬とライオンのお話を書いてあるの。／○ン。／ここ
からね、ライオンがどうかしたの。このお話をこの絵を見ながら
やってみて。／○ン。／ライオンがどうしたんでしょう。

○ライヨ(ン)？ # ……

このライオンどうしたの？

○ド(ウ) シタッテネ # ウント …… シマウマガ キタ、カ
ラジャナイノ？ # (ソ) シテ コッチ ズーット イッタン
ジャナイ。# ア コレ オッカケテンダ。然 シテ コレ シ
マウマ コンノ ココニ イッチャッタカ(ラ) ココ^(デ)_(レ) ヤッ
チャッタノ。# ナッチャッタノ；然 ン。

そして？

○(ソ) シテネ マタ ンー ナッチャ ココカ(ラ) ズーット
キタノ。ココ；然

そういうお話？

○ン？

そういうお話？ これは。

○ソ(ウ)。

このお話はなに？

○コノ(オ) ハナシ？ # ント ウサギガネー ント コ(コ)
^(デ)_(レ) ネットテネエ # ソコ^(デ)_(レ) ヤマデ ハタ ヤッテンノ。#
コレダヨ；コレ ココ^(デ)_(レ) テテネー ソウ ココデ ハタ
ヤッテンノ。

亀がそんなとこ行っちゃったの？

○ウン。然

○「コイウ ヤッテ ヤルト」
→「ペンダントを押すと」の意。
ことは数が多いわりに正確でない。

○「～バッカイ」→「～ばっかり」
の意。[r]の発音できないよう
だ。

このお話知ってる？

○ウチノモ コウ イウ ホン アンモン。然 コノ ホンデモ；
何てお話？ このお話は。

○コノ オハナシ？ # ント ウサギガ $\left\{ \begin{smallmatrix} ナ \\ ネ \end{smallmatrix} \right\}$ ムッタノー トネー
ー # ント カメガ ハタデ ヤッ シン ……ン ……ト ツ
カマッテテ 「ヤーイヤイ」 ッテ イッテンノ。

これは何でしょうね。

○コレ？ # ウント オミズヲネ ント ヤッタラ ……チガウ
ヤ アノネー ウント コノ オハナガ カレチャッテネ ミ
ジュ カケトラ (ソ) シテ オテンキニ ナッテ (ソ) シテ
マッスグン ナッタノ。

これは？

○コレハネー ウント ……カジ シュル トキネー # ント
コロ ココニ ネジュミガ イテ クマガ ツカマエヨウト オ
モッタラ ココカラ アン ニゲラシチャウ。ン…… ネズミヲ
ニガシチャッテ ココハ ズット イッチャッ ワタッテ イッ
チャッタ()。ココカラ トラックガ キタラー アン (シュ)
モウ スコシデ シカレソウダッタノ。

自長-s 男 (5:9) 1966 本 弟

前にやったの覚えてる？

○ウン。

まずなまえをきこうね。

○S・H。然

いくつ？

○ゴサイ。

お家の人だれとだれいます？

○オトウサントネ # オバアチャント ツトムトネ アトー オ
カアサントー フミチャントーダケ。

どなたがいちばん好きですか？

○トネー／お家の中でだれがいちばん好き？／○パパ。然
どうして？

○ウントネ アソンデ クレルカラ。然

どんなお遊びするの？

○ウントー ネ オ $\left(\begin{smallmatrix} シ \\ ウ \end{smallmatrix} \right)$ マ シタリネ # ウント オー ソレ
カラネ ウントー オモシロイ コト シタリ $\left(\begin{smallmatrix} シュ \\ ス \end{smallmatrix} \right)$ ルカラ。
然

おもしろいことってどんなこと？

○ウントネ # ウーント ボールナゲ シタリネ # ウーント
アト オー ウーン ウン ソレカラ ウント オー……

じゃまたあとで思い出してね。お父さんの仕事知ってる？

○シッテル。

何？

○ウントネ メイシヲ ツクッテンノ。然 オウチデ；

お母様は毎日何していらっしゃる？

○オカアサン ナイショク。然

どんなお仕事？

○トネ ママガー # ヨウフクネ ヌウー オシゴトトカ ソウ

○理由・原因の「から」がよく使
えないためか。「カレチャッテ」
という。複文はむずかしい。

○「ニゲラシチャウ」は「にげられ
ちゃう」か「にげだしちゃう」
か。

○シカレソウダッタノ→「ひ」

○年中の時に比べると、秩序だて
て話していて、内容もはっきり
して解りやすい。

発音や言葉に発達がみられ、年
中時のように文脈のみだれやそ
れがない。

イウノ。然
 お家では何をして遊ぶ？
 ○ボク？／ん。／○ウーン トモダチト アソングリ スンノ。
 幼稚園では？
 ○ヨウチエンデハー ムシサガシ シタリ スンノ。
 虫好き？ どんな虫とった？
 ○ウチデハ クワガタトカー アー ネー クワガタノ アカチャ
 ン、 トカー カブトノ ヨウチュウトカ ソ（ウ）イウノ。
 どんなどころにいる？
 ○クワガタ？／ん。／クワガタハネ キノ シタニ インノ。＃
 カブトムシガ キノ ウエニ イルンデス。然
 幼虫なんかも？
 ○ヨウチュウハ キノ ナカ。然
 じゃどうやってとるの？
 ○カブト？／ん。／○カブトハネ ． キニ キニ イッパイ イー
 サトウミズヲ ツケテ オイテネ ． ウント ハヤ ハヤオキ
 シテ エー キニ ソノ アマイ アノ アマイ ミズン トコ
 ミテ ミトラ カブトムシガ イッパイ アッテ アルカラ ソ
 ウ ヤッテ トルノ。然
 お家に木があるの？
 ○アル。カキノ キ；
 その柿の木に甘い水つけとくの？
 ○ウン。
 先生もやってみるかな。いつごろとればいいの？
 ○ウントネ アシタン ナッター トレバ イイノ。
 いつやっというて？
 ○ウントネ ゴジニ ヤットイテネ ． ソイデ／夕方^ノの五時に？
 ／○ウン。ソウシテ エ マタ アシタニ ナッター ソコン
 トコ ミテ オクノ。＃ ソウスレバ イルヨ イッパイ； 然
 くわがたはどうやってとるの？
 ○クワガタハネ ． ウント キノ シタニネ ． ナンカノ ク
 ダモンノ ミヲ オイテ オクノ。＃ ソシテネ ウント アー
 ソウスルトネ ． ウントー ユウガタノ クジン ナッテ ミ
 テ ミルト ． アノネ ． サガシ ウント ハタラキ ハタ
 ラクウ クワガタガ サガシトイテネ ． ミンナデー エー
 ヨンデ キテ タベテル トキ ソウ ヤッテ トンノ。然
 おもしろそうね。他に何とった？
 ○カナブンハネ ． ウントー キノ キ クサノ トコデ カク
 レテンノ。ソウスットネ ． タマ イッパイ タマルカラ ラ
 ネ ソウ ヤッテ トルンダヨ。＃ カナブンハ；
 どうしてたまるのそこに？
 ○ウントネ ． クサガ ダイスキダカラ。然
 蟬なんかは？
 ○セミハネ ． キニ トマッテンノ。＃ セミ ソレカラネ ナ
 ンニモ タベナイデ ミッカシカ イキナイノ。
 どっちが泣くの蟬は？
 ○セミ？／ん。／○セミダケ ナク。＃ クワガタトカ カブトト
 カ カナブンハ ナカナイヨ。＃ キリギリスハネ ． ウン
 トー オー オー キリギリスハー ネ ． ヤマ イッテ

○「幼虫」ということばも知って
いる。動物など好きな子はそれ
にくわしい。

○「アシタニ ナッター」使い方
おかしい。

○「ミテ オクノ」もおかしい。

○「トコデ」→「とこに」の意。

○質問者の問が不十分だった。雄
か雌かを聞こうとしたのだった
が。

ネ # ウント ソイデエ エー ヤマ イッテ カクレテテ
ネ # ワナヲ ツクッテ オクノ。# カゴノ ワナヲ; ソウ
スットネ # クダモンモ オイトイデネ, # ソウスルトネ
タバヨウト シテ ハイッタラネ # パッテ ツカマエルノ。
然

たくさんつかまえた?

○ウン。# ソレハネ # ジュッピキ シンジャッタ。然 モウ
フタリッキャ イナイ。然

そういうふうにとるのだれに教わったの?

○ホンデ。然

どんな本見るの?

○ウントネ # ムシノ ホン。

夏休みには他にどんなことをした?

○ウーン ホカハネー # ウントー オー ヨウチエンデ?

幼稚園でもいいしおうちでもいいわ。

○ウチデ アレ ヤッタ。ウチデネ # ウントー オー オ
エーカキ, 然 エカキトネ ツミキトカ。# ソイカラー ソト
デネ # バレーボールトカ ヤッテンノ。

合宿にいった? 幼稚園から。

○イカナイ。／いかなかったの? / ○ゼンソク オキチャッタノ。然
ぜんそくおきると苦しいでしょう。どういうふうになる?

○イマデモ ナッテルケドネ # モウ ダイブ ヨク ナッタ
ノ。

それから夏休みにどこか行った?

○イッタ。

どこいった?

○イナカ。# イナカデ クワガタ トッテ キタ。然

田舎にはどんな人がいた?

○イナカ ジイチャントネ # オジイチャント オバアチャント
ルミコチャント アト オー カズエチャン。# で何した?
ルミコチャンノ オトモダチダカラサ。カズエチャンハ

楽しいことあった? / ○ン。／どんなこと?

○イロンナ ウチ イッタカラ。# ソイデネ # ウント コノ
マエカラ キシャガ キュウコウニ ナッタンダッテ。然

大きくなったら何になりたい?

○オーキク ナッタラ オマワリサン ナリタイ。

どうして?

○ダッテ ピストル モッテンダモ (ノ)。

こわいじゃない?

○オトナニ ナレバ コワクナイヨ。

どうして? うたれたらこわいじゃない?

○ウン ハンニンヲ ヤツツケルカラサ。

ピストルをとられたらどうする?

○ピストルナンカ ココン トコ ヤットクカラ。# ウント ボ
タンデ ハメテ アッカラ ダイジョウブナノ。然

新聞なんか見る?

○オトウチャンダケ ミル。ボクハ ホントカ ソウイウノダカラ。
ニュースは?

○ニュース? / ン。／ ○ニュースハ ボク ミルヨ。然

○二匹と言わず「フタリ」といっ
ている。

○「けど」終助詞か接続助詞かはっ
きりしない。「イマデモ ナッテ
ルケド」は「今でもなるけど」
の意か。

○「ハンニン(犯人)」と言える。

どんなことを見た？

○ウン カジトカ ヒコウキジコトカ。

そんなのみたらどういいう気がする？

○コワイナト オモウ。

ばくんちから保育園くるにはどの道通ったらこられる？

○ウントネー # ウーン…… ウントー コッチノ ホウニ
シバタサンガ アンジャナイ。# ソコン トコ マガル トコ
アルデショ。ソコ マガッテ イッテネ ウント ソコガ ボク
ンチナノ。ソイデ ソッカラネ シバタサンノ ホウ イッテ
コッチ マガッテ シノハラサン トコ ズーット イッテ マ
ガッテ イッテ ソイデ ヨウチエン ツクノ。然

ばくは本読むの好き？

○ウン。

読むの自分で？

○ウン。ヨマナイ トキモ アル。然

お母さんがお話してくだすったり、本読んでくださったりする？

○ウン。

どんなお話きいた？ お母さんから。

○コジカノ バンビトカ ソウイウノ。

覚えてる？ きかせて先生に。

○(アン) アー ア ア ア ンート……

こじかのバンビっていうのは？

○コジカノ バンビッテ イウトネ # ウント フユン ナッタ
リ ハルン ナッタリ シテネ オカアサンガ テッポウニ ウ
タレテネ ツヨイ オトウサンノネ (オジ) ガ ヤッテ キテ
ネ # ソレガ エイガン ナッタノ。然

映画見にいった？

○エイガ ミニ イカナイ。# カイジュウノシカ ミニ イカナイ
ヨ。(サンダータイガイガー)ト (キングウイドラ)ー アー ウ
チュウダイセンソウデショ。# ソレ カイジュウモ デンダヨ。#
ソイカラネ オー ソイカラ フランケンシュタイン バラゴン
デショ。# ウルトラマンデショ。# ウルトラマンハ テレビ
デ ヤッテル。# ソレト マグマタイシ。# マグマタイシモ
テレビ。# ウルトラマンガ ニチヨウビ。ソレカラ アー ア
ノアノ マグマタイシガ ゲツヨウ。然

じゃ日曜日にウルトラマン見た？

○ウン。イツモ ミテンノ。然

じゃお話して。きのうあったのは？

○ウルトラマン。／どういいうの？／○ウントネ $\left\{ \begin{smallmatrix} \text{ウ} \\ \text{オ} \end{smallmatrix} \right\}$ ー ゲジラ ゲ
ジラガ カイジュウダッタノ。# ソイデネ オオアバレ シテ
ネ ハヤタタイインタチニガネ # ウントー ヘリコプター
ノッテ ヤラレテネ # ソイデ ウルトラマンガネ ヨンデ
キ ウルトラマンガ ヨンデネ # ソイデ エー ソイデ
ヤツツケチャッタノ。然 コンドノ カイジュウガネ ゴジラ。
然 ゴジラハ ツヨイカラネ ウルトラマン コンドモ (デモ)
マケナイヨ。然 マグマタイシガネ # ミカタキョウリュウト
タタカワナカッタケド アノ カイジュウ タタカッテ (パト
ラ)。ソレガ マケチャッタノ。# チキュウニ ナッチャッタン
ダヨ。# ソレカラ ゴアガ カイジュウ ミンナ ツクッタノ。

○道順の説明はむずかしい。

○「～ジャナイ」「～デショ」の言
い方を好む。

○怪獣ものが男児は大好きだ。

○「ウルトラマンガ」→「を」か。

○「けど」は終助詞か。

然

怪獣のテレビっておもしろい？

○ウン。 タタカイ、スッカラネ。 # ハヤタタイインタチノネ ジ
エツキ $\left\{ \begin{smallmatrix} ノ \\ モ \end{smallmatrix} \right\}$ コワレテルヨ。 アンドラーニ ブッコワサレ
チャッタノ。然 ヘリコプターモ コワレチャッタヨ。 # ジド
ウシャハ コワレテ イナイケド。 #

こわれたらどうするの？あと。

○アト コワレタラ ヨンゴウデ ヨンゴウ ノルノ。 # ソレ
ゼンゼン マケナイカラサ。 # ヒカリコウセン ダシタリ コ
ウセン ダシタリネ # (ニンメン) ヒヲ ダシタリ シン
ノ。 # デンキヲ ダシタリ シテサ； # ダカラ マケナイヨ。

他何見るテレビでは？

○ホカハ ナイ。然 オバキュウハ アルケド。

きのうのおばQはどんなお話だった？

○エートネ／あんまりたくさん見るから。／○オバキュウハネ #
ピーコノネ # ウチノ オウチニ イッテネ # オッコチソ
ウニ ナッテ ソイデサ # ホイデー ツリー シタリ シタ
ノ。 # ソレデネ オバキュウガ ツリ シテタラ オモイノガ
ツレテ ミンナデ テツダッタラ ヒコウキガ ツレチャッタ
ノ。然 おもしろいね。

○ソシテネ ウント ヒコウキデネ ウチヘ カエッタノ。 # ト
バナイケド；

おばQはどこがおもしろい？

○アノ イヌニ ホエタリ スンノガ。 # オバキュウ イヌニハ
ヨワインダヨ。

先生絵本持ってきたの。この字読んでください。

○ウン。シ マ ウ マ ト ラ イ オ /それから？／○エ
ヲ ミ テ オ ハ ナ シ ヲ シ マ シ ヨ ウ。

絵を見てお話してください。ライオンとしまうまがどうしたのか。

○トー／ライオンがどうしました？／ライオンが……

この絵はどんな絵？

○ライオンガ キターネ ウントー シマウマガ キテ ソコニ
トマッテタラ ソイデ シマウマガ ニゲター ライオンハ ア
トカラ ツイテ キタノ。 # ソウシテネ シマウマガ イッパ
イ イル トコロ イッテル…… イッタラ $\left\{ \begin{smallmatrix} ア \\ ウ \end{smallmatrix} \right\}$ オドロイ
チャッタラ マタ カエッテ キタノ。

このお話をして？

○(ン)トネ ウサギト カメガ カケッコシテネ ソイデー ウサ
ギガ ソコデ ウー ヒトヤスミ ウーント シテネー カメガ
サキニーネ ヤマニ モウ ツイテンノ。

このお話聞いたことある？

○アル。 # ウチニ アンモン。ソレ；然 ソノ ホン；

じゃこれは？

○エー(ト) ハナヲ ソダテテネ ソレカラ ミズ ヤッテネ
(ソウ ヤッテテ) ミズヲ カケテ ヤッタラ ピーント ナッ
タノ。

じゃこれは？

○(アノー) ココン トコ ネズミガ キターネ ソイデー ウー
ト ネズミ トコニネー ウー ダンプカーガ キタノ。 # ソ

○この幼児、文末に「けど」「から
ね」「からさ」「してき」のくる
文例が多い。

○「イヌニ ホエタリ スル」→
「ほえられたりする」の意。
受身形使えないらしい。

○何が(主語)「オドロイチャッタ」
のかが、わからない。

- イデー エー アトカラー クマガ オイカケテ キタノ。
お母さんがね昔話してくださる？
- ウーウン。
してくださらない？ でも桃太郎さんなんて知ってる？
- シッテル。
やってみる？
- ()^{覚えてる？}
モウ ワスレチャッタ。

同一幼児（女）の年中、年長期の話しことば

- 赤中-0 女（5:1） 1965 兄 兄 本
- お名前なんていいます？
- M・K。
おいくつ？
- イツツ。然
だれとだれがおうちにいます？
- パバト マ ママト オニイチャンガ フタリ インノ。
だれが一番好き？
- ママ。
どして？
- アノ ママ ヤサシイカラ。然
お父さんのお仕事知ってます？
- ンー。
何してます？
- ギンコウ ヤッテンノ。
行ったことある？ 仕事しているところに。
- ン。
どういうふうにやってました？
- ワスレチャッタ。
きのう幼稚園から帰って何しました？
- ヨウチエンカラ カエッテ？ # ウント オママゴトデ アソ
ンダ。然
どういうふうにしてあそんだの？
- オトモダチ ヨンデネ ウント オママゴト グシテ アソンダ。
然
Kちゃんは何になりました？／○……／何になったKちゃんは？
- オカアサン。
お母さんでどういふうなことでしてます？
- ゴハン ツクツタリ スンノ。
Kちゃんのおかあさんは？
- ゴハン ツクツタリ ソウジ シタリ スル。然
運動会があったわねえどうだった？ 面白いことあった？
- ン。
お話して。
- アノネ # ……カケッコガ オモシロカッタ。
それから？
- ……タノシイ ス^{（ケ）}_{（キ）}ップ。然
ほかにはどんなことありました。
- タ……タマ ワナゲ。然 スズワリダ；然

○文節数は少ないが、質問に対し
てははっきりと答え、内容もしつ
かりしている。ただ、絵の内容
把握はむずかしいようである。

○「フタリ インノ」数字を出し
てきちんといえる。

○理由文（省略文とも）

あのね夏休みのこと覚えてる？ 楽しかったことある？ どんなこと？

○アノネ ウーンー ヨコスカデ トマッタノ。

それから？

○デネ # ウントー イッタ トキネ # ウント ウミガ
アッタノ。然 ウミデ オヨイダ。然

幼稚園で楽しいでしょ。どんなこと楽しい？

○ユウギシ (ツ) トネエ アソトガ タノシイ。

何一番好き？ほかに？

○ウンドウカイ？ 然

大きくなったら何になりたい？

○(オ) ヨメサン。／ん？／○オヨメサン。

どして？

○カワイイカラ。然

おうち行くにはどんな道通ったら行ける？

○マッスグ イッテ マガルノ。然 ソウ イケバ スグナノ。然
ゴカイノサ # ヨンバンメ。

テレビ見るでしょう。／○ン。／何見る？

○マンガ。

どんなの好き？

○レオチャン。

どういの？

○レオ レオチャンネ ウント ツオイノ。然 コドモデ；# オ
トウサント オカアサンガ ヤサシイケド シンジャッタノ。
かわいそうね。それで？

○フンデネ レオチャン シトリデネ ウン ウ ウーントネ ワ
ルイネー ウーントー ライオンガ キタノ ヤツツケチャッタ
ノ。

それ見るの好き？ ほかは？

○ナイ。然

お母さんがね絵本を読んでくださったりお話してくださったりす
る？ どんなお話？

○ウサギノ オハナシ。

やってみて。自分でご本はまだ読まない？ そう。これね縞馬と
ライオンのお話なのよ。ライオンがどうしましたか。絵をみなが
らお話してみて。

○ドッチカラ イクノ？

ここからよ。

○コッカラ コウ イクノ？ 然 デ コッチカラ イウノ？ 然
デ コウ イッテ コウ クルノ。然
ライオンどうしました？

○ライオンガネ # シマーヲネ ウーン シマウマガノ トコ
イコウト シタラネ # シマウマガ ワラッテネ # ソレデ
イッたらネ ウント オイカケテ キタノ。# ライオンガ；#
ソレデ シマウマガ タクサン イタカラ ニゲチャッタノ。

このお話は何？

○ウサギト カメサン。# アノネ ウサギガサ ウントー カメ
ガ「アソコノ オヤママデ」ッテ ユッテ ウーント キョウソ
ウ シタラ ウサギガ カタイ カッタカラ ウント モウ ス

○「アソト」→「おそと」の意。

○間に対してたしかめの質問を出
している。

○「ゴカイノサ ヨンバンメ」と
きちんと数字で言ってる。

○「ヤサシイケド」→「やさしか
ったけど」時の対応のあやまり。

○わからないときはちゃんと質問
している。

○「ガ」と言い「ノ」で訂正。

グダカラサ ネチャッテ ソレデ カメハ カメガ イットウン
ナッタノ。

このお話聞いたことある？ ん。だれから？

○ママ。

じゃこれは何でしょう。

○アノネ オハナヲ ミズ ヤッテンノ。# コレ カレタンデ
ショ？ 然 カレタノー ノ ノヒタノ。

じゃこれは？

○ト ネズミガ イテ クマガ イタノネ。# ソウシタラ クマ
ガ ネズミノ コト オイカケタノネ。# ソイデ ネズミー
ウント クマガ、ネ # ジドウシャニ アトラックニ アッ
カッテネ # ソイデ ネズミガ ウントー トンジャッタノ。

赤長ー 女 (6:1) 1966 兄 兄 本

お名前いってください。

○M・K。

いくつですか？

○ロクサイ。

おうちにはねだれとだれがいます？

○オニイチャント フタリトネー ママトネー パパトネー アタ
シ。

全部でなん入？

○ゴニン。

だれいちばん好き？

○ママ。然

どうして？

○ヤサシイカラ。然

やさしいってどういうの？

○アノネー ナンデモ チャント シテ クレル コト。

どういうことちゃんとしてくれるの？

○アノネー # ガム カッテ キテトカ イウトネー # 「ハ
イ」ッテ イウ コト。

お父さまのお仕事知ってる？

○シッテル。然

なににしてらっしゃる？

○ギンコウ。然

銀行ってどういうことやるの？

○アノネー オカネヲ ノ コマッテル ヒトヤネ # ソウイウ
トキニ タスケテ アゲル (ヒト)。然

しかられることある？

○アル。

どういうとき？

○アノネー # アンマリ オソトデ アソビスギタ トキ。然
ほめられるときは？

○アル。然

どういうとき？

○アノネー パン カッテ キタリ スル トキ。然
お兄ちゃんは何年生？

○「オハナヲ」→「おはなに」

○「ジドウシャニ」といって、あ
と「トラックニ」と訂正してい
る。

○年長になると、長く話せるよう
にもなり、複雑な構文を使える
ようになる。

○自分を「アタシ」といって家族
の一人として答えている。全体
の人数も言える。

○わからないのがあたりまえ。

○サン ヨネンセイ。然
もうひとりのお兄ちゃんは？

○チュウガク サンネンセイ。／大きいのねー。
お兄ちゃんとなんかします？

○スル。
どういうことする？

○アノネー # センシャゴッコ シタリ シテ アソンデル。然
運動会があったわね。

○ウン。
やりました？

○ヤラナカッタ。
どうしてやらなかったの？

○カゼ ヒイテ オヤスミニ シテネー # ソレデー ミニ
イッタノ。然
たのしそうだった？

○ウン。
どういうのやりたいと思った？

○カンガルキョウソウガ ヤリタカッ(タ)。
カンガル競争ってどういうふうにしたの？

○アノネー # ……ワスレチャッタ。然
夏休みのこと覚えてる？

○オボエテル。
いちばん楽しかったこと覚えてる？

○オボエテル。／きかせて。／○アノネー # ハジメニネー……イ
ズ イッテネー # ソレカラネー マタ ソノ ツギノ ヒニ
マタ トマッテネー # デ マタ カエッテ キテ コンドハ
カルイザワヘ イッタノ。然 ソレデ ズーット トマッテ ソ
イデ ナツヤスミノ オワリコロニ ナルト カエッテ キタ
ノ。然
軽井沢っていうのはどういうところ？

○アノネー # イ ヤマガ アッテネー ソレデ キ キトカ
サイテテネー ソレデ オハナモ サイテテ チョウチョトカ
トンデル トコロ。然
涼しかった？

○ウン。
伊豆ではなにをしたの？

○ウミデ アソンデタノ。然
どういとお遊びしたの？ 海で。

○アノネー # ……ウキバクロ モッテネー $\left\{ \begin{smallmatrix} \text{ジ} \\ \text{チ} \end{smallmatrix} \right\}$ ヤブ $\left\{ \begin{smallmatrix} \text{ジ} \\ \text{チ} \end{smallmatrix} \right\}$ ヤ
ブ ヤッテ オスナトカデ アソンデタノ。然
きのう日曜日だったわねー、なにしました？

○ヨシコチャンテ イウ ニネンセイノ オネエサंगा イ ウチ
ニハ イナイケド オトモダチデネー # ソレデ ソノ ヒト
ト タミーチャンデ アソンデタノ。然
タミーちゃんてどういうふうにして遊ぶの？

○オニンギョウデネ オヨウフクトカトネ カツラトカ アッテ
ネ # ソウイウノデネ アソンデタノ。
それからなにしました？

○アト ワスレチャッタ。然

○「シタリ シテ アソンデル」
したりしてと言える(前出)。

○「カゼ ヒイテ オヤスミニ
シテ〜」と理由、原因を述べる
接続助詞「から」「ので」を使わ
ないで「て」ですませている。

○「ハジメニ」で言いはじめる。
なかなか論理的。

○「オワリコロニ ナルト カエッ
テ キタノ」時の対応がおかし
い。「ナルト」不用か。

○題目語の欠けている構文。「トコ
ロ」でまとめている。

○今何をしてたのか？と聞いたら
「アソンデタノ」でもよいが、
質問は過去のことを聞いている
のでおかしい。幼児は現在のこ
ととして認識するのだろうか。
→「遊んだの」

○「アソンデタノ」→「遊ぶの」
の意。

幼稚園で楽しいわねどうということやる？

○オカアサンゴッコトカ ヤル。然

朝来たらどういふふうにするの？幼稚園では。

○アノネー タイソウ シテカラネー ゴア アッ ゴアイサツ
シテカラネー タイソウニネ シテネー ソレデ ……ソレデ
ネー オユウギデネー シテカラ モドッテネー ソレ
デー ……デ…… ソレデネー ウントネー オナマエ ヨンデ
カラネー ソレデネー コンド ホントカ ヨンデルノ。然
先生にね、読んでもらった本だとかねーきいたお話でねー、みた
紙芝居でね覚えてるのがある？

○アル。然

きかせて。

○アノネー …… アノネー # ムカシノ トキニネー ウサギ
ガ イテネー カワガ アッタンデネー ソノ カワノ ムコウ
ノ ホウニネ ウサギノ クニデネー ソレデ ウサギノ オカ
アサンタチガ スンデタノネー。ソレデネー ウサギハネー ウ
ント コマッテタノ。ソレデ イキタカッタカラネ ソレデネー
サメガ キテネ イッパイノネ カゾクヲネ オシエテネー カ
ゾエテ ミテアゲルッテ イッタノネ。ソレデネー カワヲ ワ
タリタカッタカラ ウソツイテタノ。# ソレデネー ソレカラ
ネー イチ ニイ サン シイッテ アルイテタノネー。ソイデ
ネー キレイニ ナランデルデショウ。ダカラ カワノ ムコウ
ノ ホウマデ イキソコナッ イ イコウト オモッタノネ。ソ
レデ ウソ「ウソダヨー」ッテ イッタノネ。ソシトラ モウ
オトシチャッタノ。# ソウイウ オハナシ。然
あのね、大きくなったらね、なんになりたい？

○アノネー ……アタシハネ オモチャヤサンニ ナリタイ。然
どうして？

○オモチャグッテネ イウノガ オモシロイノ。然

かずをねーいくつまでかぞえられる？

○ヒャクマデ カゾエラレル。然

十から逆にかぞえられる？十、九ってこう下に。

○カゾエラレル。

やってみて。

○ジュウ キュウ ハチ ナナ ロク ゴ ヨン サン ニイ イチ。

二十からは？

○カゾエラレル。

夢みる？

○アル。ユメ ミル。然

どんな夢みた？

○アノネー オニイチャンガネー ウソ ツイタ ユメ。然

それでどうなったの？

○アノネー アタシガ テレビ ミテタンダヨネー。# ソシタ
ラ「トリガ イタ」ッテ イッタンダヨネー。# ソシトラ ミ
テタンダヨネー。# ソシトラ ミテタンダヨネー。# ソシタ
ラ イタンダヨネー。# ソレ ツカマエヨウト オモッタラ
ニゲチャッタノネ。ソシトラネ オニイチャンガネ ウソ ツイ
テ「サヨナラ」ッテ ユッタノ。ユメ ミタノ；然
テレビを見る？

○助詞の誤まりが多い。

○「ムカシノ トキニ」はおかし
い。

○「アッタンデネ」→「あって」
か。

○「だれが」「だれを」がよくわか
らない。

○この文よくわからない。

○ミル。

なにいちばん好きで見る？

○マンガ。然

マンガの中ではなに？

○アノネー アノネー ウッドペッカーッテ イウノネ マンガが
アッテネ # ソレヲ ミルノ。然

どんなお話、ウッドペッカーって。

○アノネー カラスミタイナ トリガ イテネー ソノ トリガ
ナマケモノデネー ソレデネー テヲ キロウト オモツラ
ネー キレナカッタダケドネー ソレハ コンクリートデ デ
キテルネー ウーント テダッタノ。／そんなの？／○ウン。

きのう日曜日はおばQ見た？

○ミタ。

どんなお話だったか覚えてる？

○アノネー # オバケノネー オバケタイカイッテ イウノガ
アッタ。然 ソイデネ オバケガ イッパイ キテネ ソイデ
ネー アメリカノ オバケトカネー ソウイウ オバケガ イテ
ネー ……ナンダッケナ ドロンパッテ イウネー アメリカノ
オバケガ イテネ ソレヲ ソレガネー マエカラノ オトモダ
チダッタノ。アトノ ゼンプハ オトモダチジャ ナイノ。ソレ
デネー ウーント ケーキ サムイ クニノハ サムイ トコガ
スキデショウ。ダカラ レイゾウコン ナカヘ イレチャッテ
ネー キツキツデショウ。ソレデサー アツイ クニノネー
エート オバケガネー アツイ サム ウチン ナカハ アツイ
カラッ サムイカラッテネー ウーント ストーブトカ イッパ
イ ヤッチャッテネー # ソイデネー 「オナカ スイタ」ッテ
イッタノネ。アツイ クニノ オバケガ；# ソレデネー アケ
テ ミタラネ ナカ カラッポダッタノ。# アノネー キツイ
カラッテ ゼーンプ タベチャッタノ。然 サムイ クニノ オバ
ケガ；／冷蔵庫の中のものみんな食べちゃったの？／○ウン。／
けっきょくどうしたの？／○ソレデネー オナカ スイタデ
ショウ。ダカラネー キュウ キュウチャンジャナクテ ドロ
ドロパガネー ウーント 「オンナノネー オヒメサマニ シ
テ アゲマショウ」ッテ イッタダヨネー。# ソシタラネー
ウーント キュウチャンガネ オンナ オトコナノニ オンナノ
ネー # キモノ キテ デテ キタラネ オモシロガッチャッ
テネ # ミーンナ トンデ イッチャッタノ。／そういうの
だったの？／○ウン。／よく覚えてたわねー。

ほかはどんなのみてる？

○アトネ ウルトラマンテ イウノ ミテンノ。然 ソレトネー
ウーント コジカモノガタリッテ イウノ ヤッテルノ。ソレモ
ミテンノ。然 ソレネー ジュウイチジマデダカラネー # ド
ヨウビニ ヤルカラ ドヨウビ(ノ) ア コノ ツギ、 ニチヨ
ウビデショウ。ダカラサー ダカラ アレー ヤッタ(ノ) ミテ
タノ。然

どんなお話だった？

○アノネー # アノネー ハジメニネー チッチャイ コドモガ
ネー ウーント ヨウ ヨウチエンニ カヨウ マエナノネー。
オカ オトウサンガネー ナンカ カイニ イッタノネー。ソシ

○助詞の使用の誤用。

○「～マンガをみるの」と言わな
い構文がおもしろい。

○テレビをよく視聴している幼児
が一般に文節数も多い。

○この年はおばQのテレビに人気
があった。

○この幼児は内容もくわしく話せ
る。

○「～デショ」という問いかけの
な話し方をこの幼児は使う。

テネー ムラノネー ヒトビトタチニ オシエタンダヨネー。ソ
シタラネー「カイモノ イッタンダヨ」ッテ オシエタラネー
ソシタラ オトウサンガ オコッテネー（キッカッテ）キテネー
ソイデネー ウマゴヤガ アラサレタノネー。ユビナシグマッ
テイウノ。然 ムカシノ オハナシ。然 ソレデネー # チッ
チャイ コガネー # シカヲ ミツケテネー シカヲ カッタ
ノネー。# ソシタラネー シカガネー スゴーク イタズラモ
ノデネー ソイデネー アトカラネー オカアサンガネー コジ
カヲ コロシチャッタノ。然 テッポウデ；然 ソレデネー
チッチャイ コモ マタ コロシチャッタノ。ソシタラネー
ウーント チッチャイ コガ ウチカラ デテネー # カワヲ
ワタッテネー ソレデ フネニ チッチャイ コブネニネ ノッ
テネ ナガレサレテ イッタ トコロヘネ フネノネ オジサン
ガ キテネ # ソイデ ソレヲ タスケテネー ソレデ カ
エッテ キタノネー。# ソシタラ「オソカッタネー」ッテ イッ
タラ「ウン」テ イッテネー # ソレデ ソレデネー ウーん
ト イ ヨク ナッタラ モウ オワッチャッタノ。然 コノ
ツギノハ オモシロイノ。／つづくの？／○ウン。然

○ウン。／それでもうひとつはウルトラマン？／○ウン。
ウルトラマンはどんなお話？

○ニチヨウビ。然 アレハネー アノネー キノウ キノウ ヤッ
タノハネー # エカラ トビダシタ カイブツガ デテ キテ
ネー ソイデー カイブツツカ ヤッツケルネー チョウカンガ
キテネー ケ ケンミタイナ モノ コウ ヤッテ ヤルノ
ネー。# ソウスルト ウルトラマンガ デテ クルノ。然 ソレ
カイブツツグライデネー # ダンチヨリモ オッキイノ。然
お母さんね絵本読んでくださったりねー、お話してくださったり
する？

○スル。然
どんなお話聞いた？

○アノネー ウサギト カメ。然
それからどんなお話聞いた？

○アトハ ワスレチャッタ。
ニュースなんか見る？

○ミナイ。然
交通事故なんて見たことある？

○アル。然 ノッパ クルマ ウンテン シテテ マエ ヤッチャッタ
ンダ。然 アノネー トラックニネー # ホラ シタニ ハ
イッチャッタリネー # ウーントネ タクシーニ ブツカッタ
リネー # ソレニネー スピードイハンダッタリ（ ）。／お
父さんが？／○ウン。／あらたいへんじゃないけがしなかった
の？／○ウン。オニイチャンガ ノッテル トキニネー ウーん
ト アノネー チッチャイネー トラックニ ノル チッチャイ
ネコガネー トラックニ ハネラレチャッタカラネー イッテ
ミタラネー「イマ ヤッテタンデスヨー」ッテ イッテタ。然
オニイチャン ソレテ イッタ トギノ ハナシ オシエテ ク
レタノ。然

絵本持って来たのねーこれ読んでください。

○シマウマト ライオン。# エヲ ミテ オハナシ シマショウ。

○「何を」教えたのかわからない。
のちの文でのべている。

○「使役動詞+受身」の形式はむ
ずかしいようだ。「ながれる」「な
がす」の自他の使用の誤りも
からむかはっきりしない。

○「キノウ ヤッタノハ」と題目
語が提示されているが、文末
「～だったの」が欠けている。
話しことばにはこのような構文
が多いが、文脈のそれである。

○「スピードイハン」ということ
ばなど日常化しているようだ。

○スラスラと読めた。拗音も正し
く読めている。

絵を見てお話してください。

- アノネー ライオンガネー シマウマ ネー タ サガシテタンダ
ヨネー。ソシタラネー シマウマガ イッピキ イタノ。# ソ
シタラ ライオンガ タベヨウト シタラネー ニゲテ イッテ
ネー ソレデー イッバイ イルネー イッバイ シマウマガ
イル トコ ツレテ イッチャッテネー ビックリシテネー
アー ソイデネー トバサレチャッテ ワーッテ イッタラネー
ソシタラ シマウマガ ワラッタ トコロ。然
でライオンはどうしてるの？

- ニゲチャッタノ。

こんどうさぎとかめのお話聞かせて。

- アノネー アレー コックラジャ ナカッタネ。# アノネー
ウサギガ カメガ オサンボ シテタノ。ソシタラ ウサギガ
キテネー「ヤー ノロマノ カメクン」テ イッタンダヨネー。#
「ボク ソンナニ ノロマジャ ナイヨ」ッテ イッタンダヨ
ネー。ソシタラ「ボクトネー キョウソウ ショウ」ッテ イッテ
キョウソウ シタノ。ソシテネー ウサ カメハ オソイデショ
ウ。ダケド ウサギノ ホウハ サキニ イッテネー チョット
ヒルネヲ シテタラ ウチニネー イチバンノ タカイ ヤマノ
ホウマデ イッチャッタノ。# ソシタラネー「キミ ホントニ
ボクヨリモ タカ ハヤイネ。ダカラ ボクト イッショニ ア
ソボウヨ」ッテ イッテ アソンデタ アソンダ トコロッテ
イウノ。ハナシ；然

このお話ね、なにしちやいけませんというお話？

- アノネー イジワルヲ シチャ イケマセンテ イウ オハナ
シ。

そういうお話だと思う？

- ウン。

だれがいじわるしたの？

- ウサギ。然

このお話してみて。

- アノネー チッチャイ コドモガネー／こちらからよ。／○ハナガ
カレタノネー。ソシタラ チッチャイ オトコノ コガネー
ウーント ミズヲ ヤッテタノ。ヤッタノ；# ソシタラネー
ウーン オテンキデ ソレデ シバラク シテネー オテンキデ
ショウ。ダカラネー ウーント オハナガ ノビテ キレイニ
ナッタノ。然

こんどこれは？ これもこっちからね。

先生をよく覚えてた？

- オボエテナカッタ。

でもリスぐみのときやったの覚えてた？

- ウン。

この三番目のお話きかせて。

- アノネー クマガ ネズミヲ オイカケテタンダヨネー。ソレデ
マチン トコロノネー ニンゲンガ トオル ミチカラネー デ
テ イッチャッテネー クルマガ トオル ミチニ イッテネー
ソシタラ トラクトネー ウーントー イッショニ ブツカッ
チャ クマガ ブツカッチャッテネー ソイデネー ソレデ オ
オケガラシタ トコロ。然

- 絵の解釈は年中時よりもよくできている。

- ライオンがびっくりしたのか、
縞馬がか、主語がないので、絵
がないとわからない。

- 長い文が切れないでつづいてい
る。最初に「この絵」はという
ことばはないが、最後は「～トコ
ロ」といって結んでいる。

- 名詞が連体修飾語になる場合助
詞の「の」がつくが、それに影響
されたか「イチバンノ タカイ
～」と誤用している。「いちばん」
は副詞として「高い」を修飾。

- 「～ヨリ」を使用している。

- 逆から話そうとする幼児がい
た。

- 「歩道」「車道」ということばを
知らないで、「ニンゲンガ ト
オル ミチ」と「クルマガ ト
オル ミチ」で表現している。

第 2 部

第1章 文構造の分析の方法

1.1 3歳までの文の発達

3歳までの文の発達を筆者は五段階に分けて考えている。(注1)

- (1) 一語文の時期(1歳前後)
- (2) 二語文の発生(2歳前後)
- (3) 多語文、従属文の時期(2歳半前後)
- (4) 文章構成期(3歳前後)
- (5) 一応の完成期(3歳～4歳)

ここではくわしいことは述べないが、幼児は1歳前後になると、大人との共有語(有意味語ともいわれている。)それも一語からなるので一語文と言われるが、そのことばを使って、事実を述べたり、願望や要求を表わすようになる。「あ! 自動車だ」「自動車に乗りたい」と言いたいと思っても、まだかれらはそのような形式で話すことができないので、ただの一語「ブー」で、それらの意味を含めて発話するのである。だから、その一語はのちに分化する主語である場合も、補語、述語である場合もある。

(注2)
それが早い幼児で1歳半ごろから、おそくも2歳前後になると単細胞が分化していくのにとえられるように頭としっぽ、おなかとしっぽというように二つに分かれていく。すなわち主語+述語、補語+述語などの二語文になっていくのである。

2歳から2歳半前後になると、それら主語、補語、述語などに修飾語がついて、その修飾語は連体修飾語の場合も連用修飾語の場合もあるが、もの・ことをより細かく、正確に表現することができるようになってくる。したがって二語文でなく、三語文、四語文と多語からなる文が使えてくる。その連用修飾語、連体修飾語の形態も、語からなるばかりでなく、一回の判断を形成する文からなって、その文が、もとの文に対して、原因、理由、時、場面などをつけ加えていくようになってくる。もとの文に従属しているという意味で従属文と名づけられたりしている。つまり単位となる文が二つ重なったり、文の中にはめこまれて一文の形式が複雑になってくるのである。

そして、3歳前後になると、これら文が文+文+文……と重なって、あるいは、接続詞によってつながり、段落を形成し、幼児の発話が構成的になってくる。かくして、文章を構成する要素の大部分が3歳前後から4歳にかけて幼児に習得され、これらを自由に応用して、会話をしたり、説明をしたりすることができるようになるのである。

それでは、その後の幼児の文の発達はどんなふうな実態を示しているだろうか。それを幼児の一応の到達点である5～6歳児を中心としてみていくことにする。ここでは文が形成していく過程からみていくのではなく、到達点を静止しているものとして、文構造の形態が、幼児においてはどんなふうな構造をしているかをみていこうとするのである。そして、年長児の使用する文

(注1) 大久保 愛『幼児言語の発達』(東京堂出版)192ページ

(注2) 補語についてはのちに述べる。一応英語の object+α としておく。

構造がきまったら、年中、年少ではどうか、年少から見ると年中、年長ではどのような文構造の発達が見られるかを調査してみようとするのである。

1.2 幼児の文構造分析のための方法

幼児の文構造をみる場合、日本語の文構造についての分析、研究があると、それに従って分析することができるが、現代語の文研究が立ちおけている上に、(最近ではチョムスキー流の文についての考えが入ってきて、主語の問題なども討論され、国語畑以外で盛んになってきている。)現代語自身もいろいろの問題をはらんでいて、一筋なわけではないところがある。これまでも、山田孝雄の文の種類の分け方(文を単文、複文に分け複文を重文、合文、有属文としている)とか、橋本進吉の連文節の考えによる文の分析とか、時枝誠記の入れ子型構造分析などの試みがなされていて参考になるが、^(注1)筆者が主として参考にしたのは、それらもちろんであるが、幼児の構文の分析に適当と思われる以下に述べる二種の文献である。

1.2-1 チョムスキーの生成文法

その一は、1957年、Noam Chomsky にはじまる生成文法(generative grammar)の考え方である。くわしい文分析については当初より Chomsky 自身の考え方も変ってきているようだ(1965年)、弟子たちによっても種々論議され、その種の論文が発表されており、立ちいったことはここ^(注2)で述べるつもりはない。しかし、ここにあげたのは、その考え方が、幼児の文構造の発達をみていく場合、非常に参考になるからである。そのためか、アメリカでは、幼児のことばの研究に生成文法の考えを使って構文の分析をしている例をよくみる。^(注3)以下に参考にした文献をあげる。

(1) Lois Bloom は“Language Development”で生成文法の言語理論が幼児の言語及び言語発達の研究者に影響を与えているのは、次の二つの面からであると述べている。

① 言語構造において深層と表層の区別を考えたこと。

② 構造を述べるために意味というものが本質的な関連をもっていること。

そして次のような例をあげている。“Mommy sock”ということばが次のような二つの場面で幼児に使われたという。① キャサリンがお母さんの靴下をもちあげて、“Mommy sock”と言った。

(注1) 講座現代語『口語文法の問題点』(明治書院)進藤正邦「文構造とその図解法」などにも、例がみられる。その他、三尾砂『国語法文章論』(三省堂)でも「文」「文の類型」等について扱っている。また、国立国語研究所報告18『話しことばの文型(1)』(1960)(以下『話型1』として引用)では飯豊毅一が「構文」について分析を試みている。

(注2) 1957年に出版した本は“Syntactic Structure”(勇康雄訳『文法の構造』研究社)で、1965年に出版したのは、“Aspects of the Theory of Syntax”(安井稔訳『文法理論の諸相』研究社)である。その間にチョムスキー自身の考え方に変更が見られる。

(注3) Paula Menyuk “Sentences Children Use”(1969), Lois Bloom “Language Development: Form and Function in Emerging Grammars”(1970), Carol Chomsky “The Acquisition of Syntax in Children from 5 to 10”(1969), とともに The M.I.T. Press. David McNeill “The Acquisition of Language: The Study of Developmental Psycholinguistics”(佐藤方哉他訳『ことばの獲得』大修館, 1972), のちに筆者が参考として引用する Menyuk “The Acquisition and Development of Language”(Prentice-Hall, 1971) などなど多い。

生成文法について概観が知りたい場合は、安井稔編『新言語学辞典』研究社, 1971)がある。

⑥お母さんがキャサリンにキャサリンの靴下を与えたとき “Mommy sock” と言った。それが表層では同じことば “Mommy sock” で発せられたというのである。つまりお母さん (mommy) は⑥の例では修飾語であり、⑥の例では、行為者であるというわけで、幼児のことばは、みかけではこのようにあいまいなので、生成文法的考え方、つまり深層に入って考えないことには解釈ができないというのである。筆者もこの本で、用例の解釈には、注釈をつけて幼児の深層を推察した。

(2)参考にしたもう一つの書物は、Paula Menyuk の “The Acquisition and Development of Language” である。その中から生成文法について述べてあるところ (17 ペ～20 ペ) を、筆者の考えも多少つけ加えながら引用する。

生成文法での統語規則は、文の機能的関係を述べ、言語の部門を決める。文法の統語部門は、^(注)基底構造規則と変形規則、形態規則からなっている。言語の底の各文は核連鎖である。基底構造規則は次のような種類の書きかえ規則によって核 (文) を生成する。

$S \longrightarrow NP + VP$ 文 (S) は名詞句 (NP) と動詞句 (VP) に書きかえられる。

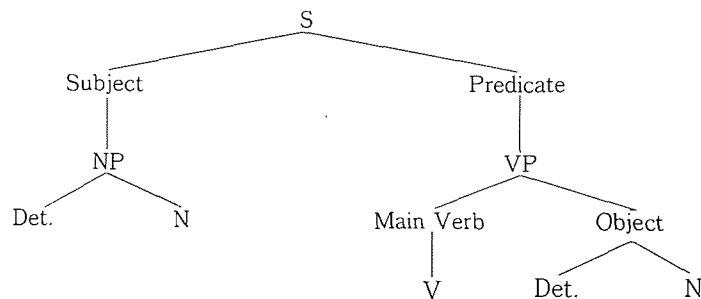
$NP \longrightarrow Det. + N$ 名詞句 (NP) は限定詞句 (Det.) と名詞 (N) に書きかえられる。

$VP \longrightarrow V + NP$ 動詞句 (VP) は動詞 (V) と名詞句 (NP) に書きかえられる。

文の主語は文の名詞句である。文の目的語 (筆者の補語のちに述べる) は動詞句の中の名詞句である。文の述語は、文の動詞句であり、主動詞は動詞句の中の動詞である。母国語話者が内蔵している言語能力は、有限な手段を用いて無限な文を生成している。そのように文法とは、無限な文が生成できるように考えていく規則の集合、しくみであり、生成文法はそういうものなのである。

そして、文を形造っている要素をかりに語と呼ぶと、これら語は同一平面上に並んでいるわけでない。互いに引き合っていて、引き合うものどうしがまとまり合うことによって一定の構造をなしている。それを句構造 (phrase structure) と呼び、枝分れ図 (tree) で示される。(図 1 参照)

図 1



(注) 三部門の一つで、syntactic component という。他に音形部門 (phonological component) と意味部門 (semantic component) とがある。

また、基底構造連鎖は変形規則で前文をつけることによって疑問文 (Q)、命令文 (Imp)、感嘆文 (Emp)、否定文 (Neg)、疑問、命令文 (Q-Imp) ができあがる。

$$\text{Pre } S \xrightarrow{Q} \text{Imp } (\text{EMP}) (\text{NEG})$$

変形規則はさまざまな文を生成するために底の連鎖を操作する規則である。核の中で削除、置きかえ、変換をおこなってさまざまな文型が生成される。

```

graph TD
    S --> PRES
    S --> NP1[NP]
    S --> AUX
    S --> VP
    PRES --> PRES_L["(NEG + /or)  
Q  
IMP  
(EMP)"]
    NP1 --> DET1[DET]
    NP1 --> N1[N]
    DET1 --> THE1[THE]
    N1 --> BOY[BOY]
    AUX --> TENSE
    TENSE --> FEATURES["FEATURES  
(SYNTACTIC +  
SEMANTIC +  
PHONOLOGICAL)"]
    TENSE --> PRESENT
    VP --> V
    V --> HITS[HITS]
    VP --> NP2[NP]
    NP2 --> DET2[DET]
    NP2 --> N2[N]
    DET2 --> THE2[THE]
    N2 --> BALL[BALL]
  
```

Figure 1 consists of two syntactic tree diagrams, S I and S II, illustrating the structure of the sentence "I know he dances and she sings what he did something".

S I: This tree has a root node S_0 . S_0 branches into S_1 and S_2 . S_1 branches into NP (HE) and VP (DANCES). S_2 branches into NP (SHE) and VP (SINGS). A bracket groups the words "AND", "OR", and "ETC." between the two main clauses.

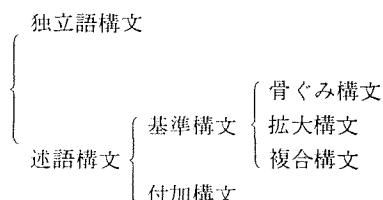
S II: This tree has a root node S_1 . S_1 branches into NP (I) and VP. The VP branches into V (KNOW) and NP ((SOMETHING)). The NP ((SOMETHING)) branches into S_2 . S_2 branches into NP (HE) and VP (DID SOMETHING). The NP (HE) branches into I (I) and NP (WHAT). The VP (DID SOMETHING) branches into VP (HE DID) and NP (SOMETHING).

図3はS IとS IIの基底構造の枝分れ図である。連鎖は結合とか埋め込みの操作を使用することによって、長い文を理論的に生成することができる。(筆者の場合は連体修飾語を「埋め込み」と見ないで、取りだして別箇に分析した)

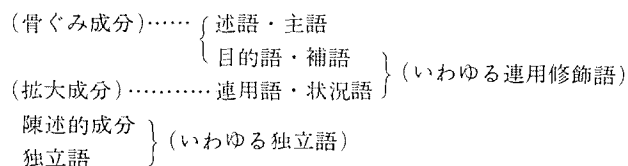
以上が、ブルームフィールドによって代表されている構造言語学に対して出てきたチョムスキーに代表される生成文法の中心的考え方の簡単な要約である。このような考え方は、幼児が文を生成していく過程としてもうなづけるところがあるので、枝分かれ図で幼児の文を分析するわけではないが、構文分析の一つの考え方として参考にした。

1.2-2 『話しことばの文型2』

これは国立国語研究所の報告書23(1963年)として出版されたもので、構文のところは、鈴木重幸・南不二男が担当している。(以後『話型2』として引用する)その中で文構造に関係したところをみていく。ここでは、構文の型を次のような種類に分類している。(98 ぺ)



そして、成分の種類は、(113 ぺ)



ついで、成分の略号を引用すると以下である (110 ぺ)。

Z …… 述語	K …… 従属句
S …… 主語 (S' と共存するばあいには部分主語)	s, m, z, …… は, S, M, Z, … とそれぞれ同格の成分
S' …… いわゆる総主	【D】 …… 独立語構文
M …… 目的語	【Z】 …… 述語構文
M _マ …… 「<体言>ヲ」の関係に立つ目的語	〔Z〕 …… 基準構文
M _ニ …… 「<体言>ニ」の関係に立つ目的語	/… Z / …… 骨ぐみ構文
H …… 補語	R /… Z / …… 連用語 (R) による拡大構文
H ₁ …… 結果的補語	J /… Z / …… 状況語 (J) による拡大構文
H ₂ …… 内容的補語	K /… Z / …… 複合構文
R …… 連用語	T [Z] …… 陳述的成分 (T) のついた付加構文
J …… 状況語	D [Z] …… 独立語 (D) のついた付加構文
T …… 陳述的成分	K [Z] …… 従属句 (K) のついた付加構文
D …… 独立語	

また、各構文型における成分の意味的特徴の概観は次表のようである。(111 ぺ)

		意 味 的 特 徴
独 構 立 語 文 【D】	D	呼びかけ・応答・評価・提示……
	T	文脈的導入，表現意図の補足……
述 語 構 文 【Z】	基準構文 (骨ぐみ成分)	
	Z	(主体などの) 動作・状態・性質・種類……
	S	(動作・状態・性質・種類……) の主体……
	M	Z のことがらの成立に参加するものごと
	H ₁	結果の状態……
	H ₂	言語活動・精神活動の内容……
	(拡大成分)	
	R	(動作の) ようす，(動作・状態・性質……) の程度，量……
	J	空間・時間・原因・理由・目的・条件 (未定・確定)……
	(従 属 句)	
【Z】	K	比較的是っきり現われている条件 (確定)
	付加構文	
	T	文脈的導入，表現意図の補足，評価，提示……
	D	呼びかけ・応答・評価・提示……
	K	条件 (確定——主観的な)，事実の提示的表現……

これら略号を使って，各文を分析すると以下ようになる。(240～250 ぺ)

構文の型	用 例
SH ₂ Z (骨ぐみ構文)	○ボクハ(S)「コリヤ マズイ」ト(H ₂) 思ッタ(Z)。
SJJZ (拡大構文)	○火ハ(S) ミンナノ 努力ニ ヨッテ(J) 午前三時ニ(J) 消 エマシタ(Z)。
SK _{ケレド} H ₁ Z (複合構文)	○コンドノ 家ハ(S) 駅カラ 遠イケレド(K _{ケレド}) 広ク(H ₁) ナッタ(Z)。
K _テ SM _ヲ Z (付加構文)	○電車ハ 事故ノ タメ トマッテ シマッテ(K _テ)，ヒトビトハ (S) タクシーヲ(M _ヲ) ヒロッタ(Z)。
TDK _ガ S _ハ Z (付加構文)	○ソレジャ(T) ミナサン(D) タイヘン タイクツナ 話デ モ ウシワケ アリマセンデシタガ(K _ガ) 文法ノ 話ハ(S) オシ マイテス(Z)。

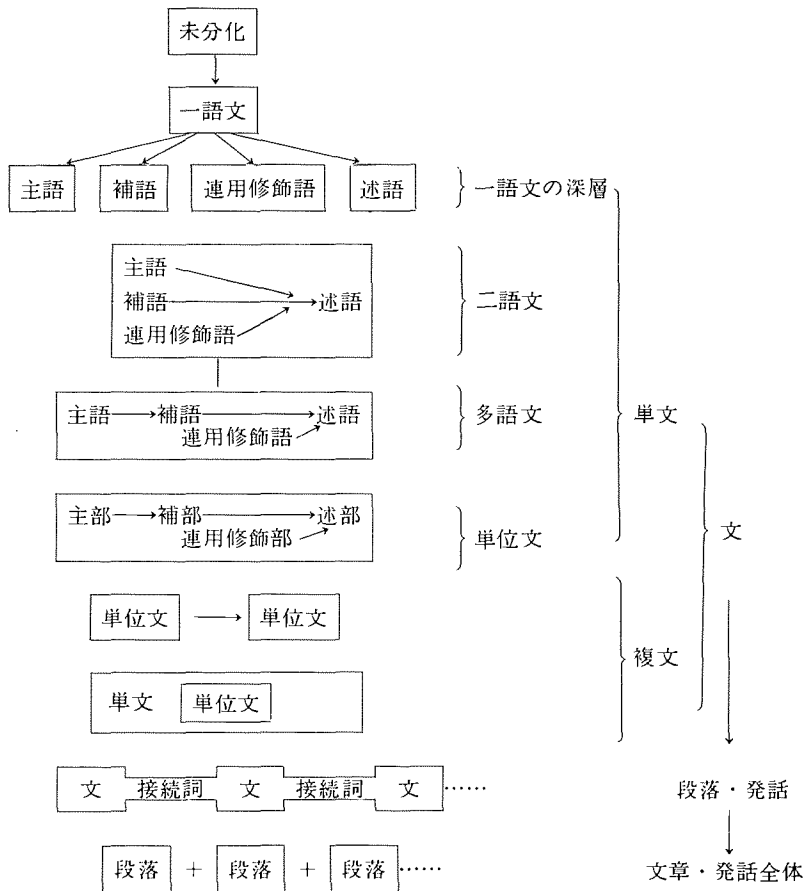
筆者が幼児の文の分析をするときの具体的操作について略号とか略号の内容について考えると
き，この本の世話になった。ただ，主語をSとして認めながらも，日本語の特色として考えられ
(注1)

(注1) 三上章『象は鼻が長い—日本文法入門』(くろしお出版)「日英文法の比較」の章で，日本語
における主語に疑義を起こした人々の意見をあげている。この本全体もそのことを扱っている。
特に「は」に焦点をあてている。

たのか、述語構文の中に入れているところは肯定できなかった。幼児の文構造形成過程として、文を生成発展的(表層 surface と深層 deep の構造 structure を考える)なものとして考えるとき、また、操作の上から(これは『話型2』の場合も扱い上はSを大きくとりあげている)も、主語のあるなしでみていくほうが納得できるとして、筆者の場合は主語を大事なものとしてとりあげた。
(注2)

1.2-3 この本の方法と略号

この本の文構造分析の操作を述べる前に、前に述べた3歳前後に成立する幼児の文の形成過程を筆者の考えで図示してみる。立体図にならないので適切にあらわせないが、このような過程で文が生成していくと今のところみているのである。すなわち、混沌とした未分化の時期から一語



(注2) 大久保忠利『日本文法の心理と論理』(国土社・58 ぺ)。文はA主述文、B非主述文に大きく分けられ、Aには、完備文(SZ文)と不完備文(省略文)があるという考え方。非主述文は「火事!」「痛い(足をふまれて)」で、不完備文は「その本だれに買ってもらったの?」という問に対して「おねえさん」という。「この本はおねえさんに買ってもらった」の省略文であるとする考え方である。

また、単位文という考え方を示している(62 ぺ)。単位文とは「主語と述語の結びつきが一回おこなわれているもの」と規定している。そして、「条件として、その主部、述部に他の「単位文」(またはその省略形)が含まれていないこと」と述べている。この単位文の考え方を借りる。

文が生成する。一語文は深層として、将来、主語とか補語、連用修飾語、述語、連体修飾語になるものである。それが補語＋述語、連用修飾語＋述語、主語＋述語、連体修飾語＋主語、連体修飾語＋補語の結合ができて、単位文なるものが幼児に次第に構成されていくのである。独立語、接続詞などが単位文について拡大文が使えるようになる。ここまでするまでが単文である。ついで、単文と単位文が連結したり、単文の中に単位文が含まれたりして(単位文が文に含まれると「節」になる)、主文と従属文(従属節)の関係ができた文を複文という。単文と複文を合わせて文という。これら文が接続詞によってつながってできるのが段落、話しことばでは発話で、段落がまとまって文章、話しことばでは発話全体ということになる。幼児はこれら構文を不十分ながら使えるのである。

次に、これから使用する記号の説明をしておく。

S＝主語(主部) (S)＝主語(主部)省略の意

Z＝述語(述部) (Z)＝述語(述部)省略の意

D＝独立語 J＝接続詞 Rt＝連体修飾語(部)

H＝補語(部) (H₁＝なにを, なにになど H₂＝だれに, だれとなど H₃＝どこに, どこでなど)

RR＝連用修飾部 (T＝時(when), Y＝原因, 理由(why)など, R＝連用修飾語)
(注)

C＝節, 主述をもつ形式(省略形も含む)で、文中に埋め込まれるもの。

Q＝「と言う」「と思う」の対象。

N＝名詞・代名詞・数詞(体言) K＝こそあど V＝動詞 A＝形容詞, 形容動詞 Ad＝副詞

補語は体言(N)＋助詞の形式を持ち、意味としては何、だれ、どこを指している。どのような助詞をとるかを表にしてみる。●が使用の多い形式である。(下表)

H 助詞	なに (What) H ₁	だれ (Who) H ₂	どこ (Where) H ₃
Nガ	○	○	○
ハ	○		
モ	○	○	
ヲ	●	○	○
ニ	○	●	●
ヘ			○
デ	○		●
ト		●	
マデ	○		○
カラ		○	○
ヨリ		○	
副助詞	○		○

ここに述べた文構造についての考え方は、現時点での筆者の考え方で、用例を分析しながらたどりついた結論である。しかし、今後、文の分析をしながら、考え方が発展的に変わっていくこともありうるものである。その時はまた別の構想のもとに同じ資料の分類をするようになるかもしれないが、今は、この考え方で幼児の文構造をみていくことにする。

上に略記号で述べた各成分について、『話しことばの文型2』(話型2)と比較しながらどのような内容のものであるかを説明する。

(注) 連用修飾語としては、いわゆる副詞、名詞(Howにあたるもの)＋助詞(に、でなど)、数詞、音まね語、感じ音まね語を含む。

述語の中には、『話型2』と同様に複合述語^(注)もはいる。複合述語については、「文末の形式と用法」でも述べるが、「している」「してやる」「～したりする」「していい」「しなきゃいけない」などを含めた。「名詞+になる」の形式は「名詞+なる」とし、「ヨーイドン+スル」などのサ変動詞のつく形式とともに、補語+述語として扱った。『話型2』では「～なる」のつく形式は目的語とは別にし、『話型2』での「補語₁」として扱っている。

独立語の部分は「うん」「はい」「そう」などの応答のことばとか、呼びかけ、感嘆の類で『話型2』にしたがっている。

『話型2』では、陳述的成分をTとし、この中には、陳述副詞の類、接続詞の類、評価的部分、提示的部分が含まれているが、ここでは陳述副詞は連用修飾語とし、接続詞はJに入れた。Jの中には、「あと」「ほかは」など、「その他」「次は」の意味をもつ場合のものも含めた。

連体修飾語(部)は『話型2』の場合は二次成分として、分析を一次成分の構成要素として扱い、とりたてて行なっていないが、この書では、主語、補語、述語などの成分の構成要素としながらもそれ自身の内部構造の分析を試みた。

いわゆる「学校(橋本)文法」で連用修飾語として扱っているものを、『話型2』ではA、Bの2類にわけ、A類として、目的語と補語、B類として連用語、状況語としている。この本では、A類を補語(部)のみとして、『話型2』の目的語と補語₁をこれに含めている。そして細かくH₁、H₂、H₃と分けた。Qは、補語₂にはばあたり「～と言う」「～と思う」などの対象になる部分である。直接話法の形式が入る。直接話法の部分の分析は行なわなかった。『話型2』の連用語と状況語は、連用修飾部で大きくくくり、その内部を時、原因・理由ほか、連用修飾語とした。

『話型2』では、主語、目的語、補語、述語からなる文を骨ぐみ成分としているが、この本では、核文とし、連用修飾語、連体修飾語を含めたものを単位文とした。

複文については『話型2』では複合構文と付加構文と命名し、二種に分けているが、ここでは、接続助詞数一つと二つ以上に分け、それをまた、単位文がいくつあるかによって下位分類した。

題目語をたてたが、それと主語とのちがい、述語の部分の主語の問題など、体系的にはまだ弱い点が多いが、今のところこの程度にして幼児の文構造をみていくことにする。

(注) 複合述語の例は、『話型2』(72ペ)にあがっている。

第2章 幼児の単文の構造と用法

2.1 幼児の文の種類

文構造の分析に入る前に、幼児はどのような種類の文を、このような問答形式の対話の場合に話すか調べてみる。調査者の問いに答えて、「ん」「うん」「そう」などと返答する応答文がある。調査者である質問者に逆に問いをなげかける疑問文がある。この形式としては、「文末の形式と用法」の章で述べるが、昇調「の」の形、「か」や「でしょ」の形などがある。（ここでは問答形式であるために疑問文は少ない。）それから命令文、これも文末形式のところで述べるが、他人のことばの引用の中にはあるが、他はほとんどない。感嘆文、これは「あ！」という叫びの用例その他にいくらか見られるがやはり少ない。会話文、これはかっこの中に入る他人の話の引用であるが、使われている。一番多いのは、ことがらや考えを述べる平叙文である。

平叙文としては、文を一度言い終え、そのあと不足の成分や、自分の考えを補足的につけ加える補足(倒置も)文がある。(付録2として幼児の使用した形式を述べる。)その他、原因や理由を述べるたとえば、両親を好きな理由として「ヤサシイカラ」というような理由文も多い。名詞＋助詞「ボクモ」「ホンヲ」などという形式の省略文もある。(理由文も省略文の一種としてよいかもしれない。)省略文としては、一語文もそうだが、連体修飾語＋名詞止「オトナノ バングミ」とか、並立の助詞で結ばれた形式「ホソイミチヤ ヒロイミチ」などがある。

その他、質問者が次の問を、まだ幼児が話し終わらないうちに発言したため、幼児の発話が中断してしまうとか、幼児が次に発言することばを忘れ、文が中断するという中断文もある。それから録音が不明瞭で、文意が聞きとれない意味不明文とか、話してはいても文脈が不整で、内容のわからない不整文もある。これらは非常に多い。

平叙文の中から中断文、意味不明文、不整文を除き、この章では単文の構造をみていくことにする。

2.2 文の認定

^(注)
どのようなものを文と認定するか、話しことばなので、分析をするわれわれが決めなければならない。カードになってしまえば、それから判断できるが、録音を文字化して句読点をつける場合には迷うものが多く困る。「問答形式」の場合は幼児が話し終えたら質問者がそれを引きとってまた別のことを聞くというので、大体見当もつくが、(それでも判断しかねるものもある)「自由の場」での会話は一語文が多く、全く判断できないときもあった。

判断の規準は、文末とするところに動詞の終止形とか終助詞があり、いくらかの間が認められたり、イントネーションもさがっており、(疑問形式はあがる。)声も消えかかっているというよ

(注)『話しことばの文型(1)』(前出)には、「文の認定について」(42～83 ぺ)という章があって、文として認めるもの、文として不完全とするものを決めている。しかし、ここではそれによらない。ともかく、幼児の話しことば全部をありのままに扱ってみることにしている。

うなことに大ざっぱにいうとなるが、それでも決めかねる場合があった。次のようである。

①「でしょ」で文が切れるかどうかの問題。

○シェナンドデショウ、アト オクサマハマジョデショウ、アト プロレスデショウ、ア、アト ケンドウシカミナイ。オトナノモンハ；(自長－b 男 6:0－21)

○クマガネー ネズミノ トコ オイカケテ ドウロマデ キテネー ネズミガ ドウロニ キ ドウロヲ ワタル アノネー ノ ドウロ サーット トオッタデショ、デ、ネー ドクマモ トオッタデショ、ソシテネー ジロウシャガ キトラ パーント アタッチャッタノ。(自中－g 女 5:0－13)

ここの「でしょ」では文は切れないようだ。この二児には、このような話しぐせがある。「と」や「て」で文をつなげててもよい文である。

②文末か接続助詞かはっきりしない例。

「から」「けど」の類。また終助詞「ね」も。

○「ボクト イッショニネ キョウソウ シナイカイ」ッテ ユッテネ ウサギハ ピョンピョン イッテルケドネ カメハ ノロノロ イッテネ マケタケドネ〔。〕 ンートネ 「ユウガタマデ カカルダロ」ッテ ユッテ シトヤスミ シテネ カメガネ ヤマノ テッペンネー〔。〕 ウント ウサギガ オキトラ ピョンピョンネ ヤマノ テッペンマデ イッタノ。(赤中－s 男 5:6－16)

かぎかっこのところで文が切れていいかどうか。次のも「けど」が文末か接続助詞かに迷うものの。

○オトウトガ マダ ジガ ヨメナイカラネ ヨンデクレルケドネ〔。〕 アタイハ モウ ジガ ヨメルノ。ダカラネ ヒトリデ ヨメルノ。(赤長－f 女 5:9－13)

○ギュウニウ ノン ノンデネ ウ ヨルニ オフロ イクカラネ〔。〕「モウ ネナサイ」ッテ ユツカラ ウ ネルノ。(自長－i 男 6:4－11)

「けど」と「から」は終助詞のように思える。次のは「ね」の例。「ウーン」という間があったりして終助詞のように思えるがどうか。

○ハジメ コウ キテネ ソレカラ コウ マガッテ、ソレカラ コッチニネ スグ ヤレバクミチャンチノ オウチダカラ スグネ〔。〕 ウーン ジュンチャンチモネ イッショニカイルカラ スーグ チカクナノ。〔道順の用例から〕(赤中－k 女 5:3－10)

2.3 幼児の単文の構造

前にあげた平叙文の中から、幼児がどのような内部構造をもっている単文を使って、自分の言わんとすることを表現しているかを概観してみる。以下のように分けて章末に用例をあげた。

2.3-1 省略構文

2.3-2 述語構文 Z, HZ, RZ, QZ, YZ, ほか

2.3-3 主述構文 SZ, SHZ, SRZ, SQZ, SYZ, ほか

2.3-4 題目語をもつ構文 $\boxed{S}\frac{SZ}{Z}$

用例の記録にあたっては、「アノネ」「エート」「ウントネ」の間投詞は省いた。これらの間投詞

がどのように発話の中に含まれているかは第一部に引用してある幼児の話しことばでみていただきたい。文であるかどうかの認定の場合、間投詞が手がかりになったりして重要な意味をもっている場合もあるが、今度の調査研究では取りあげなかった。言いなおしのためのくりかえしの部分、ただのくりかえしの部分や言いさしは～～～であらわした。また、下線のひいてある部分はここでは内部構造を分析しないでおくというしるしである。連体修飾部、複合述語、会話などが入っている。用例は多数の幼児が使用している構造については全部をあげていない。また、単純な文構造の例をあげるようにした。このような構造をどのくらい幼児が用いているかをみるために横に数字をあげておいた。数字をあげた幼児は、年長と年中は同一幼児のもの、年少は神谷、小川の園児である。●は、他の幼児から補充したもので(補助資料と呼ぶ)、数字に含まれていない。一幼児が話した文数を参考までにあげると、平均では、年長 88 文、年中 64 文、年少 106 文である。文の中での文節数の割合は、年長 4.4 文節、年中 3.6 文節、年少 2.8 文節で、あたりまえのことであるが年少が最も短い文で話しているのである。(付 1 参照)

備考には、きづいたことを述べた。また、あげた用例には、どういう幼児が使ったかもわかるようにした。特に使用数の少ない構造は、用例を全部あげたので、どういう幼児が用いているかわかる。

章末の用例から言える単文の構造について概略まとめてみると以下ようになる。

2.3-1 省略構文

体言一語からなる文(一語文)は、年長、年中、年少を問わず多いが、中でも年少児に多い。副詞一語からなる文もここに入れた。

連体修飾語+体言止の構造も年少児に多い。体言+助詞止、なかでも格助詞止の形式は年長に多く、体言が連体修飾語で修飾されている場合の格助詞止の形式は年少児にはなかった。

並立的に体言を助詞「と」「とか」「や」で並べる構文を幼児はよく使う。(前にも述べたが質問にもよるだろう。)また、「それだけ」という形式で、並立的に並べた語をまとめたりすることもできる。(ここにあげた構文を全部省略構文と見るには問題があるかもしれないが、一応そのように考えた。)

2.3-2 述語構文

これにはいろいろの構文があるが、述語だけからなる文をみると、動詞述語文が一番多く、ついで形容詞(形容動詞も含む)述語文、名詞述語文となっている。年少児には述語だけの構文が多い。短い文で話しているわけで、体言一語文、述語一語文が多いのはもっともなことである。述語文の中には述語一語から成立しているものと、その述語に連体修飾語のつく構文、述語が並立関係をもつものなどがある。年齢を問わず少ないが、年少には少ない。以下に述語の部分の体言止、活用形止の区別なしに、述語構文のさまざまな形式をみていくことにする。

独立語+述語の構文のうち、独立語の中には間投詞の類、呼びかけ、応答その他を含む。以後(注)の用例からは省いてある。

接続詞+述語の構文では、接続詞およびそれに準ずる文脈導入的部分をもつ構文である。以後、

(注) +の印であるが、こういう順序に並んでいるという意味で深い意味はない。以下同じ。

接続詞の部分は独立語と同様に用例から省く。構文として取りあげないことには問題が残るが、接続詞のついた文については第6章で分析するので、単文の構造からは省いた。

補語＋述語の構文では、補語を、 $H_1H_2H_3$ に分け、 H_1 には具体的なものや抽象的なことからのうち、「なに」(what)にあたる意味のものを入れた。 H_2 は「だれ」(who)にあたる人間、動物、テレビ漫画の主人公が含まれる。 H_3 は位置とか場所を示す「どこ」(where)をあらわしている。(この中にも具体的な場所のみでなく抽象的な場所も入れた。) H_2 はともかく、 H_1H_3 は、非常に目の荒い大ざっぱなくくりかたで問題が残る。たとえば『話型2』の「補語₁」をここに含めたこととか、(その一部は文末形式のところで多少分析するが。) 厳密に発達をみる場合はHに含まれる語彙の語彙的発達もみる必要がある。補語についての細かい研究は今後の課題にしたい。連体修飾語の内部構造については第4章に詳しいが、ここでは修飾語は被修飾語の一部とみなして下線をつけ、分析の対象にしていないが、そのようなくみあわせは取り出して数を調べた。補語1の「を」のつく構造が年齢に関係なく多い。その他、時、場所の修飾もわりにみられる。形式名詞「とき」「ところ」の修飾である。主語、述語の部分の修飾は少ない。

H_1 ＋述語の構文の中には、時枝誠記説の対象語も入っているが助詞では、「を」をもつ構造が一番多い。しかも「を」の助詞が零の形式が多い。特に年少児に多いのが特色である。連体修飾語をもつ H_1 ＋助詞「を」零の形式は前に述べたが年齢に関係なく多い。幼児の使うことばや構造の特色については章末の用例の備考のところでも述べているので参照されたい。助詞使用の省略や誤まりの例もあげておいた。話しことばなので、ただの話しあやまりという場合もあろうが、幼児にとっては、助詞をはっきりと認識して使うことがむずかしいようである。助詞が脱落しているため意味が通じなくなる場合もある。助詞が二つ重なる「でも」「にも」を「も」の助詞^(注)だけで表現しているのに気づいた。また、助詞を正しく使えないとはいっても、そこに何かがあるという自覚はあるのであろう。「オトナノ＝ ワカンナイ」とか「ウミ＝ イッタヨ」と長音にのぼしたり、間投助詞の「ね」とか「さ」をはさむ例がみられた。

H_2 ＋述語の構文では、助詞「に」「と」のつく形式が多い。「と」のつく形式は H_1 にはみられなかった。

H_3 ＋述語の構文では、助詞は、「に」と「で」のつく形式が多かった。ここにあげた「で」に「は」のついたとりたては述語の部分が体言止か助詞止になっている省略文である。ここまでに使われた補語につく助詞を表にしておく。(「名詞の格の用法」として高橋太郎が研究を開始しているので、詳細はそれにゆずる) この表を見ると、助詞「を」をつけない形式が H_1 が一番多く、ついで「に」のつかない形式が H_3 で多い。ともなくても意味が通じる助詞である。

これらHの部分が節からなる連体修飾語をもっている、つまり補語でなくそこが部(補語部)

(注) 外国語にもある。Menyuk 160 ペ 平叙文は次の矢印の順序で発達していくという。

That box→That's box→That's a box

Big boat→That big boat→That's a big boat

Rick go→Rick going→Rick is going

すなわち、おとしやすい語はbe動詞、助動詞、動詞叙法のcan, do, will, 冠詞(a), 語形変化(現在分詞のおしまいの部分)などであるようだ。

補語一つにつく助詞の種類と使用数

構文の型	年齢	年 長	年 中	年 少	構文の型	年齢	年 長	年 中	年 少
	助詞					助詞			
H ₁ Z	が	18	14	12	H ₂ Z	(を)	1	2	2
	(が)	6	4	1		に	9	13	8
	は	6	11	5		(に)	1		
	(は)	4	1	1		にも		1	
	も	8	6	13		と	7	5	5
	を	11	4	4		から			1
	(を)	86	84	88	H ₃ Z	が	2	1	4
	に	7	7	5		を		2	1
	(に)	8	4	7		(を)	1	5	5
	にも		1			に	12	7	15
	で	18	14	13		(に)	6	15	16
	でも	1	1			にも	2		3
	では	1				へ	2		3
	まで	3				で	11	9	8
	だって			1		(で)			2
	その他	8	19	11		でも	1	5	1
H ₂ Z	が	3	2	1		まで	2		2
	(が)	4	1	1		から	2	4	3
	も			1		までしか		1	
	を			2					

(かっこのものは、その助詞が脱落しているもの。)

をなしている構文も年長にはある。たとえば次のような構文である。(「連体修飾語の形式と用法」参照)

○ソイデ オクジョウデ アソンデネ、ソイデ ジュウエン イレルト シタガ ミエル ボウエンキョウ ミタノ。(自長-e 男6:1-5)

○ポパイガネ ホウレンソウ タベテネ、ヤッツケル トコガ オモシロイ。(赤長-l 女5:9-20)

Hを二つもつ構文はH₃とH₁の組んだものとH₁とH₁, H₁とH₂, H₂とH₃, H₃とH₃の組み合わせの構文が使われている。

Hを三つもつ構文もあるが意味のはっきりしないものもあつたりして少ない。

R(連用修飾語)がついて、述語文を拡大する文について述べると、いわゆる程度とか情態をあらわす副詞がつく構文が一番多い。音まね語もよく使う。ついで名詞+助詞の形式とか数詞で、陳述副詞のつく構文は、年長が年中、年少に比べるとよく使っているという程度。陳述副詞にも色々あるので、陳述副詞は、幼児にとってむずかしい表現ということは一概に言えない。Rが二つ以上つく形式は少ない。

HZの構文に連用修飾語Rのつく形式ではHRZとRHZの構文をよく使う。その他は少ないがHやRがその上加わった構文RHHZとかHRRZなどもある。

T(時)+述語の構文。これは述語文を時で限定する構文であるが、年長、年中、年少ともよく使う。特に年長が多い。HZ文をTで拡大したTHZ、HTZの構文もよく使っている。HがH₃の構文をわりに使っている。特にTを最初にもってくる構文が多い。その他RがついてTRZとなる構文、HのつくTHRZ、RTHZの構文など変った種類も使っているが使用数は少ない。

Tの部分が一語、たとえば「ヨル」「キノウ」などを使つての構文もあるが、形式名詞「とき」を連体修飾語で限定した複雑な構文もよく使う。たとえば、「ニチヨウビン トキ」から「ハジメキタ ヒニネ カワニ イッタ トキ」というふうに連体修飾語の部分が節になったり、ここでは用例がないが節の部分が複文構造の場合もありうる。

Q+述語の構文は、Qには、他人の話をそのまま引用して、述語の部分が「と言う」になる直接話法や、心の中で思っていることを述べ、述語が「と思う」の形式になる構文などを含めたがQの内部構造については取りあげなかった。

Y+述語の構文は、Yの部分が述語の理由や原因等を述べているもので、つまり、どっかにいく目的、たいへんな理由などである。YZ構文は少なかった。幼児は「ヤサシイカラ」という文を、「ママガ スキ」と述べたあとに、補足するような形式で使ったり、質問者が「どうして好きなのか」と聞いたときの返事として、このような構文を使う。これは一応一括して理由文とした。幼児の場合、複文構造でも、理由などを述べる構文が少なかったが（「複文の構造と用法」参照）、接続助詞「から」「けど」などが文末にくる理由文を使用しているからだろう。

2.3-3 主述構文

助詞「が」が主語につく動詞文を一番よく使っている。その次は強調の意をもつ「は」「も」の形式で、この構文は年少児がよく使っている。いわゆる総主文をSZ構文のあとに入れたが、問題が残ろう。用例が少ない。

主語+補語+述語の構文もよく使う。語順が補語+主語+述語となっている構文もそれについて使う。後者のように前にくる補語は、場所を示す名詞が多い。「には」の意味で文のはじめにくる構造も使っている。助詞の整っているものとそうでないものがある。

補語を二つもつ構文もあるが少なくなる。H₃とH₁をもつ構文が中ではよく使われる。

連用修飾語をつけて主述文を拡大した構文ではSRZの構文をよく使う。述語構文のところでも述べたのと同じで、程度、情態の副詞を使う構文が多い。語順がRSZになる構文は少ない。Rが二つ重なる構文はほとんど使っていない。

SHZの構文に連用修飾語のつく構文は6つのちがった語順全部を使っているが用例は多くない。Sが最初に来て、R、Hが交替した構文が、中ではよく使われている。HやRが二つにふえた構文もあるが少ない。

時で、主述構文が拡大された形式は、T(時)がSより前、文頭にあるTSZの構文をよく使う。

SHZをTで拡大した構文は、四つの語順の形式の構文を使っている。その他Hが二つあったり、Tを二つもつ構文などもあるが、数が少ない。TSHHHZという構文を年長の一児(赤長w男)が使用していた。

主述構文を時と連用修飾語で広げた形式や、主＋補＋述の構文を、時と連用修飾語で広げた構文も使っているが非常に少ない。

Qの入っている構文では主述にQの入っている構文が多い。その他RとかTの入る構文は少ないが、TSHQZの構文を年少の三男が使っていた。

SYZの構文も見られるが少ない。これについては述語構文のところで述べた。

章末の使用例をあげる順序は、主述構文ではSZ, SHZ, SRHZ, TSRHZ, TSRHYZという構文が拡大していく方法でなく、SZ, SRZ, STZ, QSZ, SYZと、まずちがった種類に分類して、その中での構文拡大という形式をとっている。

2.3-4 題目語をもつ構文

この構文は絵の説明をするとき、あるいはテレビのお話をする時に、最初に「これは」とか「～の話は」というふうにもってくる構文で、述語のところが、「～のところだ」の略された「とこ」などを文末にもっている。題目語㊦のほかにZ文の中に主語をもつ構文である。この中には題目語の略された構文と、Z文の主語の略された構文がある。年齢を問わず用いているが、使用例は少ない。大部分の幼児が、日常会話では使っていない構文のようである。

2.4 まとめ

幼児の単文の構造でいえることは、順次述べてきたことにつきだが、全体に、簡単な構文を使って用をたしている。一語文が多かったり、述語だけの述語構文が多かったり、補語のつく形式も補語一つ、連用修飾語で広げた構文も、それが一つ、時、理由などで拡大した構文もそれが一つというような実態である。使用数の多い構文の型を参考までにあげると次表のようになる。

幼児がよく使用している構文				
構文の型 \ 年齢	年 長	年 中	年 少	
一語文	322	312	428	
Z	312	220	400	
H ₁ Z	187	171	166	
SZ	148	137	209	
SHZ	89	57	65	
RZ	72	42	63	
H ₃ Z	44	50	65	
SRZ	35	19	46	
HRZ	32	20	20	
HHZ	28	16	29	
H ₂ Z	25	24	21	
TZ	31	17	15	
THZ	22	26	11	
QZ	18	9	30	

年少が年長や年中より多い構文は、一語文、述語だけからなる構文、主語述語からなる構文などで、一文節や二文節からなる単純な構文である。連体修飾語をもつ構文は少ないのである。(複文のところで述べるが、年中に多い構文は接続助詞一つからなる構造で、年長が多く使用するのは、四文や五文からなる接続助詞二つ以上からなる構造であることは興味深い)

用例をみながら気づくことだが、構文の型が複雑に発達していくとともに、助詞のまちがった使用、幼稚な語彙使用、その他、動詞の使いまちがいなどが少なくなっている。どのような例があるかは注釈をつけたり、備考欄でも述べたが、以下に拾ってみる。ここでは語彙関係のものを主としてあげる。述語の部分は「文末の形式と用法」のところであげる。

1) 語彙使用の未熟さ（ことばたらずの例なども）

○チ(ス)タイル チテンノ。(神少-古男4:5-2)

父親の仕事の説明。洋服メーカー「東京スタイル」の仕事をしているということらしい。

○ニジュウ クレルカラ。(神少-高男4:4-1)

こづかいとして20円くれるから父親が好きだの意。「から」文末の理由文でもある。

○ハナ[花]ガ チャント ウエニ ナッテンノ。(神少-寺男4:4-18)

「上に向いた」とか、「元気になった」とかとなるべきところ。

○ジドウチャワタリヲネ ヒトチュ ワタッテ イクノ。(神少-古男4:5-10)

横断歩道のこと。

○オチュカイノ トコ トオッテ イク。(神少-坂女4:0-6)

「お使いに行く場所」あるいは「お使いに行くとき通る道」の意である。ことばたらずの文である。

○シロバイニ ナリタイ。(神中-規男4:6-7)

「白バイのおまわりさん」とかいうべきところ。

○ドライブ イクノ。(小中-篠男5:1-13)

「ドライブするの」であろう。

○コノ コウイウ ハネネ。(自中-t男5:3-12)

赤い羽根と言えないで、品物を指示したり、このような表現で代用する。「こういう」という表現は多い。

○タイオンケエ ハカッタノ。(自長-d女5:11-9)

体温をはかったのか、体温計ではかったのかわからない。助詞欠如でより一層わからなくしている。

○ウサギト カメガ ヤママデ ヨーイドン シタノ。(赤長-v男6:1-11)

競走(かけっこ)のことをこのように表現している。

2) 副詞のまちがった使用

○ナルベクネ オハナシ シテ クレナイケドネ チーット オハナシ シテ クレル。(神中-遠男5:1-23)

○ダッテ ナゲテモ ナゲテモ ゼンゼン ホームラン アタッチャウンダモン。(赤長-e男5:10-7)

○アンマリモ タノシク ナカッタ。(赤長-g男5:10-4)

○チョット ミタコトハ ナイ。(赤長-h女6:6-2)

前者は「も」が不要、後者は「も」が必要なもの。

3) 反対語をまちがえる。

① ある \longleftrightarrow いる 生物は大体「いる」を使う。

○ヨウチエンニ アル トリナンカ。(神中-遠男5:1-11)

○ソコニネ オオキナ オオキナ クマガ アックノ。(赤長-u女5:11-4)

② いく \longleftrightarrow くる

○カオ アラッテネ ゴハン タベテ ホイクエンニ クルノ。(神中一松女4:8-5)

○シゴトナンカネ チュクッタラ チゴトナンカネ カエチニ イッテネ マタネ アタラ
チーネ チゴトヲネ モラッテ イクノ。(神少一古男4:5-30)

③ あげる \longleftrightarrow くれる \longleftrightarrow もらう

○ミーチャン ヒロチャンカラネ ツルノネ……オシエテ クレタカラ ダカラ テキンノ。
(小少一矢女4:0-10)

「教えてもらった」の意。

○オカアサンノ コトヲ テツダッテ クレタリネ オカアサンノ コトニネ ナンカ アゲ
タリ スル コト。(神中一松女4:8-4)

ほめられるときはどういう時かと聞いた返答。「あげる」の意。

全く、使えない場合もある。

○ママニ、カッタノ。(小中一山崎男4:11-7)

「買ってもらった」の意で言う。

幼児の単文構造の使用例

2.3-1 省略構文

* = 注: △ = 助詞なし文の意 × = 助詞の誤用の文 ● = 補助資料 ～ = 言いさし・くりかえし ～ = 省略 … = 間

年齢別 文構造	用				例		備考
	用例数	年 長 (赤羽・自由)	用例数	年 中 (赤羽・自由)	用例数	年 少 (神谷・小川)	
1 (Z) 文	322	○アトム。(自-e女5:7-14) ○ゴサイ。(自-s男5:9-1)	312	●ボールナゲ。(赤-1男4:8-5) (注) ●ヨツ。(赤-e女4:9-1)	428	○ジドウシヤ。(神-鈴男3:6-4)	一語文。 体言や副詞 からなる。
	6	○チョット。(赤-u男6:5-3) ○ドシテモ。(赤-m男5:10-1)	17	○ドシテモ。(赤-j女4:7-7) ○タマニ。(自-e女4:8-10)	14	○マダ。(小-岸男3:11-8) ○ドシテモ。(小-千女4:2-8)	
	45	○ライオンガ。(自-t男6:2-26) ○オアソビナンカ。(赤-t男6:0-6)	30	○オトウサント。(自-l男5:1-1) ○マンガダケ。(自-g女5:0-8)	14	○コッチモ。(神-高男4:4-2) ○ヨッチュマデ。(神-坂女4:0-5)	体言+助詞 止 (注)年中に は年長にあ がらず転出 した幼児の 用例が多い。
	79	○オトナノ バングミ。(自-f女5:8-8) ○スキップシタリネ アソングリ スル トコ。(自-e女5:7-10) ○カブトムシト クワガタ トッタ コトガ。(自-p男5:6-4)	92	○オッキイ ツミキ。(自-s男4:10-8) ○イジワル シナイ トキ。(自-p男4:7-3) ○ニジュウサンテ カイテ アル トコガ。(赤-t男5:1-8)	134	○ヨシコチャンテ イウ コ。(小-千女4:2-3) ○ヘビトカ カイジュウノ ユメ。 (神-寺男4:4-14)	
Rt (Z) * 下線の部分 は一成分と みなす。 以下同じ	3		4				
並立関係のもの の	76	○シズオカノネー イズミチャント ケンチャントー シズオカノ オ バチャント アタシトネー アサ ブノ ヒト。(自-h女5:7-10) ○ショウネンジュツトカネ シンド バッドノ ボウケンカネ ノッポ ノ ココッテ イウノトカ。(自 -d女5:11-22)	86	○アトムトカ テツジン。(赤-v男5:1-6) ○イストネー ソレカラネー ウチ ノ オネエサント ソレカラ ネー オトウサント オカアサン ト。(自-d女4:11-2)	75	○ケーブルカート ローブウェー。 (小-福男4:2-5) ○アブナイ ハナビトネ アブナク ナイ ハナビ。(神-秋男3:11-5)	

	○カケコトネ カンガルリレート ネ バラガサイタトネ ソレカラ ツナヒキトネ ソレダケ。(赤-d 男6:4-5)	○カケコトネ スズワリト ソ (レ)ダケ。(赤-w男5:3-3)	○パバト ママト ソレダケ。(神 -三男4:0-2)	並立関係を まとめてい う言い方も ある。
--	---	-------------------------------------	-------------------------------	--------------------------------

2.3-2 述語構文

年齢別 文構造	用 例				備 考
	用 例 数	年 長 (赤羽・自由)	用 例 数	年 中 (赤羽・自由)	用 例 数
2・1 Z 文	312	○ミル。(赤-o女6:1-15) ○ウレシイ。(自-o男6:3-12) ○ヨントウダッタ。(赤-m男5:10-5)	220	●オボエテル。(赤-i女5:3-6) ○シローイ。(自-f女4:9-12) ○ゴサイデス。(赤-c男5:3-1)	400
	13	○コマル トキモ アッタ。(自-d女5:11-17)	4	○キイタ コト アルモン。(自-k男4:8-20)	12
Rt Z	6	○イナカノ オハナシダッテヨ。(自-k男5:8-15) ○プールモ アル トコロダモン。 (自-v男5:7-5)	6	○ジドウシャノ ホンジャナイモン。 (自-s男4:10-20) ●シヨウテンガイノネ ウエナノ。 (赤-q女5:2-9)	4
*連体修飾語 の内部構造 の分析は第 4章参照 並立関係のも の	5	○テツジントネ(シユ)ーババージェッ ターノダヨ。(自-b男6:0-17)	2	●ネズミト クマサンダ。(赤-e女 4:9-14)	
*「たり」をも つ文はのち に分析す る。(第3章)	2	○オニゴツコトカ ソウイウノ。(赤 -m男5:10-7)	1	○テツボウトカ ソウイウノ。(自 -u女5:5-6)	
D Z	2	○アソングリ(スル)。(赤-h女6:4-5)			
*独立語は以	13	○ウウン、イカナイ。(自-e女5:7-9)	10	○サァーネー ワカンナイ。(赤-p女5:2-4)	15
				○イヤ、カミヤ ホイクエンダ。(神 -三男4:0-15)	

<p>後特別にとりあげない</p> <p>JZ</p> <p>*接続詞は以後特別にとりあげない(第6章参照)</p>	<p>40</p>	<p>○ソウダナ、イッチャッタダ。(赤-m男5:10-21)</p> <p>○デサー ネチャッタ。(赤-w男6:3-18)</p> <p>○ソイデ マガンノ。(自-l男6:0-14)</p>	<p>26</p>	<p>○アッ! チカクジャナイ。(自-b男5:1-7)</p> <p>○ソイデネ ワルモノジャナイヨ。(自-t男5:3-17)</p> <p>●ダカラネー キツ(イ)ノネー。(赤-l男4:8-17)</p>	<p>41</p>	<p>○ウン、ママ。(小-矢女4:0-2)</p> <p>○チガウ、アカチャンノ トキダ。(神-高男4:4-10)</p> <p>○ソシタラ タオレチャッタノ。(神-佐女3:7-12)</p> <p>○ダツチ ウレシインダモン。(神-粹男3:7-1)</p>	<p>(注)接続詞に準じるものとした。</p>
<p>2・2 H₁ Z</p> <p>H₁=もの、こと、抽象語。</p> <p>何(What)にあたる補語1。</p> <p>*格助詞の種類と、あるなしをここでは述べるが以下略す。</p>	<p>12</p>	<p>○アトハ、ワスレチャッタ。(赤-o女6:1-24)</p> <p>○ホカニハ ソラン。(自-i男6:4-9)</p>	<p>18</p>	<p>●アトネー ハナト クチ。(自-q男5:4-2)</p> <p>○ホカニ パピー ミル。(赤-w男5:3-7)</p>	<p>10</p>	<p>○アト ペンギン。(神-宮男3:8-4)</p> <p>○ホカ(ハ) ツミキ。(神-玉男4:0-3)</p>	<p>(注)いわれる対象語「カラダがオッキイ」などもこの中に含めてある。 △印は助詞なし文の例。助詞なし文には意味のわからないものもある。</p>
<p>が</p> <p>2</p> <p>15</p> <p>1</p> <p>△2</p> <p>△4</p> <p>は</p>	<p>○カンガルキョウソウガ ヤリタカッ(タ)。(赤-o女6:1-6)</p> <p>○ミズアソビガ タノシカッタ。(自-r女5:7-5)</p> <p>●マグマタイシト アト ウルトラマント ソレダケガ シュキナノ。(自-z男5:8-10)</p> <p>○ムシノ カンサツ デキルヨ。(赤-m男5:10-8)</p> <p>○ウタトカ ソウイウ モノスキ。(赤-p女6:2-9)</p> <p>○ゼンブハ オボエテマセン。(赤-s男6:6-14)</p>	<p>14</p>	<p>○オソトノ ホウガ タノシイ。(赤-m男4:10-3)</p> <p>○ジ ヨメナイノ。(自-v男4:7-8)</p> <p>○ムシ シュキ。(自-t男5:3-25)</p>	<p>12</p>	<p>○オママゴトガ オモシロカッタ。(小-矢女4:0-4)</p> <p>○ゴハン スキナノ。(小-矢女4:0-9)</p> <p>○ヨムノハネー デキナイ。(神-高男4:4-18)</p>	<p>△1</p>	<p>5</p>

			3	○ドウシテッテネー オトウチャン ハ オコン コワイノ。(自-t 男 5:3-7)			
△4	○オトナノー ワカンナイ。(自-u 女6:5-11)	△1	○コレ ミタ コト ナイネ。(赤 -t 男5:1-14)	△1	○コレ ワカンナイ。(小-原女3:7 -19)		「オトナノ 二」と、助詞
も 8	○ソレモ シラナイ。(自-b 男6:0 -19)	6	○スズワリモ シタ。(赤-c 男5:3 -3)	13	○コレモ ワカンナイ。(小-原女3: 7-21)		のつくところ ろを長音に している。
を 10	○ジドウシャヲ ツクッテルノ。 (赤-t 男6:0-2)	×1	○ナンニモ「～かも」の意] ワスレ チャッタ。(赤-m 男4:10-7)	4	○オミジュヲ アゲテンノ。(神-宮 男3:8-11)		×印は助詞 の誤用。
1	○アマガエルガ イッパイ イタ コトラ オボエテル。(赤-w 男6: 3-8)		○タマヲ ナゲルノ。(赤-c 男5:3 -3)				
△55	○オカネ タメテンノ。(自-p 男5: 6-1)	△73	○オシゴト シテンノ。(赤-x 女5: 2-2)	△82	○オウチ ツクッテンノ。(小-佐男 4:3-24)		△多し
△31	○ウサギトネ オニワノネ ウラニ ネ サイテ アルネ アノ ダリ ヤ カイタノ。(自-d 女5:11-13)	△11	○テツジンノ ゴホントカネ ビッ クエックスノ ゴホントカネ ア トムノ ゴホントカネ ソ(ウ) イウ ゴホン ヨンデ クレル。 (赤-t 男5:1-11)	△6	○ウルトラセブヤネ ウルトラマ ンヤネ ジャイアントロボヤネ ミタノ。(神-鈴男3:6-8)		
				×2	○オマツリーデ[を] ミテ クル ノ。(神-場男3:10-8)		
に 6	○ホンニ カイテ アル。(赤-c 男 6:3-18)	6	●テレビニ デンノ。(赤-b 男5:6 -13)	4	○コレタケモ[を] ミテルノ。(神 -鈴男3:6-8)		「～ニ ナ ル」の場合
1	○モトノ オハナン ナッタノ。(赤 -d 男6:4-19)	1	○ソイデネ チガウ オハナン ナッチャッタノ。(赤-v 男5:1-9)	1	○オツカイニ イッテル。(小-藤女 3:10-2)		「に」を「ん」 と発音する。
					○オオキイ サンリンシヤ(ン)ノリ タイ。(小-矢女4:10-6)		

△8	○サンボ イッタ。(自-h女5:7-6)	△4	○ロゲット ノッタノ。(自-p男4:7-6)	△7	○ジテンシャ ノリタイヨ一。(小-新男3:10-6)
にも×	●シャ〔ざ〕ンボヅモ〔にも〕 <u>チュレテッテクレタ</u> 。(自-z男5:8-4)	1	○ゾウノ オスベリニモ <u>ノッタンダヨ</u> 。(赤-f女4:10-9)	×1	○テレビヅ〔に〕 <u>デルノ</u> 。(神-新女4:2-7)
で18	○ボールデ アソブ。(赤-c男6:3-7)	14	○テレビテ キイタ <u>コトアル</u> 。(赤-m男4:10-9)	13	○オモチャデ アソンダノ。(神-玉男4:0-2)
×1	○タイオンケエ〔で〕 <u>ハカッタノ</u> 。 〔体温をか〕 (自-d女5:11-9)	×	●オスベリダイト〔で〕 <u>アソブ</u> 。(小-小林男4:3-5)	×1	○ナンカ〔でorをして〕アソブノ。 (小-新男3:10-4)
でも1	○ナンデモ <u>カッチクレル</u> 。(自-t男6:2-1)	1	○ママノ <u>ミルモンデモミル</u> 。(赤-x女5:2-7)		
×1	○エーゴモ〔でも〕 <u>カゾエラレル</u> 。 (赤-c男6:3-15)		●オニンギョウモ〔でも〕 <u>アソブノ</u> 。(小-清女4:8-4)		
では1	○ホンデハ <u>ワカルケド</u> 。(自-d女5:11-11)				
まで3	○ヒヤクマデ <u>カゾエラレル</u> 。(赤-o女6:1-13)				
だって1				1	○オウチダッテ <u>モチアゲチャウヨ</u> 。(神-高男4:4-13)
その他8	○ナンカ <u>センセイノネイウコトヤナンカ</u> <u>キクノ</u> 。(赤-h女6:4-6)	19	○ビツクエックスナンカ <u>ミテルヨ</u> 。(赤-a男4:11-7)	11	○ナニカネ <u>オヨウフクナンカツッテンノ</u> 。(神-大男3:11-1)
	○オカアサンゴッコトカ <u>ヤル</u> 。(赤-o女6:1-9)		○タイソウトカ <u>シタ</u> 。(赤-s男5:6-3)		○オウチゴッコトカ <u>シテンノ</u> 。(小-相男4:4-4)
	○オシゴトバツカシ <u>シテルノ</u> 。(赤-x女6:2-3)		○イジワル <u>オネエサンヤイジワルオカアサンノオシゴトバカリサセテイラレマシタ</u> 。(赤-p女5:2-10)		○ホンダケ <u>ヨム</u> 。(神-大男3:11-9)
	○デモ <u>タダセンソウツテイウノシカ</u> <u>オボエテナイヨ</u> 。(赤-m男5:10-16)		○ソレシカ <u>シツテナイノ</u> 。(自-r女4:18-15)		
	○キューチャンナラ <u>オボエテル</u> 。		○テツジンノッカリ <u>ヨメナイケド</u>		

「でも」使えないのか。

副助詞(修助詞)のついでにいる形式。

	(自-g 女5:11-19)			ネ。(赤-t 男5:1-11) ○ヨウチエンノ タノシイネ ホンヤ ラ アトネ ドウブツノ ホンヤ ヲ ヨンダノ。(赤-k 女5:3-10) ● アア! ソレナラネ シッテ イル。(小-海男4:3-16)			
2・3 H ₂ Z H ₂ =人間、 動物、怪獣 など。 だれ(Who) にあたる補 語。	が 3 △4 も を△1 に 4 3 △1 にも には と 7 から	○オニイチャング スキ。(自-b 男 6:0-5) ○アカチャントネ オカアサン ス キ。(自-g 女5:11-2) ○マジヨノ コドモ ウンジャッテ ンノ。(自-b 男6:0-25) ○カミサマニ オコラレタノ。(赤 -u 男6:5-13) ○フランクエンシュタイン サンノ。 (自-i 男6:4-14) ○ジドウシヤノ ウンテンシュサン ナリタイ。(自-v 男5:7-12) ○ヒョウト タタカッタノ。(赤-u 男6:5-9) ● オカアサンカラネ キイタ コト アル。(赤-f 男6:3-14)	2 △1 △2 13 1 5	○オネエサンガ スキ。(赤-r 女4: 10-1) ○ミーンナ スキ。(赤-a 男4:11 -1) ○ダレカノ ゴト(注)[だれかを]ミ ツケテンノ。(自-p 男4:7-16) ○ピアノノ センセエニ ナリタイ ノ。(赤-h 女5:4-4) ○ダレニモ オゴ[こ]ランナイ。(自 -p 男4:7-3) ● ボクタチニヤ[には] シテクレナ イ。(神-伊男4:1-11) ○ノリコト アソブノ。(赤-s 男5: 6-4)	1 △1 △2 △2 1 8	○オニイチャング スキ。(神-三男 4:0-3) ○オカアサン スキ。(神-古男4: 5-1) ○ボクモ <u>ボクモ チュレテッテ</u> <u>クレル。</u> (神-高男4:4-12) ○ネズミヲ タベヨウト シテル。 (神-坂女4:0-8) ○ダッテー ワルイモン ヤッチュ ケルンダモン。(小-金男4:1-6) ○オネエチャンニネー <u>アヤ[ら]ッ</u> <u>テ モラッタノ。</u> (神-狗女4:3-8)	~~~~~は言い さしの印。 (注)こうい う表現をよ く使う。(第 4章参照)
							「にや」はな まり。

より			②カイジュウヨリ ツヨイ。(小-藤男4:9-13)	語]		
2・4 H ₃ Z H ₃ =場所 とか場面 (Where)。	が2	○ソコガ(注)オモシロイノ。(自-g 女5:11-13)	1	○ソレカラネ オモテガ シュキ。 (自-n 男5:5-7)	4	○テンシヨウラン イナカノ (フ) クシマケンノ イナカノ ホウガ イイナ-。(神-宮男3:8-5)
	を		2	③ソイカラ ジドウシヤノ アル トコヲネ (赤-b 男5:6-6)	1	○ドウロヲ ワタツテ イクノ。(小- 矢女4:0-7)
	△1	サカミチ ノボツテ (クルノ)。(自 -h 女5:7-7)	△4	○ソラ(注)トベル。(赤-u 男5:6-4)	△5	○オチュカイノ トコ トオツテ イク。(お使用に行くとおとる 道) (神-坂女4:0-6)
	△	④ソコー ハイルノ。(赤-g 男5:10-7)	△1	○コボシテル トコネー トン ジャツタノ。(自-u 女5:5-14)		(注)ソラが とも。
	に12	○オニカイノ トコニ ネタノ。(自 -m 男6:4-5)	7	⑤ハイシヤニ イッタ。(赤-b 男5:6-3)	15	○ソウシテ ウチニ カエッタノ。 (小-新男3:10-9)
	△6	○イナカ イッタノ。(自-k 男5:8-3)	△15	○ソウシタラネ アナン ナカ ハ イレタンダヨネ。(自-j 女4:7-17)	△16	○トオイ トコ イカナカッタ。(神 -三男4:0-7)
	にも2	○ドコニモ イカナカッタ。(自-g 女5:11-2)		⑥ドウブツエンモネー(にも) イッ タノ。(神-規男4:6-30)	×1	○ヤマヲ(に) ノボツテッタノ。(神 -狗女4:3-17)
	には ×1	○ビーグミノ ウエハネ(うえには or では)ネナカッタノ。(自-d 女 5:11-8)	×		3	○コツチニモ デキテンノ。(小-竹 男4:1-10)
	へ 2	○イナカヘ イッタノ。(赤-x 女6:2-5)			×1	○ドコモ(にも) イカナイノ。(小-佐 男4:3-3)
	へも			⑦ドコヘモ イカナカッタ。(神-野 女4:6-4)	3	○ヤマヘ イツチャッタノ。(神-勝 男3:7-9)
						助詞を二つ 重ねて使う 時にはまち がいが多い。

2・5 H ₁ H ₁ Z	で11	○ウチデ ネタノ。(自-t 男6:2-23)	9	○ウミデ オヨイダ。(赤-o 女5:1-5)	8	○アメリカデ ヤツテタヨ。(神-高男4:4-8) △2 ○オクジョウ ノンノ。(屋上で馬なとに乗る) (小-加男4:1-3) ○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	△[で]が落ちると意味がよくわからなくなる。 (注)体言止の形。
	では×1	○テレビハネ マンガヤナンカ (自-g 女5:11-9)	×1	○テレビデネ ウチュウパートルホッパ。(自-t 男5:3-16) (注)	1	○ドコデモ オモチロイ。(神-古男4:5-11)	
	でも1	○オウチデモ ムシサガシ。(自-k 男5:8-5)	1	●ウチデモ ナラツタリシタノ。(赤-b 男5:6-5)	3	○トオイー トコマデ イッタノ。 (神-狗女4:3-3)	
	まで2	○イチバン ウエマデ アガッタノ。(自-v 男5:7-5)	4	○トコデモ オモシロイ。(自-r 女4:8-7) [同一人]	2	○コッカラ ハイレナク ナツチャッタノ。(小-竹男4:1-10)	(注)ベッドからの意。
	から2 その他	○フトンカラネ(注)コロガツチャッタ。(自-m 男6:4-5)	1	○ソコマデシカ ワカンナイワ。(赤-p 女5:2-14)	3		
2・5 H ₁ H ₁ Z	1	○ソイカラ テツボウデネ サカアガリ ヤルノ。(自-i 男6:4-13)	1	○ハコボクデネー エー カイタリシュル。(自-i 男5:5-5)	3	○チュミキデ ネー ナンカ ツクルノ。(小-藤女3:10-2)	～=省略 …=間 H ₁ になる語 の発達が年 長になるに したがって みられる。
	1	○ソイデ ナンカ (ハッ)ト ホンニ ハツタリ シチャッタ。(自-b 男6:0-16)	×1	○テレビネー ……デツジントカネー～オオカミシヨウネンカネーソイカラ…パピートカネー…デツジン ジャナクデネ ……ソイダケデ[を] ミル。(自-k 男4:8-9)	×1	○オショバネ デ デマエニ イクノ。[おそばのでまえにいく意か] (神-高男4:4-2)	
		●アミモノキカイデ セーターヌツタリ スンノ。(赤-o 男6:2-7)	×1	○オニンギョウデネー オカアサンゴッコデネ[をして] アソブンデス。(赤-x 女5:2-3)	5	○オハナニ ミズ カケンノ。(小-岸男3:11-7)	
					2	○グズラモ テレビデ ミテル。(神-古男4:5-18)	

H ₁ H ₂ Z	1	○タカラモノヲネーソーノネト ライタヒトタチニワケタン ダッテ。(自-u女6:5-22)	1	○クラウンデサークラウン チャンツレテキタツレテ イッテモラウコトアコト アルヨ。(神-宮男3:8-3)
H ₂ H ₁ Z	2	○オネエチャントネヌルエヤッ タノ。(自-n男6:5-6)	2	○オカアチャントオハナシ ル。(小-藤女3:10-7)
H ₁ H ₃ Z	4	○イシネカワノネトコヘネナ ゲタノ。(自-d女5:11-7)	1	○ガムネフジパンヤサンデモラ ツタノ。(神-三男4:0-5)
		○ソシテネヒコウキデネウチヘ カエッタノ。(自-s男5:9-22)	1	○オモチャデオウチデアソブ ノ。(神-佐女3:7-5)
H ₃ H ₁ Z	15	○イナカデクワガタトッテキ タ。(自-s男5:9-11)	5	○ウチデセンタクヲシテイ ル。(小-福男4:2-2)
		○ボクンチデ[家で]ニクヤ ヤッテル。(自-b男6:0-4)	1	○シタデチュミキデアシヨシ リシテタノ。(神-狗女4:3-5)
		【父親の職業のこと】	1	○オヘヤカラネオウチコワシ チャウノ。(意味不明、形式正)(小 -竹男4:1-9)
	1	○カツチャンチニアソビニイッ タノ。(自-e女5:7-10)		
	2	○マエノアサガクミデハネ レーメンノネオンガクタイノネ ニンギョウゲキミタノ。(自-d 女5:11-9)		
H ₂ H ₃ Z	1	○オトウサントタイイカカンニ イッタノ。(赤-f女5:9-5)	1	○カツノリクントネーソレカラ ボクノオカアサントネカツノ リクンノオバサントネタケノ プールイッタノ。(神-秋男3:11 -6)
	1	○ソノコヲネオウチデネカッ テヤッタノネ。(赤-s男6:6-16)		
			1	○ソイデオオカミミココロコヘー

H ₃ H ₃ Z					1	●エ(い)ナカニネ オカアサント イッタノ。(神-桑女4:10-25)	●エ(い)ナカニネ オカアサント イッタノ。(神-桑女4:10-25)	イレチャッタノ。(小-原女3:7-15)	
H ₃ H ₃ Z		●コッカラ ダンチノ ホウ ハ イッテクノ。(自-C男5:11-6)		1	○ソコカラ チキウニ ヤッテ キタンダカラネ。(赤-f女4:10-6)	○ソコカラ チキウニ ヤッテ キタンダカラネ。(赤-f女4:10-6)	○オウチデ ヨッチャント アソン ダノ。(神-場男3:10-5)		
H ₁ H ₁ H ₁ Z				1	○オカネガネ タマンナイ ヒトニ ネ コノ コウ イウ ハネネ ココニネ ツケトクノ。〔赤い羽根 のこと・はつきりしない〕(自-t 男5:3-12)	○オカネガネ タマンナイ ヒトニ ネ コノ コウ イウ ハネネ ココニネ ツケトクノ。〔赤い羽根 のこと・はつきりしない〕(自-t 男5:3-12)	○ケイオウチエンデ 〔京王線「の」 とも〕トンネルデ ウタ (ツタ)。 (小-金男4:1-4)		
H ₂ H ₁ H ₃ Z				1	○オニワデネー # フトシクント ネー ロケットゴッコデ(をして) ア(ソ)ンデタノ。(自-i 男6:4-5)	○オニワデネー # フトシクント ネー ロケットゴッコデ(をして) ア(ソ)ンデタノ。(自-i 男6:4-5)	○ジョウロデネ オミズ (ア)ッパノ (ア)ッパニネ オミズ カケテン (ハ)。(神-村女3:6-8)		H ₂ の 部分 が節。
H ₃ H ₂ H ₁ Z	×1								「で」が「を して」の意 味のここ ろ。(前出)
2・6 RZ R=運用修飾 語	45	○モット アルヨ。(自-g女5:11-21)	31	●マースグ イクノ。(赤-b男5:6-6)	○ガオガオ イッテル。(自-i 男5:5-7)	○マースグ イクノ。(赤-b男5:6-6)	○チョット ムズカシイ。(神-渡女3:10-10)		
	10	○ジブンデ オボエタノ。(赤-c男6:3-16)	4	○ジブンデ ヨムノ。(赤-j女4:7-6)	○ハンブンシカ オボエテ ナイ ワー。(赤-p女5:2-10)	○ジブンデ ヨムノ。(赤-j女4:7-6)	○ドボーンテ オトシチャッター。 (神-三男4:0-45)		音まね語。 (感じ音ま ね語)
	1	○アソビナガラ ミチャウノ。(赤					○ジブンデ イッタノ。(神-寺男4:4-8)		名詞+助詞。

RRZ	-a 男5:11-18)		4	○ジュッコシカ ヤスマナカッタヨ。(自-g 女5:11-2)	4	○ソウネ ニカイグライシカ <u>ヨンデ ナイ</u> シラ。(赤-p 女5:2-14)	9	○サンボン ヌケチャッタノ。(神-清女3:7-2)	数詞。 陳述副詞。
	12	○ヤッバリ ワスレチャッタミタイ。(赤-m 男5:10-6)	3	○タダ アソンデルダケナノ。(自-o 男5:4-2)	1	○ゼンゼン ア <u>アソ</u> アソビタクナンナイヨ。(小-佐男4:3-9)	1	○チャントネ ミンナデ ツカウノ。(神-新女4:2-3)	
	3	○ソイデ スグ バット オキチャウノ。(赤-m 男5:10-20)	●	ダンダン コンナニ <u>オッキナツ</u> キタ。(神-桑女4:10-27)	1	○チャントネ ミンナデ ツカウノ。(神-新女4:2-3)	1	○チャントネ ミンナデ ツカウノ。(神-新女4:2-3)	
	1	○マダ アンマリ ヨクネ ワカンナイ。(赤-h 女6:4-6)							
2・7 HRZ	15	○アレ ゼンブ ヨンダヨ。(自-t 男6:2-20)	13	○テツジントカナンカ <u>イッバイ</u> ミルノ。(自-r 女4:8-10)	8	○デンサネー〔でんしゃ〕 <u>フターツ</u> ノツ <u>イクノ</u> 。(神-折女4:3-5)			H ₁ の部分 が節。
		○カズハネー ヒヤクマデ カゾエラレル。(赤-w 男6:3-18)		○ジドウシヤデネー <u>ブーッテ</u> ヤッテタノ。(幼稚な表現, お父さんの仕事についての答) (自-i 男5:5-2)					
	3	○ドロンバガネー <u>オバキユウノ</u> オカアサンニ <u>バケタトコ</u> トコロガ <u>イチバン</u> オモシロカッタ。(赤-d 男6:4-14)	2	○オリガミ(ネ) <u>オリガミ</u> オルノガ <u>イチバン</u> タノシイ。(赤-t 男5:1-6)	12	○イーッバイ オモチャ モッテンノ。(神-佐女3:7-3)			
	14	○タイテイネ <u>サミシイ ユメバツカシ</u> ミル。(赤-p 女6:2-18)	×1	○ドコデモ(からでも) <u>マッスグ</u> イカレル。(自-d 女4:11-7)		○マタネー <u>プーリュ</u> 〔プーアル〕 <u>イチチャウノ</u> 。(神-場男3:10-6)			
HRHZ		○マダ ヨウチエンニ <u>モッテ</u> キデナイ。(自-u 女6:5-3)	4	○ヒトリデ オニンギョウデ <u>アソ</u> ンダノ。(赤-j 女4:7-2)					
	1	○ヨウチエンデハネ イツモネ オ	1	○ナンカ シカクイ トコデネ マ					

RHHZ	ソトデ アソンデル。(赤-f 女5: 9-11)	タネ エラ カクノ。(赤-s 男5: 6-9)	●タマニハネ <u>パバト</u> <u>イッショニ</u> <u>コウエン</u> <u>イク</u> <u>トキモ</u> <u>アル。</u> (小-押女5:1-4)	1	○ <u>アソ</u> <u>アソコノ</u> <u>コウエン</u> <u>イツモ</u> <u>ヒトリデ</u> <u>イクノ。</u> (神-三男4:0-6)	(注)一応述 語とみた。
RIRZ	1 ○タイテイネ <u>シンセキノ</u> <u>オウチトカ</u> <u>ソユ</u> <u>トコロニ</u> <u>ヨク</u> <u>イキマス。</u> (赤-p 女6:2-4)	●ソイデ <u>アンマリネ</u> <u>カオ</u> <u>ヨク</u> <u>ミレナ</u> <u>カッタ</u> <u>ンダツテ。</u> (小-大男4:6-11)	●ソイカラネ <u>マタ</u> <u>ズー</u> <u>ット</u> <u>オ</u> <u>イカケ</u> <u>ッコ</u> <u>シテルノ。</u> (小-押女5:1-19)	1	○ソシテ <u>オッキイ</u> <u>カイジュウ</u> <u>ダツテネ</u> <u>シュグネ</u> <u>ホウチヨウ</u> <u>ミタイニ</u> <u>ミタイデ</u> (ので?) <u>コウ</u> <u>ヤツテネ</u> <u>ブツテ</u> <u>キツチャウ。</u> (注)(神-高男4:4-13)	
HRRZ	●ソレモ <u>マダ</u> <u>チョット</u> <u>ワカン</u> <u>ナイ。</u> (赤-r 男6:3-6)					
RRHZ						
HRHRZ						
2・8 TZ T=時をあら わす	31 ○クジニ <u>ヤンノ。</u> (自-v 男5:7-9) ○ヤスミン <u>トキハ</u> <u>ヤツテ</u> <u>クレ</u> <u>ナイノ。</u> (赤-w 男6:3-11)	17 ○ニチヨウビニハ <u>イカナ</u> <u>カタ</u> <u>タ</u> <u>ノ。</u> (自-g 女5:0-3) ○……キョウモ <u>オンナ</u> <u>ジナノ。</u> (赤-j 女4:7-3)	15 ○キョウハ <u>ヤンナ</u> <u>カタター。</u> (小-福男4:2-11)			
TTZ	2 ○ナンカネー <u>「オフロニ</u> <u>ハイリ</u> <u>ナサイ」</u> <u>ツテ</u> <u>イウ</u> <u>トキネー</u> <u>ハイラ</u> <u>ナカッタ</u> <u>トキ</u> <u>オコラレ</u> <u>ル。</u> (T=つとも)(赤-k 女6:2-5)	1 ○センセイガ <u>「ダメヨ」</u> <u>ツチュ</u> <u>タ</u> <u>トキハネ</u> <u>ママモ</u> <u>「ダメヨ」</u> <u>チュウタ</u> <u>トキハ</u> <u>アソバ</u> <u>ナイ</u> <u>ノ。</u> (くりかえしとも)(神-三男4:0-16)				

2・9 THZ	16	○マエネ オシロ ツクツタノネ。 (赤-u 男6:5-24)	14	●コノ マエ カミシバイ シテ クレタノ。(赤-i 女5:3-6)	2	○ニチヨウビハネー テレビ ミ テタ。(小-相男4:4-6)	(注) Tの部 分が筋。 H=H ₃
	4	○ソイデネー ハナビ ヤルマデネ フォークダンス シタノ。(自-d 女5:11-9) (注)	9	○ニチヨウビハネ (ア)マツリ イッタノ。(自-n 男5:5-12)	6	○ヨルハネ ヤキユウノ ヒューマ クン ミテンノ。(神-三男4:0 -32)	
		○シェーカラネー ズーツト マエ ニネ トウキョウタワヘ イッ タノ。(自-v 男5:7-5)		○コノ マーエニネ トシマエン イッタ コトガ アルノ。(赤-f 女4:10-7)		○オヤス オヤシユミノ ヒハネー サマーランド イッタノ。(神-高 男4:4-3)	
HTZ	2	○テレビネ テレビ イマネ ス キ。(自-f 女5:8-8)	1	○ニユース キノウハ ミナイ。(赤 -s 男5:6-10)	2	○ダッテ シェンシヨウサー コド モノ トキ ミタ コト アルモ ン。(神-高男4:4-9)	H=H ₁ H ₂
		○オサムクンテ イウ コト ソノ ヒ アソンダノネ。(赤-f 女5:9 -16)	2	○ナンダッケナ ヨウチエン ケキ ノウ イカナカッタノ。(自-u 女 5:5-1)	1	○カマクラナンカネー カマクラナ ンカ ニチヨウナンカネ ネー イクノ。(神-古男4:5-4)	H=H ₃
HTHZ				●オウチデ ヨル テレビ ミタ ノ。(小-伊男4:3-3)			
				●オウチデネーエ ヨル ネンネ シテル トキネーエ デンシヤ ノル トコニネ カイジュウガ イル ユメ ミチャッタ。(小-押 女5:1-10)			
TTHZ	1	○ソイデネ ハジメ キタ ヒニネ カワニ イッタ トキネ キノボ リ シタノ。(T-一つとも)(自-g 女5:11-3)	1	○ニチヨウビン トキネ シコウキ ヤネ ショイウノ アシヤデモ ヤッテ クレルノ。(語順)(自-j 女4:7-6)			
2・10 TRZ	2	○イマネー ニジュウツテ カゾエ ラレル。(赤-f 女5:9-14)		●オヒルハネー ヒトリデ アソン デタノ。(神-閨女5:0-5)			

RTZ	●トキドキハ <u>オヒルネノ トキ</u> スル。(赤-g 男5:10-10)			1	○ソイデ <u>イツモネ キタ トキ</u> アソンデンノ。(神-三男4:0-20)
TTRZ	●アンマリネー <u>ソン トキ ヨル</u> ネ <u>アンマリ ネムレナカッタ</u> 。 〔くりかえしとも〕(白-y 男6:0 -20)				
2・11 RTHZ	1 ○トキドキネ <u>オカエリニ ゴホン</u> <u>ヨンデ クダサツタリ スル</u> 。(赤 -p 女6:2-5)				
THRZ	1 ○キョウハハネ <u>ヘイキチヨウノネ</u> <u>トツカラネ ヒトリデ キタノ</u> 。 (白-r 女5:7-10)	●ケサ <u>ヨウチエンニ イク マエネ</u> <u>ミンナネ ゴホン チョットダケ</u> <u>ミンナ〔訂正〕ヨンジヤッタノヨ</u> 。 (小-伊男4:3-13)	1	○ソンデ <u>プー(ユ)ガネ オワッタ</u> <u>トキ コウエン イ ニ〔で〕</u> <u>イッパーイ アソンデ キチャウ</u> <u>ンダカラ</u> 。(神-甥男3:10-7)	
TRHZ		●ニチヨウビハ <u>イツモ オウチデ</u> <u>アソンデ イマス</u> 。(赤-i 女5:3 -4)	1	○キノウハネー <u>マタネ タカチャ</u> <u>ンチ イッタノ</u> 。(神-折女4:3-5)	
HTRZ		●オトウサンニ <u>ハジメ イッペン</u>			

2・12 QZ Q = 直接話 法を表わ す	って16 ○「ドンブラコッコ コッチハ ア マイゾ」トツカ ユツタンダツテ。 (白-u 女6:5-17) ○「エヲ ミテ オハナシ シマ ショウ」ツテ カイデ アル。(赤 -f 女5:9-17)	4	○「ワタ タベチャッタ」ナンテ ユツテンノ。(白-g 女5:0-5) ○オバケノ キュウタロウ(ソソ)。 (赤-d 男5:4-9)	29	○「アブナイ アブナイ」ツテ イウ ノ。(小-竹男4:1-8) ○ヒダリッ(ツソ)。(神-甥男3:7-5)
	2 ○デネー 「ココデ タベヨウ」ト オモツテンノ。(赤-d 男6:4-17)		●「ドッカノ アイテル オウチン ナカ ハイッチヤッタ」ト オモ	1	○「クマガ ハシツテル トコニ ネー トビダソウ」ト オモツタ 「と思う」の つくもの。

2・13 HQZ	○ダカラ 「カワノ ムコウノ ホ ウマデ イコウ」ト オモッタノ ネ。(赤-0 女6:1-12)	4	ウ。(神-井男5:0-28) ○カワイイト オモウ。(赤-j 女4: 7-8)	ノ。(小-岸男33:11-7)	
	4 ○ネンドナンカガ イチバン オモ シロイト オモウナ。(赤-a 男5: 11-11)		●スウジミタイナ アレニネ [はっ きりしない]「ナントカ ナント カ」ッテ カクノ。(小-窪女4:8 -3)		
2・14 QRZ				1 ○ソシテネ 「オウチガ コワレチ ヤウヨウ」ッテ (ギ) ッチリ オ シャイテンノ。(小-加男4:1-9)	
RQZ	●ヤッパリ 「オイシヤサン ナリ ナサイ」ッテ ユッチャウ。(赤-h 女6:6-10)	1	○タダ カ(ネ)ダシヨウタロウッテ (ユ)。(自-n 男5:5-9)	1 ○タダ ネ タダネー 「アイザワ」 ッテ カイテ アルダケ。(小-相 男4:4-12)	
2・15 QRHZ			●「オマゴト ダイジンダ」ナン テ ヨク ミンナニ イワレチャ ウ。(小-山中女5:0-23)		
HRQZ	●ソレネ ジブンデ イイト オ モッタノ。(赤-G 男6:1-9)				
2・16 YZ	1 ○ミセテ クレーニ キタノ。(自 -t 男6:2-3)				(注)～のた めにはの意の ものもここ に入れた。
Y=理由ほか をあらわす	1 ○ダッテ オシゴトデネー タイヘ ン。(自-u 女6:5-16)				
2・17 HYZ			●アイスクリーム カイニ イク ノ。(小-徳男4:5-3) ●ナンカ タベニ イッタノ。(小 -光女5:1-3)	×1	○(ク)マクラデネ[に] ツリニ イ ッタノ。(神-古男4:5-5)

HHYZ			●チュウシヤ シニ イク。(小-押女5:1-13)		2 ○オカアチャン オカアチャント イッショニネ オウマチャン ノ リニ イッタノ。(小-藤女3:10-7) ○オチドコネ〔仕事〕 ドコダツテネ トリニ イクノ。(神-古男4:5-7)
2・18 RHYZ	1	○ソシタラ ミンナデ ムシトカ ソウイウノ ツカマエニ イク ノ。(赤-m男5:10-12)			
2・19 TYZ			●ダカラネ キョウ ゴヨウデネ イッタンダツテ。(赤-q女5:2-4) ●キノウネ オマイリニ イッタ ノ。(小-野女4:9-3)		
2・20 THYZ			●イチンチネ ショウジョフレンド ガ ハツバインタトキネ ソレ カイニ イクノ。(赤-q女5:2-18)		

2.3-3 主述構文

年齢別 文構造	用 例				備 考
	用例数	年 長 (赤羽・自由)	年 中 (赤羽・自由)	年 少 (神谷・小川)	
3・1 S#Z	4	○コンドノ カイジユウガネ ゴジ ラ。(自-s男5:9-19)	●コレガ ウサチャン。(小-徳男4: 5-10)	○コレガ オジヤン。(小-原女3: 7-11)	名詞文
	83	○シマウマガネ ハシッテンノ。(自	○ライオンガ キタノ。(赤-u男5:	○タイソウガ ハジマツチャッタ	動詞文

	- f 女5:8-9)		6-8)				ヨ。(神-場男3:10-11)	形容詞文
△6	○ジブンガ <u>ワルイノ</u> 。(自-f 女5:8-12)	△19	○ウシヤギガ <u>ハヤイノ</u> 。(自-k 男4:8-19)	△1	○ポート <u>アッタヨ</u> 。(小-福男4:2-4)			助詞欠文
1	○ママト <u>パバイル</u> 。(自-r 女5:7-1)	5	○デンキ <u>トマッチャッタノ</u> 。(自-a 男4:9-4)	13	○ジャイアントロボ <u>バンツトカネアルヨ</u> 。(小-佐男4:3-17)			副助詞のついでるもの。
12	○ガムヤラネ <u>マモルヤラデテ</u> キタ。(赤-h 女6:4-8)	9	●モンスタ-トカ <u>ロボットトカナンデモ</u> <u>デンノ</u> 。(赤-1 男4:8-5)	43	○ソイカラ <u>ゾウサンモイル</u> 。(小-矢女4:0-12)			
4	○ソイデ <u>ガイコツモニゲチャッタ</u> 。(赤-j 女5:7-11)	×1	○カプトモ <u>イタヨ</u> 。(自-s 男4:10-6)	17	○コッチハ <u>ミギ</u> 。(小-佐男4:3-13)			
18	○ターザンハ <u>クジ</u> 。(赤-u 男6:5-10)	7	○ダイオンデモ〔も〕 <u>ツイテタヨ</u> 。(自-s 男4:10-21)	22	○オバアチャンハ <u>イカナカッタノ</u> 。(神-狗女4:3-3)			(注)述語の部分が連体修飾語をもつ。
△3	○ソンデネ <u>ライオンハビックリシテルノ</u> 。(赤-t 男6:0-19)	10	●ババノ <u>オシゴトハネ</u> <u>オベンキョウ</u> 。(赤-i 女5:3-2)	△21	○コレ <u>クマ</u> 。(小-千女4:2-8)			
△13	○オカアサン <u>ナイシヨク</u> 。(自-s 男5:9-3)	△7	●オトウサンハネー <u>トッテモツヨイ</u> <u>ライオンダッタんだッ</u> 。(注)(赤-q 女5:2-11)	△13	○ボクネー <u>アソブノ</u> 。(小-新男3:10-2)			
1	○マダマタイシ <u>デテ</u> <u>コナカッタ</u> 。(赤-h 女6:4-7)	△14	○コレ <u>オハナ</u> 。(自-f 女4:9-13)	13	○ミサイルツテネ <u>マルーイモノ</u> 。(小-佐男4:3-17)			
1	○クワガタツテネ <u>ハサミミタイノ</u> 。(赤-u 男6:5-6)	1	○ソウネ <u>イチバンスキナノ</u> <u>マンガダナ</u> 。(赤-p 女5:2-6)					
2	●アトムダケ <u>コワレテナイノ</u> 。(自-x 男6:1-10)		●オカシノ <u>オウチツテ</u> <u>オカシデデキテル</u> <u>オウチ</u> 。(赤-e 女4:9-10)					
	○オカアサンナラ <u>オコンモン</u> 。(自-p 男5:6-3)	1	●コダケ <u>マウルヨ</u> 。(小-足男5:0-7)					
			○コレダケシカ <u>ナイ</u> 。(赤-a 男4:11-5)					

3・2 SHZ				●サンバンメノ オニイサンハネ アシガネ ナガク ナルノ。(神 -規男4:6-28) ●カイブツクンネ テモ アシモ ノビルノ。(小-成男4:7-10)				(注)いわけ る総主文。
3・3 SHZ	26	○ライオンガ コレ ミテンノ。(自 -f女5:8-9)	17	○ショシテ ママガ シロイノ カッタノ。(自-p男4:7-15)	24	○ヤギガ クチャ タベテル。(神 -坂女4:0-9)	H ₁ H ₂	
	25	○ライオンガネー シマウマネー サガシテタンダヨネー。(赤-o女 6:1-26)	12	○クマサンガ ネズミヲ オイカケ タノ。(自-u女5:5-14)	5	○カメ カメガ ウチャギノ コト ネ(注) オイカケテンノ。(神-村 女3:6-7)	(注)このよ うな「こと」 の使い方多 し。(前出)	
	17	○カプトムシガ キノ ウエニ イ ルンデス。(自-s男5:9-4)	17	○ライオンサンガ キノ カゲニ イタンデスツ。(赤-p女5:2-9)	17	○ライオンガネ ドウブツエンニ イルノ。(神-佐女3:7-11)	H ₃	
			1	○カメト コ(レ) ヤマニ イクマ デ(山まで?) キョウソウ シテ ンダヨー。(赤-a男4:11-9)				
HSZ	3	○ダンブカーニ クマ ヒカレ チャッタノ。(自-k男5:8-24)		●ブドウカンツテサ ブドウ タベ ルミタイ。(神-村男4:3-14)	4	○トンポー ボク ツカマエタノ。 (神-場男3:10-6)		
	1	○ダツテ カイブツダツテ ボク スキダモン。(赤-w男6:3-15)		●ネズミヲネ クマガネー オッカ ケテルノ。(神-関女5:0-18)		○テレビデ(に)ネ サリーチャンノ ネ エガ デルノ。(神-新女4:2 -7)		
	12	○ウシロニ プロペラミタイノガ アンドンネ。(自-b男6:0-6)	9	○オウチニ ソノ ゴホン アルモ ン。(赤-f女4:10-11)	12	○コン ナカニネ オオカミ ハ イッチャッタノ。(小-加男4:1-7)		
			1	○バビノ ホンネ バビ-バツカリ ツイテンノ。(自-s男4:10-22)	3	○アソコン アカバネ コウエンハ ネ コンナ フンスイガ デテ (ン)ノ。(神-三男4:0-8)		
SHHZ	6	○オトコノ コガネー オハナニ オミズ アゲテンノネー。(赤-x	7	○ボクネ ニュースデネ ウルイ コトヤネー イイ コトヤ ミ	4	○ヒロコネ トラックニネ コレデ [意味はつきりしない] ブツカッ		

	女6:2-19)		タ。(自-t 男5:3-13) ○ショウタロウハネー テツジンニ ネー ナニカネー ツヨク ナル モノネー シカケルノ。(赤-n 男 5:2-5) ○ソシタラ ウサギサン オヤマノ サー チョット テッペンデネ ヒルネ シチャッタノ。(赤-f 女 4:10-11)	ター。(神-佐女3:7-13) ○オトウサンモネ シタデ オシゴ ト シテル。(神-新女4:2-2)	
×1	○ウサギガ ト カメガネ ヤママ デ ヨウイドンデ [競走] シタ ノ。(赤-v 男6:1-11) ○オカアチャンハ オウチデネ [家 にいて] ヤクルト ハイタツ シテンノ。(自-j 女5:7-2) [複 文?]				「ヨーイ ド ン シタ」 「ヒルネ シ タ」などサ 変動詞にな るものをこ こでは二成 分とした。
1	○アレデネ フネトカナンカネ ボ ク チュクッテンノ。(自-b 男6: 0-27)	1	○クチュネ ドッカニネ イッポンノ ネ クチュネ ネジュミガネ ク ワエデ イッチャッタノ。(自-j 女4:7-15) ○オウチデネ ゴ オカアチャンネ ゴハンノ シタク シテタ。(自 -t 男5:3-2)	1 ○……オウチデネー オ オネエ チャンネー オバアチャンノ メ ガネ カケタリ シテンダヨー。 (神-狗女4:3-7)	
1	○ヤマデ ボク クワガタ トッタ ノ。(自-k 男5:8-8)	1			
1	○ガッシュクデネ ホリグチクンタ チネ ナンカネ マクラデ ナン カ シテタ。(自-l 男6:0-7)				
16	○オシゴト イッパイ アンノ。(自 -f 女5:8-3)	3	○コレ チョット オコリミタイ。 (自-r 女4:8-17)	26 ○ソイデネ ヒコウキガ イッパイ アンノ。(神-大男3:11-8)	
6	○オモチャノ プラモデルノ セン シャモネ サンコ アルノ。(自 -b 男6:0-11)	7	○ソイデー シマウマガ イットウ キタノ。(自-v 男4:7-10)	6 ○ソシデネ ココ ヒトツ アイテ ルヨ。(神-佐女3:7-18)	

3・4 SRZ

HHSZ

HSHZ

HSHZ

7	○ソウイウ コトハ アンマリ ナ イケド。(赤-t 男6:0-13)	●オカアサンモ トキドキ ヨム ケードネ。(赤-q 女5:2-20)	4	○ソイデ ボクネ ヒトリデ ネテ タ(ノ)。(神-三男4:0-3)	(注)主部を なししている。
1	○ライオンガ アキラメテ カエツ テ イッタノ。(赤-w 男6:3-28)				
	●ソノ ツギ スキナノート ソレ トー オモシロイノハ イッバイ アル。(注) (赤-a 男5:9-13)				
5	○アノネ イッバイ ミチガ アル ケドネ。(赤-u 男6:5-7)	5	○イチバン マユミチャンガネ オッキイノ。(自-e 女4:8-5)	2	○チャーットネ イナカノ オバチャ ンチャ トオク(い)イノ。(神-佐 女3:7-5)
		2	●モ(ウ)ヒトリネ ジャングルタイ テイノネ オトモダチネ イルン ダツテネ。(赤-q 女5:2-11)	4	○ネジミガネ ビョシツッテ トン ダノ。(神-高男4:4-23)
		1	○タダネ ジブンガ ヨムダケ。(自 -d 女4:11-5)	4	○ソレデネ モウ オハナシハ ナ イ。(神-高男4:4-6)
	●カレンダー イッバイ コ(ウ)イ ウフウニ カサネテ アッタ。(赤 -f 男6:3-2)				
2	○ダカラ ボク ガイシヤノ ナマ エノ ホウガ [を] ヨク シッ テル。(赤-t 男6:0-3)	●タツチャン・オエカキ [絵] ジョ ウズニ カイタ(ヨ)ネー。(小-伊 男4:3-2)	1	○ジョーハネ ナイフデ グシヤッ テ ヤツチャウ。(神-高男4:4-1 6)	
1	○ガイシヤノ ホウガネ チツチャ イ クルマヨリ タクサン アル ネ。(赤-t 男6:0-3)	●ダケドネーエ ソノ コネーエ ジャングルタイテイニ ノネ オ カアサンニ トッテモ ニテル ノ。(赤-q 女5:2-11)	1	○オカアサンハネ オミセデネ タ ダ [意味はつきりしない] ハタ ライテンノ。(小-新男3:10-2)	
1	○ソレデ ライオンガ シマウマニ トビツカカルヨウニ ニ オイカ ケマシタ。(赤-s 男6:6-18)	●ソウシタラネーエ ウサギガネ トチュウデ グウスカ ネチャッ タンダツテネ。(赤-q 女5:2-14)	1	○ソウシデネー カメガ ココヘネ コウネ タツ アルイテンノ。(小 -相男4:4-17)	

RSZ

SRRZ

3・5 SHRZ

SRHZ	4	○クマガネ マタ <u>ネズミン</u> トコ ミテンノ。(自-f 女5:8-12)	2	○レオチャン シトリデネ <u>ワルイ</u> ネー ライオンガ キタノ ヤッ ツケチャッタノ。(赤-o 女5:1-7)	2	○ダッテ ママ イツモネー <u>アイ</u> スクリームトネ ラムネトネ オ モチャ カッテ クレルモン。(小 -佐男4:3-1)
HSRZ		●ドウブツエニネ ライオンガ イッピキ イタノ。(赤-u 女5:11 -16)	2	○オカアサンハ マイニチ マイニ チ アノネー カイシャ イッテ ンノ。(自-f 女4:9-2)	×1	○オカアサン イツモネ オソウジ ヤネ(をしたり) ゴホン ヨンデ (ン)ノ。(小-佐男4:3-2)
	1	○オバケタイカイナンテ <u>ヘンナ</u> <u>オバケガ</u> タクサン イタヨー。 (赤-f 女5:9-10)	3	○ウラニハ フネガ イッパイ オ イテ アンノ。(自-t 男5:3-5)	1	○アイウエオノ ホン ミーチャン ジブンデ ヨメンノ。(小-矢女4: 0-9)
HRSZ	1	○ソレカラサー ウチニハ イッパイ モケイガ アルシサー。(赤-w 男 6:3-2)		●ココカラ チューッテ コウセン ガ (デルノ)。(小-藤男4:9-13)	2	○ウチニネ ゴ、ゴホン タクサン アル。(小-神女4:1-10)
RHSZ				●イッパイ マゴチャンノ オウチ ニ ライオン〔猫?〕イル。(小-山 崎男4:11-8)		
RSHZ				●ダイブ ママ エホン ヨンデ クレルノ。(小-窪女4:8-18)		
SRHHZ	×	●ソレデ オカアサマガネ モウネ テンゴクニ〔で〕ネ カミサマニ ナツチャッタノ。(赤-u 女5:11- 8)	1	○オバアチャンハネ イッデモネ ネコニ ゴシ〔ち〕ソウ ヤルノ。 (自-a 男4:9-3)	1	○ミーチャン ショッチュウ ショ ツチュウ シンブンデ ヒコウキ チュクンノ。(小-矢女4:0-5)
HSHRZ		●ソノ ウエカラ オトウサンガ フトン バッサッテ カブセン		●テハ モーッ トモッ アッチ カラネ アッ アッチ〔こっち〕 マデ トクヨ。(小-海男4:3 -12)		

(注)「〜た
り〜たり」
で続く構文
は整わない
構造が多い。

SHHR(R)Z	ノ。(赤-e 男5:10-2)				1	○デ アカネタインハネー ナイフ デネー ココ オナカ オナカ グシャット コウ [身ぶりで説 明] ヤッチャウ。(神-高男4:4- 16)	
SHRRZ			●ダッテ オトウサンモ オカンー ネ [お金] マイニチ スコシ ク レルモン。(神-桑女4:10-4)				
3・6 STZ	5	○ソレカラ ボク ジュウイイチジニ ネル トキ アル。(赤-t 男6:0 -14)	4	○ボクネ <u>ボクト</u> オカアチャンネ <u>ユウガタ</u> カインノ。(白-t 男5: 3-9)	1	○ライオンガ イマ キタノ。(神 -大男3:11-9)	
TSZ	13	○ハジメ ライオンガ イタノ。(赤 -h 女6:4-12)	10	○アツイ トキネ ハナガネー カ レチャッタノ。(赤-n 男5:2-11)	6	○ソレデネ カイジュウガ キタ トキ ウルトラマンガ クンノ。 (神-大男3:11-7)	
TTSZ	1	○ソイデ イチバン サイシヨニ ロビンガ ハイッテ ナイ トキ ニ(T一つとも) オモシロイト オモッタノハ オバキユウナノ。 (赤-r 女5:10-8)		●モモグミン トキ イタ, ア モ モグミン トキネ アタシノ イ タ トキネ([桃組にわたしがいた 時]の意ならT一つ) クワ(ワ)ラ センセイ ヨンデ クレタノ。(神 -大女4:6-14)			
3・7 STHZ	1	○ママト ヨウコガネ オデカケシ タ カエリ タクシーニ ノッ チャッタノネ。(赤-p 女6:2-18)	2	○ボクネ オトウチャンノネ オー トバイ トリニ イク トキネ トデンニ ノッテ イッタ コト アル。(白-t 男5:3-1)	1	○オバアチャンガネ ヤマヘ イク トキネ リック ショッテ イク ノ。(小-原女3:7-21)	(注)q 女は 用例の引用 が多い。 年中でこの 圖を止めた ので、年長 には出てこ
TSHZ	1	○コノ マエカラ キシャガ キュ ウコウニ ナッタシダッテ。(白 -s 男5:9-12)	2	●コナイダ アタシ ヨウチエン オヤスミ シタノ。(赤-q 女5:2 -5)(注)	4	○ヨルネ オジイチャンジャ ナ クッチャ オハナシ シデ クレ ナイ。(二重否定) (神-三男4:0	

HTSZ		1	○ウシヤギハネー トチュウデ ネ ムイッテ イッタ トキ カメガ ネー オヤマデネー マッテタン ダモン。〔はっきりしない〕(自-p 男4:7-17)	5	-35) ○アメ フッタヒハ カエルネ ドッカ イッチャウンダヨネ。(神 -三男4:0-12)	ない。
STHHZ	1 ○ママネ ヨルネ オソトニネ オ バアチャンニ オイダシタノ。〔遅 い出された〕(自-h 女5:7-9)	1	○ハビニ スーッ ト マエニネー アナガ アイタンダッテ。(赤-f 女4:10-5)			受身形むず かしい。
TSHHZ		1	○ハジメ オジサン オチンキノ イイヒ オジサンガネー オハナ ニ ミズヲ カケテタノ。(赤-p 女5:2-16)	1	○イマハネー イマネー トーシ チャンネ チガウネー ヨウチエ ンデネ ナンカ ネンカ ベン キヨウ シテル。(小-神女4:1-4)	
TTHSZ		×	●イツカ アタシガ チッチヤイ トキ ビヨウキニ ナッタ トキ ネ キリス ト ビヨウインデネ 〔に〕 カンゴフサン イタノ。(小 -野女4:9-11)			
TSTTHZ		1	○ソレデネー キノウネー ……オ トウサンネー カイシヤネー … …ヨルネー ボクト イッシヨニ スーパージェッター ミタンダモ ン。(自-k 男4:8-10)	1	○サッキネ ヒロコネ ヒロコネ ダレーモ イナイ トキネ セエ ユウ イッタ トキネ マイゴニ ナッチャッタノ。(神-佐女3:7-7)	
TSTHHZ						

TSHHZ	1	○アトカラ(注) <u>ボウヤタチガネー</u> <u>カワノ スグ ソバデネー</u> イシ ラネー <u>カワニ ナゲテタ</u> 。(赤- w男6:3-15)					(注)「アト」 の意、時間 的あとなの かはつきり しない。
3・8 STRZ							(注) 使うこと多 し。
TSRZ	3	○ <u>ソノ アイダニ カメガ ノソノ</u> <u>ソ アルイテ キマシタ</u> 。(赤-s 男6:6-20)		● <u>コノ オハナハネ オテンキダ</u> [の] <u>トキネ コウ(注) タオレ</u> <u>チャタノ</u> 。(神-鎌女4:5-17)	1	○ <u>ソレデネ ボク ネル トキネ</u> <u>ボク ヒトリデネ</u> <u>ネンノ</u> 。(神 -古男4:5-17)	
TRSZ		● <u>デモ ソン トキハ モウ ヨシ</u> <u>ノブチャン シンデタンダヨ</u> 。(赤 -c男5:10-22)	1	○ <u>トラックガネ ハシッテル トキ</u> <u>ネ ヒトリデニネ ココガ アイ</u> <u>チャッタノ</u> 。(自-v男4:7-11)			
3・9 STHRZ							
THRSZ	×	● <u>ソシテ オバアサンガ カワニ</u> [で] <u>オセンタク シテル トキ</u> <u>ネ カワカラ ドンブリコトネ</u> <u>モモガ ワレテ キタンダヨネ</u> 。 (自-A女6:5-29)		● <u>オバケガネー ヨルニ ナッタ</u> <u>トキネー ムコウカラ サーット</u> <u>キチャウ</u> 。(小-村男4:9-10)			
TSRHHZ	1	○ <u>サイショネー ムカシネー ワル</u> <u>イ オジイサント ヨイ オジイ</u> <u>サンガネー フ ヒトリズツネー</u> <u>クビニ オオキイ コアラ ココ</u> <u>ニ クツツケ[て]タノネ</u> 。(注) (赤-w男6:3-21)					(注)時の対 応のおかし いものがあ る。

3・10 SQZ	4	○ソイデネ カメサンガ「 <u>イット ウシヨウ</u> 」 <u>ッテ</u> イッタノ。(自-v 男5:7-15)	3	○クマガネー「 <u>カケッコヲ</u> シテ ネー <u>アソボウ</u> 」 <u>ッテ</u> ユッタノ。 (赤-r 女4:10-11)	7 1	○ウタハネー「セブン セブン」 <u>テ (アウ)</u> 。(神-秋男3:11-8) ○クマガ ネジュミヲ タベヨウト オモッタノ。(神-宮男3:8-12)
QSZ	2	○ソンデー「 <u>ドウイウ</u> ナマエニ シマスカ？」 <u>ッテ</u> オバアサン ユッタ ン ダッテ。(自-u 女6:5 -18)	1	○ソイカラ「 <u>イタイ</u> ゴメン <u>ゴ メン</u> 」 <u>テ</u> ネ オジサンガ <u>イッテ</u> ンノ。(自-t 男5:3-19)	8	○「 <u>イッタイ</u> ゼンタイ ナニ モノ <u>ダ</u> 」ト <u>オッキイ</u> ヤギガ <u>イイ</u> マチタ。(物語、数は同一人) (神 -古男4:5-26)
3・11 SHQZ	2	○ボクト「 <u>たちは</u> 」 センセイニ 「 <u>サンバ</u> カタイシヨウ」 <u>ッテ</u> イワ レタノ。(自-b 男6:0-12)				
	1	○ボクネ アンボウグヤサン <u>テ</u> <u>ホ ン</u> カオウト オモッタンダヨ ネ。(自-b 男6:0-15)				
3・12 SRQZ	1	○ソノ ヒト イツモ「 <u>テッチャン ガ</u> <u>キター</u> 」 <u>ナンテ</u> イッテンノ。 (赤-f 女5:9-9)				
SQRZ				●ダカラネーエ アタシネ <u>ジャン グル</u> タイテイノネ オカアサンカ トネ <u>イツモ</u> オモッチャウノ ネ。(赤-q 女5:2-12)		
QSRZ					1	○ソイデネー「 <u>ダメー</u> 」 <u>ッテ</u> ネー オオカミガ オコッテ ユッタ ノ。(小-神女4:1-14)

3・13 SRHQZ				●オカアサンハネ イツツモネ オ ミセデネ 「カレーライス イッ チョウ」トカ イウノ。(神-松女 4:8-3) ●クミチャン ヨク ママニ 「オ モチャダイジンダ」ナンテ イウ レルヨ。(小-山中女5:0-21) ●ボク オウサデ イツモ ウ 「ウインドウカイ ショウヨ」ツテ イウノ。(赤-b男5:6-4)			
3・14 TSQZ		1		○ハジメネ ウサギガネ「カケッコ シヨウ」ツテ イッタノ。(赤-r 女4:10-9)			
3・15 TSHQZ					1	○デ アレネ ダケドネ ボク サ イショハネ ボクネ アレネ ア ノ ヒトダト オモツチャッタ。 (神-三男4:0-25)	
3・16 SYZ		2		○オトウサン コウツウジコデ シ ンジャッタノ。(自-f女4:9-1) ●ボクガネ カイシヤン トコマデ ムカエニ イクノ。(神-遠男5:1 -24)			
SHYZ	3	○オトウサシガネー ナンカ カイ ニ イッタノネー。(赤-o女6:1 -20) ○オトウチャンネ テレビネ ナオ シニ イッチャウノ。(自-e女5: 7-3)					
SYHZ		1		○オカアシヤンハネ オ(ツ)トメデ ネ ビョウイン イッテンノ。(自 -i男5:5-2)			

SRYZ				●ママガネ モウ ムカエニ キテ クレルノ。(小-川男4:10-16)	
TSHHYZ	1	○アルヒ コドモガネ オハナニ ミズヲ カケニ キタンダッテ。 (自-h 女5:7-14)	1	○サイショハネ クサヲネ オオキ イ ヤギト チビヤギノ ガラガ ラドンガネ ヤマニネ ナンカ ハッパ タベニ イクノ。(物語) (神-三男4:0-42)	

2.3-4 題目語をもつ構文

年齢別 文構造	用例	用 例				備 考
		年 長 (赤羽・自由)	年 中 (赤羽・自由)	用例数	年 少 (神谷・小川)	
4・1 題目語 のあるもの [S] SZ Z			●コレ オハナガ タオレタ。(小 -極男4:3-12)	2	○エムゼーゴーッテネ[というお話 は] イロンナ モンガ デルン ダヨ。(小-福男4:2-9) ○キャブテンウルトラノ オハナシ ハネ ボロボロカイジユウダッテ デル。(神-高男4:4-15) ○コレネ カメガ ウチャギ ミツ ケタノ。(神-秋男3:11-14) ○ウルトラチェアブンハ[の話は] ダ ンガネ ウルトラチェアブン ナン ノ。(神-大男3:11-8)	
[S] SHZ Z	4	○コレハハネ ウサギサンガネ カメ ヲ ウタグッチャッタノネ。(赤 -t 男6:0-20) ○バピーッテネ[というお話は] ニ ンゲンガ ロボットニ ナルノ。 (自-i 男6:4-8)	2	○コレネ ウサギト カメトネ カ ケッコ シテルノ。(赤-d 男5:4 -13) ○オモシロイ トコネー マンガガ ネ シンブアンニ ツイデル ト コ。(自-t 男5:3-16) ●コレハハネ クマガ ネジュミヲ オイカケテ(イル)トコ。(自-q 男 5:4-12) ●ソイカラ コッチハネ カメノ ホウガ ジーット [はっきりしな		
[S] SRZ Z						

$\frac{\text{SHQZ}}{Z}$				い] ヨソミ シナガラ ノボッ テッタノ。(赤-b 男5:6-11)	1	○コレ オオカミネ ヒネ 「アツ イ アツイ」ッテ ヤッテンノ。 〔言ってるんのだ〕(小-矢女4:0-16)
$\frac{\text{TSZ}}{Z}$	●コレハ ハジメ ネジュミト ク マガ イタノ。(自-C 男5:11-11)					
$\frac{\text{(S) HZ}}{Z}$	1 ○コッチハ〔二匹が〕 タタカイ ス ルトコ。(はっきしらない) (自-p 男5:6-11)					
$\frac{\text{(S) HHZ}}{Z}$					1	○コレハネ 〔人が〕 トラックデネ スナヲ ハコブノ。(神-折女4:3 -14)
$\frac{\text{(S) HHHZ}}{Z}$					1	○コノ オハナシハ 〔男の子が〕 ジャワーデ オハナニ ミズ カ ケタノ。(神-鈴男3:6-12)
$\frac{\text{(S) RRZ}}{Z}$					1	○シヌッデネ コウ ヤッテ コウ ヤッテ シヌ コト。(神-場男3: 10-3)
4・2 題目語の ないもの <input type="checkbox"/> $\frac{\text{SZ}}{Z}$			1	○〔これは〕 ライオンガネ カンガ エデル トコ。(赤-s 男5:6-14)		

第3章 幼児の複文の構造と用法

幼児の複文の構造と用法をみていく場合いろいろの方法が考えられる。その方法がすぐれたものであるかどうかによって、見えるところも見えなくなる恐れがある。ここでは一応次のような方法で考えてみたが、問題が多く残っている。まず大きく三つに分ける。

- 1 一つの接続助詞によって文が成立している場合
- 2 二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合
- 3 接続助詞「たり」「し」をもつ文

1の中を1.1 主語一つからなるもの、1.2 主語二つからなるもの、1.3 題目語をもつもの、と三つに分け、それぞれを、主語のあるもの、主語のあらわれていないもの、に分けた。また、下位分類として、接続助詞によって分類し、「て」は使用が多いので特に意味分類を試みた。

2については、2.1 一つの主語からなるもの、2.2 二つの主語からなるもの、2.3 三つの主語からなるもの、2.4 四つの主語からなるもの、2.5 五つの主語からなるもの、2.6 題目語をもつ文 2.7 その他の構造からなる文、2.8 不明文と分けて概観してみた。

3は前者1,2と質がちがうように見えるが、この二つの接続助詞は並べて述べるところに用いられ、「て」の意味する内容のうちの並列の意と似ている。この構造は単文と複文の1,2の三つの文構造のいずれにもかかわるので、どこに属させるとよいか迷い、第3の分類をたててここに入れた。「たり」が文の一部にある場合は文内部のこととして、3で扱うとともに、複文1,2及び単文のところでも扱ってある。

このように分類してみた場合、幼児の複文の構造にはどのような特色がみられるか、また、年齢的にはどのような発達があるか、用例をあげながらみていくことにする。用例は章末にあげた。「単文の構造」で述べた用例のあげ方と同じである。使用数もあげておいた。

1の一つの接続助詞によって文が成立している場合と、2の二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合とを比較すると、この調査の場合、年少、年中は1の一つの接続助詞をもつ文が年長より多く、年長は、2の二つ以上の接続助詞をもつ文が年中、年少より多く、なっていた。特に年少は前者1のほうが圧倒的に多い。まだ複雑な長い文は話せないであろう。以下くわしくみていくことにする。

3.1 一つの接続助詞によって文が成立している場合

3.1-1 主語一つからなる構文 (SZZ 文)

これは『話型2』で複合構文と名づけているものに近い。単位文が複合された構文である。この中には 1-1.1 主語のあるもの 1-1.2 主語のあらわれていないもの の二種類があるが、主語をきちんと使っている構造より、主語を使わないで話す構造が年齢を問わず多い。

どのような接続助詞を使っているかでは、主語のあるなしにかかわらず次のようである。用例は章末にあげた。

原因や理由をあらわす「から」「ので」、仮定をあらわす「たら」「と」「ば」、逆接、否定をあらわす

「けど」「ても」「たって」「のに」「じゃなくて」その他、及び「て」が使用されている。このうちよく使用されているのは「て」「から」「たら」「けど」の順である。「から」は年少に少なく、「たら」のほうが多い。「けど」は年中、年少には少なく、年長がよく使っている。「て」はともに多い。「ので」「ても」は少なく、「ても」は年中に用例がなかった。「ても」を使わなければならないところを「て」ですませている誤用もみられた。「単文の構造と用法」のところでもみた。「のに」はSZZの構文の場合どの年齢にもこの調査の場合みられなかった。「のに」を使うところを「で」ですませている例が年中にみられた。

幼児は文を接続する場合「て」をよく使用する。「て」の使用数は、他の接続助詞を合わせたものと年長ではほぼ同じぐらい。年中、年少では「て」を用いるほうが多い。年長児程も使用している。つまり他の接続助詞の使用が少ないのである。「て」についてはどのような意味で使用しているかを調べてみた。「て」は、先行、理由、目的、場所、状況、状態、様子、方法・手段、並列、引用等の意味に使っている。(もっと分類できるかもしれないが、今はこの中に含めた。)

このように分けてみると、「て」の前の部分が「て」のあとの部分より時間的に先に行なわれているという意味の先行の用例が多くなっている。場所、状態、方法・手段をあらわしている用例も年齢を問わず使われている。

理由の意の「て」はここでは少ないが接続助詞「ので」がよく使えないために「て」ですませているという場合もみられる。

主語の使われていない文が非常に多いが、この場合の主語は話し手「わたしやばく」である場合がほとんどである。^(注)それに天候や時の場合もある。

その他「て」で接続されている構文に主語のくりかえしがみられた。「SZSZ」となっているのである。「SZZ」の形式とみた。年齢を問わずみられた。たとえば、次のようである。

○オバケガ デテ キテネ、オバケガ イタズラ スルノ。(赤長－a男5:11-11)

○ソノ ツギニ カメガ イチバン ウエ(へ) ノボッテ イッテ、カメノ カチナノ。(赤中－i女5:3-16)

○ママ カイシャ イッテネ、ママハネ ソイデ ベンキョウ シテンノ。(小少－長男3:5-2)

幼児の発想として、時間的順序で述べないと話がすまないという、表現するとすれば「行動型思考」とも名づけられるような思考のあらわれで、前文の述語の動詞が「来て」「行って」となって、

(注) 三上章『文法小論集』(1970・くろしお出版)の中で「省略の法則」(155ページ)として次の例がある。

- 主題何々には次の文まで勢力を及ぼすから、第2文以下が略される。
 - 前文で注意の焦点にあった名詞。
 - 条件句が主題を形成する場合。
 - 話手と相手の眼前のもの。
- などと、また、無主格文の種類をあげている。
- 時の副詞句＋デアル。
 - 時間、寒暖、距離を表わすとき。
 - ～ニナルの形は主格(時が、気温が、状態が、事態が)を欠く。
- などと。

次に、主語のくりかえしがくるといふ構文になっているのではなからうか。行動にともなつてことばが話されるのである。

3.1-2 主語二つからなる構文 (SZ/SZ 文)

この構造は『話型2』で付加構文と名づけているもので、単位文が付加され、のちの主文に対して、従属文を形成している構文である。主語のあるなしからみると、四つの文の可能性が考えられる。つまり両方の文に主語があるものとないもの、前文（以下従属文という）に主語があつて、後文（以下主文という）に主語がないものがある。年長はどの構文もよく使っているが、全体から見ると、この構文は年長より年中のほうがよく用いている。また、年齢を問わず主語のあらわれていない構文をよく用いる。

どのような接続助詞がよく使用されているかをみると、やはり「から」「たら」で、「ので」「けど」「ても」は少ない。ここでは「のに」が少ないが使用されていた。「て」の使用は「SZZ」の構文と同様、年中、年少とも多い。「て」をみると、両方の文ともに主語のあるSZ/SZの構造によく使い、両方の文ともに主語のない構造と前部分に主語のない構造に少ない。意味的にみると、従属文は理由、状況、並列が多い。誤まつた使用の例もある。

3.1-3 題目語をもつ構文

絵の説明をする場合に「この絵は」の意で、「これは」と言ったり、テレビの題をあげて、それを説明するというもので、題目語をまずあげて、ついで主語のあらわれる構造である。単文の構造のところでもみた。この中には題目語のあらわれているものと、題目語があらわれてなくて、文末が「ところ」「こと」で終わったり、「話なの」という形式で終わっているものがある。また、

題目語はあつて、主語のない構造もある。接続助詞は「から」「たら」「て」などをもつ構造があるが使用数は少ない。しかし、年齢を問わず使っている。

ここで、幼児の使用した一つの接続助詞よりなる構文の場合の助詞の種類と、年齢による使用数を表にしてあげておく。接続助詞とはいえないが、中止形を参考までに入れておいた。（別表参照）

「て」を一番よく用い、ついで「から」「たら」「と」という順である。ただし、年中では「から」と「たら」が同数、年少では「から」が少なくなっている。年少では前後の文を理由づけることをせず、「て」で状況を説明するという表現をとっているためで、前後の文を関連づけて論理的に述べることが十分にできないためのようである。しかし、二つ以上の接続助詞よりなる文の接続助詞についての分析（後出）がなされていないので、接続助詞一般がこうだとは、この表からだけでは言えない。

不整表現とか意味不明文（録音の一部聞きとりにくかつた文）について述べなかつたが、そういう構文もある。

接続助詞の種類と使用数			
	年 長	年 中	年 少
から	50	47	12
ので	4	3	2
たら	33	46	33
と	14	10	9
ば	6	2	3
けど	32	7	8
ても	3	0	3
たつて	3	2	4
のに	1	0	0
て	95	94	85
じゃなくて	2	0	0
ないで	1	4	2
中止形	4	0	0
誤用	12	5	8

（注）中止形も入れた。

る。年少45と多い。ついで年中21, 年長6である。たとえば次のようである。一例ずつあげる。

○ソイデネ ネジュミヲネ オコイダチテ クマガ オコリダッタノ。(神少-大男3:11-12)

○ソシタラネ アマリ ハヤスギテネ デンシャガ イクノ。(赤中-f女4:10-7)

○ウチデ ヨンカイデネ ミナチャンテ イウ コトネ マキチャンテ イウ コト ヨンカイダケドネ ソノ ベランダヨリ ムコウニネ スグネ アサニネ イルノ。(赤長-k女6:2-12)

3.2 二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合

これも、主語がいくつあるかによって分けてみた。

①一つの主語からなる構文 ②二つの主語からなる構文 ③三つの主語からなる構文 ④四つの主語からなる構文 ⑤五つの主語からなる構文 ⑥題目語をもつ構文 ⑦その他の構造からなる文 ⑧不明文

このように分類した幼児の用例は「一つの接続助詞によって文が成立している」用例に続いて章末に備考をつけてあげてあるが、少し解説をしておく。

3.2-1 主語一つからなる構文

これは、主語一つからなるが、接続助詞は二つ以上もつものである。前に述べた「SZZ」の構造の複雑になったもので『話型2』の複合構文に当ろう。

この中は、主語のあるもの、主語のないもの^(注)、の二種に分けた。そうすると、主語のない構造が一番多く、年長で特に多かった。

用法をみると状況を述べ説明するというのと、時間的順序でできごとを述べるというものが年齢を問わず多かった。理由、原因を述べる用法は少なく、仮定の意で使っているのも少ない。

3.2-2 主語二つからなる構文

これは、二つの接続助詞よりなる文が、主文、従属文のいずれかにある構文で、付加構文と複合構文の合体したものである。「SZ/SZZ」、「SZZ/SZ」の両方の組み合わせがある。

この構造は、年齢を問わずよく使われる。やはり主語のあらわれていない構造をよく使っている。また、主文がSZZになっている構文が、従属文(前の部分)がSZZになっている構文よりよく使っている。両方がSZZの構文は年少に一例みられたのみである。文がより複雑になるからだろう。年中は三例である。意味的な使われ方をみると、従属文が主文の理由の意より状況を説明するとか、結果の前提とかの用い方が多い。しかし、理由、仮定的用法も使っている。

3.2-3 主語三つからなる構文

三つの主語からなる構文および四つの主語、五つの主語からなる構文は、層的に単位文が重なっているのので、従属文+主文の構造が次の主文の従属文になったりというふうで、平面で示すのはむずかしいが斜線を多く引くことによって表わしてみた。(使用例参照)

(注)『話型2』の中では複合構文、付加構文については、ここで述べるような方法では分析を試みていないので、厳密には用語の概念がちがっているかもしれない。

この構造では前の部分が「～て～て」という時間的順序で絵のコマを追って述べる状況説明の文が多くなっている。原因や理由も「ので」「たら」「から」などという接続助詞を使わないで「て」で述べるという形式もみられる。用例ではかぎっこをして接続助詞を補っておいだ。誤用が多い。接続助詞の数が増すにともなって誤用も多くなっている。この構造では三つとも主語のある形式を年長はよく使っている。SZ 部分が複合構文 SZZ となる構造が年長にはみられた。第 1 の単位文の主語と第 3 の単位文の主語が同じという構文もみられた。

その他、三つの主語をもつ構文にみられる構造は次のようである。従属文が条件とか、理由になって、以下の二つの主語からなる主文が生じたという文は、年少になく、年長、年中にみられた。ついで、最初の文が状況説明で、SZZ の構文をもち、中間の文が最後の文の条件とか理由になっている構造で、これも年長、年中だけで、年少にはみられなかった。使用例も少ない。

3.2-4 主語四つからなる構文

四つの単位文ともなると、単位文の組み合わせでできる文の可能性は、主語のあるなしなども問題にすると、16 あるということになる。幼児が用いた中では、前三つの単位文が付加構文となつて、できごとの時間的順序、理由、原因の意味を表わしている場合が年齢を問わず多い。この中を分けると、最初の単位文と第 3 番目の単位文の主語が第 2 の主語と第 4 の主語と等しいという構造をよく使う。第 1 の主語と第 4 の主語が同じという構造は年少にはみられなかった。その他、前三つの文をあと一つの単位文がまとめるという構文も年長に二例ある。主語四つからなる構文では、その他、前二つの文が状況を表わし、のちが原因、結果になっている構文、前の文が理由と結果で、それがまたのちの二文の理由になっているというような構文もあり、だんだん文構造が複雑になってくる。用例も少なくなる。その他、前の文が状況説明、中間の二つの文が最後の文の条件になっているという構文。これは年長、年中に一例ずつ。前の一つの文で状況を説明し、のちの三つの単位文でできごとを述べるという構文もある。年長にみられた。

3.2-5 主語五つからなる構文

これはもっと複雑な構文で、年少は用いていない。四つの構文の形式がみられた。

主語六つからなる構文もあったが、「その他の構造からなる文」（後出）に入れた。

3.2-6 題目語をもつ構文

これは、前に出た題目語をもつ文と同様に絵を「これは」と指したり、テレビの漫画の内容を話す構造で、述語の部分が二つ以上の接続助詞によってつながっている複雑な構文である。年少に少ない。

3.2-7 その他の構造からなる文

ここは六つに分けた。そのうち、

① 文中に主語をもつ節の含まれる文

これは $SZ \frac{SZ}{Z} ZZ$ の構文となる主語一つからなる文と、 $SZ \frac{SZ}{Z} Z/SZ$ のような構文となる主語二つ以上からなる構文の二つに分けられる。年少にみられなかった。年中の用例も少ない。

② 提示的単位文をもつ文

これは、「～という」という構文を前文にもつ特殊な構文なので用例が少ない。このような言い方を覚えると、それが話しぐせとなる場合もある。

③ 一文で話そうとして「～て～て」となる文、他

～て～てとなる文は、時間的順序に並べて話すためにできる文で年齢を問わず幼児に多くみられる。しかし、年少は少ない。六つの主語あるいは七つの主語からなる文という項目をたてるとそこに入る文構造も便宜的にこの中に入れた。ここには内容が理解できるものを入れたが、長く続くため文脈がそれたり、文の意味が理解できなくなった、のちに述べる2.7の「不明文」に入る構造には、この～て～ての形式をもつ構造の文が多い。

④ 会話文のはいる文

幼児に物語をさせると表のような直接話法形式の構文がみられる。主語がいくつあるかによってこれを分類しようとするのできないわけではないが、特殊なので別にとりあげた。年少の用例は次の「物語を一文で長く話す文」の項にもはいるそうである。おもしろい構文があったのであげておく。

○キョウハ カイスイギ ツレテ イッテ ヤロウト シテ「ハーイ」ッテ ユッ「ダメダメ
キガイ ナク（シマスワ）」「（不明） シナサイ」「オイオイ カミト ハンケチハ?」「アッ
ワスレーター」「マダ マダ ゴアイサツヲ」「イッテマイリマス」「チェッ ツマンナイノ」「オ
イシイ ケーキガ ノコッタ テヲ アラッテ（ ）」「イタダキマス」「クサッテルワ」
「アー キョウハ カツヲチャント ワカメチャン オッコッチャッタノカモカ」（赤中—i
女5:3-11）

サザエさんのテレビについての話である。

⑤ 一つの物語を一文で話そうとして長文になったもの

年少は例の幼児(三男)ひとり、年中にはよい例がみられなかったので、補助資料から補った。このように長い文で話せるというのは一応発達ではあるが、文意識が幼児にないからともいえる。

⑥ 挿入文をもつ文

これには「でしょ」の挿入文をもつ文があるが年中が多く使っている。「だよ」の挿入文は年長が使っていて、年少の用例はみられない。単語や句を補足する挿入は、年齢を問わずあるが節を挿入する例は年少には見られない。挿入文全体についていえば、挿入の言い方を好む幼児がいて何回も使っている。のちに述べる補足文の構造と似て話しぐせもあるようだ。「だよ」を使用している自8女など一人で六文もこのような構文で話している。年中の「だよ」も同一児二例である。挿入が文中に入ると、挿入のあとの文が乱れ、統一のない文になりやすいようである。年少では挿入の構文は三男ひとりのにのみみられた。

3.2-8 不明文

二つ以上の接続助詞をもつ長い文には、文の内容、つまり意味するところのはっきりしない文が多いので、不明文として特に用例を分類してあげた。一括してもよいのであるが、八種に分類してみた。互いに関連があるので、明確に分けられたとはいえないが、どのような不明文があるか、いくらかでもわかってほしい。

① 内容不明——漠然と内容のわかるものもあるが、これまでに分類した用例よりはわかりにくいものがはいつている。年長は年中、年少などに比べて、単位文を接続助詞でつないで、長い文で話しているので、話している文の中味が聞き手に理解できないという現象を呈している。

② ごたごた話して統一性なし——一文の中に三つ以上のことがらをに入れて、「～て～て」でつながって話しているので、統一しない文がある。わかるようでわからないのが特色である。

③ 主語や補語がないため内容不明——幼児が話す内容を大人が前もって知らない場合にはその文が理解できないということが起こる。これまでにあげた例の中にもこのような主語、補語なしの文はあったが、大人が幼児の話す内容を知って補った場合である。

④ 構文はよいが内容のおかしい文——これは年長にはみられなかった。

⑤ 前後の文の関連性不明瞭——前文と後文との関係がなく、後文が前文とは全く別の話になっているものがある。②の統一性なしや⑥の文脈のそれとも関連がある。

⑥ 文脈のそれ——文末に近くなって、別の話になってくるもので、年齢を問わず同じくらいある。年長にはそれほど多くないということになる。

⑦ 絵に対する解釈ができていない——絵をみて話す話題があったが、その内容については幼児が絵をみて自分で理解する以外にない。その絵の理解がこちらの意図するものとひどくかけ離れている文をここに入れた。絵を逆にみて話した場合はここには入れなかった。

⑧ 録音の聞きとりにくい箇所をもつ文——録音した幼児の話しことばを文字化したものが、この調査研究の資料になっているが、幼児の声が小さかったりして、文字化できなかった箇所のある文をここに入れた。年少児に多くみられた。

3.3 接続助詞たり、しをもつ文

これは前に、ここに取りあげた理由を述べたが、単文の構造と複文の構造の両方に関係するので、分けて用例をあげないで、ここにひとまとめにして取りあげた。並べて述べる接続助詞である。くわしくは章末の用例を見ていただくことにして、「～したりしてあそぶ」という場合「して」を省略する形式とか、「～たり～たり」の一方が欠けていたりする構文がある。前者は、年中に一例のみで、年少にはなく、このような構文は年長しか用いないようである。また、大部分の幼児は「～たり～たり～たり」という構文で表現するところを、「～て～て～て」という表現ですましているようである。

「し」については、年少では文末に用いる用例のみであった。「～し～し～し～」という表現は年長ひとりのみであった。このような表現を用いないで、幼児は「～て～て」で表現するのである。

3.4 まとめ

このような分類のしかたで大人の複文を分析した研究がないので比較できないが、筆者の話し方を大人のモデルとして自省しながら幼児の構文を考察してみると、幼児の特色として次のようなことがいえるように思われる。

(1) 接続助詞の使い方の誤用がめだつ。なんでも「て」ですませる傾向がみられる。次のようである。

○ソイデ カメガ サキニ イッテネ 「ワーイワーイ」ユッテタラネ ウサギガ サマシテ チョット ウエマデ イッタラネ[けれど] カメノ カチダッタノ。(赤中－8女4:8－12)

○ハジメネ ライオンガネ 「エサハ ナイカナ」ッテ サガシテネ〔てたら〕 シマウマガ
イタカラネ カケテ イッタノ。(赤長—c 男6:3-21)

前後の関連をつけることができないで、事実を事実のままで述べるという傾向がある。つまり、「て」で状況説明的に述べて、「から」「ので」などを使って理由として述べることができないのである。もう一例。

○ジャックガ オオイソギデ ニゲテネ キニ ツカマッテ ズーット オリテ イッテ ノコ
ギリデ キッテネ〔たので〕 オオトコガ オッコッチャッタノ。(赤長—y 男5:7-11)

(2) ~て~て~てでつないでいくつものことから一つの文として述べる傾向がある。これも前に述べたが、発達であるとともに、まだ文意識の確立ができていないからである。大人にも残っている人がいる。

(3) 一つの文の中に主語をもつ節を含む複雑な文構造は、年長児のしかも特別の幼児のみが使用して、他は(S)ZZ~Z形式とか、SZ/SZZ, SZSZ/SZ文で話すか、不明文を話している。四文、五文の単位文からなる文は年少児ではほとんど使えない。年少児は一つの接続助詞よりなる文が多く、二つ以上の接続助詞よりなる文が少ないこともそのあらわれである。

(4) 幼児は話す場合に時間的順序で、しかも、行動したままを話して、端折って話すということができない。たとえば、

○タクシーノ ドアガ アイテネ デ ママガ ノッテ~ (赤長—p 女6:2-8)

○オマツリニ イッタラネ ワタアメガ アッタカラ カッテネ ソレカラ イッテネ~ (自長—c 男6:3-1)

下線の部分である。大人ならもっと簡潔に話せるところである。この種の例は多い。前にも幼児の行動型思考性について述べた。

(5) 文末のところとも関係するが、時の対応のまちがいが多い。

○ユメミタラネ モモタロシヤンガネ ボクンチノネ トー アケテ キテルヨ。〔来てたよ〕
(神中—渡男4:6-13)

○ヨウチエンノ コドモガネ 「アソビマショウ ライオンサン」ッテ ユッタラ シマウマ
ガ ワラッテタノ。〔笑ったの〕(赤長—h 女6:6-11)

(6) 次のような表現のしかたもある。家族のことを聞く質問で、「何人いるの?」という問に対する答。

○フミエチャン ヒトリトネ ソイカラネ オカアサンネ オカアサン ヒトリデネ ソイデ
ハルコチャンモ ヒトリデネ ソイカラ オバアチャンモ ヒトリデ アンチャンハ ヒト
リデネ ソイカラネ マユミチャンモ ヒトリデネ ケイチャンモ ヒトリ。(自長—e 女
5:7-1)

何人という質問者の質問にこだわったのか、かわった表現である。

六つの例をあげたが、このような側面から幼児の文の形式と用法をみていくことも可能である。今度の研究では幼児の文構造の概観を巨視的に調べることをまず第一の目的としたので、細かいところまで分析することができなかった。今後の研究課題にしたい。

複文の構造と年齢別による使用数を一覧にしておく。(別表参照)

複文の構造と年齢別使用数

		構 造	年 長	年 中	年 少
一つの接続助詞によって 文が成立している場合	主語一つから	SZZ	46	43	36
	なる構文	(S)ZZ	100	52	57
	主語二つから	SZ/SZ	32	44	28
	なる構文	Sのあらわれていないもの	76	75	42
	題目語を	題目語のあるもの	3	4	3
	もつ構文	題目語のないもの	3	2	3
二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合	主語一つから	SZ~/Z	8	6	8
	なる構文	(S)Z~/Z	33	12	7
	主語二つから	SZ/SZZ	10	5	7
		Sのあらわれていないもの	19	10	4
		SZZ/SZ	4	2	5
		Sのあらわれていないもの	6	5	1
		SZZ/SZZ	4	2	1
		Sのあらわれていないもの	5	1	
	主語三つから	SZSZ/SZ	19	6	2
		Sのあらわれていないもの	28	8	5
		SZ/SZSZ	6	6	
		Sのあらわれていないもの	1		
		SZZ/SZSZ	3	2	
		Sのあらわれていないもの	1	1	
	主語四つから	SZSZSZ/SZ	16	10	3
		SZSZ/SZSZ	3	1	
		SZ/SZSZSZ	2	1	
	主語五つから	SZSZSZ/SZSZ		1	
		SZ/SZSZSZ/SZ	1		
		SZ/SZSZ/SZSZ	3	1	
		SZSZ/SZ/SZSZ	2	1	
	題目語を	題目語のあるもの	7	4	1
	もつ構文	題目語のないもの	8	6	1
	その他の構造 からなる文	文中に主語をもつ節の含まれる文	11	1	
		提示的単位文をもつ文	1	1	1
		一文で話そうとして「～て～て」となる文, 他	14	8	3
		会話文のはいる文	3	4	
		一つの物語を一文で話そうとして 長文になったもの	5		1

	挿入文をもつ文	24	16	3
不明文	内容不明	49	27	17
	ごたごた話して統一性なし	9	1	3
	主語や補語のないため内容不明	7	1	3
	構文はよいが内容のおかしい文		4	1
	前後の文の関連性不明瞭	3		4
	文脈のそれ	7	10	7
	絵に対する解釈ができていない文	5	2	4
	録音の聞きとりにくい箇所をもつ文	9	3	14
接続助詞たり、しをもつ文	～たり～たりをもつ文	52	5	15
	～し～しをもつ文	5	6	2

幼児の複文構造の使用例

1 一つの接続助詞によって文が成立している場合

S = 主語(主部) Z = 述語(述部) () = 録音不明瞭 () = 補注

年齢別 文構造	用 例			備 考
	年 長 (赤羽・自由)	年 中 (赤羽・自由)	年 少 (神谷・小川)	
1-1 主語一つからなる構文				
1-1.1 主語のあるもの				
SZZ	○ボク モウ オウキイカラネ ソウユウ ノハ アマリ キカナイカラネ。(赤-t 男6:0-17)	○ライオンガ〔は〕 シマウマ ミツケタカ ラネ オイカケタ オイカケヨウト オ モッタノ。(赤-s 男5:6-15)	○(ミ)デネ クマガ ネズミネ キライダ カラネ ダカラネ(注) (ホ) エツケテン ノ。(小-矢女4:0-13)	原因,理由, 時をあらわ す。(順接) (注) 第6章 参照
～ので	○ウサギハ ツカレタノデ トチュウデ ネテ シマイマシタ。(赤-p 女6:2-15)		○ズーット マエ カッタ〔買〕ノデネ タ カーイノ。(小-佐男4:3-4)	原因,理由を あらわす。 (順接)
～たら	○セミ ツカマエタト シタラサ コン チュウ シチャウンダ。ボク;〔補足〕(赤 -m 男5:10-9)	●オトウサマハ イツモネ オヤクショカ ラ カエツテ キタラ ネタリ スル ヨー。(赤-b 男5:6-2)	○ボク オオキク ナッタラ フェ カッ テ モラウンダ。(小-佐男4:3-15)	仮定,時を あらわす。 (順接)
～と		○モシカ リス〔組〕ガ アカダッタラ ソ シタラ アカノ カチッテ ヤンノ。(赤 -u 男5:6-4)		仮定,時を あらわす。 (「たら」や 「ば」より 結びつきが 強い)
～ば		○ジドウシャ(ノ), シャー ジドウシャガ シャヨコッチニ コッチニ マガルト ポーニンッテ アツカッチャウノ。(自-k 男4:8-8)	○ショウガッコウ〔は〕 コノネー ヨ ヨ ウチエン カラネー カズオチヤンチノ	前おきとか, 仮定,時を

～けど [4][2][2]	○ボクネ ナツヤスミジュウニネ コンナ アツイ ホン ミンナ ヨンジャオウト オモツタケト ヨメナカッタノ。(赤-t 男6:0-14)	○セミハネ キョウノ ニチヨウビハ イ キテルケドネ コノ ツギノ ニチヨウ ビハ シンデンノ。(自-t 男5:3-27)	ホウカラネ ズーット イケバネ ア ル。[はっきししない](神-寺男4:4-5) ○(ソ)イカラ カメサンモ ノロウト シ マシタケト オッコッチャウマシタ。(小 -佐男4:3-21)	あらわす (順接) 逆接
～ても [1][1][1]	○ソシタラ カメガネ〔は〕 ノロクツテモ ウエマデ アガッチャッタノ。(赤-r 女 5:10-4)	●ソシテネー ヨンバンメノ オニイサン ハネー ヒニ モヤシテモネー モエナ イノ。(神-規男4:6-29)	逆接	
～ないで [1][2][1]	○セミ ソレカラネ ナンニモ タベナイ デ ミツカシカ イキナイノ。(自-s 男 5:9-8)	○ソレヲネ バビー ヤツツケル コト デキナイデネー オウチデネー カンガ エテタノ。チキュウ;〔補足〕(赤-f 女 4:10-6)	○オカアサンハネ ネナイデー ネ オコモ トイダリ ヨルネ オコモ トイダリナ ンカ シタノ。(神-三男4:0-3)	否定順接
～て [29][28][25]	○ソレデネー チツチャイ コガネー シ カヲ ミツケテネー シカヲ カッタノ ネー。(赤-o 女6:1-21)	○ババ イツモ カイシヤデネ ベンキョ ウトカネ ヤツツ ヨルニ カエツテ クルノ。(赤-f 女4:10-1)	○ソイデ シカガ イバイ キテ ナンカ ヤツテル。(神-寺男4:4-17)	先行
	○ダカラサ ウサギハ ツカレテ ネタン ダツテ。(自-d 女5:11-27)	○デ コビトガネ ワルモント オモツテネ ユワイチャッタノ。(赤-n 男5:2-7)	○ソレデネ ボクガネ イツカイネ ネー ウミノ ナカニネ フカイ トコニネ イッテネ オッコ チヤッタノー。(神 -古男4:5-6)	理由
	○ウマガネ ネズミヲ タベヨウト シテ ネ クマガ〔言いなおしか〕 オツカケ テ イッタタンダツテ。(自-d 女5:11-30)	○ボウヤガネ オハナニ ミズヲ ヤロウ ト オモツテネ ジョロデネ シ ユツ シュツテ カケタノ。(赤-f 女 4:10-12)	○トラックガ、/こっちからよ。/クマガ ク マガネ ネズミ(ノチ) ツカマエヨウト オモツテネ クマガネ キタノ。(神-折 女4:3-15)	目的
	○ボクナラ イナカ イッテ サンゼンエ ンモ モラツテ キタモン。(自-p 男5: 6-1)	○ウンドウカイニ デテネ ボク イッ チャクン ナッタノ。〔語順〕(赤-t 男5: 1-4)	○ババネ ショツチュウ ショツチュウネ カイシヤ イッテ オ オシゴト スル ノ。(小-矢女4:10-2)	場所

○ババ クルマ ウンテンシテテ マエ ヤツチャッタダ。(赤-o 女6:1-24)	○ソコニ マホウヅカイノ オバアサシガ キテテネ 「イカセテ アゲヨウ」ト イッテネ イッタノ。(赤-p 女5:2-12)	○オニイチャシ フジバンヤサシ イッテ テ コンドハ ズット コナインダ。(神 -三男4:0-4)	状況
○ソシタラ オハナハ マッスグニ ナッ テ ケレイニ ナリマシタ。(赤-p 女6: 2-16)	○デネ シンデレラハネ オネエサンノ タンスカラネー アノ オネエサンノ フクラネ ヒロゲテ ミテ ナキダシ チャッタデスツテ。(赤-p 女5:2-11)	○ソイデサー ジャイアントロボン トコ ノ コウイウ マルイ トコガ (ボ) ヤーンツテ ハレ ハナレミ サイル ニ ナルヨ。(小-佐男4:3-17)	状態 状況との区 別はそれほ どはつきり していない。 様子
●オクサマハ マジョハネ ママミタイナ カコウ シテテネ ソシテネエ マ ジョナノネ。(赤-L 女5:9-23)	○ソノ アイダニ カメサシガ ノシノシ ト アルイテ イッテ コノ テッペン マデ イツチャッタノ。(赤-f 女4:10 -11)	○ボウヤガ ナニカ ミズヲ クンデネ オハナラネ(に) ヤッタノ。(先行とも) (神-大男3:11-11)	方法、手段
○ソイデネ カメハネ ウサギ ネデルネ ウサギラネ(の) ソコノネ トコラネ [の] マエヲ トオツテネ オヤマヘ ツイタンダツテ。(自-d 女5:11-28)	●オニイチャシガ オカネ オカネヲ イッバイ タメテ カツテ クレタノ。 (神-桑女4:10-23)	●ウサギサシガ 「イタイ イタイ」ツテ イッテ コロン(ダノ)。(赤-q 男4:1-7)	引用 「といてて」
○オテンキノ イイ アサ ヒトリノ ボ ウヤガ「ミズヲ オハナニ カケマシヨ ウ」ト ユツテ カケマシタ。(赤-s 男 6:6-21)	○ソノ ウチネ カメサシガネ 「イット ウダー」ツテ イッテネ トコトコ ト コトコネ ノボツチャッタノ。オヤマニ; [補足] (赤-r 女4:10-10)	○ウルトラマンハネ ナンニモ ナクツテ ネ(ても) トベンノ。(神-古男4:5-14)	
○ソレカラ ネ「オコシニ ツケテンノハ ナンデスカ」ツテ イウカラネ(言って) オサルモ モラッタ(ン)。(語順)(自-o 男6:3-9)	●サクラ チツチャイデネ(のに) ソイデ サクラ 「オッキイヨー」ツテ イッテン ノ。(小-谷男4:11-9)		
○[おかあさんは] ヨウサイノ センセイ ダカラネ イロンナ オヨウフク ツ クツテ クレル。(赤-p 女6:2-2)	○[おかあさんは] ハイシヤサンノネ ハ コ ツカツ ヤツテルカ(ン)ネ ヨン [読]テ クンナイノ。(自-1男5:1-5)	○[おじいさんは] ビョウキデ ナンニモ ゴハンモ タベナイカラネ シンジャッ タノ。(神-場男3:10-2)	

～たら [8][5][9]	○〔ぼくは〕アソッコカラサ スーッテ オリヨウト シタラネ オッコクチャッ タノ。(自-1 男6:0-7)	●〔ぼくは〕オウチ カエツタラ カズ チャント マタ アソング。(自-c 男4: 7-7)	○〔ぼくは〕オーキク ナツタラ ガッコ ウニ イキタイ。(神-寺男4:4-13)
～と [2][4]	○〔ぼくは〕ナンカ ^(シユ) ルト スグ ニ ゲルノ。〔はっきりしない〕(自-b 男6:0 -13)		○〔ぼくは〕カエッテ〔み〕ナイト _____ ナイ。(神-高男4:4-19)
～ば [3][1]	○〔ぼくは〕オトナニ ナレバ _____ イヨ。(自-s 男5:9-13)		○〔わたしは〕オオキク ナツタラバネー オ ガッコウノ。〔中断?意味不明〕(小 -藤女3:10-3)
～けど [22][2][3]	○〔ぼくは〕オトナノ ニュースハ ミナ イケドネ コドモノ ニュース ミル。 (赤-t 男6:0-17)	○〔わたしは〕マダ ジブンデ ヨム ソ モリダッタ ^ン ダケド マダ ヨマナカッ タノ。(自-d 女4:11-12)	○〔ぼくは〕キョウハ ミナイケドネ ズット マエ オジイチャンニ トマツ タ トキ ヒトリデネ オジイチャンチ イナカノ オジイチャンチ トマツタ トキネ ユメ ミタ コトハ アル。(神 -三男4:0-29)
～ても	○ドウイウノカ ワカンナイケド 〔ぼく たちは〕ツナヒキデネ 「シロ カテ アカ カテ」ッテネ ヤッタノネ。(赤-m 男5:10-15)	●〔ユウセイカメンは〕ソイデ ガケカラ オッコナ ^テ モ シマ〔な〕ナイノ。(小-大 男4:6-9)	
～たって [2][1]	○〔ぼくは〕オフロ ハイナク ^タ ッテ アツインダモン。(赤-w 男6:3-2)	○〔ぼくは〕ブツ ^タ ッテネ オコラエナイ ヨ。(自-t 男5:3-8)	○コン(ド)ネー 〔わたしは〕オカネ ソ カ(ワ)ナイ ^デ ネ オモチャデ アソブ ノ。(神-佐女3:7-3)
～ないで [2][1]	○〔アトムは〕コドモジャナク ^テ ネ ロボ ット。(自-e 女5:7-15)	○〔おとうさんは〕カイシャ イカナ ^イ デ ネー キカイヲ ヤッテンノ。(自-s 男 4:10-14)	(注)一応接 続助詞とし た。
～じやなくて [2][] (注)			
～て [43][30][35]	○〔わたしは〕ハチジハンニ ネテネ シ チジニ オキル。(赤-p 女6:2-7)	○〔ぼくは〕(オ)ヨウフクトネ カバント ボウシヲネ キガエ ^テ ネー オソト イ	○〔ぼくは〕タ(ベ)デ ソーシデネー ネ ルノ。(神-柿男3:7-2)

提示

<p>クノ。(赤-n 男5:2-2)</p> <p>●〔どろんごハリー〕は〕ソシテ ドウロコ ウジヲ シテル トコロデ アソビ ソ^ンデ ドロダラケニ ナリマシタ。 (神-規男4:6-24)</p>	<p>○〔ねずみは?〕 コツカラ カ(ケ)テネ ソイデ コツカラ シ〔ひ〕カラ* レチャ ツタノ。〔意味はつきりしない〕(小-竹男 4:1-8)</p>	理由 *ラ不用
<p>○〔わたしは〕 ノロウト シテ テヲ ア ゲタノ。(赤-p 女6:2-18)</p> <p>○〔ぼくは〕 ヨウチエン イッテ テツボ ウ ヤツテタ。(自-o 男6:3-4)</p> <p>○デネー〔二匹は?〕ドウロニ デヨウト シテ^テネー ジドウシヤニ ハネラレ チャツタノ。トラック;〔補足〕(赤-d 男 6:4-19)</p> <p>○〔チャコちゃん〕は〕モ モトコミタイネ アタマ シテ^テネ ココニ チョ^ンコ ウ ヤツテ アラサガツテル チョ^ンマ ゲ イッテルノ。(自-d 女5:11-16)</p>	<p>○〔わたしは〕 オウチ モツテ イッテ チュケルノ。(自-f 女4:9-8)</p> <p>○〔ぼくは〕 ババニ オンブシテ〔されて〕 カエリ ネムツチャツタノ。〔状況 or 理 由?〕(自-s 男4:10-1)</p> <p>●ソイデ 〔ももたろうは〕 オオキク ナ ツテネ ハタラクヨウニ ナツタノ。 (赤-1 男4:8-8)</p>	状態
<p>○〔わたしは〕 オヤマ ツクツタリ シテ アソングノ。(赤-f 女5:9-6)</p> <p>○〔わたしは〕 オエカキヲネー ヤッ デネー ネンドモ ヤル。(赤-x 女6:2 -9)</p> <p>●〔わたしは〕 ソレデ「ソダテマショ ウ」ツテ <u>ユツテ</u> ソダテタノネ。(赤-E 女5:8-19)</p>	<p>○ソ^ンデ ソンデ 〔ねずみは〕「ポーン」 ト トンデ トラックン トコニ キタ ノ。(神-場男3:10-16)</p> <p>○ソレデネ 〔ぼくは〕 カンガエ^テネ ミチュケンノ。(神-古男4:5-19)</p>	様子 方法、手段
	<p>●〔わたしは〕 ソイデ マンガ フタ ツ ヤツ^テ ウタモ フターツ ヤン ノ。(神-増女4:11-11)</p> <p>○ソイデネー 〔わたしは〕「チョコレ ート カ(ッ)テ タベヨウ」ト <u>イッタル</u> <u>ユツ ユツデネー</u> チョコレートヤ(シャ) ンニ イッタノ。(自-j 女4:7-4)</p>	並列 引用

誤用

11

1-2 主語二つからなる構文

1-2.1 SZ/SZ

○デモサー ボクガ サキニ ネムッ
チャッテカラ オカアサンガ ハイッテ
クル。(赤-w男6:3-2)

392

～ので

～たら

696

～と

533

～ば

11

～けど

111

～のに

11

○(ぼくは) キノウネ イツデモネ オヤ
スミ シテタラネ (してたときは?)
ケンチャンチ イッテタノ。(白-a男4:
9-4)

○ダッテ ウシャギ ネチャツカカラネ
カメガ カツノ [かったの]。(白-i男5:
5-8)

●ソウシタラネエ シマウマガネエ イッ
バイ イルノデ ライオンハネーエ
ビックリ シテネー ニゲテ イッタ
(ワケネ)。(赤-q女5:2-14)

●オニ、サンガネ ミヂュラ カン カケ
ヨウト オモツカラネ オ オハナガ、
ネ カレテタノ。(白-q男5:4-11)

●ダゲドモネー ダイオンネー イッバイ
シマウマガ アツマルトネー ダ[ラ]イ
オンガ ヤラレルノ。(白-c男4:7-12)

○ス[つ]トムモ ボクガ [ハイチャイ]
ッテ (イエバ) ストムモ [ハイチャ
イ] ッテ。(白-s男4:10-11)

○ダケドネー オトウサン ヨンデ クレ
ル トキモ アルケドネ オカアサン
ヨンデ クレナイ。(白-g女5:0-9)

●ソウシユルト ジャングルタイテイノ
オカアサンハネーエ シロイノニ ソノ

○ヒロコネ アカチャン ヒト()ニ ア
カチャン ウマレツカラネ ヒロコ ヒ
トリジャナイノ。[はっきしらないが](神
-佐女3:7-1)

○ジケンガ アツタラネ イタンダヨ。マ
イテイー; [補足] (小-福男4:2-7)

○ボクノ アシニネー オベンキョウノ
ドウグガネ ミーチャン ユラストネ
ドカーンッテ ミンナ オッコッテ ク
ンダモン。(語順)(小-佐男4:3-13) (注)

(注)年少ら
しくない表
現。

●ウチ カラー [テレビ] ナイケドネー
オモリノ オバアチャンチダ (ケ) カ
ラー。(赤-a女3:10-17)

中止形 (注)	イッチャッタ(ノ)。(赤-j 女5:7-15)		オトモダチ クロイノネ。(赤-q 女5:2-12) (注)		(注)年中ではq 女のみが「ので」「のに」を用いている。 (注)接続助詞とはいえないがここに入れた。 先行
	●ソシタラ ウサギガ ソノ ヘンデネ テ シマイ、カメガ サキニ イッテ シマイマシタ。(赤-A 女6:1-11)		●ソノ シマウマネ ニゲテ イッテネ ライオンガ オイツイタンダッテ。(赤-q 女5:2-13)		
～て	○ミギノ ホウガネ エーグミデネ ヒダ リノ ホウガ ビーグミダッタノ。(自-d 女5:11-8)		○デ シ ヒトリ ネテネー カメサンガ イットウ ナッチャッタノ。(自-l 男5:1-10)		理由 *ガ不用
	○ソイデネ イ イツカ オヒサマガ タ イヨウガネ テッテネ ダリヤ ヒライ タノ。(自-d 女5:11-30)		○ソイデネ ライオンガネ ムコウニ イッ テネ コレガネ ワガ* ラッテンノ。(神-秋男3:11-13)		
10[21]15	○キューチャンネ ヘリコプター ツクロ ウト オモッテ キュウチャント ショ ウチャンガ ネー ツクロウト シタン ダヨネ。〔ごたごた〕 (自-g 女5:11-19)				目的
	○クサガ ハエテ イデネ ソコニ カエ ルガ イルンダヨ。(自-k 男5:8-4)				
	○ソイデネー オンナノ ホウガ ヨンカ イ カッテネー オトコノ ホウガ イッカイ カッタノ。(自-j 女5:7-5)		●ソイデネー ウサギサンガネー ネムッ テネ カメサンガ ナンカ シテンノ。 (神-増女4:11-17)		状況
			○シテネ オハナガ ナガクテネー ソシ テ ミミガ オー オッキイノ。(自-s 男4:10-3)		
			●ウサギガ コッチニ イテ ウ ウ カ メガ アルイテンノ。(赤-b 男5:6-10)		状態
			○ハックハネー コウ ナッテテネー テ カラ (サ) ー テ ヒガ デテ クン ノ。(神-高男4:4-15)		
			○ニンジャガ デテ キテネ クモガ デ テ クンノ。(神-秋男3:11-10)		並列

●ヨルネ オトウサンガネ 「 <u>ダメ</u> 」ッテネ 「マンガ ミチャ <u>ダメ</u> 」ッテ ユッ テネ アト オカアサン 「 <u>チョットグ</u> ライ ミサシ ミサシテ アゲナサイ ヨ」ッテ ユウ (カラ)。(自-B男5:7-2)	●ソウチデネ オミズヲネ オミズハ タ クチャン デテネー〔のに〕 <u>ダレカ</u> 〔も〕 モッ モッテナイノ。(神-村女3:6-8)	○チイ(タ)イ ヤギガネ サキニ イッ テネー〔たら〕 ナンーカネ キミワルイ (トロル)ガ スンデ イタノ。(神-大男 3:11-13)〔物語〕
○ソイデネ カメサンガ テッペンマデ ノボッテネ〔けれど〕 マダ ウサギサン ガ ノレ ノボレナカッタノ。(自-n男 6:5-19)	○タクシーナナカ コナカッタカラ 〔ぼ くたちは〕 バス ノッテ キチャッタ ノ。(自-s男4:10-4)	○アメ フッタカラ 〔ぼくは〕 オウチデ アソンデタノ。(小-佐男4:3-3)
○ゴジラハ ツヨイカラネ〔けれど〕 ウル トラマン コンドモ マケナイヨ。(自 -s男5:9-19)	○シマウマガネ カクレタンデネ 〔ライ オンは〕 タオレタ。〔はっきりしない〕 (赤-s男5:6-15)	○ソシテネ クルマガ トマッタラ 〔ぼ くは〕 ワタルノ。(神-鈴男3:6-13)
○カメハネ〔が〕 「ウサギサン」テ ヨン ダラネ 〔のに〕 ウサギサンガ ドッカ イッチャッタノ。〔はっきりしない〕 (赤 -j女5:7-14)	○ワルイ モノガ キタラネ スグニ 〔ビッグエックスは〕 ヤク ャツケル。 (自-h女4:7-6)	
○ダケド モウ オカアサンヤ オトウサ ン モドッテ キタカラ 〔その話は〕 コンドデ オワリニ ナッチャウノ。(赤 -r女5:10-8)		
○ソシタラ アンマリ カメサンガ ノロ イノデネ 〔うざぎは〕 スコーシネ チャッタノ。(赤-r女5:10-11)		
○ワルイ カイブツガ キタラネ 〔アト ムは〕 ヤツツケンノ。(自-e女5:7-16)		

誤用
[3][1]

1-2.2 SZ/(SZ)

～から
[9][12][1]～で
[1][2][1]～たら
[6][3][6]

～と [2][2]	○ボクガネ ナニカ ゴハン タベナイト 〔おかあさんは〕 ^(シユ) ゲ オコロン ダモン。(自-b 男6:0-8)	○ダッテ ホンガ ナイト 〔ほくは〕 ワ カンナインダモン。(赤-s 男5:6-11)	○ケムシ イタケドネー 〔ほくは〕 ツカ マエレナカッタ。(小-佐男4:3-6)
～けど [2][2]	○ソレカラネー オトウサンガ イツモ ネー ミガイテルケドネー 〔ほくは〕 ニチヨウビダケ トキドキネー ガラス ヨネー マドノ ガラスヲ フク トキ アル。オニイサント イッシヨニ;〔補 足〕(赤-k 女6:2-6)	●エシャ アッタケド 〔きんぎょは〕 シ ンジャウンダヨ。(神-渡男4:6-22)	○ジ ナクツテモ 〔ほくは〕 ヨメナイ。 〔わからないの意〕(小-岸男3:11-8)
～ても [1][1]	○キョウガ オトウトノ オタンジョウビ デ コンド 〔彼は〕 ヨッソ ナルノ。 (赤-f 女5:9-7)	○……ソ(レ)デ ロボット キタッテ 〔パピーは〕 ヤッツケラレルヨ。(赤-f 女4:10-6)	
～たって [1][1]	●ニチヨウビハネ ニチヨウビハ オ バアチャンガ キテネ オバアチャント オサンボナンカ イッタ トキガ 〔ほ くは〕 タノシカッタ。(赤-R 男5:11-4)		●ソシテ ナンカガ タスケニ キテネ 〔ねずみは〕 ウエニ アガッチャッタ ノ。(赤-e 男4:1-7)
中止形 [1][1]	○ソシタラ マタ コウセンガ デテ 〔それは〕 カタチガ カワッタ カイ ジュウガ〔に〕 ナッチャッタノ。〔はっき りしない〕(赤-a 男5:11-9)	○イナカニネー ハタケニ トンボガ イッパイ イテネ 〔ほくは〕 ツカマエ テ キタノ。(自-s 男4:10-6)	先行
～て [9][11][3]	○ウッドベッカーッテ イウノネ マンガ ガ アッテネ 〔わたしは〕 ソレヲ ミ	○ココジャ ナイネ ヨウチエンニネー ハタグミガ イテネー 〔わたしたちは〕	理由 状況 ○アカチャンガ イテネ 〔ほくは〕 ダッ コネ チタ コト アンノ。(神-大男3:11-8)

ルノ。(赤-o 女6:1-15)	ソコヘネー チョットネー イッタノ。 (自-g 女5:0-1) ●ソイデネ ヤネ (シ) ヤネ(ニ) ヤネ デネーエ ヤネニ アナ アイデデネー エ (人か) オソト デンダッテ。(小 -押女5:1-18)	11-3)	状態
●ナンカ コスル モノガ アッテ (お ばあさんは) ギュギュギュト (オセン タク シテタノ)。(赤-L 女5:9-14)	○ウサギガネー コ(コ)(デ) ネットネエ ソコ(デ) ヤマデ [かめか] ハタ ヤ ッテンノ。[はきりしない] (自-s 男4: 10-24)	●ライオンガ オッカケテ [しまうまか] ニゲテンノ。(赤-e 男4:1-10)	方法, 手段
●ソシタラネ ソシタラ ママガネ 「チョット アタシ ココデ オツカイ シテ クルヨ」ツテ イッテネ [わたし は] ヨウコチャント アソンデタノ。 (赤-L 女5:9-8)	○ココカラ トラックガ キタラ[から] [二匹は] (シュ) モウ スコシデ シ カレソウダッタノ。(自-s 男4:10-26) ●ソイデ コンドハ オサルガ キデネ [から] [もたらうは] キビダンゴ ヒトツ アゲタノ。(赤-1 男4:8-9)		並列
○ナカナカ [ライオンガ] オイツカナイ カラ ボウヤタチガ ワラッテルノ。(赤 -t 男6:0-19)	○[男の子か] ミズヲ ヤンナカッタカラ ネー カレチャッタノ。オハナガ; [補 足] (赤-r 女4:10-11)	○ダイ オトコノ ヒトガネ ミズヲ オ ハナニ [お花か] カレ カレテルカラ カケテンノ。(語順) (袖-寺男4:4-18)	引用
○ソウシタラ タイヨウデ ミズ [はっき			

誤用

1-2.3 (S)Z

/SZ

～から

[3][1][1]

～ので

1	りしない)〔男の子が〕ミズヲ カケ タノデ オハナ キクノ ハナガ マッ スグニ タチマシタ。(赤-s 男6: 6-21)	○ンデ 〔カリバーが〕 オキテ メー サ マシタラネ コビトガ ニゲチャッタ ノ。(赤-n 男5: 2-7)	○ダッテー キョウサー, 〔ほくが〕 オッ コトシタラサー ダレカ トッチャッタ ンダモン。(小-佐男4: 3-11)	(注)時の提 示
～たら 4 15 4	○デ 〔男の子が〕 ミズ アケタラネ オ ハナガネ ゲンキンニ ナッタノ。(自-m 男6: 4-14)	●ソシテ 〔ももたらうが〕 シバラク ア ルイテ イクト マタ サルガ キタ ノ。(赤-e 女4: 9-7)	○センセイガネ 〔わたしたちが〕 オシャ ベリシテルトネ 〔ホン ヨン ^(デ) ア-ゲナイ ^(ダラ) ッテ イウノ。〔語順〕 (神 -佐女3: 7-19)	
～と 3 1	○〔男の子が〕 ミズヲ スコシズツ ヤッ テレバ ハナダッテ キレイニ サク。 (赤-w 男6: 3-30)	○デネー ソノ トキネー 〔ほくは〕 オ ミコシ カツガーナカタケド オサー ムグンガ カツイダノ。(自-g 女5: 0-1)	○スコシ 〔おまえが〕 マッテレバ オッ キイ ヤギノ ガラガラドンガ ヤッテ クル。〔物語〕 (神-古男4: 5-26)	
～けど 3 12 1	○〔ほくは〕 ソウイウノモ スキダケドサ コノゴロ チョウガ イナイモン。(赤 -s 男6: 6-7)	●ズット マエダケドネ エイガデネ ナ ンダッケナ コイッテ イウノネ ウチ ノ オトウサンガネ エイガデ ^ニ ヤッタ ノ。(赤-q 女5: 2-3) (注)	○ダカラ 〔ほくが〕 チラカシテモ ダイ ジョウブナナンダヨ。オジイチャンチハ; 〔補足〕 (神-三男4: 0-20)	
～ても 1 1 1	○ソシテモ プールガ ナイノ。〔となりの おばさんが〕 イクラ サガシテモ; 〔補 足〕 (自-b 男6: 0-25)	●〔三番目のお兄さんは〕 ウミ, ヘー ポ チャーンテ ヤッテモネー アシガ ドン ドン ナガク ナッテ クンノ。(神-村 男4: 3-17)		先行
～たって 1 1 1	○ユメッテ ユッタッテ イロイロノ ユ メガ アルカラネー。〔提示的〕 (赤-s 男 6: 6-12)			
～て 1 12 3		●(デ) キュウショクガ アルトキネー 〔ほくは〕 オトモダチノ オウチネー		

<p>○〔フランケンシュタインは〕<u>オ</u> <u>オ</u> <u>キ</u> <u>ク</u> <u>テ</u> <u>ネ</u> <u>ク</u> <u>チ</u> <u>ガ</u>〔も?〕 <u>オ</u> <u>キ</u> <u>イ</u> <u>ノ</u>。(自 -i 男6:4-14)</p> <p>○デネ〔ライオンが〕<u>コ</u> <u>コ</u> <u>マ</u> <u>デ</u> <u>キ</u> <u>テ</u> <u>ネ</u> 〔たら〕 <u>イ</u> <u>ッ</u> <u>バ</u> <u>イ</u> <u>シ</u> <u>マ</u> <u>ウ</u> <u>マ</u> <u>ガ</u> <u>イ</u> <u>タ</u> ノ。(自-v 男5:7-15)</p> <p>○〔わたしは〕<u>ワ</u> <u>ラ</u> <u>イ</u> <u>バ</u> <u>ナ</u> <u>シ</u> <u>ガ</u> <u>ア</u> <u>ッ</u> <u>タ</u> <u>ノ</u> <u>デ</u>〔だら〕 <u>ホ</u> <u>ン</u> <u>カ</u> <u>ネ</u> <u>ヨ</u> <u>ン</u> ネ。(赤-r 女5:10-6)</p> <p>○〔男の子が〕<u>ツ</u> <u>ギ</u> <u>ノ</u> <u>ア</u> <u>サ</u> <u>ノ</u> <u>オ</u> <u>ミ</u> <u>ズ</u> <u>ヲ</u> <u>カ</u> <u>ケ</u> <u>テ</u> <u>カ</u> <u>ラ</u>〔たら〕 <u>オ</u> <u>ハ</u> <u>ナ</u> <u>ガ</u> <u>ピ</u> <u>ン</u> <u>ト</u> <u>ナ</u> <u>ッ</u> <u>タ</u> <u>ノ</u>。(自-h 女5:7-14)</p> <p>○〔?〕 <u>イ</u> <u>ナ</u> <u>カ</u> <u>ニ</u> <u>イ</u> <u>ッ</u> <u>テ</u> <u>ネ</u>〔と〕 <u>オ</u> <u>ネ</u> <u>エ</u> <u>チ</u> <u>ヤ</u> <u>ン</u> <u>ガ</u> <u>ネ</u> <u>サ</u> <u>ン</u> <u>ニ</u> <u>ン</u> <u>イ</u> <u>ル</u> <u>ノ</u>。〔はつき りしない〕(自-1 男6:0-4)</p>	<p>シトリ シトリデネー イカレン イッ デネー ソイデネー ママガ ムカエニ クンノ。〔はつきりしない〕(小-川 男4:10 -17)</p> <p>○〔そのりものは〕<u>グ</u> <u>ル</u> <u>グ</u> <u>ル</u> <u>マ</u> <u>ワ</u> <u>ッ</u> <u>テ</u> <u>メ</u> <u>ガ</u> <u>マ</u> <u>ワ</u> <u>ル</u> <u>ノ</u>。(赤-f 女4:10-9)</p> <p>○〔わたしは〕<u>オ</u> <u>カ</u> <u>ア</u> <u>サ</u> <u>ン</u> <u>ナ</u> <u>ッ</u> <u>テ</u> <u>オ</u> <u>ニ</u> <u>イ</u> <u>チ</u> <u>ヤ</u> <u>ン</u> <u>コ</u> <u>ド</u> <u>モ</u> <u>ン</u> <u>ナ</u> <u>ル</u> <u>ー</u>。(赤-p 女 5:2-2)</p> <p>○ソウシテ〔<u>ハ</u> <u>ハ</u> <u>と</u> <u>ほ</u> <u>く</u> <u>が</u>〕<u>オ</u> <u>ウ</u> <u>チ</u> <u>ー</u> <u>カ</u> <u>エ</u> <u>ッ</u> <u>テ</u> <u>ネ</u> <u>ー</u>〔たら〕 <u>エ</u> <u>ッ</u> <u>チ</u> <u>ヤ</u> <u>ン</u> <u>ガ</u> <u>ネ</u> <u>ー</u> <u>ド</u> <u>ッ</u> <u>カ</u> <u>ー</u> <u>イ</u> <u>ッ</u> <u>チ</u> <u>ヤ</u> <u>ッ</u> <u>タ</u> <u>ノ</u>。(自-a 男4:9 -6)</p> <p>○アサガオニ〔男の子が〕<u>ミ</u> <u>ズ</u> <u>カ</u> <u>ケ</u> <u>テ</u>〔たら〕 <u>コ</u> <u>ッ</u> <u>チ</u> <u>モ</u>… <u>キ</u> <u>レ</u> <u>エ</u> <u>ニ</u> <u>サ</u> <u>イ</u> <u>タ</u> <u>ノ</u>。(赤-m 男4:10-10)</p>	<p>○〔おうちが〕<u>オ</u> <u>ッ</u> <u>コ</u> <u>チ</u> <u>テ</u> (ヒル) <u>コ</u> <u>ノ</u> <u>ア</u> <u>ー</u> <u>チ</u> <u>ヤ</u> <u>ン</u> <u>ガ</u> <u>ニ</u> <u>ゲ</u> <u>タ</u> <u>ノ</u>。〔はつきりしな い〕(小-竹 男4:1-9)</p> <p>○〔かめが〕<u>コ</u> <u>コ</u> <u>ニ</u> <u>コ</u> <u>ウ</u> <u>ネ</u> <u>イ</u> <u>テ</u> <u>ネ</u> <u>ー</u> <u>ウ</u> <u>サ</u> <u>ギ</u> <u>ガ</u> <u>コ</u> <u>コ</u> <u>ヘ</u> <u>イ</u> <u>ッ</u> <u>タ</u> <u>ン</u> <u>ダ</u>。〔はつき りしない〕(小-相 男4:4-17)</p> <p>○〔やぎが〕<u>ク</u> <u>チ</u> <u>ヤ</u> <u>ニ</u> <u>ネ</u> <u>ー</u>〔を〕 <u>タ</u> <u>ベ</u> <u>ニ</u> <u>イ</u> <u>ッ</u> <u>テ</u> <u>ネ</u> <u>ー</u>〔たら〕 <u>ネ</u> <u>ト</u> <u>ロ</u> <u>ル</u> <u>ガ</u> <u>デ</u> <u>テ</u> <u>キ</u> <u>タ</u> <u>ノ</u>。(神-秋 男3:11-17)</p> <p>○ダッテ〔それが〕<u>キ</u> <u>タ</u> <u>ナ</u> <u>ク</u> <u>ナ</u> <u>ッ</u> <u>テ</u> <u>ク</u> 〔たら〕 <u>オ</u> <u>カ</u> <u>ア</u> <u>チ</u> <u>ヤ</u> <u>ン</u> <u>ガ</u> <u>ア</u> <u>ラ</u> <u>ッ</u> <u>テ</u> <u>ク</u> <u>レ</u> <u>ル</u> <u>ン</u> <u>ダ</u> <u>モ</u> <u>ン</u> <u>ノ</u>。(神-高 男4:4-6)</p> <p>○〔わたしは〕<u>カ</u> <u>ズ</u> <u>カ</u> <u>ゾ</u> <u>エ</u> <u>レ</u> <u>レ</u> <u>ナ</u> <u>イ</u> <u>ケ</u> <u>ド</u> <u>ネ</u>〔から〕 <u>ユ</u> <u>ウ</u> <u>コ</u> <u>オ</u> <u>ネ</u> <u>エ</u> <u>チ</u> <u>ヤ</u> <u>ン</u> <u>ニ</u> <u>ネ</u> <u>カ</u> <u>ゾ</u> <u>エ</u> <u>テ</u> <u>モ</u> <u>ラ</u> <u>ウ</u> <u>ノ</u>。〔ケドネのままで文 末とも〕(神-折 女4:3-8)</p>	理由 並列 *ノは不用
<p>○〔しまうまが〕<u>タ</u> <u>ク</u> <u>サ</u> <u>ン</u> <u>イ</u> <u>ル</u> <u>カ</u> <u>ラ</u> 〔ライオンは〕 <u>ピ</u> <u>ッ</u> <u>ク</u> <u>リ</u> <u>シ</u> <u>テ</u> <u>カ</u> <u>エ</u> <u>ッ</u> <u>テ</u> <u>イ</u> <u>ッ</u> <u>タ</u> <u>ノ</u>。(自-i 男6:4-16)</p>	<p>○〔運動会は〕<u>ナ</u> <u>ガ</u> <u>カ</u> <u>ッ</u> <u>タ</u> <u>カ</u> <u>ラ</u> (ぼくは) <u>ワ</u> <u>ス</u> <u>レ</u> <u>チ</u> <u>ヤ</u> <u>ッ</u> <u>タ</u>。(赤-a 男4:11-4)</p>	<p>○〔うちは〕<u>ヨ</u> <u>ウ</u> <u>チ</u> <u>エ</u> <u>ン</u> <u>ノ</u> <u>ト</u> <u>ナ</u> <u>リ</u> <u>ダ</u> <u>カ</u> <u>ラ</u> <u>ネ</u>〔おかあさんは〕 <u>ム</u> <u>カ</u> <u>イ</u> <u>コ</u> <u>ナ</u> <u>イ</u> <u>ノ</u>。(神-佐 女3:7-8)</p>	

～たら
[6][17][6]

～と
[4][1][1]

～ば
[2][1][1]

～けど
[][][1]

～ても
[1][1][1]

～たって
[][][4]
～て
[][][1]

誤用
[1][][]

○ [ライオンが] ソレ ツカマエヨウト
オモッタラ [しまうまは] ニゲチャ
タノネ。(赤-o 女6:1-14)

○ソイデ [ぼくが] ズーット オイトク
トネ [それは] カチカチニ ナッテ
カタマッチャウノ。(自-b 男6:0-27)

○[男の子が] ミズ アゲレバネ [花は]
ノビテ クンノ。(自-r 女5:7-18)

○[あなたが] ソウスレバ [虫が] イル
ヨ。イッバイ; [補足] (自-s 男5:9-6)

○ソイデネ [男の子が] ミズ アゲテモ
ネッ [花は] ヒラカナインダッテ。(自
-d 女5:11-30)

○ソイデ [あなたが] ハイッテ [と?]
[そこは] チカイノ。(赤-t 男6:0-11)

○ [あなたが] ソコラ トオッタラ [う
ちが] ミエテ イク クルノ。(赤-a 男
4:11-6)

○ [ぼくが] ワルイ コト スルト [お
とうさんは] ヒッパタクノ。(自-t 男5:
3-22)

○ [あなたが] ソウ イケバ [うちは]
スグナノ。(赤-o 女5:1-6)

●[お話の本は] ウチニ アッタケドネー
[わたしは] モウ ミナクナッチャッタ。
(小-岡女4:8-24)

○[お祭が] ムコウニ アッテネー ソレ
デネー [ぼくは] ナンカ カッタノ。
[意味はつきりしない] (自-b 男5:1-1)
●[本は] ムズカシクッテ [私は] ヨメ
ナイ。(小-野女4:9-18)

○ [ぼくが] オキク ナッタラネ [おか
あさんは] オオキナ オチャワン
カッテ クレンノ。(神-鈴男3:6-5)

○ホラッ [狼が] プーッテ ヤルト [家
が] コワレチャウ。(小-佐男4:3-24)

●[あなたが] アルイテ イケバ [デバ
ー] トは スグ アン(ノ)ヨ。(赤-a 女3:
10-9)

○ダッテシャー [オバケが] ウゴイテ
ケド [ぼくは] コワクナイモン。(神
-高男4:4-4)

○ソイデネ [男の子が] [水を] カケテ
モ コンナニ ナッ(?) ソイデ [花
が] コウ アチント ナッタノ。[はっ
きりしない] (神-三男4:0-41)

○ [あなたが] ドッチ マガッタッテネ
[うちは] アルノ。(神-場男3:10-12)

理由

1-3 題目語をもつ構文

1-3.1 題目語あり [3][4][13]	○コレハハネ クマチャンガネ ネズミヲ オッカケテタラネ ネズミハハネ ドウロニネ イッチャッタ。(赤-f 女5:9-20)	○コレハハネー ハナニネー オハナネー オレタカラネ [人が] ミズヲ カケナカッタカラ ハナガ オレチャッタノ。(赤-k 女5:3-15)	○コレハハネ コレ オオカミガ キタカラダカラ [家が] コウヤツテ ナッ(テン)ノ。(はっきりしない)(小-原女3:7-15)
1-3.2 題目語なし [3][2][13]	○[そこは] キガネ イッバイ アツテネ ハヤシガ アル トコロ。(自-d 女5:11-10)	○ソイデネー [それは] ウサギガネー ドウロニ カケダシタカラネー クマモネー カケダシテ イッタ コト。(赤-k 女5:3-16)	○ソイデネ [それは] シマウマノネ ナカマガ イッバイ キテネ [ライオンが] ビックリ シタ (コト)。(小-佐男4:3-20)

2 二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合

年齢別 文構造	用 例			備 考
	年 長 (赤羽・自由)	年 中 (赤羽・自由)	年 少 (神谷・小川)	
2-1 主語一つからなる構文 2-1.1 SZ~Z [8][6][8]	○オトウサンハ アサ ハヤアク オキタラ[て] カイシャ イッテヨ ヨルニカエッテ クルノ。〔説明〕(自-i 男6:4-12) ○デネ シンデレラヒメ[は] ヒトリデネダカラネ[ひとりなので] サミシクテネ キレイナ ヨウワク オネイサンノ キレイナ ヨウワクヲネ ミテネ/ナイチャッタノ。〔理由〕(赤-p 女6:2-14)	○ソシ ンカニ テツジン アシノ マ(ン) マ ドカント ハイッテネ ソイデネ [ガアオガアオ]ッテ ヤッテモネ [けれども]ノトベナク ナツチャッタノ。〔前提〕(赤-t 男5:1-9) ○パピーッテネ ココニネ ベシダント サゲテネ (ソイデ) コウ ヤッテネ カタホウノ アシ コウ アゲテ カタホウ ヒザ ツケテ/ソシテネ コッカラネ コウツ バケチャウ。〔説明〕(赤-w 男5:3-8)	○サッ エ ウルトラシエブンデネ シャイショ ニンゲン ナッテネ ウメガネ ミタイノ カケルトネ/ウルトラシェブナンノ。〔説明〕(神-高男4:4-14) ○ソレデネ ボク ヒトリ ネデネ アサアサ ボクネ アサ アサネ ボクネ オカ オカアサンッテ ヨバナイデネ ネ/オキチャウノ。〔説明〕(神-古男4:5-18)	○説明が多いが理由もある。

<p>○〔わたしは〕 ソノ ワライバナシ ヨン ダラ トッテモ オカシイ(かった)カラ ノワラッチャッタノ。(赤-r 女5:10-6)</p> <p>○〔ぼくは〕 ナンカ オツカイ イッテネ ナンカ ナンカネ モツ モツトネ/ス グ ホメラレルノ。(赤-m 男5:10-3)</p> <p>○ソウシテネ (ライオンは) シマウマ ガ イッパイ イル トコロ イッテ ル …… イッタラ オドロイチャッタ ラ(て)/マタ カエッテ キタノ。(自 -s 男5:9-23)</p>	<p>○〔お兄さんは〕 コノ マエ ガッコウ イッテタケドネー モウ オ(オ) キイ ケドネー オオキイカラ、ネー/マ モ ウ ガツコウ イッテ ナイ。(自-b 男 5:1-8)</p>	<p>○ソレデネ (ぼくね) アチタネ (汽車) モッテ イコウト オモッテネ キチャ ヲネ オカアチャント チュクッテネ/ モッテ モッテ キタノ。(説明とも)(神 -古男4:5-33)</p>	<p>○原因・理由</p>
<p>○〔ぼくたちは〕 フクロガ アル トコマ デ オ コメノ フクロガ アル ト コマデ カケテッテ ソレ(を) ココマデ ハイタラネ ハタノ マワリ ピョン ピョン トンデネ/ハタノ マワリ マ ワッテ クルノ。(赤-t 男6:0-5)</p> <p>○〔ぼくは〕 (レコードを) カーケテ モ ラッテネ ソイデネ ケンチャンチ イッテネ/マタ カケテ モラッタノ。 (自-a 男5:8-8)</p>	<p>○〔ぼくは〕 キノウハ シヤムカッタッテ ネ (寒くて) カゼ シイ(て)タケドモ/ ドウブツエン イッチャッタノ。(自-s 男4:10-1)</p> <p>●〔お母さんは〕 アッ コナイダネ デカ ケタンダケドネ マタ キョウモネ ア ルッテ ユッテネ/デカケタノ。(赤-q 女5:2-4)</p>	<p>○〔お父さんは〕 シゴトナンカネ チュ クッタラ チゴトナンカネ カエチニ イッデネ/マタネ アタラチーネ ネー チ チゴ チゴトラネ モ モラッテ イクノ (くるの)。(神-古男4:5-30)</p>	<p>○説明 状況をのべ て、説明と いうのもあ る。</p>
<p>○ソイデネ アトハ (ぼくは) オフロネ ハイッデネ オシッコ シテ/ネタノ。 (自-a 男5:8-6)</p> <p>○ソイデネ (ももたろうは) ドンドン イッテネ ウミニ キタラネ ポートヘ ネ イッテネ ソイデネ オニガシマニ イッテネ ソイデ オニヲ コラシメテ</p>	<p>○〔わたしは〕 オジイチャントネー ワタ アメ カッデネー ソレカラネー オド リ ミデネー ソイデ カエリニ ホン カッデネー/ソレカラ カイッタノ。(自 -d 女4:11-1)</p> <p>○〔ぼくは〕 ハ ハタグミニ イッテネー ソイデネー オニギリ タベデネー ア</p>	<p>○〔ぼくたちは〕 ワスレモン シデネ (の で) モウ イッカイ モドッテ モッテ キテ モウ イッカイネ キデネ/ソイ デネ ト ソコニ トマッタノ。(神-三 男4:0-13)</p> <p>○〔ぼくは〕 オクジョウ イッテ アソン デ/カエリ(ハ) プラモデルラ カッテ</p>	<p>○時間的順 序。</p>

<p>／カエツテ キタノ。(自-0 男6:3-10)</p>	<p>ト ギュウニユウ タベテネー ソレニ オセンベエネ ミ コイダケ タベテネ ／五つ。／ソイデネ ソイデネー ウチ イ カエツタノ。(自-k 男4:8-1)</p>	<p>カエツタノ。(小-福男4:2-3)</p>
<p>2-2 主語二つからなる構文</p>	<p>2-2.1 SZ/SZZ 10 5 17</p>	<p>○デ シマウマガ コンナニ イルンデ／ ライオンガネー オイカケテ イッテ ネー ビックリ シチャッタノ。(理由) (赤-w 男6:3-28)</p> <p>○カ カイジュウガネ デテ キテネ(の で)／ハヤタタインガネ(は) ニゲ ヨウト オモツケドネ ニガナイカラ ネ(に)げられないからね)ペンデネ ウル トラマン ヨンダノ。(理由でなく状況で 説明) (自-n 男6:5-11)</p>
<p>SZ/(S)ZZ 8 4 11</p>	<p>○デネ イシ キレイナネ アノ イシネ ハタグミサント ヒヨコグミサン イカ ナカッタカラネ／(ぼくたちは) イシネ キレイナ イシネ アツメテネ モツテ イッテ アゲタノ。(理由) (自-h 女5: 7-3)</p> <p>○アノ ソバニ オオキナ ヤマガ アッ テネ／(ぼくたちが) シタカラ ミルト ネ ノボレソウナ カンジデ(だけれ ど), ノボロウト スルト ノボレナイ ノ。[状況説明] (赤-u 男6:5-21)</p>	<p>○ナシカ コウイウノ シマウマガ キタ カラネ／(ライオンは) カミツコウト オモツテネ ドンドン イッテ オイカ ケテンノ。(理由) (神-三男4:0-38)</p>
<p>○前の部分 は理由より 状況説明多 し。 ○……＝間 のあるしる し。</p>	<p>○チョレデネ カメチャンガネ モウ ト オクニ イッテネ／ネ カメチャン ウ チャギチャンハネ ヤット オキテネ ネ カケ カケテ イッテネ イッテ イッタノ。[状況説明] (神-古男4:5-20)</p> <p>○カイ (ズ) ウ デテネ(なら)／ダンガ ネ セブンニ ナツテネ ヤツケン ノ。[状況説明] (神-秋男3:11-9)</p>	<p>○ソウシテネーエ カメガ イットウ ダツタカラネーエ／(うきぎは) ナシカ ネ クヤイトネ オモツテネエ ヤッ タンダツテ。(はつきりしない) (理由) (赤-q 女5:2-15)</p>

(S)Z/(S)ZZ

3612

○ソレデ〔ダンブカーは〕クマニ アタツ
テ／……ネズミハ ビックリシテ トビ
アガリマシタ。〔状況説明〕(赤-s 男6:6
-21)

(S)Z/(S)ZZ

81

○ハイラナイ トキハ コウユ フウニ
ネー コウイウ イー 〔それは〕ソン
ナニネー オオキクナイカラネー／〔ぼ
くは〕コウイウフウニ マガリメラ ツ
ケテネー イレチャウノ。〔理由〕(赤-a
男5:11-5)

○〔彼が〕「オコシニ ツケテンノハ ナン
デスカ」ツテ キイタラネー／〔桃太郎が〕
「オダンゴタヨ」ツテ イッタラネ(て)
「オニセイバツニ イクカ」ツテ イッタ
ノ。〔説明〕(自-o 男6:3-9)

○ヨルデモ カツタラネ ……モクヨウビ
ニ 〔ぼくが〕 モシ カエッタト
シタラ／〔ぼくは〕イチバン サイショ
ニネ イチヲ ツケテ ヒョッコリヒョ

○〔シンデレラが〕デ オー オシロニ
ツイテネー／ソノ ヨル オウジサマが
〔は〕ネ 「ソノ オヒメサマ マガ イ
チバン ギレイダ」ト イッ (テ) ヨ
ル オソクマデ ソノ オヒメサマトバ
カリ オドッテタンデスツテ。〔説明〕(赤
-p 女5:2-14)

○ダカラネ コビトガネ マタ 〔ガリ
バーは〕ネタラ／マタ デテ キテネ
コビトガネ カイダントカネ モツテ
キテネ カイダン ア モツテ キテネ
ノッタリネ シタニ オリタリネ シテ
ル。〔状況説明〕(赤-n 男5:2-7)

●ママ アミモノ シテルカラ／〔僕が〕
「ヨンデッ」ツテ ユツテモ ヨンデク
レナイ。〔語順〕(赤-b 男5:6-9) (注)

○……〔うさぎが〕 ニゲテテネ／カメガネ
ウエニ ノックアツテ ナンカ ヤッテン
ノ。タッテンノ；〔補足〕〔意味はつきり
しない〕〔説明〕(神-寺男4:4-18)

○ソシテネ 〔男の子が〕 ミジュカ ミ
ジュー カ カケテ 〔に〕 キテ ミジュ
カケテネ(たら)／〔花は〕 ダンダン コ
ウ コウ ナツテテ オレ オレソウデ
ネ オレ オレナカッタノ。〔原因〕(神
-高男4:4-22)

(注)〔僕が〕
「ヨンデッ」
ツテユツテ
モ／ママ
アミモノ
シテルカラ
ヨンデ ク
レナイ。

ウタンジマダナ。〔仮定〕(赤-s 男6:6-10)	○クマガネ <u>ネ</u> ^(ジュ) ミヲ オイカケヨ ウト <u>シテ</u> <u>ネ</u> ^(ズ) ミヲ オイカ ケテ <u>イッタラ</u> <u>ネ</u> ^(ズ) ネズミト クマガネ ジドウシヤニネ ドシーン <u>ジドウシヤ</u> ト <u>アツカッ</u> <u>チャッタ</u> <u>ノ</u> 。〔理由〕(自-b 男6:0-32)		○ウサギガネ カケダシテネ <u>ウサギガネ</u> 〔繰返しとみた〕 <u>イチハジメ</u> <u>ネ</u> イット ウダッタノニネ/カメサンガネ コンド ネ イットウ ナル(シ)。(小-神女4:1 -11)
○ソレヲネ ソレガネ モシカ ビンビ ンッテ <u>ナッテ</u> <u>ネ</u> キエチャッタラネ/ モウ ニドト ウルトラマン <u>タチ</u> <u>アガ</u> ラナク <u>ナッ</u> <u>チャウ</u> 。〔仮定〕(自-k 男5: 8-16)	○ソイデネー 〔男の子が〕 オミズヲ ヤッ タラネー オミズヲ ヤッタラネー ア ンマリネー イキオイヨク ヤッチャッ タカラネ/ハナガネー ノビタノ。〔理由〕 (赤-r 女4:10-11)		○〔男の子が〕 ジョウロネ ミガイデネー (<u>ド</u>)ヨウロネー <u>モッテ</u> <u>テ</u> <u>ネ</u> コレ (<u>ジ</u>)ヨウロネー <u>カテ</u> <u>オ</u> <u>ハ</u> <u>ナ</u> ニ アゲデネー〔たら〕/オ <u>ハ</u> <u>ナ</u> <u>ガ</u> <u>ネ</u> <u>ー</u> コウイウニネー ツイタ ママ サイタ ノ。〔理由〕(小-相男4:4-18)
○〔ハヤタが?〕ナガサレチャッテネー ミ ズン ナカデ コウイウニ ベンシル アゲタラ/ウルトラマンガ イキタノ。 〔はつきりしない〕(理由)(赤-w 男6:3 -15)	○ソシテ 〔ウルトラマンが〕「ガアオー」 ッテ ヤッテ トン <u>デ</u> <u>ヤッテ</u> <u>ノ</u> <u>で</u> / ネ ソイデネ マグネックス マケ チャッタノ。〔理由〕(赤-t 男5:1-10)		
○ソイデネー 〔男の子が〕 オミズ カケ テネ アツカイトコニネ ヤルトネ ノ 〔花が〕 ピント ナッタ。〔条件〕(自 -a 男5:8-18)	○〔ほくは〕 イツモ ソコデ オリデネ マガッテ イクトネ/〔そこは〕 ミンナ コウジョウ。(自-t 男5:3-4) 〔はつきりしないが〕		
○ソレヲ 〔鬼は〕「ゼンゼン ヘンナ オ ドリダ」ッテ ユッテサー「キノウ キ タ オジイサンジャナイカラ」ッテ			

2-2.2
SZZ/SZ
[4][2][5]

(S)ZZ/SZ
[1][3][1]

(S)ZZ/(S)Z
[5][2][]

2-2.3 SZZ/SZZ [4]2[1]	ユッテサ ソイデサ ソノ コブヲ ツ ケテ ポンテ リョウホウニ ツケ チャツカラ／ソイデ [おじいさんは] カエツチャツタノ。[っていったの] [説 明] (赤-w 男6:3-24)			
	○ソレデ カメガ ノボッテ「イットウ」ッ テ イッタラ／ウサギハ メヲ サマシ テ ナイデ カエリマシタ。[前提] (赤 -s 男6:6-20)	●ダケド ソノ ネ アルート イウ オトコノ コガ イデネ チ [つ] カ マツチャツテネ [ので]／ボバイガネ タツケニ キ キテ ホウレン (ツオ) ホウレンソウ ネ タベテ [たら] チカ ラモチ ナルノ。[なったの] [説明] (赤 -g 女4:8-7)	○ソイデネ コノ ライオン コノネ コツチノ ライオンハネ ツカレデネ ココデ ネテデネ／ソイデネ コノ シ マウマタチガ [は] ココニ アツマッテ ネ マアルク ナッテンノ。[状況説明] (神-三男4:0-38)	(注)接続詞 の項で述べ るが「て」 ですむとこ ろに「そう して」を入 れている。
SZZ/(S)ZZ [4]1[]	○ソシテネ オボウサンガネ トオッテネ タスケテ クレテネ[ので]／[孫吾堂は] ケライン ナツテネ ソウシテ (注) ワ ルモン ヤツツケタリ シテネ ナン ダツケ インド インドマデ イッタ ノ。[理由と前提] (赤-u 男6:5-14)	○オトコノ コガネー アサ オキテネー コノ オハナヲ [に] ネー ミズ カケ ニ キタラネー／[木は?] ドンドンド ンネ ノビテ イッテネ オハナン ナッタ (ノ)。[前提] (自-h 女4:7-14)		
(S)ZZ/SZZ [1] [] []	○アサネー [ぼくは] パラシュート カッテ キテネ ソイデネー パラ シュート ソトデ トバシテタラネ／ヨ ンジュウニゴウカンノ コガネー (ト ブバイ) スルカッテ キテネー キタ ノネー。[前提] (赤-w 男6:3-9)			

2-3 主語三つからなる構文

2-3.1

SZ/SZ/SZ

[19][6][2]

○ユミガネ オバアチャントネー ナンカ
カイニ イッテネ オネエチャンハ
ガッコウ イッテネ/アトハ ボクネ
ケンチャン カシマ ケンチャントネ
アソんでタノ。〔状況説明〕(自-a 男5:8
-3)
○カメサントネ ウサギサンガ カケッコ
シテテネ ウサギサンガネ ソウイウ
トコニ ネテ ソノ ヘンナ トコヘ
ネテ〔ので〕/カメサンガ ドンドン
サキニ イッチャッテ イットウショウ
ニ ナル。(赤-a 男5:11-21)

SZ/SZ/SZ

[4][5][3]

○ハジメネー ライオンガネー エサハ
ナイカナッテ サガシテネー〔たら〕シ
マウマカ イタカラネー/〔ライオンは〕
カケテ イッタノネー。(赤-c 男6:3
-21)

SZ(SZ)/SZ

[6][1][1]

○ソノ トキ ミンナ〔が〕ペンキ スッ
タリ シテ〔ので〕〔へやが〕ピカピカ
ナッチャッテネ/ソレデ オカアサント
オトウサント ショウチャンダチネ
ビックリシチャッタノ。(赤-x 女6:2
-12)

(S)SZ/SZ

[3][][]

○〔人か〕ミズヲ マイテ〔たら〕オテント
サマガ キテネ/ハナガネ パット ヒ
ライタノ。(自-e 女5:7-20)

○ネズミガ イテネ ソイデ (コー) ク
マガ イテ/ソイデネ クマガ ネズミ
ネ オイカケテンノ。〔前提〕(自-o 男5:
4-8)
●チマウ ライオンガ 「ワーッ」テ ユッ
テネ〔ので〕チマウマガ ニゲ、カラ〔逃
げたから〕/ライオン オイカケタノ。
(赤-g 女4:8-11)

○(ソレ)デ クマチャンガ 「マッテー」ッ
テ イッタラ ダンプカーガ キデサ/
〔二匹か熊かが〕「アイタタター」ッテ
シチャッタ(ノ)。〔ぶつかった意〕(赤-f
女4:10-13)

○ソシテネー ヤネノネ ヤネハネー
チョコレートダカ(ラ)ネ 〔ヘンデルた
ちは〕ヤネノ チョコレート タベテ
ネ〔たら〕/ソシテネ〔すると〕マホウ
ツカイノ コエガ キコエタノ。(自-h
女4:7-9)

○クマガ イテネ ソイデネ チイチイ
チャーッテネ ネズミガ イテネ/クマガ
ネウイ ネジユミヲ ミツカッタノ。〔み
つけたの〕(神-大男3:11-12)

○ソウシテネー シマウマガ ココヘネ
イッピキ イテネ ライオンガ ココヘ
イッピキ イテネー/〔しまうまは〕コ
ウネー オクチャラネー ソレト エート
アイテンノ。〔状況説明〕(小-相男4:4
-16)

○ハシニ〔が〕アツカカラネー〔やぎが〕
ワタロウト オモッタラネー/シタニ
ネー ワユイネー……ワユイ ワユイ
ウー (メヤ)ガ〔トロル〕シェンデ
イタノ。〔物語〕(神-狗女4:3-14)

○第1と第
3のSが同
じのもあ
る。
○SZには
SZZの場
合もある。

SZ(S)Z/(SZ) <div>511</div>	○ボウヤタチガ ミズン ナカニ イタ ^ラ ^ラ 〔はやたが〕ハイッ ^タ ^ラ ／〔それは〕 タキノ ミズ ダッタンダヨ。(赤-w 男6: 3-14)	○ココニネ アセモガ デキ ^テ ネ〔わたしは〕 カイクッ ^テ (モ)ネ〔かけないように?〕 テ ^ー ア ^ラ (ハ)シテ クレ タノ。(はっきりしないが)(神-佐女3:7 -6)
(S)ZSZ/(SZ) <div>412</div>	○ソシテ〔人が〕オミズ アゲ ^タ ^ラ ネ オヒサマ ハレ ^ダ ッ ^タ カ ^ラ ネ／〔花が〕 ピント ナッタノ。(赤-r 女5:10-13)	○ソイデ〔二匹が〕オオドリニ デ ^タ ^ラ ネ ダン ^プ カーガ キ ^テ ネ／〔二匹は〕ベッ シャンコ ナ(ッ)チャッタ。(自-t 男5: 3-25)
(S)Z(S)Z/(S)Z <div>611</div>	○〔うさが〕「ドウシ ^テ ネ ソイ ^ジ ヤ ソナニ ノロイ ^ノ 」ッ ^テ キイ ^タ ^ラ ネ 〔かめが〕「ムコウノ オヤマノ マワリ ネ カケ(グルミ)シヨウヨ」ユッ ^テ ネ／ (ト)ネ〔二匹は〕カケッ ^コ シタノ。(自 -o 男6:3-12)	
2-3.2 SZ/SZ SZ <div>661</div>	○イヌガネ ネズミノ コト オイ ^カ ケ ^テ ネ〔たら〕／ソトニ ネズミガ トン ^ダ ^ケ ド イヌハ トベナ ^カ ッタノ。〔前提〕(赤 -v 男6:1-13)	○ソイデネ マグネックス ト ツジ ^ン ト (キョビ ^ー) ロボット〔が〕タタ ^カ ッ タ ^ラ ／マグネックス ト (テリ ^ー) ド ボット ヤ ^ラ レ ^テ ネ ツジ ^ン ダ ^ケ ヘ イキ ^ダ ッタノ。〔原因〕(赤-t 男5:1-16)
(S)Z/SZ SZ <div>111</div>	○ムカシムカシ〔おじいさんと〕オバ ^ア サ ンガ イ ^テ ネ／オジイサンハネ ヤマヘ タッキギ ^ヲ トリニ イッ ^テ ネ オバ ^ア サンハネ カワヘ セン ^タ クニ イッ ^タ ノネ。(自-h 女5:7-11)	○ソレカラネ シマウマガネ ダ〔ラ〕イ オンニネ〔の〕ソバニ ヨッ ^テ ネ／ダイ オンガ オコ ^ル 上 シマウマ ニ ^ダ ン ノ。(自-c 男4:7-12)

○第1のS
と第3のS
が同じ場合
もある。
○SZ=S
ZZの場合
もある。

2-3.3 SZZ/(SZ)/SZ [3][2][]	ツケタカッタ ママ ミテテ サトシ ムコウノ トノ テレビノ アル ハン タイガワノ レコードガ アル ホウニ イツ イッテ アソンデンノ。サンカ シテ;〔補足〕(赤-a 男5:11-18) 〔前の「サトシネ」は、前部分のSとも〕	○クマサンガネー ネズミヲ オイカケテネ オオドオリマデ キテネ/ネズミサンハ ワタツタカラ ヨカッタ(ケド)/クマサ ン アツカッチャッタノ。ジドウシヤニ; 〔補足〕(自-v 男5:7-17)	○クマノ ウチニネ ネズミガ キテネー ナニカネ トッテ イッテネ(の)ノ/ク マチャンガネー オイカケテネー〔たら〕 (デ)ズミガネー ドラックノ ウエニ ノックアッテ イッチャッタ。(自-h 女4:7 -15)	○はじめの 文は状況の 説明多し。 中間の部分 が後の文の 理由になっ ている。 ○SZ=S ZZの場合 もある。 ○第1と第 3のSが同 じのもあ る。
SZZ/(SZ)/ SZ	○ウサギト カメガ ヤマニ ノボロウッ テ イッテ キョウソウシテ、ノソシテ ウサギ ネチャッタカラ〔て〕オキテ ミタラ/カメサンガ ノボッチャッタ ノ。デッペンマデ;〔補足〕(赤-m 男5:10 -22)	○アノネ ウサギガサ カメガ「アソコノ オヤママデ」ッテ ユッテ キョウソウ シタラ/ウサギガ カタイ カッタカラ 〔からそうだったから〕モウ スグダカ ラサ ネチャッテ ソレデ カメハ カ メガ イットウン ナッタノ。(赤-o 女 5:1-10)	●ソウシテネー オジイサンガ カエッテ キテネ キロウト シタラ/〔桃は〕ヒ トリデニ ワレテ モモタロウガ デテ キタノ。(赤-e 女4:9-6)	
SZZ/(SZ)/ (S)Z		●ソレデネ オバアサンモ ホチイト オ モッテネ イッタラネ/〔おばあさんは〕 ウソチュキタカラネ、ダカラ〔舌切雀は〕 オバケ オバケ ハイッテルネ ハコヲ クレ〔あげ〕タノ。(赤-g 女4:8-9)		

<div>(S)ZZ/(S)Z/</div> <div>SZ</div> <div>11</div>	<div>○タクシー ノッテネ デン〔ほくは〕 コ ノ マエ イッタ トキネ デンシャ ノッテ^ニネ ドツチ〔?〕 イッ^テネ/パ パネ オウ カイシャノ オウチ ハイ ッ^テネ/ボク シャ シャシン トッテ モラッタノ。(自-a 男5:8-2)</div>	<div>○ソレデ 〔男の子が〕 アッタカイ トコ ニ イッ^テ オヒサマデ ア タマセル カラ/〔木は〕 マタ ドンドン ノビ^テ キレイナ オハナガ サイタノ。〔咲く の〕 (赤-f 女4:10-12)</div>
<div>2-4 主語四つからなる構文</div> <div>2-4.1</div> <div>SZ SZ SZ/ SZ</div> <div>2-4.1.1</div> <div>332</div>	<div>○ウサギサンガ サキニ ハシッテ^テネ カメサンガ アトカラ^キテネ ウサギサ ンガ ネチャッ^テネ/カメサンガネ カッタノ。(赤-x 女6:2-18)</div>	<div>○ソコニ シマウマサンガ キテネ ハッ ト ライオンサンガ キガツク^ト シマ ウマガ ウマガ ニゲ^テネ/コンド ラ イオンサンガネ オイカケタンデスッ テ。(赤-p 女5:2-9)</div>
<div>641</div>	<div>○ライオンノ ホウガ^{〔チュ〕} ヨイ/ニネ 〔くて〕 コツチガ ヨワイ/ニネ 〔ライ オンガ〕 ニゲテ イクカラ/〔しまうま が〕 ワラッテンノ。(自-b 男6:0-29)</div>	<div>○ソイデネ (コウシ)ッテ ウマガ ナイ テネ イヌモ ナイ^テネ ネコモ ナイ</div>
<div>641</div>	<div>○ライオンガネ シマ^マラネ シマウマガ ノ〔の〕 トコ イコウト シタラネ シマウマガ ワラッ^テネ ソレデ 〔ラ イオンが〕 イッタ^ラネ/〔しまうまが〕 オイカケテ キタノ。〔逆から絵をみてい る〕 (赤-o 女5:1-9)</div>	<div>○カメガネ ウサギガ サキニ ドンドン イッ^テネ ソイデ カメガネ ノロノロ イッ^テネ ソイデ ナンカネ ウサギガ ドツカデ ヒトヤスミシ^テネ/カメガ サキニ イッ^テネ イットウシヨウ ナツチャウノ。(神-三男4:0-39)</div>
<div>641</div>	<div>○ソレデネ 〔男の子が〕 ミジュ アゲ^テ ネ 〔花が〕 カレ^テネ 〔男の子が〕 ミ ズ アゲルトネ/マタネ 〔花が〕 マッ チュグニ ナンノ。(神-古男4:5-21)</div>	<div>○主語のそ ろっている もの多し。 ○時間的順 序、理由・ 原因なども ある。 ○S1とS 3=S2と S4 ○主語のい ずれかがあ らわれてい ないものの。</div>

2-4.2 SZ/SZ/SZ [21]	テネ／ミンナ ナイタノ。(自-d 女5:11-21) ○ソイデネ オセンタク オワッテ キテ オウチニ あざんが) カエッテ ソイデ オジイサンガネ ヤ イッテネ カエッテキテネ／ワロウト シ マカラ アカンボウガ ウマレタノ。(自-o 男6:3-8)〔二人で?〕 ○ソンデモ〔桃太郎は〕イクツ(テ) ッ タラネ オジイサント オバサンハ オ バアサンハネ「ソナラ イッテラッ シャイッ」チュッテ／オバアサンハ キ ミダンゴラ ックッテ オジイサン モ モタロウノ ハタラ ックッタノ。(自-u 女6:5-19)	○カメサント ウサギサンガネー アッテ ネー カメサンガネー カ ムコウノ オヤママデ カケッコ ショウッテ ユッテ／デ カメサンニ スコシ ウサ ギサンノ ホウノガ カッタケドネー トチュウデ ウサギサン ネチャッタカ ラ カメサンノ (ホウ)ガ イットウニ ナッタノ。(自-d 女4:11-11)	○前の部分 が状況、後 が原因、結 果。 ○主語なし も含む。
SZ/SZ/SZ/SZ [11]	○カ(ケ), ウサギサンガ 「カケッコシ ヨウ」ッテ ユッテサ／ウサギサン〔ノ〕ガ イチバン ハヤクッテサ カメサン ノロツペデサ〔のに〕 ウサギガ ヒルネ シュル アイダニサ カメサンガサ テ ッペンマデ ノボッチャタンダモン。 (自-t 男6:2-26)	○オカアサンガネ ゴハンネ タイテテネ / シュエーパジエッターガネ オワッタラ ネ ソノ チュギネ バビーガ ハジ マッテネ バビーネー バビート〔を〕 オトウチヤント ミタノ。〔関連おかしいが〕(自-k 男4:8-11)	○前の部分 が状況 説 明、中間の 部分が最後 の文の条 件。
2-4.3 SZ/SZ/SZ/SZ [11]	○デネ カッ ネズミヤ ウマヤネ カボ チャヤ ソ (ウ)イウノガ アッテ／カ ボチャハ バシヤニ カワッテネ イヌ ハネ ウマニ カワッテ ネズミハ		

ギョシャニ カワッチャッタノ。(赤-p
女5:2-13)

2-5 主語五つからなる構文

SZ/SZ/

SZSZ

1

SZ/SZSZ

SZ/SZ

1

SZ/SZSZ/

SZSZ

31

○ココニ ライオンガ イテネ、ソシテ
シマウマガ キテ、シマウマノ アトネ
ライオンガ オイカケテ／シテネ ライ
オンガ ヒックリガエツテネ シマウマ
ガ タクサン ア シマウマガ タクサ
ン イルノデネ ライオン ヒックリガ
エッタノ。(赤-w 男5:3-9)

○ウサギサント カメトネ カケアシシテ
ネ／ウサギサンガ サイシヨ イテネ
カッテ カメサン オソイノデネ ウサ
ギサンネ ヒトヤスミシテタラネ／カメ
サンガネ サキニ イッチャツテネ カ
メサンガ カッタノ。(自-j 女5:7-12)

○ガリバーガネ サンニンノネ コドモヲ
ツレテ フネニ ノツテネ ガリバー
ネムク ナツテネ {ねて}／{人が} オモ
タイカラネ フネガ シズンジャツテネ／
コドモハネ ナカデ シンジャツテモネ
ガリバーダケネ ムコウデ ネチャッタ
ノ。(赤-n 男5:2-6)

○ボウヤガネー オハナニネ ミズ アゲ
テネ／{ *}チット タッタラネ オハナ
コノ ミズガネ アツク ナツテネ{の
で}／マタ ソコニ オイテ アッタ ミ
ズヲ {男の子が} カケタカラ {花が}
カレチャッタン。{はっきしらない} (自
-v 男5:7-17)

○ウサギト カメガネ カケッコシテネ／
ウサギガ カツテ カメガ マケテネ／
ウサギガ ネタラネ カメガネ ドンド
ン イッチャツテ、カッタノ。(赤-n 男
6:2-12)

○Sのあら
われていな
い構文も含
む。
○前の部分
が状況説明
で後の部分
が原因、結
果をあらわ
すもの。ま
た、前の部
分が時間的
順序をあら
わすものな
どがある。
○主語六つ
からなる構
文は2-7.3
に入れた。
{ *} = 天候、
時をあらわ
す。

SZSZ/SZ/ SZSZ [2][1][]	○ソシテネー アルヒ センタクヲ オバ アサンガ シテルトネー ムコウノ ホ ウカラ モモガ ナガレテ キテ ネー……/デ オバアサンガ ヒロツテ タベテ ミルトネ オイシカッタカラ ネ…… オジイサンニモ トットイテ ネー/〔おじいさんが〕 ワッタラー ア カチャンガ デテ キ(テ) (自-h女5: 7-11)	○ウサギガ カツタラ〔たときは〕 カメ ガ マケテテネ/ソイデネ ウサギハ ネー ネー ネムクテネー ヒルネ シ テネー/ソレデネー カメハ サキニ イッテ カメノ ホウガ カッタノ。(自 -b男5:1-11)	
-------------------------------	---	--	--

2-6 題目語をもつ構文

2-6.1 題目語 をもつもの $S/\frac{S \sim Z}{Z}$ [7][4][]	○コレハ クマト ネズミト〔が〕 オイカ ケッコ シテデサー ドウロノ マンナカ ニ デチャッタラサ/トラックガ ト、 キテサー キーッテ キュウテイシャ シタノ。(赤-w男6:3-31) ○シエナンドーテネ ユキガ フッテネ タロ(ウ)ト ウマト イッショニアル イテネ ドッカ コヤガ アツタカラネ トマッタ(ン)。(白-b男6:0-24)	○コレハネ クマサンガネ ネズミガ イ テネ〔ので〕 ソレ オイカケテネ〔た ら〕/クマガネ ジド バスドウリニ キ テ ダンブカーニ ヒカレソウニ ナッ タノ。(赤-w男5:3-11) ○コレハ ハジメ ネズミサンガ イテネ コンド クマサンガ キテ ネズミサン ガ アマリ オオキイノデネ ラ クジ ラカト オモツチャッテ ニゲテ コン ド クマサンガ オイカケテ キト ラックガ キテネー キャーッテ ネズ ミサンガ イッテ ウシロカラ クマサ ンノ ウシロカラ トラックガ ドカア ント ブツカッチャッタノ。(赤-p女5: 2-17)	○ $\frac{S \sim Z}{Z}$ の 形式には $S \sim Z, S \sim Z$ Z の形式も含 まれる。 ○「これは ?」という 質問に対す る答が多 い。
---	--	---	---

2-6.2 題目語 をもたないもの

<p>(S)/$\frac{S \sim Z}{Z}$</p> <p>8611</p>	<p>○〔そこは〕 <u>ギガネ</u> <u>イッパイ</u> <u>アッテネ</u>／<u>ハヤシガ</u> <u>アル</u> <u>トコロ</u>。(自-d 女5:11-10)</p> <p>○〔この絵は〕 <u>ソシタラ</u> <u>ライオンガ</u> <u>タベウ</u> <u>ト</u> <u>シタラネー</u> 〔しまうまが〕 <u>ニゲテ</u> <u>イッテネー</u> <u>ソレデ</u> <u>イッパイ</u> <u>イルネー</u> <u>イッパイ</u> <u>シマウマガ</u> <u>イル</u> <u>トコ</u> <u>ツレテ</u> <u>イッチャッテネー</u> 〔ライオンは〕 <u>ビツクリ</u> <u>シテネー</u> <u>アー</u> <u>ソイデネー</u> <u>トバサレ</u> <u>チャッテ</u>〔ので〕 <u>ワーッテ</u> <u>イッカラネー</u> <u>ソシタラ</u> <u>シマウマガ</u> <u>ワラッタ</u> <u>トコロ</u>。(赤-0 女6:1-26)</p>	<p>○ソシテネ 〔これは〕 <u>シマウマハネ</u> <u>ヨロコ</u> <u>ンデ</u> <u>ケドネ</u>／<u>ダイオンガ</u> <u>ネ</u> <u>ツマンナ</u> <u>カッタカラ</u> <u>ヒトリデ</u> <u>ネ</u> <u>ドッ</u> <u>カヘ</u> <u>イ</u> <u>イー</u> <u>ク</u> <u>トコ</u>。(赤-s 男5:6-15)</p> <p>●〔その話は〕 <u>ショウ</u> <u>ウチャンガ</u> <u>デテ</u> <u>ト</u> <u>オニイサンガ</u> <u>デテ</u> <u>キテ</u> <u>オトウサン</u> <u>モ</u> <u>デテ</u> <u>ト</u> <u>オカアサン</u> <u>モ</u> <u>デテ</u> <u>ク</u> <u>ルノ</u>。(赤-i 女5:3-14)</p>	<p>○ソレデネー 〔これは〕 <u>オオカギ</u> <u>オオカミガネー</u> <u>オオカミノ</u> <u>シッポ</u> <u>ニネ</u> <u>チヨウ</u> <u>ウチヨガ</u> <u>ノッカッテネ</u> <u>クチュク</u> <u>チュ</u> <u>シテ</u>／〔おおかみが〕 <u>ワラッテ</u> <u>ル</u> <u>トコ</u>。〔はっきりしないが〕 (小-神女4:1-13)</p>
<p>2-7 その他の構造からなる文</p> <p>2-7.1 文中に主語をもつ節の含まれる文</p> <p>2-7.1.1 主語一つからなる文</p> <p>6□□</p>	<p>●ボク オマツリニ <u>イッカラネ</u> <u>ワタアメ</u> <u>ガ</u> <u>アッタカラネ</u> <u>カッテネ</u>, <u>ソレカラ</u> <u>イッテネ</u> <u>キンギョ</u> <u>ツリ</u> <u>ヤッテカラネ</u> <u>イッテ</u>, <u>ソイカラ</u> <u>キヤラメルガ</u> <u>ノッ</u> <u>カッテテ</u> <u>ソレガ</u> <u>マワッテテネ</u> <u>ネッ</u> <u>ポウデネ</u> <u>ウッテネ</u>, <u>ボク</u> <u>イッコダケ</u> <u>キヤラメル</u> <u>トツケド</u> <u>アト</u> <u>ハズレ</u> <u>ダッタ</u>。(自-c 男6:3-1)</p> <p>○〔わたしたちは〕 <u>ウタヲ</u> <u>ウタッテネ</u> <u>ソレカラネ</u> <u>オユ</u> <u>ハジメハネー</u> <u>オハヨ</u> <u>ウゴッコ</u> <u>シテ</u> <u>ソレカラネー</u> <u>センセ</u> <u>イガ</u> <u>キタラネー</u> <u>シマッテネー</u> <u>ソレ</u></p>	<p>●ソイデネ 〔ぼくが〕 <u>ブー</u> <u>ナラシテ</u> <u>モ</u> <u>ネ</u> 〔友だちが〕 <u>デテ</u> <u>コナイカ</u> <u>ラ</u> <u>モイ</u> <u>チド</u> <u>ヤッテ</u> <u>ミタラネ</u> <u>マダ</u> 〔友だちが〕 <u>デテ</u> <u>コナイカラ</u> <u>カイ</u> <u>シャ</u> <u>イッタノ</u> <u>カナート</u> <u>オモッテ</u> <u>サ</u> <u>ッ</u> <u>キ</u> <u>アノ</u> <u>カエッ</u> <u>チャッタノ</u>。〔帰ってきた〕 (赤-1 男4:8-3) (注)</p>	<p>○$\frac{SZ}{Z}$-を 含むもの。 ○主語のあらわれていない構文も含む。 (注)問題があるがここに入れてみた。</p>

2-7.1.2 主語
二つ以上か
らなる文
[5][1][1]

カラ タイソウ シ _テ ミンナ コウシ ンシ _テ ネー オヘヤニ ハイッ _テ ネー オウタヲ ウタッ _テ ネー ソレカラ オ ナマエヲ ヨン _デ ネー〔もらって〕 ソレ カラネー オ _デ ラヘ イクノ。(赤-k 女 6:2-10)			
○ダカラネ {シン _デ ラは} イコウト シ タケドネ オカアサンガ〔に〕ネ 「ダイ ドコロヲ キレイニ シナサイ」トカネ イイツケラレチャッ〔て〕タカラネ ソノ コトバツカシネ アタマニ アッ _テ ネ ソウイウ コト ワスレチャッタノ。(赤 -p 女6:2-13)	○ボウヤガ ミズ マキニ キタラネ オ ハナガ オレテルカラ オカシイカラ ザーッ _テ ヤッタラ／〔花が〕 タッタ ノ。(SZ $\frac{SZ}{Z}$ ZZ/(SZ) (赤-u 男5:6-10)		○いづれか の単位文の 中に $\frac{SZ}{Z}$ を 含むもの。
○〔僕は〕 ヤマ イッ _テ ネ トンボガ イッパイ イタカラネ カ カ ムシカ ゴ モッ _テ アミ モッ _テ トッタ ト ッ _テ キタラネ／ムシカゴン ナカンネ トンボガ イッパイ ナッチャッタノ。 〔SZ $\frac{SZ}{Z}$ ZZ/SZ〕 (赤-u 男6:5-21)			
○ロケットガネ マグマニ カワッ _テ ネ タタカッ _テ ネ カイジュウガ シニソウ ナッ _テ モ タタカッ _テ ネ／〔怪獣が〕 シ ン _ダ ラネ 〔マグマは〕 マタ カイル。 〔SZ Z $\frac{SZ}{Z}$ Z/(S)Z〕 (赤-n 男6:2-7)			
○ナン _デ オモシロイッ _テ イウトネ ア タシ サチコガネ アカチャンガネ ア ソンドルトキ ジャマシ _テ ネ ナンカ ヤッチャウカラ。(自-g 女5:11-7)	●ソイ _デ ネーエ ドウシ _テ ネ {わたしが} オヤスミ シタカッ _テ イウトネーエ オカアサンガネ チョット ドッカ _テ デカケ _テ ネ アタシ チョット カセギ ミネ、ダカラネ オカアサンガ 「オヤス	○コウ コウレネ {花が} ドウシ _テ コ ウ ナッ _テ カッ _テ チュウトネ コウ マッ スグ ナッ _テ タノガネ カレチャッ _テ コンナ ナッ _テ チャッタノ。〔SZ/SZZ〕(紳 -三男4:0-41)	

2-7.2 提示的
単位文をも
つ文
[1][1][1]

2-7.3 一文で
話そうとし
「～て～で」
となる文、
他
[14][8][3]

ミニ シナサイ」 ッタカラネ (わたし は) オヤスミ シタノ。(S)Z/SZSZS Z/(S)Z (赤-q 女5:2-6)	○ソイデネ ウサギサンガ トットコ トットコ イッチャッデネ ソイデネ カメサンネ ココデ ノロノロ ノロノ ロ アルイデッデネ コンド ウサギサ ン チカレデネ ノロノロ ノロノ シデネ コンド カメサンガ トットコ トットコ アルイデネ ソイデ ウサギ サン ノロノロノロ シデデネ (イッ タトキ) トットトットトット カメサ ン ハシッテ イッチャッタノ。(赤-t 男5:1-13)	○ソイデネ ウサギサンガ トットコ トットコ イッチャッデネ ソイデネ カメサンネ ココデ ノロノロ ノロノ ロ アルイデッデネ コンド ウサギサ ン チカレデネ ノロノロ ノロノ シデネ コンド カメサンガ トットコ トットコ アルイデネ ソイデ ウサギ サン ノロノロノロ シデデネ (イッ タトキ) トットトットトット カメサ ン ハシッテ イッチャッタノ。(赤-t 男5:1-13)	○ライオンガ/大きい声でね/イデー/ラ イオンがいて/シマウマガ/大きい声 でね/オリデー オク シマ シマウマ ガ オクチヲ アイデー シマ- シマ ウマ シマウマガ- コッチヘ イッ デー ライオンガ- オイカケテ コッ チヘ イッデ-/そんで?/イッデー ココヘ シ シマ シマウマガ イッパ イ イデー ライオンガ コウイウニ ナッタノ。(小-相男4:4-16)	○六つ以上 の主語から なる文も含 まれている。 る。
--	---	---	--	---

2-7.4 会話文
のはいる文
[3][4]

○ソンデネ 「オコシニ ツケテンノハ ナンデスカ」 ッ チュッデ 「キミダン ゴ」「ワタシニ シトツ クダサイ」 ッ チュッデネ 「ソノ カワリ オニタイ ジニ イクカ」 ッ チュッデ 「ハイ オトモ シマス」 ッ チュッデネ キミ ダンゴ ヒトツ モラッタノ。(自-u 女 6:5-20)	●アルイデタラ キジガ トンデ キデネ 「モモタロウサン モモタロウサン ド コニ イクノデスカ」 ッデ 「オニタイ ジニ イクンダヨ」(ッデ) デネー 「 イッショニ イッテモ イイデスカ」「イ イトモ ツイテ オイデ」 ッデ イッテ ネー オダンゴ イッコ アゲチャッタ ノ。(赤-e 女4:9-7)	○ソイデネ ソコヲ ワタル(ト) チビヤ ギノ ガラガラドンガ サイショニネ イチバンニ キデネ トロルガ 「ダレ ダ」 ッデ イッデネ 「チビヤギノ ガ ラガラドンデス」 チュッデネ 「オマエ ヲ ヒトノミニ シデ ヤルゾ」 チュッ	○年中には 対象幼児に よい例がみ られなかつ たので補助 資料の例を
--	---	--	--

2-7.5 一つの
物語を一文
で話そうと
して長文に
なったもの
[5][1]

○マイニチネー オセンタク シタリ シ ゴト シタリネ シデデネ オネエサン ト オカアサンタチネー アソンデ バツカシ イデネー オシロツカラネー オテガミガ キデネー オネエサンタチ ネー キレイニ シデネ イッチャッデ	●オバアサンガ……カ……オバアサンガ カワデ オセンタク シデタラ オ オ センタク シデデネ, オジイサンハ ヤマ ヘ シバカリニ イッテ, ソウシテ…… ソウシタラ オバアサン トコロヘ オ オキナ モモガ ナガレテ キデ ソウ	○ソイデネ ソコヲ ワタル(ト) チビヤ ギノ ガラガラドンガ サイショニネ イチバンニ キデネ トロルガ 「ダレ ダ」 ッデ イッデネ 「チビヤギノ ガ ラガラドンデス」 チュッデネ 「オマエ ヲ ヒトノミニ シデ ヤルゾ」 チュッ	○年中には 対象幼児に よい例がみ られなかつ たので補助 資料の例を
---	---	--	--

<p>ネー シンデレラ キ、ルモノガ ナイ カラネー オルスバンデネー マホウツ カイノ オバアサント、ガネー キテネ カボチャツ チュウ カボチャヲネ バ シャニ シテネー シロイ ネズミヲネ ウマニ シテネー シンデレラネー バ シャニ ノツテネ オシロニ イツテ ネー カエル トキニネー カタホウノ クツネー オ ヌゲチャツテネー シロ ンナイデネー オウチ カエツチャツテ ネ ケライタイチガネー マチジュウノ ネー シメ オンナノ ヒトニ ハカセ テネー シンデレラノ ウチニモ キテ ネー オネエサンタチ ハ ハイタケド ネー オオキイシ アシガ オオキスギ テネー ハイナクテネー シメガ ハイ タラネー ハイ ピッタリダッタカラ ネー オウジサマトネ ケツコン シテ ネー ソイデ オシマイ。(自-j 女5:7 -8)</p>	<p>シタラ オバアサンガ ヒロツテ オウ チへ モツテツテ ホウチヨウデ キッ テ ソウシタラ ナカカラ アカチャ ガ ウマレテ キテ ソウシテ…… オ サカナヲ タベサシタリ ゴハン タベ サシタリ ソウシテ オオキク ナツテ ソシタラ ニッポンイチノ ハタヲ ツ クツテ ソウシテ キビダンゴヲ ツ クツテ…… ソウシタラ オニタイジニ イツテ モモタロウ オニン トコロ ヲヤツツケタノ。(神-師 女4:11-7)(注)</p>	<p>テ 「オット タベナイデ クダサイ。 モット ボクヨリ モット オオキイ ヤ ギノ ガラガラドンガ クル」「ソレナラ マッ トットト キエウセロー」 ッテ イッテネ コンド ニバンメヤギノ ガ ラガラドンガ ヤツテ キテネ、ソイデ 「ダレダ オレノ ハシヲ カタコト ガタゴト サセル ヤツハ？」 チュウテ ネ 「チビヤギ ニバンメ ヤギノ ガ ラガラドンダー」チュウテ 「ソノ ヒト モ ヒトノミニ シテヤルゾ」 ッテ ユツテネ ソイデネ 「モット オオキ イ ヤギノ ガラガラドンガ クルッ」 チュウテネ 「トットトネ キエウセロ」 チュウテネ ドンデン イッテネ コノ アトデ モウ ヤツテ キタノガネ オ オキイ ヤギノ ガラガラドンガネ キ テネ 「イッタイゼンタイ ナニ モノ ダー」 ッテネ ユツテネ トロルガド ナリツケタラネ オオキイ ヤギノ ガ ラガラドンダー」チュウトネ ソレハ ガラガラゴエダッタノ。(神-三男4:0 -43)</p>	<p>○「会話文 のはいる 文」とも言 える。</p>
<p>○〔わたしは〕〔妹と〕 ワカレテテネ ソ イデ アソプトキモ アルケド トオイ デショウ、ダカラ アソベナイノ。(赤- x 女6:2-2)</p>	<p>○デパー ウチ オヤミスダカラネ 〔わ たしたちは〕 デパー ト イッテネ ソ コニ コウエンガ アンデショウ、ソコ デネ アソンデネ デパー ト デネ ナン カ オヨウワク カツテ キタノ。(自</p>	<p>○ハナヤガ アツツ トリヤガ アツツ ソノ ヨウワクヤガ アツツ ソノ ツ ギニ タ トリヤノ マエニ タバコヤ サンガ アルデショ、ソコーネ ソコノ ネ ソノ トナリガ ボクナチ。(神-三</p>	<p>○文のみで なく、単語 や節を含 む。</p>

2-7.6.2 「だよ」挿入 [8]2	○ソレデ ソノ オトコノ コノ ママガ サ イナク ナツチャツテ ママガ イ タンダヨネ シンデタンダヨネ ソ(イ) デ ニンゲン モドシチャッタノ。(白-g 女5:11-14)	○テレビネ アカチャンガ イルカラネ アルクンダヨ、ソレデ モウ オオキイ カラネ ソコヘ シタニ オイトクトネ サワルカラネ タカイ トコニ アゲテ ミテンノ。(赤-a 男4:11-7)	男4:0-30)	○ソイデ オネエサンガ イテネ、ヒュウマクンニ、ソノ ヒトガネ イツモネ ウイツモ デテ キテネ オワリノネ ナンデタン トキハネ ヒューマノネ ナンデモ ワツタリナンカ シテンノ。(神-三 男4:0-33)	○欠けている成分の補足, 言いなおし。
2-7.6.3 単語や句を補足する挿入 [7]31	○キュウチャンガネ ショウチャンニネ 「テレビガ キタヨー」ツテ ミテデネ、フタリデ、ソンデネー キュウチャンノ オトウサンガネ 「ダメダ」ツテ ユツテネ ジブンモ ミテルツテネ オカアサンガ チュウイ シタンダツテサ。〔後文それ〕(白-h 女5:7-8)	●クマサンガネ ネズミ ミツケテネ コニ キトラ ネズミガネ トビダシタカラ ジドウシヤニネ クマサンガ ネズミヲネ タスケヨウト シテネ トビダシタラネ ジドウシヤニ プツカッチャツテネ ネズミガ トビアガッチャツタノ。(赤-e 女4:9-15)			
2-7.6.4 節を挿入 [4]	○ソシタラネ スグ ソバニ パンヤサンガ アルカラ [ぼくは] パン カツテネ サキ タベテ オウチ カイッタラスグネ オフトン ヒイテ、オフロ(へ)イク トキモ イク トキモ アルヨ、ソンデ ネテネ ママタチハ ジュウイチジ ジュウニジマデ オキテンノ。(白-u 女6:5-9)	●ソノ カエリニ ミツコシ ヨツテ、ソノ カエリニネー ウチビ ウチ アタシノ オウチ コワシテネ ビル ツクルノ、/そう。/ソノ ビルニ ヨルノ、ヨッタノ。(小-野女4:9-5)(注)			(注)一文と言えるか疑問。
2-8 不明文 2-8.1 内容不明 [49]2717	○……デンシヤデネ ウチ カエツテ キタラネ… ボクガネ マドノ ホウデネ デンシヤガ キタラネ ボクネ スワツテ タツテタラネ スワツチャッタ。(白-l 男6:0-5)	○ソシテネー コウ イウ セミヲ キツテネ ソシテ アメ コウ イウ フウニ ヤツテ マツチノ ボウ ウラニ ツケテ ポント ヤツタラネー ハイルヤツ。(赤-s 男5:6-7)	○ウ(ル)トラセブン アレ ツクツテネ タイアンモ チュクツテ テネ アレ ビーポー ビーアネ デンキジュウト シュウツ アレ ア ハシ ン ドゴ アレハネ フタガ ナク		

2-8.2 ごたごたと話して統一性なし [9][13]	○オカヤマデネ ナンカネ ドッカ イッタトキネー ソレデネ キノウハネ [わたしは] オ オカヤマヘ イカナイデ アサクサニ イッテネ ソレデ ゴルフノ ツギ アサクサヘ イッテネ アサクサノネー オマイリスルトコガ イットウ オモシロカッタ。(赤-k 女6:2-7)	○シヨイデネ スイトウ モッテ イッテネ コンドネ スイトウ モッテ イッテネ マタネ コンド ドッカヘ アスキノウネ ドッカヘ イクカラネ チュンデネ コウラクエン(ヘ) イッテ キタノ。(自-j 女4:7-13)	チャーネ アレハ ハシンナイノ。(神-場男3:10-9)
2-8.3 主語や補語なしのため内容不明 [7][13]	○デネ コ モウ ヒトリネ テキガ [「正ちゃんに」] イテネ ソノ ヒトモネ オトコノ コガ ヒトリ イッソレデ [「正ちゃん」] アト ミンナ アツメテ キッテネ ソレデ スット マエハ [二人は?] ケンカシチャッタノ。(赤-p 女6:2-11)	○[主語]「チョット コマルッ」チュウッラネ コンド オウジョ オッキイ オウジョ マデネ チッチャク ナッチャッタカラネ フタリノ オウジョニネ タノンダノ。(自-j 女4:7-17)	○[主語] オワレデネ ボッカーンッテ ライヨンガ キッテ オオカミト ライヨン ト ケンカシタノ。(小-加男4:1-10)
2-8.4 構文はよいが内容のおかしいもの [4][1]	○カッチャンガ ボク ^ニ ボクガネー シタオリテ カッチャンガ スッテンコロリン シタカラ ナーングト オモッタカッチャンガ ネテタノ。[合宿のベッドで] (自-k 男5:8-8)	○シンダラ ニュウイン シテ モウ ナオッチャッタノ。ドコモ; (自-s 男4:10-12)	○ソレデネ アミモ アッテネ オシオガ ハイッテデネ アマイノ。(神-古男4:5-5)
2-8.5 前後の文の関連性不明瞭(注) [3][14]	○[おはQは] ピーコノネ ウチノ オウチニ イッテネ オッコチソウニ ナッテ/ソイデサ ホイデ ^ニ ツリー シタリシタノ。(自-s 男5:9-21)	○ブウブウニ ジイチャント バアチャント オベベ キテ/ソシデネ ソシタラネ ソシタラ コウイウ コニ トビダシテ 「アブナイ」ッテ イッタノ。ヒロコガ; (神-佐女3:7-15)	○ブウブウニ ジイチャント バアチャント オベベ キテ/ソシデネ ソシタラネ ソシタラ コウイウ コニ トビダシテ 「アブナイ」ッテ イッタノ。ヒロコガ; (神-佐女3:7-15)

2-8.6 文脈の それ(注) [7][10][7]	○ソシテネ ワルモンガ キタラネ スグ ニ ウォーターシェー トッテ イウノハ ココノ ボタン オスト ピーテ アイ テ ソシテ シュシュット ナゲルトネ ミンナネ シンジャウノ。(赤-m 男5:10 -19)	○(わたしは) ソノ シーソニ ノッテ コンドハ プランコニ ノッテ ソレ カラ コンドハ アタラシイ ノリモノ ガ デキタノ。タコ;(赤-f 女4:10-8)	○ムカシネー ハッパガ(に) ココヘ [咳] デンデンムシガ イテ ワンコガ イッパイ イデー アッ コッチニモ ワンコガ アルヨ。(小-長男3:5-13)	(注)統一性 なしにもは いりそう。
2-8.7 絵に対 する解釈が できている い [5][2][4]	○ソレガネ ソレデネ コッチ イッタラ ネ マタ シマウ(マ)ガ イデ ネ コ ノ コタチガネ オゴライテネ ウチヘ カエッテダネ。(自-n 男6:5-17)	○ソイデ オテンキガ アルカラネー ハ ナ モウ オレナイデネー アタラシイ ネー ハナト トリカエテネー ダカラ ココニ オイデ アンノ。(赤-k 女5:3 -16)	○ソイデネ トンデネ トンダラネ ダメ ダッタカラネ ジドウチャニ タノデ モ ダメダッタノ。(小-佐男4:3-22)	
2-8.8 録音の 聞きとりに くい箇所を もつ文 [9][13][14]	○オカアサンハサ (サキ)ダレカガ サ バケテサ オカアサンガサ ナッテ サー () イタノネ。(赤-x 女6:2 -11)	○コレハネー カジ シュルトキネー コ ロ ココニ ネジュミガ イテ クマガ ツカエヨウト オモツタラ ココカラ ニゲラシチャウ シ... ネズミヲ ニガ シチャツテ ココハ ズット イッチャ ッ ワタツテ イッチャツタ ()。(自 -s 男4:10-26)	○ソシタラネ (ミミガ) アッデネ ジブ ンノ ミミガ () アッデ () テンノ。(神-折女4:3-13)	
3 接続助詞たり、しをもつ文	年 長 (赤羽・自由)	年 中 (赤羽・自由)	年 少 (神谷・小川)	備 考
3-1 ~たり～ たりをもつ 文 ~たり～たり する [29][5][15]	○オママゴト シタリネ オニゴツコ シ タリ テツボウ シタリ スンノ。(自 -u 女6:5-15)	●(お母さんは) イツモネ オツトメ イッタリネ オリョウリ ツクッタリ シテンノ。(赤-g 女4:8-2)	○(ぼくは) ナマイ カイタリネ ホン ヨンダリ チテルノ。(小-金男4:1-5)	○「～たり する」「～た りすること もある」に ついては「単 文の構造

と用法」及び「文末の形式と用法」のところで述べた。
 ○「たり」の一方の欠けているものもある。
 ○「たり」で文末になっている省略文もある。
 (注)文末でまとめる。

(注)これは1つの接続助詞からなる文には入っている。
 ○誤用をあげておいた。

○「たり」でなく「て」ですませてい

○オリガミトカネ アトー ナンカ ツ
クッタリネ ソレカラサ オエカキトカ
 ネ ネンドトカ スル。(2例あり) (赤
 -j 女5:7-6)

～たり～する
 [2][][]

○アレ ヤッタリネ イロイロ スルノ。
 (赤-k 女6:2-11) (注)
 ●ケンカシタリネ ソウイウ フウニ ヤ
 ルノ。(赤-J 女5:8-16)

～たりして～
 [9][][]

○センジャゴツコ シタリシテ アソンデ
 ル。(赤-o 女6:1-5) (注)
 ●ソレカラネ ソトノネ オニワデネ
 プーランコ ノッタリ テツボウ シタ
 リ[して] アソンデル。(自-F 女5:7-3)
 ●ホイクエンハネ スベリダイテ アソン
 デリネ スキップ[したり]シテ アソブ
 ノ。(自-C 男5:11-4)

●オカアサンゴツコツテネ オカアサンニ
 ジュンバンニ ナッタリネ アカチャ
 ニ ジュンバンニ ナッタリネ オネエ
 サンニ ジュンバンニ ナッタリシテ
 アソブノ。(赤-e 女4:9-11)

～たり～たり
 ～たり～
 [1][][]

○ウチ カエッタラネ エホンネ ミタリ
 ネ テツボウ シタリ プーランコ シ
 テネ コウエンニ イッテ アソンデ

その他 11	キタノ。(自-j 女5:7-6) ○ボクネ マクラ カタヅケタリ ナンカ シテトラネ ドンドン ナゲルカラ <u>ボク</u> ネ ココ アッチャッテネ タオレ チャッタ。(自-1 男6:0-8)			る。 ○二つ以上 の接続助詞 よりなる文 にはいって いる。
3-2 しし をもつ文 しし 342	○イツモネ オサンポ イク トキニ ツ レテ [いって] クレルシネ オカイモ ノモ ツレテッテ クレル。(赤-f 女5: 9-2)	○デーモ アルシネ アシモ アンダ。(自 -p 男4:7-10) ○ソウイウ ホン ヨンデ クレルシネ。 (自-t 男5:3-21)	○ソレカラ ニカイニネ チャッチャイ ツ ミキモ アルシ。(紳-鈴男3:6-3)	○年少文末 のみ2例あ る。
ししまとめ 12	○オヤスミデ シュクダイノ イチバン オモシロイカッタ[おもしろかった] コ トノ トキノモ [とぎのこと] アッ タシネ ソレカラ シュクダイガ オ ワッタ[て] オソトデ アソンデ オモ シロカッタ トキモ アッタカラ、イロ イロ。(赤-s 男6:6-4)	○バピーヤ ミテルシネ ジェッターラッ テ ナンデモ ミテル。(自-s 男4:10 -18)		○文末でま とめる。
しし 11	○オエカキヤサ オソトデ アソングリサ シュッセキモ トルシサ、オユウギモ スルシ、タイソウモ スルシ、ソトデモ アソベルシサ、ヨウチエンノ ホウガ イイト オモウナ。(赤-w 男6:3-11)			他の幼児が 「て」を使う ところを「 し」を使っ ている。

第4章 連体修飾語の構造と用法

連体修飾語を、幼児は大体2歳前後の時期から使用しはじめる。そして、大人ほどではないが^(注1)一応就学前には、ある程度複雑な構造も使えるようになる。ただ連体修飾語は、その他の文の要素も同じであるが、語彙と密接な関係をもっているので、語彙の十分な習得が連体修飾語の発達に関連してくる。それ故、形式のみから発達はみられないが、構造の複雑さも発達のめやすとして考えられるので、構造と意味の二方面から幼児の連体修飾語の特色をみていくことにする。

この一部は、『国立国語研究所年報19』（1968）で報告した。

構文論的な面から連体修飾語をみた研究は成人の場合にも少ない。しかし、連体修飾語は、体言^(注2)

(注1) 大久保愛は『幼児のことば』（国土社）に、一児の連体修飾語の発達の過程を述べた。それによると、1歳8か月に準体助詞を使って、パパのものかママのものかの意で、「パパノ？」「ママノ？」と言った。連体修飾語の発芽である。次1歳10か月にも準体助詞の使用がある。「〇〇（自分の名、以下同じ）ノヨ」。そして1歳11か月に所有所属関係をあらわす「〇〇ノ シャシンキ」「〇〇ノ ママ」と使っている。この月にはまた、属性を示す形容詞的修飾語がはじめて使われ、「アカイノ ツクッテ」。2歳になると盛んに使う。「オオキイ バス」等と。また、この時期には、節を含む言い方も使っている。「〇〇ノ ジジ カク モノ」。2歳1か月には「コノ ズボン」とこそあどの修飾が出たり、「ガッコウノ センセエ」という名詞による修飾も使われる。また、「タンポポノ オベベ」と属性を示す名詞修飾が出てくる。2歳2か月には「アカチャンノ トキ」と時の修飾があらわれ、2歳3か月になると「チガウ オバチャン」と動詞をもつ修飾形式がはじめて使われ、「ニャンコガ ヒッカイタ トコ」と節をもつ連体修飾構造で形式名詞を修飾する形をしきりに使うようになる。二語以上の修飾語をもつ形式は「ヨソイキノ ユウエンチノ オベベ」（2歳7か月）「ウラシマサント イウ コエ」（2歳8か月）という順序で使っている。単純な構造が多いが、形式は3歳までにはほとんど出ているといえる。

(注2) 山田孝雄は次のように言っている。『日本文法学概論』753～773 ぺ

「すべて連体格の語はその対象たる体言に対してその観念を限定してその意義をば明確にせむがために附加せしめたる制限的観念をあらわす語にして之が附加せられたるによりて、その対象たる語とこの連体格の語とが一同となりて更に大なる観念団をなすものなり」

また、大久保玲子は「修体文素の指導過程をさぐる」（児言研国語 No.3 1965・2）に、連体修飾語を五つの基礎的な型に分けている。

(1)形容詞文からの変型とみられるもの（形容動詞を含む）

(イ)形容詞について いい天気 しんけんな顔

(ロ)名詞（主語）＋形容詞について 月のいい晩 運動がよいだめ

(2)動詞文からの変型とみられるもの

(イ)動詞について ぬかる道

(ロ)名詞（主語）＋動詞について みんなのいるへや わたしが買う品物

(3)名詞文からの変型とみられるもの この形が一番多いとしている。

うなぎの頭 もずの声

名詞のいくつも重なった形もある。

あなたのそのの草の葉の上

この名詞文では

(A)単位文に還元できるもの ひとつのふとん

(B)単位文に還元できないもの 川の中 の形式の二種がある。これら五つの型が派生、複合されて複雑な連体修飾語をつくるという。

の意味をより明確に精密に表現するのだし、そこで一つの判断が成り立っているのだから、その能力がどのように幼児の場合発達していくかを調査してみることは大切なことと思える。また、連用修飾語とちがって、修飾、被修飾の関係を文の分析とは独立に研究できるので、とりあげてみた。もちろん文の中における連体修飾語の位置、つまり、連体修飾語が補語を修飾するか、主語を修飾するか、述語を修飾するかそのどちらが幼児の場合に多いか、その年齢的発達はどうかなどと調査の対象となる問題もあるが、こんどはその点は調査しなかった。連体修飾語の内部構造をみたにとどまった。

4.1 連体修飾語の構造

4.1-1 一語よりなる連体修飾語の構造

これは注1のところで述べたが最初にあらわれる構文である。どのようなかをあげておく。

一語からなる連体修飾語の例			
形式	年 長（5:5～6:6）	年 中（4:1～5:6）	年 少（3:3～4:7）
体言→体言	<u>ヒマワリ</u> ノ ハナ <u>ネズミ</u> ノ コト <u>コノ</u> オウチ	<u>オネエサン</u> ノ フク <u>オマツリン</u> トキ <u>コノ</u> ライオン	<u>チカテツ</u> ノ シャショウ <u>オハナ</u> ノ トコロ <u>ソノ</u> クギ
形容詞→体言 他	<u>ワルイ</u> ビョウキ <u>タクサン</u> ノ シマウマ <u>イロイロ</u> ナ オハナシ	<u>キイロイ</u> レッシャ <u>カワイソウ</u> ナ コト <u>コンナ</u> ゴホン	<u>アブナイ</u> ハナビ <u>イジワル</u> ナ コ <u>オオキ</u> ナ チャワン
動詞→体言	<u>ショウドクシ</u> タ スプーン <u>ネル</u> トキ	<u>コマッテル</u> カオ <u>ワラウ</u> トコ	<u>アソング</u> ユメ <u>コマッタ</u> コト
副詞→体言	<u>ズット</u> マエ	<u>チョット</u> ウエ	<u>ズイブン</u> マエ

数はあげなかったが、年長、年中、年少にかかわらず体言（名詞・代名詞・数詞など）が体言を修飾するという形式が一番多く、次は修飾部分が形容詞類、動詞、副詞という順になっている。形容詞類はこの種の語彙が幼児の年齢を問わず少ないことが影響して、「わるい」「おっきい」「ちいさい」のことばのみが多くなっている。年少の場合は形容動詞による修飾が少ない。同じ理由と思うが、「この」「こんな」「こういう」などで表現をすまず傾向も見られる。副詞は慣用的なものに終わっている。

被修飾語である体言には、形式名詞である「とき」「ところ」「こと」がよく使われている。

4.1-2 二語以上よりなる連体修飾語の構造

問題の残るところもあるが大きく四つに分け幼児の使用する二語以上よりなる連体修飾語の構造と発達を調べてみる。それぞれに所属する用例は章末に示した。用例は補助資料も含めて、適当なものをあげた。

1 □→□→Nの構造

これは修飾語の部分が二語以上よりなるが、まず被修飾語に近い修飾語が被修飾語を修飾し、次にその全体を他の修飾語が修飾するという構造である。三種類に分ける。

1.1 $\square \rightarrow \boxed{N \rightarrow N}$ — $\boxed{N \rightarrow N}$ の部分が「オトコノ コ」「オトコノ ヒト」のように一語的である。語彙不足のため二語を重ねていう例もある。「エイゴノ カイ」と。これは英語塾の意か。年少ではその例だけだった。 \square の部分には名詞、こそあどと形容詞のもの（形動を含む、以下同じ）がある。

1.2 もやはり 1.1 と同じ構造で、近い修飾語と被修飾語とが結びついて、その全体を遠い修飾語の名詞、こそあど、形容詞、副詞、動詞が修飾するというもの。

近い修飾語と被修飾語の結びつきが密接で、遠い修飾語と近い修飾語との位置を転換することができない。この場合も年少児では三男とb女と鈴男と佐男の四人が使用しているだけである。このうち形容詞的修飾をもつ組み合わせは年少では三男と佐男のみである。年長児には被修飾語に近い修飾語が二語からなるものがある。近い修飾語が副詞や動詞のものは年齢を問わず少ない。年少は三男のみ。「こんな」「こういう」が $\boxed{\text{形容詞} \rightarrow \text{名詞}}$ を修飾する構造は年長、年中に多い。「こんな」「こういう」は、「その」「この」とちがって指示的であるより属性的である。そのせいか年少は三男と佐男のみ。ここで、年少でよく顔を出す三男について注釈をつけておく。年少児でありながら、しゃべったことばは年長児よりも多い。（第1部に全用例出）このような幼児なので、三男しか使えない構造は、年少では使えないかあるいはほとんど使えないとみてもよいのではなかろうか。佐男も複雑な用例のときにあがる幼児である。

遠い修飾語の部分が二語よりなる構造もある。副詞+名詞、名詞+名詞、こそあど+名詞で、前者の例、たとえば「モウ セン」と「フルイ」は似た意味をもっているものだし、年少の例「ジャイアント ロボン トコノ」は「トコ」が不用で遠い修飾語が「ジャイアント ロボノ」の一つとみてもよいものである。こそあどの例「コノ オハナシノ……」は年長にしかない。ともに語彙使用の未熟さがめだち、修飾語の部分を三語以上話すことが少ないことを示している。

1.3 も同じ構造であるが、被修飾語に近い修飾語が形容詞か、名詞でも形容詞的な性質をもっているものである。すなわち、「オモチャノ プラモデルノ センシャ」は「おもちゃの戦車はプラモデル製だ」と言えるし、「オネエサンノ キレイナ ヨウフク」は「お姉さんの洋服はきれいだ」という文の変換とみられるものである。遠い修飾語には名詞、こそあど、および二語よりなるものがある。この構造は例にあげただけで少ない。年少、年中では形容動詞が十分に使えないで、わずかな形容詞で話しているからでもあろうか。また、近い修飾語、遠い修飾語の部分が二語のものが年長にあるが、年中、年少にはない。その二語も、こそあどとか、名詞も「アパートノ トコ」（「トコ」は幼児がよく使用する形式的なもの）のような言い方だったりする。

2 $\square \rightarrow \square \rightarrow N$ の構造

これは修飾語の部分が二語以上からなり、1 とちがって、この二語以上の部分が全体で修飾語となる構造である。

$N \rightarrow N \rightarrow \boxed{}$ の構造のうち、修飾語の部分の $N \rightarrow N$ が一語的な形式は年少児にない。これは一語的と述べたが、子どもと大人の区別を意識したり、男と女を区別してことばで示しているので、むしろ発達であろう。前にも例があった。

その他、修飾の部分の構造が、 $K \rightarrow N$ 、 $A \rightarrow N$ 、 $Ad \rightarrow N$ 、 $Ad \rightarrow A$ 、 $V \rightarrow N$ とあり、年長、年中、年少を問わず非常に多く使っている。特に $N \rightarrow N$ 、 $K \rightarrow N$ 、 $Ad \rightarrow N$ の構造は多い。 $A \rightarrow N$ の

構造もわりに使用しているが、年少の場合は形式名詞を修飾する構造（形式名詞を修飾する構造がいずれの場合も多い。この構造が先に出るようである。）で、村女ひとりのみ。 $V \rightarrow N$ の構造は、年長のみ三例で、年中、年少は使用していない。動詞連体形の使用は一語の修飾語の場合も少なかったが、そこでは年少も使用していた。

前の部分が三語からなっている構造「オトウサンノ オトモダチノ オジサンノ ジドウシャ」などは、年長、年中、年少でも使用しているが、用例は採集したのが全部である。年長はわりに使っている。年少では二人。そのうちひとりの例はおかしい。

3 Cをもつ構造

これは、節（文の一部分で、しかも、それ自ら（主）述をもっているもの）とか、「～っていう」という慣用的言い方などを修飾部分とする（それをCと名づけた）構造をもつ形式である。

3.1 $C \rightarrow \boxed{N}$ —— これは節が名詞を修飾する構造で(i) $C = \sim$ という、(ii) $C =$ 単文よりなる、(iii) $C =$ 複文よりなる、という三つの構造がある。(ii)には、(i)主述のととのっているもの、(ii)その他のもの、(この各々を、(a)動詞文、(b)形容詞文に分けた) (i)複雑な形式のもの、がある。(iii)には、(i)ただ一つの接続助詞をもつもの、(ii)二つ以上の接続助詞をもつもの、(i)たり～たりの形式をもつもの、がある。このように分類してみると、(i)の形式と(ii)の(i)(ii)のものは年齢を問わず非常に多く使用している。(ii)のうち述語の部分が動詞のものと形容詞のものがあるが、動詞のものが非常に多い。形容詞のものは数が少ないので用例を全部あげておいた。年長2例、年中1例、年少には見られなかった。(i)の複雑な構造は年長児にしかみられなかった。用例を全部あげた。(iii)の複文の構造をもつ形式は、採集用例を全部あげた。(i)の一つの接続助詞をもつものはわりに使っているが、年少児の例にはおかしいものもある。(ii)二つ以上の接続助詞をもつもの、(i)のたり～たり形式をもつものは、補助資料の例のみ。それも形式名詞の修飾が多い。年少児には用例がない。

3.2 $C \rightarrow \boxed{C} \rightarrow \boxed{N}$ —— この構造は \boxed{C} の部分がNとAの場合がある。年長はわりに使っているが、年中、年少は少ない。 $C \rightarrow \boxed{N} \rightarrow \boxed{N}$ 構造を年中ではt男、年少では三男が使っている。あと部分が $\boxed{A} \rightarrow \boxed{N}$ は年中、年少は使用していない。あと部分が二語以上よりなるという構造はむずかしいようである。たとえば「ミンナノネ ハイッテルネ アタラシイ オウチ」。Cの部分が形容詞述語文の例は少ない。年少の三男、渡女にみられた。

3.3 $C \rightarrow \boxed{C} \rightarrow \boxed{N}$ —— この構造には(1) $C \rightarrow \boxed{N} \rightarrow \boxed{N}$ と(2) $C \rightarrow \boxed{A} \rightarrow \boxed{N}$ がある。(1)には(i) C が単文よりなるもの(ii)複文よりなるものの二種がある。(i)は年中児にもみられ年長も多く使っているが(ii)は年長児のみ。ともに補助資料に多い。年少には使用例がない。(2)の形式は年少補助資料に一例あった。複文をもつ修飾語はむずかしいからだろう。

3.4 被修飾語の部分が節をもつもの——この構造は少ない。年長二例、年少一例。近い修飾語の部分、あるいは被修飾語の部分が二語以上の構造はむずかしいようである。

4 並立関係をなす二単語が(1)被修飾語の部分になるものと(2)修飾語となる部分をなすものの二つの構造がある。(1)の形式は、年少では三男と金男が使っている。あと部分の重い言い方は前にも出たがむずかしいのだろうか。(2)のほうは年齢を問わずある。

4.1-3 まとめ

以上を大ざっぱにまとめてみると、①四語以上の名詞よりなる修飾語をもつ構造は年中、年少に少ない。②あと部分（被修飾語に近いところ）に修飾語をもち、その全体を前部分（修飾語に遠いところ）が修飾する構造（1の例）は、前部分が重い修飾語（2の例）の構造よりむずかしいようである。1より2の構造を年少児がよく使っていることから類推される。3の節をもつ構造についてもこのことがいえる。③章末の表に印をつけた用例のその部分は、意味がはっきりしないので、かかり方があいまいであるが、ともかく分類を試みたものである。備考をつけておいた。年中、年少に多い。たとえば「カゼテ アタツテネ コワレナイ」の下線の部分は否定形で結ぶとき助詞は「ても」になるが、この接続助詞が使えないために「て」と使用したのだろうか。また、「カゼテ」の「テ」は「ニ」でなければおかしい。助詞の誤りも多い。その他「ムコウノ トオイ トコロ」などは「ムコウ」と「トオイ」は同一の意味を重ねて表現したとも取れそう。「ヤマノサ チョット テッペン」の「チョット」の意味は何かわからない、など。まだ、十分にことばが駆使できないためであろう。年長にも年少、年中よりは少ないがある。④Cが複文とかあるいは単文でも複雑な形式のものは、年長、年中にあるが数が少ない。年少には特に少ない。⑤子どもからみていくと、文節数の多いもの、すなわちよくしゃべった子どもが、複雑な構造の連体修飾語を使っているようで、その間に関連が深そうである。（これだけの用例では確信をもっていえないが推察される。）⑥いわゆる準体助詞「の」を修飾する構造はここで省いたが多い。たとえば補助資料の例であるが（補助資料のほうに複雑な構造のものが多かった）「オリョウリ ツクツリ スルノヲ〜（赤ー0女6:1-2）」とか、「ソノ ツギニ オモシロカッタノハ〜（赤ーD男5:11-5）」などである。これも分析調査する必要がある課題である。⑦ここでは文の中から連体修飾語の部分を取り出して研究対象にしたが、その連体修飾語が文の成分の中の主語の修飾であるか、補語の修飾であるか、述語の修飾であるか、また、幼児の場合はどの成分に修飾語がつくのか多い（補語修飾が多そうである）か、などについては分析を試みなかった。残された課題である。

4.2 連体修飾語の修飾、被修飾の意味的關係

これまでは、形式から連体修飾語の構造をみてきたが、ここでは、連体修飾語のうち名詞と名詞のくみあわせの場合、幼児はどのような語のくみあわせをよく使うか、どのような語のくみあわせは苦手かをみていくことにする。4.1でもみたように名詞→名詞の關係のくみあわせが多いので、その中を分析してみた。連体修飾語の構造でなく、用法である。

文構造の範囲からはみだし、語彙的なものにも近いが、この面からの幼児の傾向がみられるので、軽く扱ってみることにする。軽くと書いたが、語の意味がかわってくるので問題が多い。今後の課題にしたい。大きく五つに分けた。章末の用例を見られたい。

（注）

（注） 鈴木康之「名詞と名詞のくみあわせ」（東京成徳短期大学紀要2 1968）ここでは大人の場合をみている。大きく1属性の規定、2所属の指定、3關係の基準の指定、4主体の指定、5対象の指定、6内容の規定、7状況の指定と分け、下位分類を試みている。資料は文学作品である。

4.2-1 修飾語が被修飾語の所有者あるいは所属を規定する

これは修飾、被修飾の関係を転換した場合「のだ」という関係になる類である。たとえば「パパノ オクツ」という場合は「そのお靴はパパのものだ」となる所有、所属をあらわす類である。この類は幼児が一番多く使用している。八つに下位分類した。

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1.1 関係を規定する | 1.4 用途を規定する |
| 1.2 所有者を規定する | 1.5 作品の内容を規定する |
| 1.2-1 具体物の所有者 | 1.6 場所を規定する |
| 1.2-2 空間の所有者 | 1.6-1 生物の所属する場所 |
| 1.2-3 現象の所有者 | 1.6-2 具体物の所属する場所 |
| 1.3 所属を規定する | 1.6-3 空間の所属する場所 |
| 1.3-1 生物の所属 | 1.6-4 現象の所属する場所 |
| 1.3-2 具体物の所属 | 1.7 本体を規定する |
| 1.3-3 空間その他の所属 | 1.7-1 所属する本体 |
| 1.3-4 行為の所属 | 1.7-2 部分の所属する本体 |
| 1.3-5 言語作品の所属 | 1.7-3 現象の所属する本体 |
| 1.3-6 その他の所属 | 1.8 所属する職業、職場などの種類を規定する |

このうち、生物には人間、動物などがはいるが、それでは怪獣やロボットは生物かということになると、簡単に分類できない。「会社」ということになると、事務をとる場所であるとともに、むずかしきうと、企業体でもあるわけで、語のどの面を分類の対象にしてよいか迷う。語の意味分類のむずかしさである。とともに、これは大人の感覚で、幼児はどうなのかとなると、類推する以外にない。それでは全く分類できないかということそうでもない場合もある。この下位分類には、いろいろと問題が残っている。

4.2-2 修飾語が被修飾語の位置や時間、順序、数量を規定する

この関係のものは、年少においては、この種の語彙、すなわち、時、順序、数量に関する語彙が少ないことから、それにともなって、この用法は少なくなる。五つに下位分類した。

- | | |
|-------------------|----------------|
| 2.1 ものや場所の位置関係の規定 | 2.4-2 具体物の数の規定 |
| 2.2 ものの時の規定 | 2.4-3 空間の数の規定 |
| 2.3 ものの順序の規定 | 2.4-4 その他の数の規定 |
| 2.4 数の規定 | 2.5 量の規定 |
| 2.4-1 生物の数の規定 | |

4.2-3 修飾語が被修飾語の属性を規定する

これは修飾、被修飾の関係を転換したばあい、修飾語の部分が「だ」になる類で、修飾語の性質が形容詞的なものである。「ダイダイイロノ テツ」は「その鉄はだいだい色だ」となる。属性を述べる表現は（所有している語彙も少ないこともあって）用例が少ない。三つに下位分類した。

- | | |
|--------------|--------------|
| 3.1 種類を規定する | 3.1-3 空間の種類 |
| 3.1-1 生物の種類 | 3.1-4 その他の種類 |
| 3.1-2 具体物の種類 | 3.2 材料を規定する |

3.3 属性を規定する

3.3-2 具体物の属性

3.3-1 生物の属性

3.3-3 その他の属性

4.2-4 修飾語が被修飾語の成立に関与する度合の強いもの

これは被修飾語に形式名詞も含まれているが、修飾語がないと意味がとれない場合である。連体修飾語がどうしても必要なため、年少、年中、年長を問わずこのくみあわせはよく使われる。七つに下位分類した。ここでも数量とか抽象的なことばとのくみあわせの場合は用例が少なくなっている。

4.1 位置関係の成立に関係する

4.6 形式名詞の成立に関係する

4.2 時間関係の成立に関係する

4.6-1 とこ

4.3 順序関係の成立に関係する

4.6-2 とき

4.4 数量関係の成立に関係する

4.6-3 ほう、他

4.5 抽象的なことばの成立に関係する

4.7 行為の対象を示して成立に関係する

このうち4.1～4.6までの部分は、前の分類の1.7-1, 2.1, 2.2の項にもはいる用例がある。

4.2-5 修飾語と被修飾語が同格の関係になっているもの

この使用例は少ないが、年少、年中、年長とも使用している。

4.2-6 まとめ

以上のように分類してみた結果を述べまとめにかえる。章末用例からいえることは、1の所有者あるいは所属を規定する修飾語が他のものに比べて多い。この中で、年齢を問わずよく使用しているのは「具体物の所有者」とか、^(注)「生物や具体物の所属を規定する修飾語」である。調査の質問内容にもよるが、「言語作品の所属を規定する修飾語」や「作品の内容を規定する修飾語」もよく使っている。また、「生物や具体物の所属する場所」をあらわしたり、「所属する本体」を規定する形式もよく使用している。使用の少ないものは、「空間とか現象の所有者あるいは所属の規定」で、これらは、空間や現象に属する語彙が幼児の身近かにないか、あるいは抽象的な語彙なので所有している数が乏しいからだろう。「用途を規定する」修飾語が少なかったが、調査法によるためかもしれない。幼児がよく使う修飾語の形式には、これもやはり語彙不足のあらわれと思うが、名詞一語であらわせるところを、修飾語＋名詞であらわすのがある。たとえば、ワンコノ オウチ(犬小舎)、ジドウシャドウロノ ミチ(車道)、キンギョノ イレモノ(金魚鉢)、ともに年少、フネノ オジサン(船長)これは年長、など。かつこの中のことばを知らないからだろう。その他、二語以上からなる修飾語も年長にみられた。たとえば、「ウチノ トウサンノ イトコ」とか、「オトウサンノ オトモダチノ オジサンノ ジドウシャ」など。

2の位置や時間、順序、数量を規定する修飾語では、「場所の位置の規定」は年少にもみられるが、その他は年少からはほとんど採集できなかった。「キノウノ ヨル」という時の規定が補助資料から一例みられたのみである。順序とか数をあらわす語彙がこの年齢の幼児では十分に使えないのだから当然である。量についての用例は年齢を問わずなかった。

(注) 一幼児を調査したものからも所有関係がまず最初にあらわれることが出ている。前出(153ページ)

3 属性を規定する修飾語は、形容詞、形容動詞によっても修飾されているが、それらも名詞に比較すると非常に少なかった。それでは名詞による属性規定はどうであろうか。「種類を規定」する中では、「具体物の種類」が年齢を問わずわりに多くみられたが、「生物の種類」とか「空間の種類」を規定する修飾語は少なく、年少ではみられなかった。「材料を規定する」修飾語は少ないがどの年齢にもあった。「属性を規定する」修飾語では、生物、具体物の属性規定についてはいくらかあった。しかし、全体に言えることは、採集例が少ない。語彙の不足によるためであろう。

4 被修飾語の成立に修飾語が関与する度合の強いものでは、どうしてもなければならない「位置関係の成立に関するもの」とか、「形式名詞につくもの」がもっとも多い。形式名詞では、意味もなく「こと」「ところ」「とき」をつける言い方を愛用していた。たとえば次のようなものがある。「シマウマが イテ トラン トコニ カカッテ キタカラ〜」これは「虎に」でもよいわけである。その他「オジイチャンノ コト ブッタラ〜」「ムカシノ トキニ カワガ アッテ〜」これは「おじいちゃん」「昔」でよいのである。

この中でも、「順序」「数量」「抽象的なことば」の成立に関係する形式は少なく、「数量」については年中、年少では採集できなかった。年長には、「行為の対象を示す」修飾語、すなわち「ママノ オテツダイ」「ミンナノ セワ」などの言い方がわりに多く見られた。年少は少ない。

5 修飾語と被修飾語が同格の関係にある言い方も少ないが見られた。

全体にいえることは、この五種類の関係を幼児は使用しているのであるが、幼稚な表現が多いということである。*印で示し、かぎかっこで注をつけた部分である。

連体修飾語の修飾、被修飾の意味的关系をみるには、名詞と名詞のくみあわせをみるだけでは片手落ちであるが試みてみた結果である。

4.1-2 二語以上よりなる連体修飾語の構造使用例

(注1) ○＝年中、年長同一幼児、年少は神谷、小川 ●＝補助資料例
 (注2) N＝名詞など体言 K＝こそあど A＝形容詞、形容動詞他 Ad＝副詞 V＝動詞 C＝節
 (注3) ＊＝備考に注があること

構造	年齢	年	長	年	中	年	少	備考
1□→□→N								
＊□の中には 名詞・形容 詞・副詞他 が含まれる								
1.1 N→N→N								＊N→N ＝一語的 ＊一語とみ た。
K→N→N								＊英語塾か。
A→N→N								＊絵本の意。
1.2 N→N→N								＊研究所員 か。
N→K→N								

○ヒトリノネ	○トコノコ	○白-d 女5: 11-29)	○フタリノネ	○トコノヒト	○白-t 男 5:3-15)	○アソコノネ	○エイゴノカイ	＊N→N ＝一語的 ＊一語とみ た。
●ルーションウノ	○オンナノヒト	○白 -A 女6:5-24)	●アイイコノ*	○トコノコ	○小-久 女4:7- 8)	○アソコノネ 4:0-29)	○エイゴノカイ	＊英語塾か。
○ソノ	○オンナノコ	○白-g 女5:11-12)	●アイウミタイナ	○エノホン	○小-窪 女4:8-3)	○アソコノネ 4:0-29)	○エイゴノカイ	＊絵本の意。
○チッチャイ	○トコノコ	○赤-o 女6: 1-29)	●アアイウミタイナ	○エノホン	○小-窪 女4:8-3)	○アソコノネ 4:0-29)	○エイゴノカイ	＊研究所員 か。
●ヒカルヨウナ	○オンナノコ	○赤-N 女 5:7-13)	●シンデレラノ	○フタリノオネエサンタチ	○小-窪 女4:8-19)	○アソコノネ 4:0-29)	○エイゴノカイ	＊英語塾か。
●フルイ	○ケンキウジョノヒト	○赤-g 男5:10-8)	○トオクノ	○イナカノホウ	○白-s 男4: 10-5)	○アソコノネ 4:0-29)	○エイゴノカイ	＊絵本の意。
●オニイチャンノ	○ガッコウノ	○オトモダ チ	○トオクノ	○イナカノホウ	○白-s 男4: 10-5)	○アソコノネ 4:0-29)	○エイゴノカイ	＊研究所員 か。
○ガウスノ	○コウイウトコ	○赤-j 女5: 10-5)	○トオクノ	○イナカノホウ	○白-s 男4: 10-5)	○アソコノネ 4:0-29)	○エイゴノカイ	＊研究所員 か。

K → N → N	8-20)	●アソコノ* 2-10)	ムコウノホウ	(赤-i 男6:	男4:0-29) ○エイガノ 男4:0-21)	コウイウカンパン	(神-三
		●コウイウ 8-19)	クサリノトコ	(赤-K 女5:		アイウイロ	(自-b
K → K → N	8-20)	●ソウイウ 女6:3-2)	オウチノネカタチ	(赤-m	男4:0-29) ○エイガノ 男4:0-21)	コウイウカンパン	(神-三
		●ソコノ 8-11)	ココントコ	(赤-K 女5:8-9)		アイウイロ	(自-b
N → A → N	8-20)	○トウキョウタワーノ (自-h 女5:7-5)	アカイトコロ		男4:0-29) ○エイガノ 男4:0-21)	コウイウカンパン	(神-三
		●マンガノ 1-13)	イロイロノモノ	(自-p 女6:		アイウイロ	(自-b
K* → A → N	8-20)	●コンナ 8-11)	デッカイバツタ	(自-K 男5:	男4:0-29) ○エイガノ 男4:0-21)	コウイウカンパン	(神-三
		●アンナ 8-11)	アツイホン	(赤-f 男6:3-6)		アイウイロ	(自-b
N → Ad → N	8-20)	●コウイウ 女5:8-6)	シカクイモン(門)	(赤-K	男4:0-29) ○エイガノ 男4:0-21)	コウイウカンパン	(神-三
		○カワノ 6:4-6)	スグソバ	(赤-w 男6:3-15)		アイウイロ	(自-b
K → Ad → N	8-20)	●ヨウチエンノ 6:4-6)	スグチカク	(赤-d 男	男4:0-29) ○エイガノ 男4:0-21)	コウイウカンパン	(神-三
		●ソコノ 6:3-12)	チョウドマンナカ	(赤-f 男		アイウイロ	(自-b

*「アソコ」
と「ムコウ」
は同じ意
か。

*「ムコウ」
と「トオイ」
は同じ意
か。

*このKは
指示的より
属性をあら
わす。

*「こいう
う」の略?

*「チャッ
ト」はおか
しい。

N→ Ad→N→N	○コッチノ <u>ズット*マガリカド</u> (自- b 男6:0-13)	●シヨノ <u>スグ ウエ</u> (小-種男4:3-7)	*「ズーッ ト」はおか しい。
K→ A→A→N N→N→ K→A→N	●ママノ <u>ズット マエノ オトモダチ</u> (赤-q 男5:11-4)		*準体助詞 の例。
Ad→N→ A→N	●コウイウ <u>マルイ ヒョウタンミタイノ*</u> (自-1 男5:7-15)	○ジャイアントロボン トコロ* <u>コウイウ マルイ トコ</u> (小-佐男4:3-17)	*「トコ」は 不用。
N→N→ Ad→N	○モウ センノネ <u>フルイ*オヒサマグミ</u> (自-d 女5:11-19)	○イチバン ウエノ <u>タカイ*オヤマ</u> (赤 -h 女5:4-9)	*「モウセ ン」と「フ ルイ」は同 じ意か。
K→N→ Ad→N	●ドロン トコ* <u>スグ ソバ</u> (自-1 男5:7 31)		*「トコ」 は不用。
A→A→N	○コノ オハナシノ <u>イチバン サイショ</u> (赤-s 男6:6-19)		*不十分な 言い方。「丸 く太った」 か「丸い顔」 か。
Ad→ N→V→N	●カワイイ <u>マンマルイラシイ*コドモ</u> (赤-E 女5:8-19)	●ズット <u>モウ セン</u> (神-親男4:6-29)	*「お寺」の ことか。
	●ヤキュウジョウミタイナ <u>ヒロイ トコ ロ</u> (自-s 女6:3-1)	○ジユウホイクエンノ <u>チガウ ヨウチエ ン</u> (自-s 男4:10-9)	*「別の」 という意 味。保育園 が二個所に ある。
	●ズット <u>モウ セン</u> (自-w 女6:5-9)		
	○アサクサノ <u>オマイリスル*トコ</u> (赤- k 女6:2-7)		
	●ツギノ <u>マケタ シト</u> (赤-I 女5:8-28)		

K → <u>V → N</u>			○ ソノ <u>アガッタ</u> トチュウ (神-三男4: 0-30)	
1.3 N → <u>N → N</u>	○ オモチャノ <u>アラモデルノ</u> センシャ (自-b 男6: 0-11)		○ カイジュウノ* <u>チカラモチノ</u> ジェット (神-三男4: 0-34)	* はっきりわからない。
N → <u>A → N</u>	○ オネイサンノ <u>キレイナ</u> ヨウフク (赤-p 女6: 2-14)	○ ヨウチエンノ <u>タノシイ</u> ホン (赤-k 女5: 3-10)		
	● コックノ <u>クイシンボウナ</u> ハカセ (自-m 女6: 4-15)	● カイブツクンノ <u>オオキイ</u> テ (小-海 男4: 3-13)		
	○ サンニンノ <u>カワイイ</u> オンナノコ (白-u 女6: 5-22)			
K → <u>A → N</u>	○ アソコノ <u>シロイ</u> セン (赤-h 女6: 4-7)		● コノ <u>チイサイ</u> ライオン (赤-i 男4: 2-11)	
	● コノ <u>アタラシイ</u> イエ (赤-u 女5: 11-14)			
	○ コノ <u>ショウジキナ</u> オジイサン (赤-w 男6: 3-21)			
N → <u>Ad → A → N</u>	● コバルトノ <u>イチバン</u> オオキイ ニイサ <u>ン</u> (赤-h 女6: 6-7)			
N → <u>A → V → N</u>	● オコメノ <u>オオキイ</u> サゲルノ* フクロ (赤-D 男5: 11-4)			* 「名詞+ノ」の形にひかれてか「動詞+ノ」とまちがえしている。
N → N → <u>A → N</u>	● アバートノ トコロ* <u>チッチヤイ</u> コ (赤-p 男5: 11-7)			* 「トコ」前出。
K → N → <u>A → N</u>	● ソコノ コウエンノ <u>チッチヤイ</u> テツボウ (赤-x 女5: 7-4)			

2 □ → □ → N

N → N → N

* 一語的。

N → N → N

● オトコノ コノ ホン (赤-K女5:8-13)

● オンナノ ヒトノ カオ (白-a男5:11-5)

○ オトナノ バングミノ オハナシ (白-t男6:2-6)

○ ムコノ オヤマノ マワリ (白-o男6:3-12)

● オミセノ ウインドウノ ガラス (白-h男5:7-7)

● ウチノ トウサンノ イトコ (白-d男6:1-8)

K → N → N

○ ソノ カイブツノ コト (赤-w男6:3-15)

○ ソノ オトコノ コノ ママ (白-g女5:11-14)

● コウイウ イロノ タイ (赤-p男5:11-3)

N → N → N → N

● チュウグライノ ミチノネ デンキヤサ ン トコロ (白-i男6:5-4)

● ウラガワノ タイヤノ ホウノ スイ チ (赤-r男6:3-4)

● デンキノ デンセンノネ クモノ スノ ウエ (白-i男6:5-15)

● ホイクエンノ ホウノ カドノ ニケン ズ (白-v女5:10-6)

● イロイロナネ オトモダチノ トコロ ノ

● オトコノ コノ マンガ (赤-q女5:2-10)

● オンナノ コノ マンガ (小-嬢女4:8-27)

○ ウンドウカイノ トキノ コト (赤-d男5:4-8)

● ムカシノネ オウサマノネ オハカ (小-野女4:9-28)

○ コッチ ガワノネ オウチ (白-s男4:10-10)

○ コノ ツギノ ニチヨウビ (白-t男5:3-27)

○ ボクノ オニイサン トキノ ホン (白-s男4:10-20)

● ガッコウノ ソバノネ ジブンチノネ アスコ (神-織男4:4-5)

○ オニノ ニンジャノネ オンナ (神-秋男3:11-11)

○ オネエチャンノ スカートノ ユメ (神-新女4:2-6)

○ センセーノ オウチノ ヤオヤ (神-鈴男3:6-6)

● コッチノ テノ メ (白-a男4:0-6)

○ コノ ネズミノ コト (神-三男4:0-41)

○ オトコノ コノ ウルトラセブンノ テレビ (神-佐女3:7-10)

*「トコロ
ノ」は不用。
*「てまえ」
とか「右ど
なり」と大
人ないう
ところ。
* 会社の略
称。
* よくわか
らない。

* ク=靴

<p>ネ* オウチノ <u>トコロ</u> (赤-N 女5:7-8)</p> <p>●ゴジュウゴウカンノ コツチガワノ ト ナリノ* <u>オウチ</u> (赤-r 男6:3-7)</p> <p>●イロンナ ゴハン ユウゴハンノネ <u>オ シタク</u> (赤-q 男5:11-3)</p> <p>●オトウサンノ オトモダチノ オジサン ノ <u>ジドウシャ</u> (赤-E 女5:8-32)</p>	<p>●アノ コンポン* トコロネ <u>ウラ</u> (神- 大女4:6-7)</p> <p>○コノネ イチバン シタノネ* ニクミノ ネ <u>アソコ</u> (赤-x 女5:2-8)</p> <p>○アア イウネ イロノネ ミチン <u>トコ</u> (赤-k 女5:3-8)</p>	<p>○ソコノ ヘイキシウノ ヘエノ <u>トコ</u> (自-g 女5:11-14)</p> <p>●ココン トコロノ ホッベタノ <u>ナカガ ワ</u> (赤-m 女6:3-12)</p> <p>○ソノ キュウチャンノ ハナシノ <u>マエ</u> (自-g 女5:11-21)</p> <p>○ソノ カワノ ムコウノ <u>ホウ</u> (赤-o 女6:1-11)</p> <p>●ソノ ウンドウカイン トキノ <u>ママゴ ト</u> (赤-j 女6:6-16)</p> <p>●コノ ヨウチエンノネ リスグミノネ <u>オトモダチ</u> (赤-K 女5:8-4)</p>	<p>K→N→N →<u>N</u></p>
<p>●ソコノ ソノ ショクインシツノ <u>トナ リ</u> (小-久 女4:7-9)</p> <p>●アカイ イロノ <u>クサ</u> (神-鎌 女4:5- 21)</p> <p>○イジワル オカアサンノ <u>オシゴト</u> (赤-p 女5:2-10)</p> <p>○キレイナ ピカピカノ <u>ク</u> (赤-p 女5: 2-13)</p>	<p>●ソコノ ソノ ショクインシツノ <u>トナ リ</u> (小-久 女4:7-9)</p> <p>●アカイ イロノ <u>クサ</u> (神-鎌 女4:5- 21)</p> <p>○イジワル オカアサンノ <u>オシゴト</u> (赤-p 女5:2-10)</p> <p>○キレイナ ピカピカノ <u>ク</u> (赤-p 女5: 2-13)</p>	<p>○アツイ クニノ <u>オバケ</u> (赤-o 女6:1 -17)</p> <p>○アマイ ミズン <u>トコ</u> (自-s 男5:9-5)</p> <p>●シカクイ ガラスノ <u>ウエ</u> (赤-m 女6: 3-12)</p> <p>●イロンナ イロノ <u>ハッパ</u> (赤-c 男5: 10-10)</p>	<p>K→K→N →<u>N</u> A→N→<u>N</u></p>
<p>○チイチャイ キノ <u>トコロ</u> (神-村 女3: 6-8)</p>	<p>○チイチャイ キノ <u>トコロ</u> (神-村 女3: 6-8)</p>	<p>○チイチャイ キノ <u>トコロ</u> (神-村 女3: 6-8)</p>	<p>○チイチャイ キノ <u>トコロ</u> (神-村 女3: 6-8)</p>

$\underline{N \rightarrow A} \rightarrow \underline{N}$ → <u>N</u>	○イチバン タカイ ヤマノ <u>ホウ</u> (赤-0 女6:1-28) ●バイエルノ キイロイ ホンノ <u>ナナジ</u> <u>ユウゴバン</u> (赤-m 女6:3-7)	○モウ ヒトリノ* <u>ライオン</u> (自-k 男5:8-22) ○ズーット ムコウノ <u>バンヤサン</u> (自-a 男5:8-11) ●イチバン ウシロノネ <u>シマウマ</u> (自-p 女6:1-18)	●モウ ヒトリノ <u>ヘンデル</u> (赤-e 女4:9-10) ●イチバン ウエノ <u>オネエ</u> *(自-q 男5:4-2)	○ズット マエノ <u>ユメ</u> (小-福男4:2-9) ○イチバン チビヤギノ <u>ガラガラドン</u> (神-古男4:5-24) ○モウ シュグノ* <u>オニイチャン</u> (神-寺男4:4-2) ●イチバン ウエノ <u>ホウ</u> (赤-0 男4:2-8) ○イチバン チイサイ モンノ* <u>ヤギ</u> (神-狗女4:3-14)	* ヒトリ = 一頭 * お姉さん。 * 兄が二人以上いて、一番すぐ上の兄の意か。 * おかしい。不用。
$\underline{Ad \rightarrow N} \rightarrow \underline{N}$	○ヨウチエンノ ズット ムコウノ <u>ホウ</u> (自-p 女6:1-8) ●スゴイ オオキイ <u>コ</u> (赤-E 女5:8-20)	○トッテモ オモシロイ <u>コト</u> (赤-r 女5:10-6) ●イチバン セエタカノッポノ <u>オニイサシ</u> (赤-l 男6:3-5) ●スコシ オモシロクナイ <u>トコロ</u> (赤-O 女6:1-15)	○スコシ チイチャイ <u>ミチ</u> (自-u 女5:5-5) ○イチバン スキナ <u>トキ</u> (自-s 男4:10-19) ●モウ スコシ* <u>ウエ</u> (神-宮男5:0-18)	○イチバン フカイ <u>トコ</u> (神-狗女4:3-4) ○モット タカイ <u>トコ</u> (神-秋男3:11-14) ○サッキ ユッタミタイナ <u>ユメ</u> (神-秋男3:11-7) ●チョット チイチャイ <u>マル</u> (赤-e 男4:1-6)	* 一語的。
$\underline{Ad \rightarrow N} \rightarrow \underline{N}$ → <u>N</u>	$\underline{Ad \rightarrow A} \rightarrow \underline{N}$ → <u>N</u>	$\underline{Ad \rightarrow A} \rightarrow \underline{N}$ → <u>N</u>	$\underline{Ad \rightarrow A} \rightarrow \underline{N}$ → <u>N</u>	$\underline{Ad \rightarrow A} \rightarrow \underline{N}$ → <u>N</u>	
$\underline{A \rightarrow A} \rightarrow \underline{N}$					
$\underline{Ad \rightarrow A} \rightarrow \underline{N}$					
$\underline{Ad \rightarrow Ad} \rightarrow \underline{N}$					

V→N→ <u>N</u>	○ネル トキノ <u>ヨウフク</u> (自-p 男5:6-5) ●チガウ シトノ* <u>オウチ</u> (赤-N 女5:7-8) ●ナラブ ジュンバンノ <u>コト</u> (自-v 女5:10-2)		* シト=ヒト
3 Cの形式をもつもの			
3.1 C→ <u>N</u>			
(i) C=～と いう	○ジュンコチャンツテ イウ <u>オンナノコ</u> (自-A 女6:5-10) ●ウシト カエルツテ イウ <u>モノガタリ</u> (赤-j 女6:6-20) ○ドツチガ ハヤクネ ツクカツテ イウ <u>キョソウ</u> (自-g 女5:11-22) ○ユウセイカメンテ イウ ソウイウ* <u>マンガ</u> (赤-m 男5:10-18)	○テルミチャンテ イウ <u>コ</u> (自-h 女4:7-2) ●サワーツテ イウ <u>ノムモノ</u> * (小-山 中女5:0-24) ●(イシイ)サンニ ハイタツ タノムツテ イウ <u>コト</u> (小-久 女4:7-3)	○チバツテ イウ <u>イナカ</u> (神-村 男4:3-12) ○カッコ イイッテ イウ <u>コト</u> (小-佐 男4:3-16) * 一語的
(ii) C=単文 よりなる (イ)主述のたと っている もの (a)動詞文	○ママト ヨウコガネ オデカケシタ <u>カエリ</u> (赤-p 女6:2-18) ●ハカセガ ハツメイシタ <u>ロボット</u> (赤-f 男6:3-8) ●ジブンノネ タベタ <u>シヨッキ</u> (赤-I 女5:8-3)	●オバサンガ イル <u>オオダンホドウ</u> (小-篠 男5:1-10) ●アメ フツテ ナイ <u>トキ</u> (神-宮 男5:0-5)	○ナミガ コナイ <u>トキ</u> (小-相 男4:4-6) ○ハッパガ コウ ヤツテ シゲツ <u>イル</u> (神-場 男3:10-6)
(b)形容詞文	●オハナガ オッキイネ <u>ハカセ</u> (赤-K 女5:8-11)	●アタシガ チイチャイ <u>トキ</u> (小-野 女4:9-11)	○オカアサンガ イソガシイ <u>トキ</u> (神-三 男4:0-6)

● テンキガ イイ <u>ヒ</u> (自-q 女6:1-17)	○ オテンキノ イイ <u>ヒ</u> (赤-p 女5:2-16)	● グアイ <u>ワルイ</u> <u>トキ</u> (赤-g 男3:5-5)
○ オテンキノ イイ <u>アサ</u> (赤-s 男6:6-20)	○ オカネ ナイ <u>ヒト</u> (自-t 男5:3-12)	
● ネズミガ <u>タクサン</u> <u>イソウナ</u> <u>キ</u> <u>〔気〕</u> (赤-m 女6:3-17)		
○ ウミニ アルネ <u>アブライレタンカー</u> (赤-a 男5:11-8)	○ オミコシ <u>カツイダ</u> <u>ヒ</u> (自-g 女5:0-3)	○ ドウブツエン <u>イッタ</u> <u>コト</u> (小-女 4:0-11)
○ ヨウフクヲ <u>ヌウ</u> <u>オシゴト</u> (自-s 男 5:9-3)	● ジドウシャト <u>ガチント</u> <u>アツカッタ</u> <u>トコ</u> (神-松 女4:8-25)	○ ホイクエンカラ <u>モラッタ</u> <u>ホン</u> (神-寺 男4:4-16)
● アミモノ セイトサンニネ <u>アミモノ</u> (ヲ) <u>オシエル</u> <u>トキ</u> (自-A 女6:5-9)	● ピョニンピョント <u>ブ</u> <u>カイジユウ</u> (小-海 男4:3-8)	○ イツモ <u>キタ</u> <u>トキ</u> (神-三 男4:0-20)
● デンチデ <u>ウゴク</u> <u>ミニチュアカー</u> (赤-r 男6:3-2)	● オウチデネ <u>ヨル</u> <u>ネンネ</u> <u>シテル</u> <u>トキ</u> (小-押 女5:1-10)	
● アタラシク <u>カッタ</u> <u>ゴホン</u> (自-o 女 6:1-10)		
● ムカシ <u>イタ</u> <u>ドウブツ</u> (赤-d 男6:4-4)		
● ソレ カエシニネ <u>ニッポンニ</u> <u>キテル</u> <u>オハナシ</u> (自-A 女6:5-23)		
○ ソレヨリ <u>チツチャイ</u> <u>トリ</u> (赤-w 男 6:3-26)	○ コレト <u>オンナジ</u> <u>ハナシ</u> (赤-k 女5:3-15)	
○ ウチヨリ <u>スゴイ</u> <u>オオキイ</u> <u>イヌ</u> (赤-w 男6:3-19)		
○ ムコウノ トノ <u>アノネ</u> * <u>テレビノ</u> <u>アル</u> <u>ハンタイガワノ</u> <u>レコードガ</u> <u>アル</u> <u>ホウ</u> (赤-a 男5:11-18)		
● オナガヤマツテ <u>イウネ</u> <u>オナガガワノ</u>		

* 間投詞を入れておい
た。

(㊦)その他
(a)動詞文

(b)形容詞文

(㊦)複雑な形式
のもの

(iii) C = 複文 よりなる (イ)一つの接続 助詞をもつ もの	トナリニ アル マンナカニ アル ハ ジッコノ ホウニ アル* [ドウクツ] (赤-m女6:3-21)	●ジュウエン イレルト シタガ ミエル [ボウエンキョウ] (自-e 男6:1-5)	●ウサギサンガネ メヲ サマシテネ イ ツタ [オハナシ] (赤-c 男5:10-26)	○イワツキニ イツテネ セミガ イッポ ンノ キニネ ゴヒキモ トマツテタ [コト] (赤-w 男6:3-8)	●タオシテネ リッパニ カイッテ キタ ツテ [コト] (赤-L 女5:9-25)	●ボバイガネ ホウレンソウ タベテネ ヤツケル [トコ] (赤-L 女5:9-20)	●ボバイガネ ホーレンソウ タベルト ツヨクナル [オハナシ] (赤-L 女5:9- 19)	●オナガガワツテ イウネ トツテモ フ カイ ウキワガ アツテモ ウカバナイ ネ [カワ] (赤-m 女6:3-18)	●ソコヲ マッスグ イツテ マタ マガ ツテ イク [トコロ] (自-y 男6:0-7)	○ウミヘ イツテ イナカヘ イツテネ ハクアツカンニ イツタ [コト] (赤-d 男6:4-6)	●オネエサンガネ キノ エダニネ スワ ツテ ネテ オキタ [トコ] (赤-I 女5: 8-36)
		○ウサギガネ ドウロニ カケダシタカラ ネ クマモネ カケダシテ イツタ [コ ト] (赤-k 女5:3-16)	●オウチガ ヒニ モエチャツタラ* カイ ジュウガ キタツテ イウ [コト] (小- 久女4:7-13)	●ワルモノガ デテ キテ オド(カ)サレ チャウ [オハナシ] (小-寛女4:7-18)	●タオルモ キツキキツツテ ヒトリテ ニネ ミズガ デテ シボツテ (イル) [ユメ] (小-窪女4:8-17)	●ガッコウノ オペンキョウネ サボツテ アソンデル [トキ] (小-窪女4:8-5)	●ト(そ)レデネ ケガチテ チ(し)ンダ [コ] (神-永男4:1-23)	●ウゴイテネ ケムリガ デタ [トコ] (小-寛女4:7-21)	●ビョウキン ナツテネ シュジュツシタ [トコロ] (小-小島女4:2-9)	●ケガチ(し)テ 「イタタター」ツテ ビョ ウインヘ イツタ [チ(ひ)] (神-永男 4:1-23)	
(ロ)二つ以上の 接続助詞を もつもの		○ウサギ* トビダシタラ アブナイ [コト] (神-佐女3:7-12)		○カゼデ アツタツテネ* コワレナイ [オウチ] (小-矢女4:0-16)	●ライヨンガ ドッカ イツチャツタカラ コツ(チ) ウマサンガ [コツチデヨウ ツテ ユツテタン* [トコ] (赤-f 女4:2 -12)						
		*訂正か、 正確に説明 しようとし ているの か。 *助詞「が」 の欠。	*はつきり しない。 *否定形に かかってい る助詞の誤 用。「カゼニ アタツテ モ」 *ことば足 らずでおか しい。「ン」 不用。								

(い)たり～たり
の形式をも
つもの

3.2

C→□→N
C→N→N

● イヌ サル キジトネ ツレテツテネ オニセイバツニ イッテ デネ オカネ ヲ エイ ヤートネ タイジシテ オカ ネヲ モドシテ キタツテ イウ ハナシ (赤-L 女5:9-14)			
● オトモダチト アソングリネ オウチデ アカチャント アソングリシタ トコ (赤-1 女5:8-5)			
○ ドロンバツテ イウネ アメリカノ オ バケ (赤-o 女6:1-17) ○ シンチャンテ イウネ アノネ* シヨウ チャンノ オニイサン (赤-f 女5:9-9) ○ ソレヲ ミタネ トナリノネ オジイサ シ (赤-w 男6:3-23) ○ カワノ アルネ イシノ トコロ (白- d 女5:11-7) ● ママノ ズーツ マエノネ オトモダ チダツタネ ソノ*シト (赤-q 男5:11 -4) ● 「ミツカッタラ ゴメンヨ」ツテ イウ ネー オナマエ(ガ) ツイテルネー ジ ドウシャノ サンケエ (赤-K 女5:8-14)	○ ニンゲンガ カブッタ ライオンノ カワ (白-t 男5:3-18)	○ オニイチャンガ イルネ アジバンヤサ シトコ (神-三男4:0-4) ○ オニイチャンガ イッテルネ アソコノ アジバンヤサン (神-三男4:0-11)	*間投詞が はいる。(前 出)
		○ オテンキガ イイ オヤスミントキ (神-三男4:0-5)	*「ソノ」を よく使う。
		○ マリノ スキナネ ウントネ* ナンカ イイモノ (神-渡女3:10-2)	*間投詞

*語順のちがうもの

C→[A→N]

3.3

C→[]→[N]

(1)C→N

→[N]

(i)C=単文
よりなる

○マチン トコロノネ ニンゲンガ トオル [ミチ] (赤-o 女6:1-31)	●コウテイニ イク トキノ アノ カイ
●モウ イッピキノネ サッキ ヤラレタネ [シマウマ] (赤-c 男5:10-24)	ダン] (小-久女4:7-10)
●チャッピーツテ イウネ [チツチャイデシ] (赤-C 男5:6-10)	●ママガ チツチャイ トキノ オハナシ
●イソップエバナシツテ イウネ [アノイロンナ オモシロイ ハナシ] (赤-j 女6:6-14)	(小-押女5:1-17)
●ミンナノネ ハイッテルネ [アタラシイオウチ] (赤-u 女5:11-15)	●ゲツヨウビノ [に] ヤル トキノ [サリ一] (小-山中女5:0-11)
●イズモサンテ イウ オウチノ [トナリ] (自-s 女6:3-7)	
○ニホンジャナイ クニノ [シト] (自-g 女5:11-16)	
●モウ オマエハ クビダツテ イワレタヒトノ [ナマエ] (赤-e 男5:10-13)	
●ワスレモノヲ シタ トキノ [ユメ] (赤-C 男5:6-17)	
●イッショニ ガッコウヘ イク トキノ [ヒト] (赤-E 女5:8-36)	
○ニンゲンガ アルク ミチノ [トコロ] (赤-o 女6:1-30)	
○ボクガ シッテル ウチノ [ソノ*シヨ] (自-b 男6:0-8)	

*「ソノ」
(前出)

(ii) C = 複文
よりなる

(2) $C \rightarrow A$
 $\rightarrow [N]$

3.4

$\square \rightarrow [C \rightarrow N]$

$N \rightarrow [C \rightarrow N]$

$K \rightarrow [C \rightarrow N]$

$[K \rightarrow N] \rightarrow$

$C \rightarrow N \rightarrow N$

$C \rightarrow [C \rightarrow N]$

4 並立関係をもつもの

4.1

$N \rightarrow [N + N]$

● オバキューウノ オトウサンモ オカアサ
ンモ (赤-u 男6:5-24)

○ ガッコノ センセエトカセエト (赤-s 男6:6-11)

● ウチノ オトウチヤントネ オニイチャ
ント (白-p 女6:1-3)

● ハタグミノネ カジクント ユミチヤン
ト (白-c 男5:11-6)

● クマニ ノツテ トリイヲ ワタツテ
ハチマンサマニ オマイリシタ トキノ
オハナシ (赤-h 女6:6-8)

○ オトモダチノ テッチヤンテ イウヒト
(赤-f 女5:9-9)

● コツチガワノ ジドウシヤ トオルトコ
ロノミチ (白-i 男6:5-4)

● アタラシク ハイッタ ビビッテ イウ
ヤツ (赤-e 男5:10-10)

● キンタロウツテ カイテアルネ オナカ
ガヒエナイヨウナハラマキ (赤-h 女6:6-9)

● ヨコヤマトミコツテ イウ イナカカラ
キタオネエサン (小-久 女4:7-1)

● イロノ ツイテル バツタミタイナ
カタチ (赤-d 男4:2-14)

○ コンナ メノマウル(マド) (神-三男4:0-7)

* 語順

○ オウジノ オジイチャントネ オバアチ
ヤント ボクトネ (神-三男4:0-4)

○ チンジユクノ* オバアチャント (ミズ
エ) チヤン (小-金男4:1-1)

* 幼児音

●オソマツクンノ オカアサンヤ オトウ サンヤ (赤-J 女5:8-16)	○オトウサント オカアサン トコ (赤-c 男6:3-11)	○ニンギョウトカ フジサンノ エ (赤-k 女6:2-12)	○ウシワカマルト デンシヤノ エホン (自-n 男6:5-13)	●キイロトカ ミドリノ ボウ (赤-e 男5:10-4)	●ミツツカ ヨツツン トキ (赤-k 女5:8-12)
	○カメト ウサギノ 4:10-9)	●カメト ウサギノ 4:10-22)	○オハナシ (赤-r 女)	○オハナシ (神-桑女)	
	○カメタント* ウタギノ 大男3:11-11)	○ヘビトカ カイジュウノ 男4:4-14)	○ウマシラタロウトネ ソレカラ オヒメ サマノ ホシ (赤-a 女3:10-14)		
					* 幼児音

4.2

N+N→N

4.2 連体修飾語の修飾，被修飾の意味的關係——名詞と名詞のくみあわせの場合の使用例

年 齢	年	長	年	中	年	少	備 考
1 修飾語が被修飾語の所有者あるいは所属を規定する							
1.1 関係を規定する	○キエウチャンノ	オトウサン(自-h 女5:7-8)	○パピーノ	ナカマ(赤-f 女4:10-6)	○シマウマノ	ナカマ(小-佐男4:3-20)	(年長多し)
	○ババノネ	シャチャウ(赤-m 男5:10)	○オトモダチノ	オカアサン(赤-u 男5:6-5)	●クマサンノ	コドモ(赤-e 男4:1-9)	
	●ウチノ	トウサンノ	イトコ(自-d 男6:1-8)	●ボクノネー	イモウト(自-c 男4:7-2)	●ユウチャンノ	アカチャン(自-a 男4:10-7)
1.2 所有者を規定する	○ババノ	オクツ(赤-t 男6:0-4)	○オネエサンノ	タンス(赤-p 女5:2-11)	○オバチャンノ	ユビワ(小-原女3:7-26)	(多し)
1.2-1 具体物の所有者	○ハルチャンノ	ネー	ヨウフク(自-t 男6:2-7)	○ボクノ	フユズボン(自-s 男4:10-14)	○オバアチャンノ	メガネ(神-狗女4:3-7)
	●オトウサンノ	オトモダチノ	オジサン	●オトウサンノ	ジテンシヤ(神-正男4:10-8)	●ジブンノ	ホン(赤-v 女4:0-6)

1.2-2 空間の所有者(注)	ノ ジドウシャ (赤-E 女5:8-32)	● <u>ママノ</u> オミセ (神-堀女4:1-2)	● <u>ママノ</u> ヘヤ (赤-v 女4:0-5)	(注)空間は場所も含む。
1.2-3 現象の所有者	○ <u>デジナシノネ</u> ドウクツ (自-i 男6:5-16) ○ <u>アトムノ</u> エネルギー [エネルギー (自-j 女5:7-7)] ● <u>ボウヤノネ</u> ビョウキ (赤-h 女6:6-17) ● <u>バビーノ</u> イリョク (自-l 男5:7-14)	○ <u>マホツカイノ</u> コエ (自-h 女4:7-9)	● <u>ボクノ</u> コエ (赤-d 男4:2-9)	
1.3 所属を規定する	○ <u>ガツコウノ</u> ヒト (赤-k 女6:2-23)	○ <u>オウサマグミノ</u> フミチャン (自-r 女4:8-19)	○ <u>ウチノ</u> オバアチャン (小-神女4:1-10)	(多し)
1.3-1 生物の所属	○ <u>フネノネ</u> オジサン* [船長のこと](赤-o 女6:1-21) ○ <u>「オクサマハ マジヨ」ノ</u> トモダチノ コドモ (自-b 男6:0-23)	○ <u>ボクンチノ</u> *[ぼくのと同意か] オカアサン (自-b 男5:1-9) ● <u>キョジンノ</u> ホシノ コドモ (神-規男4:6-12)	○ <u>ボクンチノ</u> オジイチャン (神-三男4:0-18) ○ <u>ヨソノ</u> オネエチャン (神-佐女3:7-18) ● <u>ジドウシャノ</u> オジサン (赤-p 男3:7-4)	*印のころは幼稚な表現なので、往々かついてつきた。くみあわせの意味のはっきりしない場合がある。 (多し)
1.3-2 具体物の所属	○ <u>テキキノネ</u> ヒコウキ (赤-m 男5:10-15) ○ <u>センスイカンノ</u> ギョライ (自-b 男6:0-5)	○ <u>ハイシャサンノ</u> ハコ (自-l 男5:1-5) ○ <u>ウチノ</u> ジドウシャ (赤-t 男5:1-5) ○ <u>ナツノ</u> ボウシ (自-s 男4:10-14) ○ <u>イットウシヨウノ</u> ハタ (赤-m 男4:10-9)	○ <u>ボクンチノ</u> ジドウシャ (神-古男4:5-10) ○ <u>ウンコノ</u> オウチ (小-長男3:5-13) (注)	(注)具体物の範囲をどの程度にするか問題。 犬小屋とみる。
1.3-3 空間その他の所属	○ <u>ヨウチエンノ</u> コウエン*[庭の意か側にある公園か] (赤-a 男5:11-11)	○ <u>ボクンチノ</u> カイシャ (自-t 男5:3-5) ● <u>ヨウチエンノ</u> ウンドウジョウ (小-寛女4:7-11)	● <u>ウチノ</u> *[で行く] デパート (赤-a 女3:10-9)	

1.3-4 行為の 所属	○オトウサンノ <u>オシゴト</u> (自-v 男5:7-11) ● <u>ウンドウカイノ</u> <u>カケッコ</u> (赤-k 女5:8-3)	● <u>パバノ</u> <u>オシゴト</u> (赤-i 女5:3-2) ● <u>チャッピーノ</u> <u>オドリ</u> (小-村男4:9-14)	○カイヤノ <u>オチ</u> [し] <u>ゴト</u> (小-原女3:7-2)	
1.3-5 言語作 品の所属	○オトナノ <u>バングミ</u> (自-f 女5:8-8) ○コドモノ <u>ニュース</u> (赤-t 男6:0-17) ○オトウトノ <u>オタンジョウビ</u> (赤-f 女5:9-7)	○イチカツゴウノ <u>ネ</u> <u>アンデルセン</u> (赤-s 男5:6-12) ● <u>オトナノ</u> <u>マンガ</u> (神-永男4:1-21) ● <u>オトコノ</u> <u>コノ*</u> [むきの] <u>マンガ</u> (小-窪女4:8-27) ● <u>コドモノ</u> <u>エイガ</u> (小-成男4:3-20) ● <u>オジイサンノ</u> <u>オミヤゲ</u> (赤-l 男4:8-8) ● <u>センセエノ</u> <u>ネ</u> <u>ゴメイレイ</u> (小-野女4:9-4) ● <u>オシロノ</u> <u>パーティー</u> (小-窪女4:8-11) ○ <u>オカネノ*</u> [になる] <u>シゴト</u> (自-n 男5:5-1)	○ガッコウノ <u>エイガ</u> (神-折女4:3-11) ● <u>ヨウチエンノ</u> <u>ホン</u> (赤-t 女4:4-8) ● <u>サンダーバードノ</u> <u>オシラセ</u> (赤-d 男4:2-10) ● <u>ママノ</u> <u>オミヤゲ</u> (赤-a 女3:10-13) ○ <u>オベンキョウノ</u> <u>ドウグ</u> (小-佐男4:3-13) ○ <u>ケンドウノ</u> <u>カブルモノ</u> (小-神女4:1-8) ○ <u>ジドウシヤドウロノ*</u> <u>ミチ</u> [車道のこと] (小-新男3:10-7) ● <u>キンギョノ</u> <u>イレモン*</u> [金魚鉢] (赤-a 女3:10-10) ○ <u>ウサギノ</u> <u>オハナシ</u> (神-場男3:10-13) ○ <u>アイウエオノ</u> <u>ホン</u> (小-矢女4:0-9) ○ <u>カイジュウノ</u> <u>ユメ</u> (小-相男4:4-8) ● <u>オヤマノ</u> <u>エ</u> (自-d 男3:10-1)	(注)「その他」の部分は、語彙が豊かになるにつれてふくらみ、細分化できる。 (注)年少の2例は語彙不足のためか。 (年齢を問わず多し。質問にもよる)
1.3-6 その他 の所属(注)	○ <u>オヤツノ</u> <u>ネ</u> <u>メロン</u> (自-d 女5:11-10) ● <u>クスリノ</u> <u>ビン</u> (赤-l 女5:8-32) ● <u>アミノモノノ</u> <u>ネ</u> <u>キカイ</u> (赤-j 女5:8-3)	○ <u>ムシノ</u> <u>ズカン</u> (自-t 男5:3-20) ○ <u>オバケノ</u> <u>ハナシ</u> (自-e 女4:8-1) ○ <u>ビックエックスノ</u> <u>ホン</u> (自-s 男4:10-21) ● <u>カイブツクンノ</u> <u>ユメ</u> (小-成男4:7-10)		
1.4 用途を規定する	○ <u>ムシノ</u> <u>ホン</u> (自-s 男5:9-10) ○ <u>キカイノ</u> <u>ズメン</u> (赤-a 男5:11-1) ○ <u>イナカノ</u> <u>オハナシ</u> (自-k 男5:8-15) ● <u>ウォールトデズニーノ</u> <u>エエガ</u> (赤-F 男5:9-12)			
1.5 作品の内容 容を規定する				

1.6 場所を規定する					
1.6-1 生物の所属する場所	<p>○ムラノネー ヒトビトタチ (赤-o 女6:1-20)</p> <p>○ヨンジュウニゴウカンノ コ (赤-w 男6:3-9)</p> <p>○ドコカノ クニノ オマワリサン (赤-s 男6:6-15)</p>	<p>○イナカノ エツチャン (自-a 男4:9-6)</p> <p>●エ(い)ナカノ オカアサン (神-桑女4:10-26)</p>	<p>○オウジノ オジイチャント オバアチャント ボク (神-三男4:0-4)</p> <p>●イナカノ カツチャン (赤-p 男3:7-6)</p>		
1.6-2 具体物の所属する場所	<p>●サンジョウノ テレビ (赤-d 男6:4-13)</p> <p>●ウミノ カイガラ (自-B 男5:7-7)</p>	<p>●ロウカノ オスベリダイ (小-有男4:7-4)</p> <p>●オニワノ テツボウ (神-井男5:0-3)</p>		(補助資料のみ)	
1.6-3 空間の所属する場所	<p>●ハズレノ ホウノ ニカイノ マンナカノ オウチ (赤-n 男6:2-8)</p> <p>●オオテマチノ ザイムキョク (注) (赤-v 男6:5-3)</p> <p>●ナゴヤノ エキ (赤-e 男5:10-9)</p> <p>●シゲミノ ミズ (注) (自-t 女6:4-3)</p>	<p>○ヨコハマノ ドウブツエン (自-s 男4:10-4)</p> <p>●ウミノ オウチ (小-押女5:1-6)</p> <p>●ハネダクウコウノネ シバフ (小-川男4:10-5)</p>	<p>○イナカノ オウチ (神-三男4:0-18)</p> <p>○ギンジャ [ざ] ノ デパート (小-加男4:1-3)</p>	(注)固有名詞	
1.6-4 現象の所属する場所				(注)水を現象としたが問題がある。	
1.7 本体を規定する					
1.7-1 所属する本体	<p>○タクシーノ ドア (赤-p 女6:2-18)</p> <p>●マチノ ヒロバ (赤-m 女6:3-17)</p> <p>●キシャノ ヤネ (赤-a 男5:9-10)</p> <p>●ヘエキシヨウノ ミチ (自-x 男6:1-9)</p>	<p>○オシロノ マド (赤-p 女5:2-12)</p> <p>○トラックノ ココ (自-a 男4:9-13)</p> <p>●デパートノ オクジョウ (小-川男4:10-8)</p>	<p>○コウエンノ ミチ (神-玉男4:0-4)</p> <p>○オウチノ ヘヤ (小-原女3:7-25)</p>		
1.7-2 部分の所属する本体	<p>○ヒトノ カオ (自-d 女5:11-11)</p> <p>●テレビノ スイッチ (自-w 女6:5-7)</p>	<p>○マツチノ ボウ (赤-s 男5:6-7)</p> <p>●アカチャンノ ケ (小-窪女4:8-1)</p>	<p>○オオカミノ シッポ (小-神女4:1-13)</p> <p>○ボクノ アシ (小-佐男4:3-13)</p>		

1.7-3 現象の 所属する本体	<p>● <u>カイノカケラ</u> (赤-m 女6:3-6)</p> <p>○ <u>エンバンノヒカリ</u> (赤-c 男6:3-12)</p> <p>○ <u>タキノミズ</u> (赤-w 男6:3-14)</p>	<p>● <u>カイジュウノネ</u> (神-規男4:6-17)</p> <p>○ <u>ウシノチチ</u> (自-r 女4:8-14)</p>	<p>○ <u>エントツノアナ</u> (小-竹男4:1-10)</p> <p>○ <u>カイジュウノオト</u> (小-長男3:5-7)</p> <p>○ <u>コブタノウン</u> (コ) (小-加男4:1-10)</p>	
1.8 所属する 職業、職場な どの種類を規 定する	<p>○ <u>ヒコウキノネ</u> パイロット (赤-u 男6:5-26)</p> <p>○ <u>チヨウトツキユウノウンテンシユ</u> (自-n 男6:5-5)</p> <p>● <u>ビョウインノカンゴフサン</u> (自-p 女6:1-4)</p> <p>● <u>オリョウリノネ</u> {食堂} レジイ- (赤-w 女6:2-2)</p>	<p>○ <u>ウウチエンノネ</u> センセイ (赤-x 女5:2-4)</p> <p>● <u>バスノシャシヨウサン</u> (赤-q 女5:2-8)</p> <p>● <u>シヨクドウノオネエサン</u> (赤-e 女4:9-12)</p>	<p>○ <u>カチツノシャシヨウ</u> (小-竹男4:1-4)</p> <p>○ <u>バスノシャシヨウサン</u> (神-三男4:0-26)</p>	(年長、年中多し。質問にもよる)
2 修飾語が被修飾語の位置や時間、順序、数量を規定する	<p>○ <u>ニカイノサベッド</u> (自-l 男6:0-7)</p> <p>○ <u>ムコウノヤマ</u> (赤-u 男6:5-17)</p> <p>● <u>ハジッコノカイダン</u> (赤-m 女6:3-8)</p>	<p>○ <u>カタホウ</u> [の] ヒザ (赤-w 男5:3-8)</p> <p>● <u>マエノヘヤ</u> (自-c 男4:7-11)</p>	<p>○ <u>マエノオニイチャン</u> (神-三男4:0-20)</p> <p>○ <u>カドノウチ</u> (小-佐男4:3-14)</p> <p>○ <u>トナリノオウチ</u> (神-鈴男3:6-6)</p> <p>● <u>ヒダリガワノミチ</u> (赤-i 男4:2-5)</p> <p>● <u>キノウノヨル</u> (赤-a 女3:10-23) (注)</p>	(注)4.2の分類にも入れられる。
2.2 もの時の 規定	<p>○ <u>マエノアサガオグミ</u> (自-d 女5:11-19)</p> <p>○ <u>ムカシノオハナシ</u> (赤-o 女6:1-21)</p> <p>● <u>ウンドウカイノトキノネ</u> ハナビ (赤-q 男5:11-10)</p> <p>● <u>オトイノニュース</u> (赤-c 男5:10-21)</p> <p>● <u>モクヨウビノロクバン</u> (赤-p 男5:11-13)</p>	<p>○ <u>コンドノニチヨウビ</u> (自-j 女4:7-10)</p> <p>○ <u>ジュウニジノカネ</u> (赤-p 女5:2-12)</p> <p>○ <u>ムカシノハナシ</u> (自-p 男4:7-11)</p> <p>○ <u>ボクノオニイサン</u> トキノホン (自-s 男4:10-20)</p>		
2.3 もの順 序の規定	<p>○ <u>ツギノアサ</u> (自-h 女5:7-14)</p> <p>○ <u>アトノゼンブ</u> (赤-o 女6:1-17)</p>	<p>○ <u>ツギノページ</u> (赤-p 女5:2-11)</p> <p>○ <u>シタノネイモ</u> (ウ) ト (赤-t 男5:1-1)</p>		

2.4 数の規定	●ニバンメノネ オニイサン (赤-u 女5:11-11)	○ゴカイノサ ヨンバンメ (赤-o 女5:1-6)	(注)助数詞の使いわけのできない幼児もいる。
2.4-1 生物の数の規定	●サイシヨノ オハナシ (赤-L 女5:9-21)	○フタリノ オウジヨ (自-j 女4:7-17)	
	○ヒトリノ オヒメサマ (赤-p 女6:2-12)	○サンニンノ コドモ (赤-n 男5:2-6)	
	●ニヒキノ ネコ (赤-j 女6:6-14)	●ゴジュッセンチノ アカチャン (神-桑女4:10-15)	
	●ヒトリ*[-匹の] (注) シマウマ (赤-c 男5:10-24)	○イッポンノネ*[-足の] クチュ (自-j 女4:7-15)	
2.4-2 具体物の数の規定	●フタツノネ キャラメル (自-f 男5:5-1)	●ミツツノ メ (小-藤男4:9-11)	
2.4-3 空間の数の規定	○イッケンノ イエ (自-d 女5:11-20)	●ヒトツノ ドウブツエン (神-規男4:6-5)	
	●フタツノ ミチ (自-c 男6:3-6)	(注)	
2.4-4 その他の数の規定	○ジュウノ ウチ [中] (自-j 女5:7-5)	●ヒヤクノ ウエ (小-伊男4:3-7)	(注)おかしい。
2.5 量の規定			(なし)
3 修飾語が被修飾語の属性を規定する			
3.1 種類を規定する			
3.1-1 生物の種類	○カキノ キ (自-s 男5:9-6)	○バラノ ハナ (赤-t 男5:1-5)	(少なし, 年少なし)
	○ヒトツメコゾウノ オバケ (赤-w 男6:3-19)	●カキノ ミ (神-桑女4:10-17)	
	●ヒマワリノ ハナ (赤-u 女5:11-19)	●オサルノ オヤブン (小-村男4:9-6)	
		●キツネノ ユウレイ (小-篠男5:1-11)	
3.1-2 具体物の種類の種類	○オモチャノ ボーリング (赤-p 女6:2-4)	○オモチャノ トケエ (赤-h 女5:4-2)	○オモチャノ テレビ (神-坂女4:0-6)
	○ヒョウノ キモノ (赤-u 男6:5-9)	●ビーガタノ バッチ (小-森俊男4:6-7)	○クマサンノ オモチャ (小-新男3:10-3)

3.1-3 空間の 種類	○ウサギノ クニ (赤-o 女6:1-11) ●シオミズノ プール (赤-D 男5:11-9)	●ナマエノ*〔文字の意〕 ツミキ (小-山中 女5:0-17) ●クマノ ヨウチエン (赤-i 女5:3-12) ○ハタズ〔ぐ〕ミノ オヘヤ (自-a 男4:9 -1) ●キユウシヨクノ オトウバン (神-井男5: 0-4) ●ワラビノ*〔行き〕バス (小-弘女5:1-6) ○ハッパノ フネ (自-j 女4:7-19) ○デンキノ デンシャ (自-n 男5:5-11) ○ギンノ カタナ (赤-v 男5:1-2)	●ナマエノ*〔文字の意〕 ツミキ (小-山中 女5:0-17) ●クマノ ヨウチエン (赤-i 女5:3-12) ○ハタズ〔ぐ〕ミノ オヘヤ (自-a 男4:9 -1) ●キユウシヨクノ オトウバン (神-井男5: 0-4) ●ワラビノ*〔行き〕バス (小-弘女5:1-6) ○ハッパノ フネ (自-j 女4:7-19) ○デンキノ デンシャ (自-n 男5:5-11) ○ギンノ カタナ (赤-v 男5:1-2)
3.1-4 その他 の種類	○カゴノ ワナ (自-s 男5:9-9) ●カミノ コンチュウ (赤-r 男6:3-5) ●ハッパノ ハ (赤-n 男6:2-12)	●ナマエノ*〔文字の意〕 ツミキ (小-山中 女5:0-17) ●クマノ ヨウチエン (赤-i 女5:3-12) ○ハタズ〔ぐ〕ミノ オヘヤ (自-a 男4:9 -1) ●キユウシヨクノ オトウバン (神-井男5: 0-4) ●ワラビノ*〔行き〕バス (小-弘女5:1-6) ○ハッパノ フネ (自-j 女4:7-19) ○デンキノ デンシャ (自-n 男5:5-11) ○ギンノ カタナ (赤-v 男5:1-2)	●ナマエノ*〔文字の意〕 ツミキ (小-山中 女5:0-17) ●クマノ ヨウチエン (赤-i 女5:3-12) ○ハタズ〔ぐ〕ミノ オヘヤ (自-a 男4:9 -1) ●キユウシヨクノ オトウバン (神-井男5: 0-4) ●ワラビノ*〔行き〕バス (小-弘女5:1-6) ○ハッパノ フネ (自-j 女4:7-19) ○デンキノ デンシャ (自-n 男5:5-11) ○ギンノ カタナ (赤-v 男5:1-2)
3.2 材料を規 定する	○ホンモノノ オカアサン (赤-s 男6:6 -15) ○オンナノ コ (自-g 女5:11-12) ●フルモンノ ハカセ (自-l 男5:7-13) ●オデアチンノ オカアサン (自-o 女6:1 -4)	●ナマエノ*〔文字の意〕 ツミキ (小-山中 女5:0-17) ●クマノ ヨウチエン (赤-i 女5:3-12) ○ハタズ〔ぐ〕ミノ オヘヤ (自-a 男4:9 -1) ●キユウシヨクノ オトウバン (神-井男5: 0-4) ●ワラビノ*〔行き〕バス (小-弘女5:1-6) ○ハッパノ フネ (自-j 女4:7-19) ○デンキノ デンシャ (自-n 男5:5-11) ○ギンノ カタナ (赤-v 男5:1-2)	●ナマエノ*〔文字の意〕 ツミキ (小-山中 女5:0-17) ●クマノ ヨウチエン (赤-i 女5:3-12) ○ハタズ〔ぐ〕ミノ オヘヤ (自-a 男4:9 -1) ●キユウシヨクノ オトウバン (神-井男5: 0-4) ●ワラビノ*〔行き〕バス (小-弘女5:1-6) ○ハッパノ フネ (自-j 女4:7-19) ○デンキノ デンシャ (自-n 男5:5-11) ○ギンノ カタナ (赤-v 男5:1-2)
3.3 属性を規 定する	○ホンモノノ オカアサン (赤-s 男6:6 -15) ○オンナノ コ (自-g 女5:11-12) ●フルモンノ ハカセ (自-l 男5:7-13) ●オデアチンノ オカアサン (自-o 女6:1 -4)	●ナマエノ*〔文字の意〕 ツミキ (小-山中 女5:0-17) ●クマノ ヨウチエン (赤-i 女5:3-12) ○ハタズ〔ぐ〕ミノ オヘヤ (自-a 男4:9 -1) ●キユウシヨクノ オトウバン (神-井男5: 0-4) ●ワラビノ*〔行き〕バス (小-弘女5:1-6) ○ハッパノ フネ (自-j 女4:7-19) ○デンキノ デンシャ (自-n 男5:5-11) ○ギンノ カタナ (赤-v 男5:1-2)	●ナマエノ*〔文字の意〕 ツミキ (小-山中 女5:0-17) ●クマノ ヨウチエン (赤-i 女5:3-12) ○ハタズ〔ぐ〕ミノ オヘヤ (自-a 男4:9 -1) ●キユウシヨクノ オトウバン (神-井男5: 0-4) ●ワラビノ*〔行き〕バス (小-弘女5:1-6) ○ハッパノ フネ (自-j 女4:7-19) ○デンキノ デンシャ (自-n 男5:5-11) ○ギンノ カタナ (赤-v 男5:1-2)
3.3-1 生物の 属性	○ホンモノノ オカアサン (赤-s 男6:6 -15) ○オンナノ コ (自-g 女5:11-12) ●フルモンノ ハカセ (自-l 男5:7-13) ●オデアチンノ オカアサン (自-o 女6:1 -4)	●ナマエノ*〔文字の意〕 ツミキ (小-山中 女5:0-17) ●クマノ ヨウチエン (赤-i 女5:3-12) ○ハタズ〔ぐ〕ミノ オヘヤ (自-a 男4:9 -1) ●キユウシヨクノ オトウバン (神-井男5: 0-4) ●ワラビノ*〔行き〕バス (小-弘女5:1-6) ○ハッパノ フネ (自-j 女4:7-19) ○デンキノ デンシャ (自-n 男5:5-11) ○ギンノ カタナ (赤-v 男5:1-2)	●ナマエノ*〔文字の意〕 ツミキ (小-山中 女5:0-17) ●クマノ ヨウチエン (赤-i 女5:3-12) ○ハタズ〔ぐ〕ミノ オヘヤ (自-a 男4:9 -1) ●キユウシヨクノ オトウバン (神-井男5: 0-4) ●ワラビノ*〔行き〕バス (小-弘女5:1-6) ○ハッパノ フネ (自-j 女4:7-19) ○デンキノ デンシャ (自-n 男5:5-11) ○ギンノ カタナ (赤-v 男5:1-2)
3.3-2 具体物 の属性	●ダイダイイロノ テツ (赤-j 女6:6-4) ●コガタノ デンチ (自-b 男5:9-3) ●アメリカセーノ ブロック (赤-q 男5: 11-8) ●フツウノ ヒ (自-q 女6:1-4) ●ウソッコノ オヒル (自-l 男5:7-7) ●フツウノ マンガ (赤-k 男5:11-19)	●ナマエノ*〔文字の意〕 ツミキ (小-山中 女5:0-17) ●クマノ ヨウチエン (赤-i 女5:3-12) ○ハタズ〔ぐ〕ミノ オヘヤ (自-a 男4:9 -1) ●キユウシヨクノ オトウバン (神-井男5: 0-4) ●ワラビノ*〔行き〕バス (小-弘女5:1-6) ○ハッパノ フネ (自-j 女4:7-19) ○デンキノ デンシャ (自-n 男5:5-11) ○ギンノ カタナ (赤-v 男5:1-2)	●ナマエノ*〔文字の意〕 ツミキ (小-山中 女5:0-17) ●クマノ ヨウチエン (赤-i 女5:3-12) ○ハタズ〔ぐ〕ミノ オヘヤ (自-a 男4:9 -1) ●キユウシヨクノ オトウバン (神-井男5: 0-4) ●ワラビノ*〔行き〕バス (小-弘女5:1-6) ○ハッパノ フネ (自-j 女4:7-19) ○デンキノ デンシャ (自-n 男5:5-11) ○ギンノ カタナ (赤-v 男5:1-2)
3.3-3 その他 の属性	●フツウノ ヒ (自-q 女6:1-4) ●ウソッコノ オヒル (自-l 男5:7-7) ●フツウノ マンガ (赤-k 男5:11-19)	●ナマエノ*〔文字の意〕 ツミキ (小-山中 女5:0-17) ●クマノ ヨウチエン (赤-i 女5:3-12) ○ハタズ〔ぐ〕ミノ オヘヤ (自-a 男4:9 -1) ●キユウシヨクノ オトウバン (神-井男5: 0-4) ●ワラビノ*〔行き〕バス (小-弘女5:1-6) ○ハッパノ フネ (自-j 女4:7-19) ○デンキノ デンシャ (自-n 男5:5-11) ○ギンノ カタナ (赤-v 男5:1-2)	●ナマエノ*〔文字の意〕 ツミキ (小-山中 女5:0-17) ●クマノ ヨウチエン (赤-i 女5:3-12) ○ハタズ〔ぐ〕ミノ オヘヤ (自-a 男4:9 -1) ●キユウシヨクノ オトウバン (神-井男5: 0-4) ●ワラビノ*〔行き〕バス (小-弘女5:1-6) ○ハッパノ フネ (自-j 女4:7-19) ○デンキノ デンシャ (自-n 男5:5-11) ○ギンノ カタナ (赤-v 男5:1-2)

4 修飾語が被修飾語の成立に参与する度合の強いもの

4.1 位置関係 の成立に関 係する	○ヤマノ <u>チャウジョウ</u> (自-o 男6:3-12)	○キノ <u>カゲ</u> (赤-p 女5:2-9)	○オウチノ <u>マワリ</u> (神-三男4:0-9)	(年長, 年 中, 年少と も多し)
	○スイ ⁻²²⁾ <u>チュウメガネン</u> ナカ (赤-u 男6:5)	○タクシーノ <u>シタジキ</u> (自-t 男5:3-15)	○ヨウ ⁻²²⁾ <u>チエインノ</u> トナリ (神-佐女3:7-8)	
	○オニワノネ <u>ウラ</u> (自-d 女5:11-13)	●ショウ ⁻⁹⁾ <u>テンガイノネ</u> ウエ (赤-q 女5:2)	○キノ <u>ウエ</u> (小-佐男4:3-21)	
	●デンキノ <u>デンセンノ</u> クモノスノ <u>ウ</u>	●ヒマワリ ⁻⁹⁾ <u>グミンノ</u> ソバ(袖-伊男4:1-25)	●カゴノ <u>ナカ</u> (赤-o 男4:2-4)	
	●イズモ ⁻⁹⁾ <u>サンテ</u> イウ オウチノ <u>トナリ</u>	●ヤマノ <u>テッペン</u> (小-岡女4:8-24)		
4.2 時間関係 の成立に関 係する	(自-s 女6:3-7)	(注)		(注)1.7-1 とも
	○ナツヤスミノ <u>オワリコロ</u> (赤-o 女6:1-7)	●オトナノ <u>ジカン</u> (小-永男4:4-7)	○オヤ ⁻¹⁾ <u>シュミンノ</u> ヒ (神-高男4:4-3)	(注)2.2と も
	●キョウ ⁻¹¹⁾ <u>シヨクノ</u> ジカン (赤-m 女6:3)	●ヤスミノ <u>ヒ</u> (小-伊男4:3-4)	○ヨルノ <u>(ウチ)</u> (神-古男4:5-7)	
	●オマツリノ <u>ヒ</u> (自-a 男5:11-6)		●オヤツノ <u>ジカン</u> (自-k 男3:4-2)	
			●ヒバリ ⁻¹⁾ <u>サンノ*</u> [ひばり組の] ツギ (赤-u 女3:7-3)	
4.3 順序関係 の成立に関 係する	○ドヨウ ⁻¹⁾ <u>ビノ</u> ツギ (赤-s 男6:6-16)	○アナタノ <u>バン</u> (赤-p 女5:2-13)	●ウサギ ⁻¹⁾ <u>サンノ</u> アト (赤-i 男4:2-8)	(注)4.6と も
	○オバケノ <u>キョウタロウノ</u> アト(自-b 男6:0-19)	●ショウ ⁻⁶⁾ <u>ウガッコウノ</u> ツギ (赤-b 男5:6)		
	●セノ <u>ジュンバン</u> (赤-m 女6:3-20)	●アイウエオノ <u>ジュン</u> (小-久女4:7-27)		
	●サイ ⁻¹⁾ <u>ゴン</u> トコ (赤-j 女6:6-10)			
		(注)		
4.4 数量関係 の成立に関 係する	○オトナノネ <u>コノクライ</u> (自-k 男5:8-18)			
	●バイ ⁻¹⁸⁾ <u>エルノ</u> キイロイ <u>ホンノ</u> ナナ			
	ジュウゴ ⁻¹⁸⁾ <u>ババン</u> (赤-m 女6:3-7)			
	●アツチノ <u>ホウノネ</u> ゴジュウ ⁻¹⁸⁾ <u>ヨンバン</u>			
	チノネ <u>ニケンメ</u> (自-v 女5:10-6)			

4.5 抽象的な

ことばの成立に関係する

- テッポウノカタチ (自-b 男5:9-3)
 ●オバケノヤク (自-g 男5:8-6)
 ●オトウバンノシルシ (自-D 女5:11-1)
 ●ママノカワリ (赤-j 女6:6-13)

4.6 形式名詞の成立に関係する

4.6-1 とこ (注)

- タイラノトコ (自-k 男5:8-8)
 ○バレーノトコロ (赤-w 男6:3-17)
 ●エンチャウセンセイノウチノトコ (自-j 男5:7-3)

4.6-2 こと

- ダイタイノコト (自-g 女5:11-8)
 ○ネズミノコト (赤-v 男6:1-13)
 ●ヒコウキノコト (赤-y 男5:7-4)

4.6-3 とき

- ムカシノトキ (昔) (赤-o 女6:1-11)
 ○ゴハンノトキ (自-g 女5:11-4)
 ●タイフウノトキ (自-b 男5:9-3)
 ●ミツツカヨツツノトキ (赤-k 女5:8-12)

4.6-4 ほう、他

- ウサギノホウ (自-g 男5:8-21)
 ○ガイシヤノナマエノホウ (赤-t 男6:0-3)
 ●ミギノホウ (自-t 女6:4-8) (注)

- オトウバンノチ (シ) ルシ (自-r 女4:8-13)
 ○アシノマン (マ) (赤-t 男5:1-9) (注)

- モトノスガタ (小-窪 女4:8-20)
 ●モトノトオリ (神-大 女4:6-20)

- オウダンホドウノトコ (赤-r 女4:10-6)
 ○トラントコ (自-b 男5:1-10)
 ○ウシロノトコ (自-n 男5:5-16)
 ○サッキノトコ (赤-k 女5:3-8)
 ●トナリノシタノトコ (自-c 男4:7-11)
 ○オジイチャンノコト (自-t 男5:3-8)
 -8)
 ○ジェットノコト (赤-k 女5:3-11)

- ニチヨウン トキ (日曜日) (赤-k 女5:3-5)
 ○オマツリン トキ (お祭) (自-j 女4:7-1)

- カメノホウ (自-b 男5:1-11)
 ○アラカワノホウ (自-t 男5:3-4) (注)

- ドウブツノナマエ (赤-p 男3:7-10)

- ショウジン トコ (小-藤 女3:10-10)
 ○サッキン トコ (小-福 男4:2-15)
 ○ナツヤスミノトコ [ことの意] (神-三男4:0-22)

- ウチャギノコト (神-村 女3:6-7)
 ○オカアサンノコト (神-古 男4:5-2)
 ●クジャクノコト (赤-i 男4:2-9)

- アカチャンノトキ (神-高 男4:4-10)
 ○ヨン [る] トキ (夜) (神-寺 男4:4-3)
 ○ナツヤスミノトキ [夏休み] (神-三男4:0-22)

- オツカイノ [にいく] ホウ (神-鈴 男3:6-6)

- マエノホウ (神-佐 女3:7-15) (注)
 ●サカノホウ (赤-1 男4:3-3) (注)

(注)「まま」は形式名詞として4.6-4に入れてもよい。

(年長、年中、年少とも多し)
 (注)この項2.1, 2.2と重なるものがある。
 *この言い方の幼児多し。「とこ」「こと」不用。

*この言い方の幼児多し。「とき」不用。

(注)四つとも2.1とも

<p>4.7 行為の対 象を示して 成立に関係 する</p>	<p>○オニンギョウノ 10-5)</p> <p>○ムシノ カンサツ (赤-m 男5:10-8)</p> <p>○ママノ オテツダイ (赤-p 女6:2-8)</p> <p>●ミンナノ セワ (赤-a 男5:9-4)</p> <p>●アジャババノ マネ (赤-f 男6:3-8)</p>	<p>○ヤマノボリノ -13)</p> <p>○ネズミノ マネ (自-v 男4:7-11)</p> <p>○ナツヤスミノ ペンキョウ (赤-d 男5:4-4)</p> <p>●ヤクルトノ ハイタチュ (神-渡 男4:6-2)</p> <p>●チノ ケンサ (小-川 男4:10-13)</p>	<p>○カズノ オベンキョウ (小-佐 男4:3-8)</p> <p>●ゴハンノ ゴヨウ (赤-u 女3:7-1)</p> <p>●スボーツカーノ レンシュウ (赤-d 男4:2-7)</p> <p>●オトウサンノ オテツダイ (赤-s 女4:3-1)</p>	<p>(年長多し)</p>
<p>5 修飾語と被修飾語が同格の関係になっているもの</p>	<p>○オトモダチノ テツチャンテ イウ ヒ ト (赤-f 女5:9-9)</p> <p>○ニホンノ オバケノ キュウチャン (赤- o 女6:1-9)</p> <p>●ネコノ クック (自-o 女6:1-26)</p> <p>●キセカエニンギョウノ バービーチャン (赤-L 女5:9-5)</p>	<p>●オトモダチノ トモチャン (神-桑 女4:10-2)</p> <p>●トッキュウノ ヒカリゴウ (小-上 男4:7-10)</p>	<p>○オニンギョウノ サンダーバード (神-渡 女3:10-3)</p> <p>○ヤキュウノ* (選手の] ヒューマクン (神- 三男 4:0-32)</p>	

直接話法の中に出てくる用例はか多少あるが少ない。感嘆文としては、「あ！」などの驚きの表現
 その他あるが、主として「うん」「そう」などの応答形式であるので、ここでは取りあげない。
 また、あらたまった場面なので平叙文には相当複雑な形式がみられるが、日常会話に比べると、文
 の種類が少ないと思われることなどによって、自由の場での調査資料を補充した。「自由の場」で
 の調査の幼児については前にも述べたが、W男は5歳2～3か月で年長児相当、I女は4歳0～5
 か月で年中児相当、M女は3歳1～4か月で年少児相当である。自由の場といっても、これら幼
 児の母親に委託してことばを採集したので、同一の遊びの場での録音ではないし、問答形式のや
 り方もまざっていて、任意のものである。以下「自由の場」と呼び使用する。なお、文末が補足
 形式になっているものについては「補足文の構造と用法」として、付録で扱う。

5.1 平叙文の文末形式

平叙文の中で一番よく使用している文末は（文というべきか）、いわゆる一語文である。たとえ
 ば、「ニュース」「オニイション」「オミセ」「オリガミ」「カケッコ」「ボク」「イツツ」などのよう
 な名詞、代名詞、数詞などの一語からなるものである。この体言一語からなるものと、体言一語
 相応とここでは見なしている並立関係をもつもの、連体修飾語をもつものと、これら体言に助詞
 のついた省略文、すなわち、助詞「とか」「に」「も」「だけ」「まで」などが文末にきている形式を
 省くと、幼児の平叙文の文末形式には次のものがある。

- (1) 肯定形、否定形——ワカル、ワカラナイの類。
- (2) 現在形、過去形——アル、アッタの類。(1)(2)が以下の活用の部分につくのはいうまでもな
 い。のちに例示する。
- (3) 動詞、形容詞、形容動詞、体言一語からなるもの。——ミル、タノシイ、スキ、花の類。
- (4) (3)に文末助詞のついた形式——アソブノ、カワイイカラ、キレイネ、花ヨの類。
- (5) (3)に助動詞のついた形式——タノシソウダ、イルンデス、スキナンダ、花ダの類。
- (6) (3)に助動詞と文末助詞のついた形式——アルクンダヨ、ヒカレチャッタダヨ、オンナジ
 ダナ、花ダヨの類。
- (7) 動詞に補助動詞のついた形式——補助動詞としては次のようなものがある。
 - ① て(い)る、てある、ちゃう(てしまう)、てくる、ていく、ておく(とぐ)、てみる
 - ② てくれる、てあげる、てやる、てもらう
- (8) (7)に助動詞のついた形式——オシエテモラウンダ、オソクナッチャッタダ、カレチャウ
 ンデス、オボエテマセン。
(注)
- (9) (7)や(8)に文末助詞のついた形式——モッテルヨ、ウタッテクレルノ、ハイッテッタヨ、カッ
 テクレナインダモノの類。
- (10) 特殊な文末表現形式のもの——
 - ① 受身、可能、使役、希望の助動詞——ホメラレル、カゾエラレル、ツケサセル、ナリタイ

(注) 鈴木重幸『日本語文法・形態論』麦書房(1972)(373ページ)によると、すがた——～ている、
 ～てしまう、～てある もくろみ——～てみる、～てみせる、～ておく やりもらい——～てや
 る、～てもらう、～てくれる、と三種の命名のもとに分けている。

などの類。

②補助動詞の複合した形式——イレテキチャウ、アゲテミテル、ツレテイッテクレル、モラッテルの類。

③「なる」のついた形式——形（形動）＋なる、こと・よう・そう＋なる、動否＋なる——オオキクナル、ヨマナクナル、ジョウブニナル、オモシロイコトニナルの類。

④～たりする、～たりして～——シマッタリスル、ツクッタリシテアソブの類。

⑤～とする、～と言う、～と思う——タベヨウトスル、イイナートオモウの類。

⑥とき・とこ・こと＋ある、～こと^(も)_(が)できる——ネボケタトキアル、キエルコトモデキルの類。

⑦～でもいい、～ばいい、～ほうがいい——アソンデイテモイイ、マガレバイイ、ツクッタハウガイイの類。

⑧その他

(11) (10)に文末助詞のついた形式

(12) 文末助詞——使用数の多いものからあげると、次のようになる。の(ん)、よ、から、もの(もん)、けど、ね、わ、よね、って、つけ、さ など。

このような観点からみていくと、章末の、「平叙文の文末形式」(1)の用例ようになる。これらは使用例のほんの一部である。以下に表の解説もかねて幼児がどのような文末を使用しているかを述べてみる。

5.1-1 平叙文の文末形式(1)

動詞述語文では、動詞一語からなる形式を幼児は使うが、中では現在形文末をよく使う。年長では「シラナイ」「ワカラナイ」の否定文を肯定文よりよく使っている。問答形式の調査によるのだろう。しかし、年少は否定文は少ない。一語以上よりなる肯定文では、現在形が年齢を問わず多く、中でも年長に多い。現在形、過去形ともに助詞なしの文末形式より、終助詞「の」のついた形式が多い。特に過去形文末に「の」のつくものをもっとも多く使っている。年中、年長共にそうだが、年少では現在形に「の」のつく文末形式を多く使っている。「自由の場」の調査でも、「の」のつく形式が多いのは変わらないが、文末に「よ」のつく形式が問答形式の場合より多くなっているのが年齢を問わずきわだってめだっている。会話の部分が多いからだろうか。特に女兒に多い。(文末の形式のみでなく、「問答形式」と「自由の場」の場面のちがいとことばの関係を調査することも今後に残された課題である。)

補助動詞のついた形式では「～て(い)る」というものごとの継続を示す文末がよく使用されているが、これは現在形に終助詞「の」のついた形式が年齢を問わず多く、過去形は少ない。ついで完了をあらわす文末の「～てしまう」の東京方言では「～ちゃう」という文末が多く使われている。これは年齢を問わず終助詞「の」が過去形についた形式「～ちゃったの」をよく使っている。「～てある」という結果が残っている状態をあらわす文末や「～ておく」「～てみる」という試みをあらわす文末は全体に少ない。「～てある」は現在形、過去形とも年中、年長で二例ずつ、年少は補助資料に一例。「～てみる」は年長三例、年少一例、年中は補助資料にあった。「～ておく、～とく」も年齢を問わず少ない。「自由の場」でのほうがこれらはよく使われている。しかし、

「～てみる」は少ない。移行をあらわす「～ていく」「～てくる」は過去形が多く、助詞「の」のついた形で文に使っている。「～てきたの」のほうを「～ていったの」よりよく使っている。「自由の場」では「～ていく」は現在形が多く、「～てくる」は過去形、現在形とも同じくらい使われていた。

他人に何かをしてあげたり、他人から何かをしてもらう「やりもらい」の関係を示す補助動詞では、「～てくれる」の形式を現在形で使っている。終助詞「の」のつく形式もある。「～てもらう」の形式は過去形+「の」でいくらか使っているが多くない。しかし年齢を問わず使っている。「～てあげる」「～てやる」は用例が少ない。「自由の場」では逆に「～てあげる」「～てやる」がこれらの中ではいくらか多い。

助動詞では現在形「の(ん)だ」に助詞「よ」とか「もの(ん)」のついた形式と、助詞のない形式、過去形「たんだ」に助詞「よ」と「って」のつく形式とか、ていねい体「ます」、過去形の「ました」のつく文末形式が年齢を問わずある。「自由の場」では「んだ」の現在形が多い。「ます」「ました」もよく使っている。

形容詞では一語の形式と一語以上よりなる文の形式のうち、助詞のつかない形式が多く、現在形では助詞のつく形式がめだち、中では「の」が多い。また「～がいい」という形式もある。形容詞の否定形は現在形では「ない」があるが、年少では過去の否定形はみられなかった。形容詞に助動詞「んだ」のつく文末もある。

形容動詞は現在形で語幹止のもの(スキ、ダイジョウブ)が多く、終助詞「の」、助動詞「だ」のつく形式もある。「で」の過去形の「でした」のつく文末が年長に一例あった。「ダイキライデシタ。」

体言に助動詞のつく形式では、一語に助詞「の」「よ」のつく形式の「だの」「だよ」「なの」の文末がいくらかあった。ていねい体の「です」は少ない。過去形では「だった」がいくらかあった。

助動詞文末では推量、推定の助動詞の「～だろう」「～らしい」があるが非常に少ない。「らしい」は年長児に一例見られたに過ぎない。意志を表わす文末「～う」も少ないが見られた。

受身、可能、使役の文末表現は、『話しことばの文型(1)』で言われていることと似ている。つまり「～案外に少なく、使役の表現のごときはまったくあらわれなかった。～受身では、いわゆる「迷惑の受身」(「なぐられる」「おこられる」の類)がほとんどであり、また受身にくらべれば可能表現の数のほうがずっと多かった～」ということである。幼児の場合は可能表現の数のほうがずっと多いとはいえず、どちらかというと「迷惑の受身」のほうが多かった。「せる」「させる」の使役の助動詞の使用はむずかしいようである。文中にも使われている場合があるので、文末にあらわれなかったから幼児は使用できないとは必ずしもいえないが、少なく誤った使用をしている。使役動詞は使っている。

可能の表現には動詞「できる」とか可能動詞「読める」などによる表現もあるが、ここではとりあげていない。のちに「～こともできる」の例をあげておいた。希望の助動詞「～たい」の文末もある。

5.1-2 平叙文の文末形式(2)

平叙文の文末形式(1)では、補助動詞や助動詞からなる文末について述べた。終助詞のつく形式としては、主として断定の気持を軽く表現すると言われ、非常によく使う「の」のついた用例をあげており、接続助詞が文末につく形式などはとりあげなかった。そこで、ここでは、(1)で述べられなかったより細かく言いわける文末形式を取りあげ、幼児がどのようにこれら陳述形式を使用しているかをみていくことにする。章末「平叙文の文末形式(2)」に使用例の一部をあげておいた。

こちらは以下のように意味で分けてみた。
(注)

(1)原因・理由の意をあらわす文末

終助詞の「～から」「～もの」「～けど」「～のに」のつく形式がある。この中では動詞、形容詞、名詞述語文に「から」の文末のつく形式、「～もの」のつく形式が多い。「～もの」のつく形式は文頭に「だって」「でも」「どうしても」がついて文末と呼応している。「～のに」の文末は少ない。「自由の場」に一例。

(2)推定の意をあらわす文末

「～だろう」「～らしい」「～そうだ」という推定の助動詞とか、「かもしれない」という連語などからなっている。助動詞については(1)で述べた。これらの使用は非常に少ない。補助資料で補って種類はふえたが一、二例である。年少・年中では使えない文末形式もある。「～きがする」「～ようとする」「～と思う」という文末形式は中ではわりに使っている。

(3)意志の意をあらわす文末

意志の意をあらわす言い方としては、動詞のままで、たとえば「行く」「あそぶ」あるいは助詞をつけて「行くぞ」などを、イントネーションで文末を強めて言うことによって成立するが、ここではそれはとりあげなかった。助動詞「～う」のつく形式は(1)で述べた。その他の文末としては「～いい」のつく消極的意志表現形式がある。「～ればいい」「～てもいい」「～のがいい」など。この形式は年少ではほとんど使っていない。

(4)断定の意をあらわす文末

平叙文の文末形式(1)のところに助動詞の例をあげておいた。ここには主として連語から成っている断定の意をあらわす文末形式をあげる。たとえば、「～なければならない」「～しょうがない」「～ことがある」これらもやはり表現が微細になってくるので、使用している幼児は少なくなる。

(5)伝聞の意をあらわす文末

助動詞「そうだ」であらわす形式は見当らなかった。「～だって」という他のことを伝える形式は年少ではあまり使わず、年長に多かった。直接話法の入る「「」」って ユツタンダッテ」という言い方も年長には多かった。この言い方は女兒に多く、よく使う話しぐせの幼児もいた。ていねいな「～ですって」の形式を使用した幼児は採集例のうち、用例にあげた(赤一p女)のみであった。

(6)変化の意を表わす文末

(注) 『話しことばの文型(1)』(前出)および、『小説会話文における表現類型形式用例集』(話しことば研究室資料・謄写印刷)を参考にし、適宜つけ加えた。

これには「なる」のつく文末をあげた。年少には形容動詞につく「キレイニ ナリマシタ」という文末形式が少ない。形容動詞の少ないことは前に述べた。否定形+なるの形式は年少には補助資料の用例一例であった。その他用例は少ないが、「～ことになる」「～のようになる」「～そうになる」の例をあげておいた。ともに使用例が少ない。

(7)その他

一つの動作をあげて、他のものを言外に暗示する言い方「～たりする」文末はよく使っている。しかし、そのあとに動詞のつく、たとえば、「オヤマツクッタリ シテ アソンダ」という言い方は年長にしか見られなかった。

可能の意をあらわす「～こともできる」の言い方は、年長、年中では補助資料にみられたが、年少では使っていない。

5.2 疑問文の文末形式

疑問文の文末や命令文の文末をみるには、イントネーションが重大な役目をしているので、それを記録しなければ調査したことにならないが、疑問文文末には？印をつけ、命令文文末はそのままにして取り扱った。問題の残るところである。

そのようにして見た疑問文の文末形式を章末に幼児の使用例としてあげるが、以下の形式を使用している。

(1)説明を求める質問形式

これは疑問詞を使う質問形式であるが、疑問詞「どうして?」「だれ?」の形式から、それに助詞のつく形式もある。その他、「なに?」という意味で、ぞんざいな言い方「ん?」「え?」などの形式もある。これらは用例にあげなかった。用言の現在形、過去形が文末になっていて昇調の形式、終助詞「の」の昇調の形式、いわゆる疑問詞の「か」、その他「だ」「だい」「いい?」などのつく形式がある。「の」の昇調の形式を一番よく使っている。

(2) yes かno の判定を求める質問形式

これは疑問詞を使わないで、主として「そうだ」とか「そうでない」とかの答えを求める質問形式である。「の」の昇調の形式が多い。その他、ここではあげていないが、体言の昇調の形式、体言に格助詞その他の助詞のついた形式がある。すなわち「やま?」とか「いなかで?」「ひるやすみだけ?」。その他、副詞、形容詞、接続詞の昇調の形式、「ずーっと?」「これ 大きい?」「それから?」などの形式もある。これらは省略文とも言えるが、疑問文の文末の一種でもある。「～か?」の形式が少なく、あっても直接話法で使っているのは問答形式の調査のためである。

(3)自問自答的質問形式

これは自分で自分に問いを出している形式の自問的質問形式と、自分で自問自答している形式と、自問的問投詞的形式の三種の形式がある。

3.1 自問的質問形式には(1)疑問詞のつくものと(2)つかないものがある。疑問詞に推量の助動詞「だろう」のついた文末形式は年少にはみられなかった。「～かな」の形式がこの種の形式の中ではどちらかというようによく使われている。年少は使えないわけではないが用例は少ない。その他「～っけ」「～かしら」があるがともに少ない。「～かしら」は年少にはない。(2)疑問詞のつかぬ

ものでは、やはり「～かな」がどちらかというと多い。「～かしら」は女兒のみである。やはり年少にはない。

3.2 自答的質問形式では、「～か」「～のか」が用いられているが、知っている答を質問形式でいう言い方で、一ひねりした表現なので使用例は少ない。

3.3 自問的間投詞的形式では「～なんだっけ」がある。次に話すことを考えている場合もあろうが、「あのね」「うんとね」などと同じように話しぐせの場合もある。年少では使用する幼児が少ない。「なんだっけ」を話の間にに入れるには、いくらかのゆとりが必要なのだろうか。

(4) 念押し文末形式

「～でしょ」「～だろう」「～じゃない」の昇調の文末形式である。「～でしょ？」の言い方が多い。これもやはり話しぐせの幼児がいる。話す場合倒置形の文を好む幼児がいるのと似て、「～でしょ？」を口ぐせ的に使う幼児がいるのである。疑問形の「？」印をつけるより昇調の「ノ」印でも使用したほうがいように、質問をするわけではなく、自己の知っていることを念押しの形で話の中で述べるという形式である。時には自分の話を理解してくれないのをなじる調子も「～じゃない」のほうには含まれている。「じゃない」の形式はどちらかというと年長のほうがよく使用する。

(5) 選択の文末形式

この形式はこんどの調査では、「問答形式」で一例、「自由の場」で一例しか採集できなかった。幼児が使用しないのか、この形式を使用する場面が少なかったのか、これだけではわからない。

(6) その他

6.1 さそいの表現の文末形式としては、「～か」 6.2 すすめの表現文末としては「～ないか」「～かい」「～ないかい」の形式があったが、すすめの表現文末は年少児からは採集できなかった。否定形を使っのひねった表現はむずかしいのだろう。

5.3 命令文の文末形式

幼児の命令文の文末形式としては、次のようなものがある。章末に用例をあげておいた。

(1) 命令形

動詞の命令形とそれに終助詞のついた形式である。調査が問答形式のため直接話法の場合にしか出ていない。年少児は直接話法の形が少ないのか採集例がない。「自由の場」では年齢に関係なく多い。

(2) たのみ表現

「～して」「～してくれ」とていねいな「～してください」などの文末形式を使用している。消極的なたのみの表現「～してくれない」とか「～しないで」の否定形をもった言い方は年少に少ない。疑問形の文末と同じである。たのみ表現としては、「ちょうだい」「ください」などの表現もあったり、動詞に「～たら」のついた「待ってたら」などの言い方もあるがこの調査では少なかったし、用例としてあげなかった。

(3) さそい表現

助動詞「～う」、ていねいの形式の「ましょう」「～ばいい」その他たとえば「泊っていけば」

の「ば」などの文末の言い方もあるが少ない。

(4) すすめ表現

「～ていっしょい」「～なさい」「～てごらん」「～ておいで」などの形式があるがこの調査では直接話法の場合以外では使われていないので少ない。「～なさい」「～ごらん」以外は女兒のみ使っている。

5.4 まとめ

以上をまとめてみると、幼児は幼稚園年齢の時期には、基礎的な文末形式が使えるようになってきていることがわかる。ただ、より細かく言いわけける種々の文末表現については、まだ不十分であり、^(注) 幼児により差がある。また、大人と比べてみると、たとえば、次のような文末が幼児に出てこなかった。場面にもよるので、使えないと言い切ってよいか疑問ではあるが。

しはじめる しつづける しあげる してみせる しかける しかかる べきだ きまっている
はずだ わけだ など。

また、文末は述語の部分であるが、主語との対応ができていなかったり、使役形、可能形、自動詞、他動詞のまちがいがあったりする例もみられた。以下に気づいた例をあげる。(陳述副詞のまちがい、「あげる」「くれる」「もらう」のまちがいは「単文の構造と用法」の章にあげた)

1) 受身形・使役形をまちがえる

○オオカミガネ アカズキンチャン 「アウー」ッテ タベラレチャウノ。(小少-原女3:7-29)「食べちゃう」の意。

○シカレタ コト ナイ。(神中-遠男5:1-8)

「叱られた」の意。

○コッカラ カケテネ ソイデ コッカラ シ[ひ]カラレチャッタノ。(小少-竹男4:1-8)

「引かれちゃった」というところ。

○ママネ ヨルネ オソトニネ オバアチャンニー オイダシタ。(自長-h女5:7-9)

「追い出された」の意。

○ライオンガネ オナカ スガ スイテネ アルイテ キタノ。ソシテ オナカガ スイテ アルイテ キタラネ シマウマガ イタカラ 「コリャ オレサマノネ オヒルゴハンニ イイヤ」ッテ オイカケタノ。(赤長-m女6:3-24)

お腹を「空かせて」の意。

○ソウシタラネ モウネ フルイ オウチデネ スンダ ホウガ イイナト オモッテネ ミンナデネ イッショニ クラセラレタノ。(赤長-u女5:11-15)

「暮らしたの」の意。

2) 可能形をまちがえる

(注) 大久保愛『幼児言語の発達』(前出)に、一幼児の発達であるが、助動詞、助詞の初出時期が述べてある。それによると、ここで述べた助詞、助動詞は、3歳過ぎには一部分を除き、使用まちがいは問題にしないとすると、もう十分に使用できているのである。助動詞でおくれるのは、「らしい」4歳、「ぬ」4歳2、「ず」5歳3、「べし」6歳などである。誤用についても述べてある。

「れる」「られる」がついて可能形になる。それにひかれて動詞の可能形「よめる」「いける」ですむところをまちがえる。

○ヨメラレナイ。(小中－関男5:0－7)

○バンヤサンノ トコヲネ マガッテネ イケライル トコロ。(自長－d 女5:11－13)

可能形を使うとよいと思うところに使わない例もある。

○ヒャクサンジュウイチマデ カゾエルノヨ。(小中－伊男4:3－7)

「数えられる」の意。

3) 自他の使用をまちがえる

○チビツチャイ ネコ オリランナイノ。ヒトリデ；ダカラネー オッキイ ネコガ オリラシテ アゲルンダヨ。(神中－渡男4:6－13)

前の「降りられない」にひかれて「おりる」(自動詞)を使役形にしようとしてまちがえている。他動詞の「降ろす」にするところ。

○ウルトラマンガネ ココカラ ムネニ マルイノナンカ ツイテンノネ。(神中－遠男5:1－19)

他動詞の「つけてる」となるところ。

4) 形容詞活用をまちがい

(a)○アマイーク ナイ。(神少－古男4:5－6)

○トオイク ナイヨ。(小中－藤男4:9－9)

(b)○タカイカッタヨ。(神少－狗女4:3－5)

○ウンドウカイガ タノシイカッタ (赤中－x 女5:2－3)

(c)○イナカノ オバチャンチハ トオクイノ。(神少－佐女3:7－5)

○カンジガ トオクイト オモッチャウ。(神少－三男4:0－32)

など。興味深い使用をしている。

(注)

(注) 高橋太郎が「動詞の形態」「形容詞の形態」というテーマで研究している。そこでは文末以外のそれらの形態も調査の対象になっている。『国立国語研究所年報 19』(1968)に中間報告がある。

5.1-1 平叙文の文末形式(1)の使用例

(注) 【 】 = 「自由の場」の幼児の例

文末形式	用 例				備考
	年	長	年	中	
1 補助動詞からなる文末	〔～て(い)る〕 動作のつづいている状態。	○コッチニモ タイヨウ デテンノ。(自-f 女5:8-11) ○ボクハ アンマリ ミテナイ。(自-b 男6:0-21) 【アンナ コト シテ タベテル。(W男41-272)】	○～ヨウサイノ フクラ スッテル。(赤-p 女5:2-2) ○マダ ヨンデ ナイ。(自-d 女4:11-12) 【アラー コビトサンガ ソンナ トコロデ オスワリ シテル。(1 女-21-598)】	○～ヤギガ クチャ タベテル。(神-坂 女4:0-9) ○ナンニモ ミテナイノ。(神-勝男3:7-6) 【オトウサンモ、オトウサンモ ミテル。(M女-51-376)】	肯定形 否定形
	〔～ちゃう〕 動作の完了をあらわす。	○ソレ ツカマエヨウト オモッタラ ニゲチャッタノネ。(赤-o 女6:1-14) 【テツノ タカラ ミンナ イレチャウ。(W男-31-207)】	○ジドウシヤト コノ クマガ アツカッチヤッタ。(赤-a 男4:11-10) 【キシヤボツポ コワレチャウヨー。(1 女-32-461)】	○タイソウガ ハジマツチャッタヨ。(神-場男3:10-11) 【テッポウデネ オトウサン ウツチャウノ。(M女-41-308)】	(過去形多し)
	〔～である〕 動作がのこっている状態。	○ホンニ カイテ アル。(赤-c 男6:3-17) 【ジドウシヤハネ メノ マエニ オイテ アルノ。(W男-42-330)】	○ウラニハ フネガ イッパイ オイテ アンノ。(自-t 男5:3-5) 【チャン トツケテ アルヲヨー。(1 女-12-69)】	【ココモ アカチャン オフロツテ カイ、カイテ アルカラネ。(M女-31-191)】	(少ない)
〔～ていく〕 動作の移行の状態。	○ヨウチエン ツレテ イクノ。(自-f 女5:8-3) ●ネコハ ツレテ イカナイモン。(赤-i 男6:2-8)	○ヨウチエン ツレテ イクノ。(自-f 女5:8-3) ●ネコハ ツレテ イカナイモン。(赤-i 男6:2-8)	●～カメノ ホウガ ジーット ヨソミ シナガラ ノボツテッタノ。(赤-b 男5:6-11) ●モツテ イカナカッタノ。(小-山 女4:5-18)	○ドウロラ ワタツテ イクノ。(小-矢 女4:0-7)	
	【ジドウシヤニ ツンデ イクノ。(W男51-366)】		【～ワタシノ ホウヘ モツテ イクノ。(1 女-42-361)】	【～アルイテ イクノ。(M女-31-178)】	
	○ミズ アゲレバネ ノビテ クンノ。(自-r 女5:7-18) ●～カイシヤニ イッテ カエツテ コ		○～ベンキョウトカネ ヤツテ ヨルニ カエツテ クルノ。(赤-f 女4:10-1)	○～エイガカンニ イッテネ クマサン ヤナンカ ミテ キタ。(神-三男4:0-22)	

〔～ておく、とく〕 試みをする状態。	ナイ。(赤-b 男6:5-2) 【デンセンノアレガナガレテクンノ。(W男-52-436)】 ○ソウイウノアツメテネハコンナカニイレトクノ。(赤-u 男6:5-7)	女4:8-1) 【ジャイッテクル。(1女-21-136)】 ○オカネガネタマンナイヒトニネコノコウイウハネネココニネツゲ(け)トクノ。(自-t 男5:3-12) 【ナミガキタラスグオクチオサエテオクノ。(1女-51-398)】 ●ウサギガネカメトネキョウソウシテミタノ。(小-成男4:7-16)	○～ナンニモデテコナイノ。(神-寺男4:4-10) 【ジャロウカノトコニオイテクルネ。(M女-51-391)】 ○ノコリハネノコシテオクノ。(神-高男4:4-2)	(少ない)
〔～てみる〕 試みる気持ち。	【～デンチテツヲチョットカタメテオクノ。(W男-51-389) ○ヨンデミル。(自-b 男6:0-27) 【ボクガヤッテミルヨ。(W男-42-342)】 ○オミヤゲカッテクレルカラ。(自-f 女5:8-2) ○ヤスミントキハヤッテクレナイノ。(赤-w 男6:3-11)	○ゴホンモヤッバリヨンデクレル。(赤-f 女4:10-9) ○～ガムカネアメカネーソレシカネーカッテクレナイ。(赤-x 女5:2-9) 【キシヤポッポミニオジーチャンツレテッテクレル(カラー)ラ。(1女-32-476)】 ○ママニネツケテモラッタノ。(自-r 女4:8-20) ○カッテモラワナイ。(自-h 女4:7-1)	【アツカラナイヨウニハンドルツケテオクノ。(M女-22-149)】 ○エ(い)レテミンノ。(小-長男3:5-2)	(少ない)
〔～てくれる〕 話し手が主語となる主体から何かをうけること。	【イレテクレナイノ。(W男-41-277)】 ○トキドキネオカエリニゴホンヨンデクダサツタリスル。(赤-p 女6:2-5) ●～センセイニネーイロイロオシエテモラウノ。(赤-O 女6:1-6) 【……アズカッテモラウヨ。(W男-42-361)】 ○ソノコヲネオウチデネカッテヤッタノネ。(赤-s 男6:6-16) 【アンナグッテヤルゾ。(W男-12-94)】	○ママニネツケテモラッタノ。(自-r 女4:8-20) ○カッテモラワナイ。(自-h 女4:7-1) ○～ナンカカッテイッテ(アヤ)ルノ。(自-n 男5:5-3) 【ワタシガオソージシテヤルワー。(1女-12-91)】	○～ゴホンダケヨンデクレル。(神-寺男4:4-16) ○ヨルネオジイチャンジャナクツチャオハナシシテクレナイ。(神-三男4:0-35)	ていいない体は「くだける」。
〔～てもらう〕 他のものから何かの利益をうけること。 〔～てやる〕 主語となる主体が他のものに何かをすること。	○～カズカゾエレ、レナイケドネユウコオネエチャンニネカゾエテモラウノ。(神-折女4:3-8) 【セワヤッテモラウノ。(M女-22-161)】 ○～コンドモッテッテヤル。(小-金男4:1-7) 【イッパニーオキヤクサンノセテッテヤンノ。(M女-22-139)】	○～カズカゾエレ、レナイケドネユウコオネエチャンニネカゾエテモラウノ。(神-折女4:3-8) 【セワヤッテモラウノ。(M女-22-161)】 ○～コンドモッテッテヤル。(小-金男4:1-7) 【イッパニーオキヤクサンノセテッテヤンノ。(M女-22-139)】	○～カズカゾエレ、レナイケドネユウコオネエチャンニネカゾエテモラウノ。(神-折女4:3-8) 【セワヤッテモラウノ。(M女-22-161)】 ○～コンドモッテッテヤル。(小-金男4:1-7) 【イッパニーオキヤクサンノセテッテヤンノ。(M女-22-139)】	(少ない)

<p>〔～であける〕主語となる主体が他人に何か役に立つことをするのと。「やる」よりに「やらない方。」</p>	<p>●～アタシガネ イツモ ネカシ ネカシテ アゲルノネ。(赤-E女5:8-35)</p> <p>【ボクガ ナオシテ アゲル。(W男-11-22)】</p>	<p>○ガッコウノ ホン カッテ アゲタノ。(自-n男5:5-12)</p> <p>【チョット ミテ アゲル。(1女-51-434)】</p>	<p>○ジャ コンド ウチニ クル トキニハ オシエテ アゲル。(小-神女4:1-4)</p> <p>○オシエテ アゲナイ。(小-長男3:5-10)</p> <p>【ワタシガ ダッコ シタゲルワ。(M女-51-389)】</p>	<p>(少ない) ていねい は「さしあ げる」幼児 にはない。</p>
<p>〔～んだ〕断定の意をあらわす。</p>	<p>○ウシロニ プロペラ ミタイノガ アシタダヨネ。(自-b男6:0-6)</p> <p>○ヒダリカミ ミギカ ワカンナシタヨ。(自-t男6:2-13)</p> <p>○～コッチカラ イクト トオイシタヨ。(自-k男5:8-14)</p> <p>【デンジャッテ ナガイカラ マガルンダヨ。(W男-11-4)】</p> <p>○カブトムシガ キノ ウエニ イルンデス。(自-s男5:9-4)</p> <p>【チーチャイ フクロガ アルンデス。(W男-22-162)】</p>	<p>○～モスコシ オッキク ナッタラサーオコズカイ タメルンダ。(自-f女4:9-7)</p> <p>○～ナンノ マンガ〔で〕モ シラナインダ。(自-r女4:8-11)</p> <p>○イ(イ)ンダヨ。(赤-m男4:10-5)</p> <p>【コノネー コッカラネー クーキヤアケルンダヨネ。(1女-22-172)】</p> <p>○オニンギョウデネー オカアサンゴツコデネ アソブンデス。(赤-x女5:2-3)</p> <p>【ワタシガ ヤルンデスヨー。(1女-21-126)】</p>	<p>○ウチニネー オカシ アルンダ。(小-神女4:1-4)</p> <p>○オニイチャン フジバンヤサン イツテテ コンドハ ズット コナインダ。(神-三男4:0-4)</p> <p>●～ウマハネ ツヨインダヨ。(赤-b男4:0-15)</p> <p>【チッチャイ オネエサンガ イルンダヨ。(M女-22-160)】</p> <p>○～「マダ ヨウジュ」ジャナクテ「マダヨウズ」ト ナルンデス。(小-原女3:7-17)</p>	<p>○アブラガ (ミテ)カラ〔はつきりしない〕オウチニ イレマス。(神-玉男4:0-8)</p> <p>○サツキノー ヤギノ コエジャーアリマシエン。(神-古男4:5-25)</p> <p>【セッケン オカリシマスヨ。(M女-31-195)】</p>
<p>〔～んです〕断定の意をあらわすていねいな表現。</p>	<p>○カメハ ノロイケド ウサギハ ビョンビョン ハネマス。(赤-s男6:6-19)</p> <p>○ゼンブハ オボエテマセン。(赤-s男6:6-14)</p> <p>【デンキ コワレマシタカラ、チョットナオシマス。(W男-51-397)】</p>	<p>○ハバト ママト オニイチャン〔が〕イマス。(赤-p女5:2-1)</p> <p>●～ツバメヲ トリニ イキマシタラハシゴ、ヲ カケマシタガ トドキマセン。(神-桑女4:10-17)</p> <p>【アカイ ジドウシヤニ ノリマス。(1女-12-78)】</p>	<p>○アブラガ (ミテ)カラ〔はつきりしない〕オウチニ イレマス。(神-玉男4:0-8)</p> <p>○サツキノー ヤギノ コエジャーアリマシエン。(神-古男4:5-25)</p> <p>【セッケン オカリシマスヨ。(M女-31-195)】</p>	<p>○アブラガ (ミテ)カラ〔はつきりしない〕オウチニ イレマス。(神-玉男4:0-8)</p> <p>○サツキノー ヤギノ コエジャーアリマシエン。(神-古男4:5-25)</p> <p>【セッケン オカリシマスヨ。(M女-31-195)】</p>
<p>〔～ます〕ていねいの意をあらわす。</p>	<p>○カメハ ノロイケド ウサギハ ビョンビョン ハネマス。(赤-s男6:6-19)</p> <p>○ゼンブハ オボエテマセン。(赤-s男6:6-14)</p> <p>【デンキ コワレマシタカラ、チョットナオシマス。(W男-51-397)】</p>	<p>○ハバト ママト オニイチャン〔が〕イマス。(赤-p女5:2-1)</p> <p>●～ツバメヲ トリニ イキマシタラハシゴ、ヲ カケマシタガ トドキマセン。(神-桑女4:10-17)</p> <p>【アカイ ジドウシヤニ ノリマス。(1女-12-78)】</p>	<p>○アブラガ (ミテ)カラ〔はつきりしない〕オウチニ イレマス。(神-玉男4:0-8)</p> <p>○サツキノー ヤギノ コエジャーアリマシエン。(神-古男4:5-25)</p> <p>【セッケン オカリシマスヨ。(M女-31-195)】</p>	<p>○アブラガ (ミテ)カラ〔はつきりしない〕オウチニ イレマス。(神-玉男4:0-8)</p> <p>○サツキノー ヤギノ コエジャーアリマシエン。(神-古男4:5-25)</p> <p>【セッケン オカリシマスヨ。(M女-31-195)】</p>

〔～だらう〕 推量の意をあらわす。	●シ……スコシハ <u>ワカルダロウヨ</u> 。(赤-g 男5:10-19)	○「ユウガクマデ <u>カカルダロ</u> 。」(赤-s 男5:6-16)	●ウシロムキニ <u>ナッタンダロ</u> 。(赤-d 男4:2-8)	(少ない)
〔～らしい〕 推量の意をあらわす。	○ヨク <u>ワカンナカッタシイ</u> 。(赤-d 男6:4-3)	○「イカセテ <u>アゲヨウ</u> 。」(赤-p 女5:2-12)	○ジャ <u>モウ レコード カケ</u> 。(小-原女3:7-24)	ほとんど使われない。
〔～う〕 意志の意をあらわす。	●マチガエテモ <u>イイカラ ユツチャオウ</u> 。(赤-g 男5:10-19)	【コレ <u>ヨコニ シテ ミヨウヨ</u> 。(1 女-42-340)】	【ドンドン <u>バイキン ツケチャオウ</u> 。(M 女-32-261)】	
〔受 身〕 主体(主語になるもの)が他からある動作をうけると。	○イタズラ <u>シタ トキハ シカラレ</u> 。(赤-c 男6:3-3)	○ナンカネ <u>モツトネ スグ ホメラレ</u> 。(赤-m 男5:10-3)	○マタネ <u>オウチ ツクロウト オモツ</u> 。(小-神)	
〔可 能〕 主体が何かを「することができる」こと。	○イッバイニ <u>ナル クスリ ノマセラレ</u> 。(自-b 男6:0-2)	○ホイクエンニ <u>キテテ ハネラレ</u> 。 <u>チャッタノ</u> 。(自-r 女4:8-20)	○タラネ <u>トバサレチャッタノ</u> 。(小-神 女4:1-14)	
〔使 役〕 主語になる主体が動作を他人にさせること。	【ジドウシャ <u>オキバマデ ハコバレタ</u> 。 <u>ノ</u> 。(W 男-52-431)】	○ブッタツテネ <u>オコラエナイヨ</u> 。(自-t 男5:3-8)	●アタシガ <u>ゴハン コボス トキ</u> <u>コラレルヨ</u> 。(赤-a 女3:10-11)	
	○カズハネー <u>ヒヤクマデ カゾエラレ</u> 。 <u>ル</u> 。(赤-w 男6:3-18)	○カベ <u>ヌケラレルヨ</u> 。(赤-d 男5:4-11)	○ソイデ <u>ミ ミランナクッタ</u> , <u>ミランナカッタノ</u> 。(神-三男4:0-12)	可能動詞の例はあげない。
	●～シマウマガ <u>タクサン イルカラ</u> <u>ネー オッカケランナイノ</u> 。(自-r 女5:8-13)			
	【ボク <u>ナンカ カンタンニ ツケラレ</u> 。 <u>ル</u> 。(W 男-32-265)】			
	●～ジャックノ <u>コトネ 「カクレナサイ」</u> <u>イチテ イッチ カクレサシタノ</u> 。 (赤-y 男5:7-9)			
	○オカネ <u>イッバイ ツカワシテ</u> <u>クレ</u> <u>ルカラ</u> 。(自-r 女5:7-2)			
	【ノレトモ <u>マタ ツケサセルヨ</u> 。(W 男			

<p>〔希望〕</p>	<p>-41-291〕</p> <p>○オーキク ナッタラ オマワリサンナリタイ。(自-s 男5:9-12)</p> <p>○オラナイッテ ワケジャナインダケドネ オリタクナカッタノ。(自-g 女5:11-6)</p> <p>【ソト イキタイナニ。(W男-31-200)】</p>	<p>○バトロールカーノ ウンテンシユニナリタイ。(赤-c 男5:3-4)</p>	<p>●ボク コレ ヤリタイナ。(赤-n 男3:7-10)</p> <p>【オネエチャンノ ナカマニ ハイリタイ。(M女-32-243)】</p>
-------------	--	---	---

5.1-2 平叙文の文末形式(2)の使用例

文末形式	用 例			備 考
	年 長	年 中	年 少	
<p>〔～から〕</p>	<p>○オニイチャント スグ ケンカシチャウカラ。(赤-m 男5:10-3)</p> <p>○ボク アシガ ハヤイカラ。(赤-c 男6:3-4)</p> <p>○ハナジハ ナンニモ ヤンナイカラ。(赤-w 男6:3-18)</p> <p>【ボク ジブンデ テキルカラ。(W男-12-73)】</p>	<p>○ババネ ニチヨウビネ ガムナンカカッチ クレルカラ。(赤-t 男5:1-1)</p> <p>○ママ ヤサシイカラ。(赤-o 女5:1-1)</p> <p>○ドロボウ ミタ コト ナイカラ。(赤-s 男5:6-5)</p> <p>【ユレルカラ。(I 女-21-143)】</p>	<p>○ヤサシイカラ。(神-古男4:5-1)</p> <p>●ダツネー コレガ アルカラ。(自-h 男3:5-7)</p> <p>●ミズ アゲテ ナカッタカラ。(赤-1 男4:3-5)</p> <p>【オナベガ アルカラ。(M女-31-193)】</p>	<p>(これら多し)</p>
<p>〔～だから〕</p>	<p>○ニューズバツカリダカラ。(自-p 男5:6-10)</p> <p>○クサガ ダイスキダカラ。(自-s 男5:9-8)</p>	<p>○デンキヤダカラ。(自-e 女4:8-12)</p> <p>○キレイダカラ。(赤-p 女5:2-5)</p>	<p>○ウチノ オバアチャン トシヨリダカラ。(小-神女4:1-10)</p> <p>●アノネ ウマガ スキダカラ。(赤-b 男4:0-7)</p>	<p>(名詞多し)</p>
<p>〔～のだから〕</p>	<p>●センエンマデ クロウシテ タメタンダカラ。(自-y 男6:0-10)</p>	<p>●シャリン シャリンガ アルカラ キシャハ ウゴクンダカラ。(神-村男4:3-27)</p>	<p>○ブー (ユ) ガネ オワッタ トキ コウエン イッパペーイ アソンデ キチャウンダカラ。(神-場男3:10-7)</p>	

1 原因・理由の意をあらわす文末

〔～だもの〕	○プールモ アル トコロダモン。(自-v 男5:7-5) ○ダッテ カイブツダッテ ボク スキダモン。(赤-w 男6:3-15)	○ダッテ オミセダモン。(自-u 女5:5-10) ○アタイ スキダモン。(赤-j 女4:7-1)	○オバアチャンナンテ トシヨリダモン。(小-神女4:1-10) ●～ボクサ チャント ハンドル ギュット モッテルカラ ヘエキダモン。(赤-d 男4:2-7)	不満の意をこめて理由を述べる。甘え訴える。気持もある。口ぐせの子多し。
〔～のだもの〕	○～ナニカ ゴハン タベナイト スグオコルンダモン。(自-b 男6:0-8)	○ダッテ フザケッコ シン [するの]ダモン。(自-k 男4:8-3)	○ウルトラセブンニ ナッテ カイジュウ ヤツツケリュンダモン。(小-金男4:1-6)	
〔～って言うのだもの〕	●「ヨウチエンデハ ヨマナイデ」ッテイウンダモン。(赤-M 男5:8-17)			
〔～のだけど〕	【キ(木)ガ アル ハズナノニナ。(W 男-11-12)】	●ダカラ ヤッパシ チガウト オモッテンダケドネ。(赤-q 女5:2-12)	●ソレハ シラサレナイ [言えない]ンダケドナ。(赤-d 男4:2-5)	はっきりにしてしまわない。不満の気持。
〔～かもしれない〕	●ガイコクッテネー ドンナ ケガ アルカッテ、キンバツモ アルシネ シロイ ケモ アルシネ チャイロイ ケモ アルカラ アルカモシレナイ。(赤-l 女5:8-14)	●ナイケドネ オモッタ コト アルカモシレナイ。(小-寛女4:7-10)	●大きくなったら選手になるのかな? ソウカシレナイ。(赤-t 女4:4-7)	(少ない)
〔～きがする〕	○ナンカ ドキドキッテ イウ キガスル。(赤-m 男5:10-19)	●ノリタイ キモチガ シタ。(小-押女5:1-17)	【ジシンノ オトカモシレナイ。(M 女-41-318)】	(少ない)
〔～と思う〕	○ネンド ナンカガ イチバン オモシロイト オモウナ。(赤-a 男5:11-11)	○カワイイト オモウ。(赤-j 女4:7-8)	○クマガ ネジュミヲ タベヨウト オモッタノ。(神-宮男3:8-11)	(いくらかある)
〔～ようとする〕	●ロボットヲ ツクッテ ソウシテ パピー ヤツツケヨウト シタ。(自-l 男5:7-18)	○オニガ キテネ オバアチャンヲネ タベヨウト シテンノ。(自-e 女4:8-12)	○オハナニ ミズ アゲヨウト シテンノ。(神-場男3:10-15)	動作、作用が実現の寸前にあるさま。

〔～そうだ〕	<p>● シマウマヲ コロソウト シマシタ。 (赤-K 男5:11-22)</p> <p>● ドウロニ デタラネ トラックガ キ テネ プッカリソウダッタ。(赤-G 男 6:1-20)</p> <p>【モウ チョットデ デソウダ。(W男-52 -426)】</p> <p>○ ヨウチエンノ ホウガ イイト オモ ウチ。(赤-W 男6:3-11)</p> <p>● ドツチデモ イイト オモウ。(赤-G 男6:1-7)</p>	<p>○ モウ スコシデ シ〔ひ〕カレソウダッ タノ。(白-s 男4:10-26)</p>	〃
〔～(が)いい〕 (でも)いい と思う〕	<p>○ ヨウウハ カカナキヤ。(白-P 男5:6 -10)</p> <p>【～ココハ キレイニ セイリシテ オ カナキヤ。(W男-42-327)】</p>	<p>○ ココノ (ハシ) ハ ワタンナケレバ ナリマセン。〔物語〕(神-玉男4:0-6)</p> <p>【シメデカナキヤーネ。(M女-31-205)】</p>	<p>許可の意を もつ消極的 意志表現。</p>
〔～(れ)ばい い〕	<p>● ～ミギ マワンナイデ コツチ マー スグ イケバ イイノ。(赤-o 男6:2 -12)</p>	<p>【ダカラ チャント ボタン ハメナ キヤ。(1 女-12-60)】</p> <p>● コレ シッポ ツカマエレバ イイノ ニ。(小-有男4:7-15)</p>	〃
〔～(ても)い い〕	<p>● ～フタツ ダシテモ イイシネ ロク ネ ススメテモ イイ。(赤-J 女5:8 -28)</p>	<p>○ ゴハン ナルマデ アソンデ イテモ イイノ。(自-r 女4:8-13)</p>	<p>比較の意を もつ消極的 意志表現。</p>
〔～(のが)い い〕	<p>● ウルトラマンノガ イイヤ。(自-z 男 5.8-10)</p>	<p>● アカチャンノガ イイノ。(神-規男4: 6-1)</p>	<p>比較の意を もつ消極的 意志表現。</p>

〔～(ほうが)いい〕	○オカアサンノ <u>ホウガ</u> <u>イイ</u> 。(赤-w 男6:3-1)	●ダッテサ <u>オニイサンノ</u> <u>ホウガ</u> <u>イイモン</u> 。(小-有男4:7-5)	○テンショウラン <u>イナカノ</u> <u>ホウガ</u> <u>イイ</u> <u>マケンノ</u> <u>イナカノ</u> <u>ホウガ</u> <u>イイ</u> <u>ナ</u> 。(神-宮男3:8-5)	比較の意をもつ消極的意志表現。 ”
〔～(とこが)いい〕	○ナニカ <u>カッテ</u> <u>クレル</u> <u>トコロガ</u> <u>イイ</u> 。(赤-d 男6:4-2)	○ナニカ <u>カッテ</u> <u>クレル</u> <u>トコロガ</u> <u>イイ</u> 。(赤-d 男6:4-2)		
〔～しか～ない〕	○チビタハネ <u>ハゲボウズデ</u> <u>イッポン</u> <u>シカ</u> <u>ケガ</u> <u>ナイノ</u> 。(自-t 男6:2-17)	○コレダケシカ <u>ナイ</u> (赤-a 男4:11-5)	●アト <u>ナイノ</u> 。 <u>コイダケッカ</u> <u>ナイノ</u> 。(赤-f 女4:2-6)	
〔～なければいけない〕 〔～(て)しようがない〕	【モウ <u>キチャツタカラ</u> <u>ショウガナイ</u> <u>ヤ</u> 。(W男-52-435)】	○コレハハネ <u>オハナニ</u> <u>ミズ</u> <u>ヤロウト</u> <u>オモツタラネ</u> <u>サキニ</u> <u>カレチャツタカラネ</u> <u>ショウガナイ</u> <u>ダツタノ</u> 。〔しょうがなかったの〕(赤-j 女4:7-9)	【カエラナケレバナリマセン。(M女-51-354)】	
〔～ことがある〕	●ソウスルト <u>チガウ</u> <u>カイジュウネ</u> <u>アバレダス</u> <u>コトモ</u> <u>アング</u> 。(赤-F 男5:9-10)		●～イナカノ <u>オバアチャント</u> <u>イナカノ</u> <u>オバチャン</u> <u>キタ</u> <u>コト</u> <u>アルンダヨ</u> 。(赤-a 女3:10-3)	
〔～になつてしまう〕	●～オキヤクサンガネ <u>ババヲ</u> <u>ムカエ</u> <u>ルカラネ</u> <u>オチャ</u> <u>ノンダリネ</u> <u>ゴハ</u> <u>ン</u> <u>タベタリ</u> <u>オフロ</u> <u>ハイツタリシ</u> <u>テ</u> <u>クルカラネ</u> <u>オソク</u> <u>ナツチャウノ</u> 。(赤-I 女5:8-30)	○イヤン <u>ナツチャウ</u> 。(自-k 男4:8-8)	●モット <u>モット</u> (キチュ) <u>ーク</u> <u>ナツチャウ</u> 。(自-b 女3:10-13)	当然だという気持。
〔～(する)もんだ〕	【アカチャンガ <u>ツカ</u> <u>モング</u> <u>モンダ</u> <u>コ</u> <u>ン</u> <u>ナノハ</u> ；(W男-21-112)】			
〔～のだって〕	○カワイイ <u>アカチャンガ</u> <u>ウマレタン</u> <u>ダッテ</u> 。(自-u 女6:5-18)	●ウチノ <u>オカアサン</u> <u>エ</u> <u>キッサテ</u> <u>ン</u> <u>ネ</u> <u>ヒラクンダッテ</u> 。(赤-q 女5:2)	●ソレデネ <u>モッテ</u> <u>キテ</u> <u>クレ</u> <u>タン</u> <u>ダッテ</u> 。(自-b 女3:10-7)	他のことを紹介する。

5	伝聞の意をあらわす文末	<p>〔～って言うたんだけ〕</p> <p>〔～のですて〕</p>	<p>○ダカラ ツレテ コレナカッタ^ンダ^ッテ。(f-g 女5:11-12)</p> <p>○オオキイカラ カケンノガ オソカ^ッタンダ^ッテ。(f-d 女5:11-30)</p> <p>●「ナニヲ ソンナニネ カンガエテネ イルノ」^ッテ ユ^ッタンダ^ッテ。(f-t 女6:4-4)</p>	<p>-4)</p> <p>●モモタロウ ^ッテ ナヲ ツケタンダ^ッテ。(赤-1 男4:8-8)</p> <p>○フクヲネ ヒロゲテ ミテ ナキダシチャ^ッタンデス^ッテ。(赤-p 女5:2-11)</p>	<p>○「ヒトノミ シテ ヤユゾー」^ッツッタ^ンダ^ッテ。(神-狗女4:3-15) (物語)</p>	<p>「だって」が口ぐせの子もいる。女児がよく使う。</p> <p>直接語法のはいる言ひ方。年長のほうに多い。赤中p女のみがていねい体。</p>
6	変化の意をあらわす文末	<p>〔形容詞(形動)+なる〕</p> <p>〔否定形+なる〕</p> <p>〔～ことになる〕</p>	<p>●ココマデ クルトネ トオク ナル。(f-u 女6:3-5)</p> <p>○ミズ カケタラネ ウント ハナガネ ピントネ ナガク ナッタノ。(f-o 男6:3-13)</p> <p>○マッスグニ ナッテ キレイニ ナリマシタ。(赤-p 女6:2-16)</p> <p>●ツキニ カエレナク ナッチャウ。(f-B 男5:7-14)</p> <p>○モウ ハイナナク ナッチャッタノ。(赤-u 男6:5-21)</p> <p>●オモシロイ、コトニ ナル。(f-a 男5:11-18)</p>	<p>●～サンバンメノ オニイサンハネーアシガネー ナガク ナルノ。(神-規 男4:6-28)</p> <p>○～ソイデ マタ チイチャク ナッタノ。(f-u 女5:5-11)</p> <p>●オテンキガ キレイニ ナッタノ。(赤-1 男4:8-13)</p> <p>○～イッタ コト ナイカ(ラ) ワカンナク ナッタ。(f-e 女4:8-6)</p>	<p>○ソイデネ オオキク ナンノ。(神-秋 男3:11-6)</p> <p>○ソシテネー オッキク ナッタノ。(神-狗女4:3-17)</p> <p>【ジョーズン ナッタ。(M 女-11-29)】</p> <p>●～ママモネ オニイチャンモネ オトウサンガ(も) イナク ナッタノ。(赤-t 女4:4-15)</p>	<p>(少ない)</p>

7 その他	〔～ようにな る〕	㊦～オミズヲ アゲタラ マタ モトノ ヨウニ ナッタノ。(赤-j 女6:6-19)	㊦ソイデ オオキク ナッテネ ハタラ クヨウニ ナッタノ。(赤-l 男4:8-8)	㊦～サカタ ノボッテ オッココソウ ナッタノ。(赤-b 男4:0-13) ○～オス
	〔～そうにな る〕	㊦トラックガ デテ ヒカレソウニ ナッチャッタノ。(赤-R 男5:11-16)	○～クマガネ バスドウリニ キテ ダ ンプカーニ ヒカレソウニ ナッタ ノ。(赤-w 男5:3-11)	○～オスナデ アソングリネ スルノ。 (神-鈴男3:6-4) ○ウミ イッタリ オンセン イッタリ プール イッタリ シタ。(神-狗女4: 3-3)
	〔～たりする〕 並立の意をあ らわす。	○～オトウト オニゴッコ シタリ スルヨ。(赤-a 男5:11-6) ○ガム モラッタリ シタノ。(自-m 男 6:4-3)	○～オヤスミダッタラネー ドッカヘ イッタリ スンノ。(赤-k 女5:3-4) ㊦ウチデモ ナラッタリ シタノ。(赤 -b 男5:6-5)	
	〔～こととまで きる〕 可能の意をあ らわす。	㊦～オバケダカラ スーッテ ヌケダシ テ イッチャウノ。ケエル コトモ デキルノ。(赤-k 女5:8-15)	㊦～ミズノ ナカヘ、ネ モグル コト モ デキルノ。(神-親男4:6-11)	(少ない)

5.2 疑問文の文末形式使用例

文末形式	用 例			備 考
	年 長	年 中	年 少	
1 説明を求める質問形式	〔～(用言)〕 〔～の〕	<p>㊦～マグマタイシ ドコニ スンデルト オモウ? (赤-F 男5:9-14) 【カギ ドウシタ? (W男-52-445)】</p> <p>○センセイネ イツ ウマレタノ? (赤 -u 男6:5-20)</p> <p>【ナンデ ウソツクノ? (W男-32-245)】</p>	<p>㊦ナンデネー カメガネ ウゴクノ ノ ロイカ シッテル? (赤-d 男4:2-15) 【ナニ ミテタ? (M女-41-286)】</p> <p>○ドウシテ ナクノ? (小-佐男4:3-12) ○ナンデ シテ コナッタノ? (小-原 女3:7-26) 【イツカラ カインノ? (M女-51-367)】 【アラブラサセテ ドコ イクノヨ? (M 女-31-189)】</p>	(多し)

<p>〔～か〕</p> <p>〔～のか〕</p> <p>〔～だ〕</p> <p>〔～だい〕</p> <p>〔～いい～〕</p>	<p>○「ドワイウ ナマエニ シマスカ？」 (自-u 女6:5-18) 【デンキハ ドウ シマシタカ？ (W男 -51-377)】</p> <p>●ドコマデ ツヅイテンダヨ？ (赤-M男 5:8-14)</p> <p>●「ナンダッテ イイ？」 (自-m 女6:4 -14)</p>	<p>●「モモタロウサン ドコニ イクンデ スカ？」 (赤-e 女4:9-7)</p> <p>●「ドウヤッテ ハイルノカ」 (赤-i 女 5:3-7)</p> <p>○コレ ナンダ？ (赤-m 男4:10-8)</p> <p>●～コウ キテ ドッカラ ヨムンダ？ (小-韓男4:8-8)</p> <p>【コレハ ドコダ？ (I 女-21-565)】</p> <p>○ソレカラ ドウ イケバ イーンダ？ (赤-m 男4:10-8)</p> <p>【ドウヤッタ イイノ？ (I 女-31- 203)】</p> <p>○ドッカラデモ イイノ？ (赤-p 女5:2 -8)</p>	<p>○「ダレデスカ？」 (小-矢女4:0-15)</p> <p>【コレ ドウ スルカ？ (M 女-22-167)】</p> <p>○「ナンダ？」 (小-千女4:2-8)</p> <p>●コレ ナンテ イウ ジダ？ (赤-d 男 4:2-24)</p> <p>【オフロバ ドコダ？ (M 女-31-189)】</p> <p>○「ダレダイ？」 (神-佐女3:7-21)</p> <p>○ナンチュ イエバ イイノ？ (神-三男 4:0-37)</p>	<p>「」は直 接話法。</p>
<p>2</p> <p>yes</p> <p>か</p> <p>no</p> <p>の</p> <p>判</p> <p>定</p> <p>を</p> <p>求</p> <p>め</p> <p>る</p> <p>質</p> <p>問</p> <p>形</p> <p>式</p>	<p>●ミタ コト ナイノ？ (赤-l 男6:3 -11) 【ハシゲタブヒン モウ イッコ ナイ ノ？ (W男-11-7)】</p> <p>○コッカラナノ？ (赤-r 女5:10-10)</p> <p>【デンワガ コワレタンデスカ？ (W男 -42-357)】</p> <p>●「コノ グライカイ？」 (赤-j 女6:6 -20)</p>	<p>○ボクンチノ オカアサンニ イウノ？ (自-b 男5:1-9)</p> <p>●コレ オトモダチダッタノ？ (神-永男 4:1-15)</p> <p>●イチ ニ サンナノ？ (小-伊男4:3 -21)</p>	<p>○モウ ナイノ？ (小-佐男4:3-19)</p> <p>●コレシカ ナイノ？ (赤-d 男4:2-17)</p>	<p>疑問詞はつ くが2とも。</p>

<p>(疑問詞のつかぬもの)</p> <p>〔～いい〕</p> <p>●イロンナ オハナシ デモ イイ？ (赤-a 男5:9-19)</p> <p>【コンナ イッバイ ダシテ イイノ？ (W男-11-6)】</p> <p>●「ミッチャヤン シンデモ イイノカ？」 (f1-x 女5:6-1)</p> <p>〔～いいで しよ〕</p>	<p>●イロンナ オハナシ デモ イイ？ (赤-a 男5:9-19)</p> <p>【コンナ イッバイ ダシテ イイノ？ (W男-11-6)】</p> <p>●「ミッチャヤン シンデモ イイノカ？」 (f1-x 女5:6-1)</p> <p>【マヤ ソトヘ イッテ イイデシヨ？ (W男-12-89)】</p>	<p>○「ヤッパシ ツカッテ イイ？」(自-b 男5:1-2)</p> <p>●「イッシヨニ イッテモ イイデスカ？」 (赤-e 女4:9-7)</p> <p>【ダンチ イッテ イイ？(1 女-32-246)】</p>	<p>○コッチハ イイ？ (小-長男3:5-12)</p> <p>【タベテ イイ？ (M女-21-113)】</p> <p>【スイカ オカワリシテモ イイデシヨ？ (M女-21-116)】</p> <p>【サキニ タベテモ、イイダロウ？ (M 女-12-67)】</p>	<p>消極的質問。</p> <p>ていねい体 全体に少な い。</p>
<p>(1)疑問詞のつ くもの 〔～だろ？〕</p> <p>〔～かな〕</p>	<p>●「ナニ ハイテンダロウ？」(赤-o 男 6:2-15)</p> <p>【ドンテ コツカラ テテ クルンダ ロ？ (W男-11-13)】</p> <p>○アト ソレカラ ナニガ デテクルカ ナ？ (自-t 男6:2-18)</p> <p>●ドウ ヤルノカナ？ (赤-r 男6:3-12)</p> <p>【イマ ナンジカナ？ (W男-52-444)】</p> <p>○ドウヤルノカナ？ (赤-r 男6:3-12)</p> <p>●シマウマガ ナンカ ユッテンノカ ナ？ (自-t 女6:4-20)</p> <p>【コレ ドウ ナッテンノカナ？ (W男 -52-441)】</p>	<p>●アレ ドツカラ キタンダロウ？ (小 -有男4:7-12)</p> <p>●カメ ドウシタンダロウ？ (小-永男4 :4-10)</p> <p>【ナニ ムシダロ？ (1 女-41-283)】</p> <p>●ハジメハネー ナンノ オハナシダッ タカナー？ (小-市男4:5-14)</p> <p>●ナンニ ナリタイカナー？ (神-山男4 :9-4)</p> <p>【ダレガ イチバンカナ？ (1 女-21 -571)】</p> <p>●ドノミチ トオッテ イクノカナ？ (小-紳男4:8-6)</p> <p>【ドコニ イルノカナ？ (1 女-52-538)】</p>	<p>●ドンナ オハナチ シヨウカナ？ (赤 -v 女4:0-6)</p> <p>●ナンノ ジ ココウカナー？ (赤-d 男 4:2-24)</p> <p>●ナニガ イイカナ？ (赤-1 男4:3-6)</p> <p>【クミチャント ダレニ シヨウカナ？ (M女-11-23)】</p>	<p>3・1 自問自答的質問形式</p>

〔～のかね〕	○「ナニ ヤッテンノカネ？」(自-b男 6:0-25)	○デ <u>ナンカ</u> カッタンダッタツケ？ (自-n男5:5-12) 【ドコ イクンダッタツケ？(1女-32 -259)】	●ナニ シタツケ？(赤-d男4:2-4)
〔～っけ〕			
〔～だっけ〕	○～ナニ カイジュウダツケナ？(自-n 男6:5-11) 【ホウチョウハ ドレダツケ？(W男-21 -147)】	●ナンノ オハナシダツケナ？(小-m男 4:5-5) ●ドウイウンダツケナ？(小-久女4:7 -25) 【ドコヘ イッタノカシラ？(1女-32 -256)】	●ナニ シテ アソンダツケナ？ (赤-e女3:9-2)
〔～かしら〕			
(2)疑問詞のつ かぬもの 〔～かな〕	○クマガネ、 ネズミカナ？(自-u女6: 5-27) 【カギ ポケットニ イレテ アルカ ナ？(W男-52-444)】	○アルイテル トコカナ？(赤-s男5:6 -14) 【シロイトガ ナイカナ？(1女-42- 362)】	●ネテルノカナ？(赤-d男4:2-15) 【ココカラカナ？(M女-51-358)】
〔～のかな〕	●オナカガ スイデタノカナ？(赤-g男 5:10-16) 【ミツ スツタカラ シンジャツタノカ ナ？(W男-42-336)】	○コツチカラ ヤルノカナ？(赤-m男4 :10-9) 【マタ チガウ エキニ ツイテ トマ ンナイノカナ？(1女-42-390)】	【ニラメツコシテンノカナ？(M女-41- 331)】
〔～かね〕			【ソウスレバ アレハ ショクドウカネ (M女-21-120)】
〔～っけ〕	●キンヨウビモ アッタツケ？(赤-a男 5:9-11)		【コウヤル モノダツタツケナ？(M女 -12-52)】
〔～だっけ〕	○トチュウデネ サルニ アッタ(ン) ダツケ？(自-u女6:5-19)	●マイカケ シテルンダツケ？(小-足男 5:0-2)	●ココデ オハナシ スルンダツケ？(赤 -d男4:2-2)

〔～かしら〕	○レントゲンダケカシラ? (赤-x 女6:2-8)	●ラ、ソノ ツギハ コ〔文字〕ダツケ? (小-横男4:4-19) ○ソウネ ニカイグライシカ ヨンデナイカシラ? (赤-p 女5:2-14) 【ジドウシヤノ クニカシラ? (1 女-41-269)】	【コレデ ヤルンダツケネ? (M 女-12-53)】	
3・2 自答的質問形式	〔～か〕 〔～のか〕	○ソノエ クマカ? (自-i 男6:4-18) 【ホネガ オレテル カブトカ? (W 男-42-343)】 ○「ユメダッタノカ?」(赤-m 男5:10-20) 【イッバイ イレナイノカ? (W 男-41-294)】	○アレカ? (自-o 男5:4-6) 【ワタシノ バシヨカ? (1 女-52-501)】 ○ヨシ (コウ イウ イクンカ)? (赤-m 男4:10-8) 【チャイロ ツカッテルノカ? (1 女-52-522)】	●ウチン トコカ? (赤-f 女4:2-1) 【ラッパノ ラカ? (M 女-12-86)】
3・3 自問の間投詞的形態	〔なんだっけ〕 〔なんだっけな〕 〔なんだっけかな〕 〔なん だっ たっけ〕 〔なん だっ たっけな〕	○～ユウギトネ バーラガ サイタトネ アト ナンダツケ? (赤-u 男6:5-3) ○ン～ ナンダツケ? (赤-n 男6:2-6) ○イチバン オモシロイノハ ナンダツケナ? (赤-m 男5:10-13) ●ナンダツケカナ? (自-t 女6:4-11) ○ナンダツタツケ? (赤-u 男6:5-10) ●～エ〔絵〕 ト ナンダツタツケナ? (赤-L 女5:9-27)	○ソレカラネ コレハ ナンダツケ? (小-徳男4:5-9) ●ン……ナンダツケ ナンダツケナ? (小-海男4:3-3) ●エート (アレ) ナンダツケナ? (小-市男4:5-10) ●ウントネー ス ウーント エート ナンダツタツケ? (神-正男4:10-2)	○ナンダツケ……? (小-千女4:2-2) ●ウーん ナンダツケナ? (赤-d 男4:2-16) 【ナンダツケ? (M 女-41-313)】 ●ソレハネー……ウントー ナンダツケナ? (赤-a 女3:10-20) 話しぐせもある。 *間投詞はこの例には入れておいた。
〔～でしょ〕	○ソレカラネー ババト ママ イルデ	○ソイデ ノロサンハ ノソリト イク	○ココニネ アナガ アイテルデシヨ?	

〔～ないでしよ〕	ショウウ? (赤-x 女6:2-2) 【オイシイノハ タラデショ? (W男-21-140)】 ○ココマデ コラレナイデショ? (自-d 女5:11-27)	デショ? (自-u 女5:5-12) 【コレハ ココデショ? (I 女-21-571)】 ○アラカワノ ホウマデ イカナイデショ? (自-t 男5:3-4)	(袖-鈴男3:6-9) 【ウンチャンガ カワイイデショ? (M 女-31-185)】 ●ダカラネ コッチガネ キレエジャナイデショウ? (赤-a 女3:10-18)	(この言い方多し)ロぐせ的。
〔～のでしよ〕	●ダツテネ オイシヤサントサ ハイシャサンハネ ナオスンデショ? (赤-c 男5:10-16) 【サンジスギニ イクツテ イッタンデショ? (W男-42-323)】	●コレ ウサギガ ネンネ シテンデショ? (神-遠男5:1-28)	●アカガ トマルンデショ? (赤-d 男3:10-14)	
〔～だらう〕		【オトウサンガ イッショニ シンクルンデショ? (I 女-32-475)】 ●サンリンシヤトサ イマ ユッタダロ? (小-永男4:4-4)	【イタダキマースツ イッテ タベルンデショ? (M 女-12-53)】	
〔～じゃない〕	●ヘイキショウノ デル トコ アルジャナイ? (自-c 男6:3-5) ●アスコニ〔で〕サ バトミントンノトキ ヤッテタジャナイ? (赤-p 男5:11-7)	○キヲ ツケナイカラジャナイ? (自-r 女4:8-20) ●カタツムリ ガッコウニ アンジャナイ? (小-海男4:3-9) ●ダツテサ アタマヤナンカ ヒッコンデサアレ ネラレルジギナイ? (小-海男4:3-17)	○オンナジノガ アルジャナイ? (小-福男4:2-13) ○キョウシツ ナイジャナイ。(小-佐男4:3-9)	叱責の意の含まれるものもある。
〔～じゃないの〕	【ソレハ ソウデンタンタタジャナイノ? (W男-52-420)】	○～シマウマ キタカラジャナイノ? (自-s 男4:10-23) 【ホラ アレ ソレ キュー ハンタイジャナイノ? (I 女-41-281)】	【タイヘンナ コトニ ナッテルジャナイノ? (M 女-11-47)】 ○キノウ ミタジャナイカ? (小-加男4:1-5) ●ソリヤ タイガーマスクツ イウカラ カブリンジャナイカー? (赤-d 男4:2-12)	
〔～じゃないか〕				

<p>〔～じゃない でしょ〕</p>	<p>●オリガミ ツクルモノッテサ ホント ニサ ソノ ツクルモノニ ソックリ ジャナイデシヨ? (自-h 男5:7-13)</p>	<p>○コッチ ズーット イッタンジャナイ? (自-s 男4:10-23)</p>	
<p>〔～のじゃない〕</p>	<p>●アノ ブタイノ ウエデサ ナンカ ヤンジャナイ? (自-e 男6:1-2)</p>	<p>○ヘビ タベトラ ネズミ タベトラ ネズミ ナル? ナラナイ?(赤-d 男 5:4-6)</p>	<p>【オカアサン マダ タベチャ イケナ イノ? イイノ? (M女-42-453)】</p>
<p>〔～か〕</p>	<p>○「オニセイバツニ イクカ?」(自-o 男6:3-9)</p> <p>●カイジュウ デンノネ オシエテ ア ギョウカ? (自-y 男6:0-13)</p> <p>【コン ナカニ デンキ ハイッテル コトニ シヨウカ? (W男-41-314)】</p>	<p>●「カケッコ シヨウカ?」(赤-i 女5: 3-15)</p> <p>●イチバン イイ ヒコウキ モッテ コヨウカ? (小~永男4:4-1)</p> <p>【バイナッブル アゲマシヨウカ? (I 女-52-530)</p>	<p>●ドウブツエンノ オハナシ シタギョ ウカ。(赤-t 女4:4-16)</p> <p>【ジェース ツクッテ キテ ヤロウカ? (M女-12-68)】</p>
<p>〔～ないか〕</p>	<p>●「カメサン ボクト カケッコ シナ イカ?」(赤-N 女5:7-17)</p>		
<p>〔～かい〕</p>	<p>○「ソノ カワリ オニタイジ ユクカ イ?」(自-u 女6:5-21)</p>		
<p>〔～ないかい〕</p>	<p>○「ウチへ コナイカイ?」(自-t 男6: 2-8)</p>	<p>○「ボクト イッショニ キョウソウ シナイカイ?」(赤-s 男5:6-16)</p>	

5 選択

6 その他 (さそいの表現はか)

5.3 命令文の文末形式使用例

文末形式	用 例					備 考
	年	長	年	中	年 少	
1 命令形	●「カボチャヲ モッテ コイ。」(赤-B女5:8-11)	○「タペナッ。」(白-j女4:7-11)	○「ソナナラネ イマゴロ タベチャイナ。」(白-j女4:7-10)	○「シトリ ウッ[売]チャヘ。」(白-r女4:8-15)		
	●「イソイデ イクンデスヨ。」(赤-s女5:8-13)	●「モヤシニ イッテ クルカラ イチゴヲ ノコシトクノヨ。」(赤-i女5:3-7)	○「タカチャン オシエテ アゲナヨ。」(1女-51-410)		【ソット カクレチャエ。(M女-51-388)】 【オカアサンモ ナンカ ツクリナヨ。(M女-51-362)】	
2 たのみの表現	〔～て〕	○「アシタモ マタ キテ オドッテ。」(赤-w男6:3-22)	○「マッテ。」(赤-f女4:10-13)		○モット キカシテ。(小-原女3:7-22)	
	〔～てよ〕	【ホラ ウシロ ムイテ。(W男-42-348)】	【コレ モッテッテ。(1女-21-567)】		【グレカ キテ アゲテ。」(M女-51-369)】	
	〔～てね〕	【ソレハ オイトイデヨ。(W男-42-341)】	【キュウキュウシヤ ヨンデキデヨ。(1女-21-106)】		【シマッツイテヨ。(M女-11-34)】	
	〔～ないで〕	○「チョット マッテテネッ。」(白-e女5:7-6)	○「オルスバン シテネ。」(赤-p女5:2-11)			
	〔～てくれ〕	【アノ ハコニ デンキ ハイッテルカラ コワサナイデヨ。(W男-42-351)】	【ハナビ ヤラナイデ。ワタシノ プンヲ;(1女-42-352)】		【カギ シメテ イカナイデ。(M女-31-176)】	
			●「ハヤク オヒルヲ ツクッテ クレ。」(神-桑女4:10-2)			
			【ミンナ ゴハン ツクッテ クレー。(1女-11-21)】			

〔～てくれよ〕	<p>●「オーイ マッテ クレヨー。」(赤-N 女5:7-18)</p> <p>【ドイテ クレイ。(W男-21-105)】</p>		<p>○「チョット マッテ クレヨ。」(神-古 男4:5-26)</p>	
〔～てくれな い〕	<p>【チョット カタクシテ クレナイ?(W 男-51-389)】</p>			
〔～てくんな〕	<p>○オチャ イレテ クンナ。(赤-f 女5:9-11)</p>			
〔～てくださ い〕	<p>○「ヒトツ ワタシニモ オドラシテ クダサイ」(赤-w 男6:3-22)</p>	<p>●「ニガシテ クダサイ。」(小-岡女4:8-26)</p>	<p>○「マッテ クダ^(チャ)_(サ) イ。」(神-大男 3:11-13)</p>	
〔～ないでく ださい〕	<p>【スグ コワレマスカラ、ツカワナイテ クダサイ。(W男-42-357)】</p>	<p>【オキヤクサン マダ ハイラナイテ クダサイナ。(1 女-51-418)】</p>	<p>【アッ タオレナイデ クダサイ。(M 女 -22-173)】</p>	
〔～てちょう だい〕	<p>●「チョキット キッテ チョウダイ。」(赤-s 女5:8-16)</p> <p>【イレテ チョウダイ。(W男-41-277)】</p>	<p>●「オサカナト モッテ キテ チョウダイ」(小-野女4:9-10)</p> <p>【タカチャン ミテテ チョウダイ。(1 女-21-565)】</p>		
〔～う〕	<p>○「オマツリ イコウヨ。」(白-u 女6:5-5)</p> <p>【ゴゴカラ アソボウネ。(W男-12-71)】</p>	<p>○「カケッコ シヨウ。」(赤-r 女4:10-9)</p> <p>【ジャ ミーンナ カクレヨウ。(1 女-52-538)】</p>	<p>【カタグルマ シヨウヨ。(M 女-41-296)】</p>	
〔～ましよう〕		<p>【オウチへ ハイリマシヨウヨ。(1 女-12-75)】</p>	<p>【ゴチソウ シマシヨウヨ。(M 女-21-102)】</p>	
〔～ばいいい〕	<p>●「ネムッテ イケバ イイ。」(赤-h 女 6:6-12)</p>			

	{～ていらっ しゃい}			●「アソソデ イラッシャイ。」(袖-鎌女 4:5-5)	●「アソソデ イラッシャイ。」(袖-鎌女 4:5-5)	●「アソソデ イラッシャイ。」(袖-鎌女 4:5-5)	●「アソソデ イラッシャイ。」(袖-鎌女 4:5-5)	●「アソソデ イラッシャイ。」(袖-鎌女 4:5-5)	●「アソソデ イラッシャイ。」(袖-鎌女 4:5-5)
4	{～なさい}	○「ダイドコロヲ キレイニ シナサ イ。」(赤-p 女6:2-13)	○「ダイドコロヲ キレイニ シナサ イ。」(赤-p 女6:2-13)	○「アズカッテネ クレルカラネ ソノ オウチヘ イキナサイ。」(赤-q 女5:2 -5)	○「アズカッテネ クレルカラネ ソノ オウチヘ イキナサイ。」(赤-q 女5:2 -5)	○「アズカッテネ クレルカラネ ソノ オウチヘ イキナサイ。」(赤-q 女5:2 -5)	○「アズカッテネ クレルカラネ ソノ オウチヘ イキナサイ。」(赤-q 女5:2 -5)	○「アズカッテネ クレルカラネ ソノ オウチヘ イキナサイ。」(赤-q 女5:2 -5)	○「アズカッテネ クレルカラネ ソノ オウチヘ イキナサイ。」(赤-q 女5:2 -5)
す	{～ておいで}	【テツダッテ アゲナサイヨ。(W男-41 -308)】	【テツダッテ アゲナサイヨ。(W男-41 -308)】	●「ツイテ オイデ。」(赤-e 女4:9-8)	●「ツイテ オイデ。」(赤-e 女4:9-8)	●「ツイテ オイデ。」(赤-e 女4:9-8)	●「ツイテ オイデ。」(赤-e 女4:9-8)	●「ツイテ オイデ。」(赤-e 女4:9-8)	●「ツイテ オイデ。」(赤-e 女4:9-8)
す	{～てござらん}	【タベテ ゴラン。(W男-41-285)】	【タベテ ゴラン。(W男-41-285)】	【ツナイデ ゴラン。(I 女-42-383)】	【ツナイデ ゴラン。(I 女-42-383)】	【ツナイデ ゴラン。(I 女-42-383)】	【ツナイデ ゴラン。(I 女-42-383)】	【ツナイデ ゴラン。(I 女-42-383)】	【ツナイデ ゴラン。(I 女-42-383)】
め	{～てござらん なさい}			【モット モット タカク ソンデ ゴ ランナサイ。(I 女-41-313)】	【モット モット タカク ソンデ ゴ ランナサイ。(I 女-41-313)】	【モット モット タカク ソンデ ゴ ランナサイ。(I 女-41-313)】	【モット モット タカク ソンデ ゴ ランナサイ。(I 女-41-313)】	【モット モット タカク ソンデ ゴ ランナサイ。(I 女-41-313)】	【モット モット タカク ソンデ ゴ ランナサイ。(I 女-41-313)】
の									
表									
現									

第6章 接続詞の用法

接続詞は、第3章で述べた「複文の構造と用法」のところで重要な役目をした接続助詞とともに、話を展開発展する上で欠くことのできない成分である。

第2章で幼児が日本語の文を習得していく過程を述べたが、その中では、文と文をつないで文章を構成していく接続詞が一番習得が早く、他の成分よりのちに出ていた。それが、5、6歳児になったらどんなふうな実態を示すようになるだろうか。この章でみていくことにする。この一部は、「幼児の接続詞の用法」として、国立国語研究所年報22(1971)に中間報告をした。

6.1 接続詞の種類

最初に、幼児がどんな種類の接続詞を使用するかをみる。以下にあげたパーセントは前章などと同じく年中、年長同一幼児、年少は神谷、小川幼稚園の幼児を対象にしている。ここでは、道順について話した用例も含めた。

接続詞の種類による使用数(%)

接続詞	年 長		年 中		年 少		備 考
	%	順位	%	順位	%	順位	
それで	56.3	1	57.8	1	48.1	1	条件・確定・順接(展開)(Aのことが原因でB。それだから、そういうわけで)
それから	13.9	2	8.8	3	11.5	3	列叙・添加・順接(並列・累加)(論理的関係よりも時間的継起としてとらえる。そのうえに、それに加えて、その次に、A またB)
そして	8.6	4	19.0	2	17.3	2	並立・添加(累加)(その次に その結果、一方、それに加えて、それなのに)
そしたら	9.5	3	4.8	4	5.8	5	条件・仮定・順接(展開)(するとに近い。)
だから	3.6	5	2.6	6	2.7	7	条件・確定・順接(展開)(これ故に、AのようなわけだからB)
だって	2.5	6	3.1	5	6.4	4	条件・確定・逆接(理由)(なぜなら、しかし、だからといって)
だけど	1.0	8	1.3	7	1.8	8	条件・確定・逆接(反対)(だが、ですけど)
でも	1.7	7	0.6	9	0.6	9	条件・逆接(反対)(そうであっても)
そうすると	0.8	9	0.7	8	0.2	10	条件・帰結(展開)(当然の結果)
その他							
じゃ	0.8	9	0.4	10	4.2	6	条件・順接(展開)(話題の転換)
それなら	0.2		0.2		0.9		条件・仮定(理由・展開)(AというわけならB)
そうすれば	0.2		0		0		条件・仮定(理由・展開)
他	0.9		0.9		0.6		(それに、それでもって、じゃなくて、それだから、それでもなど)

〔注〕備考欄の接続詞の意味は、「接続詞のすべて」雑誌「文法」(昭45.10)とか、『分類語彙表』「辞典類」から適宜引用、私見を加えた。

接続詞の種類名であるが、表の名は代表型である。話しことばなのでいろいろの言い方をしている。「それで」は「そいで、で、そで、ほいで、ふんで」。「それから」は「そっから、から」。「そして」は「して」。「そしたら」は「そうしたら、したら、たら、そいだら」。「だから」は「そ

うだから、そだから」。「それなら」は「そんなら」。

次に順位をみると、「それで」が年長、年^中、年少を通じて一番よく使用され1位。ついで年長では「それから」「そしたら」「そして」の順、年中、年少では「そして」「それから」の順になっている。年中では、そのあと「そしたら」が使われているのに対して、年少では、「だって」「そしたら」の順である。

上位を占める接続詞は順接の意味をもつものである。逆接の意味の接続詞は使用数が少ない。その中での上位は「だって」「だけど」で「でも」は年長はともかく、年中、年少は使用数が少ない。また、「そしたら」が年長ではよく使われているのに対して年中、年少では少なくなっている。しかし、これだけの使用数からはなんともいえない。補助資料を加えて調べてみると、「それで」の1位はかわらないが、「それから」「そして」は年長ではほぼ同数で、「そしたら」「だから」「だって」「でも」と続き、年中は「そして」「それから」「そしたら」「だって」「だから」、年少は「それから」「そしたら」「だって」「そして」「だから」「じゃ」と続いている。(注)

接続詞の主な種類とそれを使用した人数(%)

種類	年 齢		38人中		35人中	
	年	中	年	中	年	少
それで	(人) 35	(%) 92.1	(人) 26	(%) 68.4	(人) 25	(%) 71.4
で	15	39.5	19	50.0	7	20.0
計	36	94.7	31	81.6	25	71.4
それから	26	68.4	19	50.0	18	51.4
から	3	7.9	2	5.3	1	2.9
計	26	68.4	19	50.0	19	54.3
そして	20	52.6	17	44.7	14	40.0
して	1	2.6	5	14.2	1	2.9
計	20	52.6	19	50.0	14	40.0
そしたら	25	65.8	12	31.6	8	22.9
したら、たら	3	7.9	4	10.5	0	0
計	26	68.4	16	42.1	18	22.9
だから	12	31.6	10	26.3	9	25.7
だって	10	26.3	13	34.2	15	42.9
だけど	7	18.4	5	13.2	4	11.5
でも	9	23.7	3	7.9	1	2.9
そうすると	3	7.9	3	7.9	1	2.9

〔注〕 国立国語研究所報告8『談話語の実態』（秀英出版・1955年）には大人が話しことばで使用する接続詞の用法別使用数があがっている。（161ページ）順位をみると「それで」「だから」「で」「それから」「でも」「じゃ（あ）」「けど」「ですから」「そ（う）して」「だって」「そうすると」「そ（う）したら」「しかし」などとなっていて、「それで」の1位はかわらない。

接続詞の個人別の使用状況

名前	年 長 (赤羽幼稚園)	文節数	名前	年 中 (赤羽幼稚園)	文節数	名前	年 少 (神谷保育園)	文節数
o 女	ソレデ42 ソシタラ20 ダカラ7 ソ レカラ2 デ2 ソシテ2 ソウスル ト1 ダケド1	724	t 男	ソレデ27 シタラ2 ソレカラ1 ソ シテ1 ダケド1 デ1	320	三男	ソレデ40 ソレカラ7 ダケド6 ダ カラ4 ジャ3 ダッテ3 テ1 ソ レナラ1	1,496
k 女	ソレデ33 ソレカラ15 ソシタラ1	550	f 女	ソレデ13 ソレカラ6 ソシタラ3 デモ1	294	高男	ソシテ33 ダッテ6 ソレデ5 ソレ ナラ2 ソシタラ1 ソレカラ1 シ テ1	605
w 男	ソレデ14 デ12 ソレカラ4 ダッテ 4 ソシテ3 デモ1 ダカラ1 カ ラ1 ソイダラ1	780	d 男	ソレデ7 ソシタラ5 ソウスルト2 ソシテ1 デ1 ジャ1 ドウシテカ ッテイウト1	280	佐女	ソシタラ22 ソシテ16 ダカラ1	539
s 男	ソレカラ16 ソレデ8 デモ2 ソシ タラ2 ジャ2 ダッテ1 ソシテ1	521	k 女	ソレデ12 ソレカラ2 ソシタラ1 ダカラ1	295	古男	ソレデ28 ダッテ2 ソレカラ2 ジ ャ1 ダカラ1 ソレデハ1	727
x 女	ソシテ12 ソレデ4 ソレカラ4 ソ シタラ4 ダカラ2 デ2 ダッテ1 シテ1	341	p 女	デ8 ソシテ2 ダッテ1 ダカラ1 ダケド1 デモ1	420	大男	ソレデ31 テ1 カラ1	311
m 男	ソシテ21 ソシタラ3 ソレデ2 デ モ2 ダッテ1	550	s 男	ソシテ8 ダッテ2 ソイデ1 テ1 シテ1	277	折女	ソレデ10 ソレカラ3 ダカラ3 ソ シテ1 ソシタラ1	346
c 男	ソレデ25 ソシタラ2 シタラ1 タ ラ1	399	w 男	ソシテ6 シテ2 ソレカラ2 ソイ デ1	179	寺男	ソレデ8 ソレナラ2 ダカラ1 ダ ケド1 ダケドモ1 テ1 ソレジャ 1	414
f 女	ソレデ16 ソレカラ4 ソシタラ3 ダカラ1 ダケド1 デモ1	410	v 男	ソレデ8 ソレカラ2 ソシタラ1	114	秋男	ソレデ10 ソシテ2 テ1 ダッテ1 ソレカラ1	386
u 男	ソシテ11 ダッテ6 ジャナクテ3 デモ1 ソシタラ1 ダッタラ1	452	n 男	ソレデ5 ダカラ3 デ1 ンデ1	191	鈴男	ソシテ7 ソレカラ3 ソレデ1 ダ ッテ1 ソシタラ1	259
t 男	ソレデ11 ソレカラ2 ダカラ2 デ モ2 ソウスルト2 ソシテ1 シタ ラ1 ンデ1	367	o 女	ソレデ5 デ3 ソシタラ1 フンデ 1	160	場男	ソレデ8 ウンデ1 ンデ1 ダケド 1 ケド1	423
p 女	デ7 ソレデ3 ソシテ3 ソシタラ	354	u 男	ソシテ6 ソシタラ2 ソレカラ1	137	狗女	ソシテ9 ジャ1 ホッタラ1	374

d 男	3	ソレカラ3	ダカラ2	322	r 女	ダッテ1 ソレデ5 ソレカラ1 ソウスルト1	157	宮男	ソレデ4	ダッテ3	ソシタラ1	246
r 女	1	ソシタラ1	ダッテ2	309	x 女	ドシテッテイウト1 ソシテ3	テ2 ダカラ1	166	柿男	ダッテ6	ソシテ2	34
j 女	1	ソシタラ11	ソレデ3	212	m 男	ソシテ2 ソレカラ1 ソシテ1	ソ シタラ1 ダッテ1	141	坂女	ソレカラ3	ソレデ2	232
a 男	1	ダケド1	ジャ1	488	j 女	ソレカラ4 ソレデ1	ソ シタラ1 ダッテ1	112	渡女	ソレカラ5		180
v 男	1	ソレデ8	ソレカラ5	191	h 女	ソレデ3	ソレカラ1	133	玉男	ジャ1	ソシテ1	155
h 女	1	ソレデ3	ダケド2	180	a 男	ソレデ1	な	113	村女	ソシテ1		127
n 男	1	ソシテ1	ソシタラ1	203	c 男		し	75	勝男	ソレデ1		91
									新女	な	し	126
									清女	な	し	10

次に、接続詞の主な種類とそれを使用した人数をパーセントで示すと、表(213ペ)のようになる。年長、年中児では「それで」「それから」「そして」「そしたら」がベスト4位の中に入っていることなど順位においては前の使用数とそう変らない。

しかし、このようなことを繰返して調べてみても、これ以上のものが出そうもないので、次に、幼児がこれら接続詞を、現実の話しことばの場ではどのように使用しているかを用例をみながら検討していくことにする。その前に個人別使用状況をしらべてみる。(別表参照)のちにも述べるように幼児はあやまった使い方もしているので、このような傾向があるというに過ぎない。接続詞をたくさん使った幼児から並べる。一例という意味で年中、年長同一幼児のうち赤羽幼稚園のもの、年少として神谷保育園のものをあげた。参考として質問者と話した分量(ここでは文節数)もあげておく。長くしゃべっている幼児が、接続詞をたくさん用いているとはいえないが、少なくしゃべっている幼児は接続詞を少ししか用いていないということはいえる。また、接続詞の使用回数は多くても、接続詞の種類が少ない幼児もいる。

幼児は接続詞を使う場合、誤密な意味内容で使用していないで、話しぐせもある。ある幼児は、文をつなぐ場合、「それで」で「そして」の代用をさせるとか、あるいは逆だとか、「で」を間投詞的に使用するとか、「そしたら」が口ぐせだったり、「だって」が口ぐせだったりする。

6.2 接続詞使用の実態

これまでに述べた接続詞を、幼児はどのように現実の話しことばの場で使用しているのだろうか。使用の実態をみることにする。幼児の話しことばはこれまでにたびたび述べてきたが、一文が長くなればなるほど前後の因果関係が乱れて意味の把握ができなくなる。大人には、なんとなく理解できても、その説明はしにくい場合もあるし、全くわからない文などもある。そのような文章が非常に多いことをはじめに記しておく。そこで、文の意味のはっきりしているものの中から主として引用することになる。したがって、幼児の中でも高いレベルの幼児の例がとりあげられることが多くなるのである。

実例としては、まず一例をあげ、必要に応じて随時つけ加えることにした。○印のあとに書かれたものが対象幼児の例で、補充した例は●で示した。接続詞を使用の多いものから順に、以下のように分類した。章末の「幼児の接続詞の使用例」をみられたい。

1 発話のはじめ(話頭)

(注1)

1.1 間投詞的使用——質問者の質問に答えるとき、まず、接続詞をもって来る。その場合、幼児の頭の中には前に話した残像があって、その継続と思って接続詞でつなぐ場合もあるかもしれないが、客観的にみると無意味な接続詞なのである。次のことばが出ないので、中つなぎに「アノネ」「ウントネ」をもって来るのと同様な感じで接続詞を使っているととれるものである。

(注1) 大石初太郎「日常談話の接続詞」『話しことば論』(秀英出版・1971)所収によると、対話においての話し手のしゃべり出しにおかれる接続詞を「話頭」の分類に入れ、日常談話には「話頭」におかれる接続詞の形式が多いと言う。

(注2) 同じく大石氏は注1の書で、この類を「遊びことば」「場つなぎことば」と命名している人もいて紹介して、おとなの場合、日常談話では「で」が多く、ついで「それで」「だから」「でも」「だけど」「だって」であると述べている。

1.2 反復——質問者の問の接続詞をまず反復，模倣して，それから答える。

1.3 その他——質問者の発話をはさまるが，幼児の文がつながっていると思われるもの。質問者の発話は問でなくて感想的な言い方である。「困ったわね」「面白かったね」など。

2 発話中

2.1 文頭——文＋文＋文……と長い発話をするとき，二番目の文以下の文頭が接続詞で始まるもの。

2.1-1 間投詞的使用——話頭の場合と同様に，口ぐせなどもあって，「遊びことば」「場つなぎことば」的である。前文とのつながりについての意識は，文頭よりあるかもしれない。

2.1-2 正しく使用

2.1-3 他の意味のところに使用——誤用の一種である。

ここには「それから」「そして」「そしたら」「それで」「その他」の意味で使われているものが含まれている。

2.2 文中——接続助詞（て，から，たら，で，活用の中止形など）＋接続詞の形式のものと，その他の場合（語順など）のものがある。文頭と同じく次のように分類される。

2.2-1 間投詞的使用——前文と関係なく「て，それで」で後文をつないでいる。

2.2-2 一応正しく使用——一応というのは，「て＋それで」の形式のところは，接続助詞「の」に変換しても文が成り立つし，「て」のところで「たの。」として文を切り，あとを「それで」ではじめることもできる言い方のところなので，「て，それで」でなければならないというわけではない。また，「他の意味に使用」のように「それで」の使い方がまちがっているわけではないので，「一応正しく使用」ということばを使ったのである。

2.2-3 他の意味のところに使用——これは文頭の場合と同じ。

文末——のちに文を続けるつもりだったのが中断したともみられるが，考え中ともとれる。ともかく文末に接続詞がきている形式である。

章末の「幼児の接続詞の使用例」の備考の欄に気づいたことを述べたが，ここでは，年齢によってどんなふうに使われているかを表の順に接続詞の種類別にみていく。

6.2-1 それで

これは，年長，年中，年少ともよく使用している。「発話のはじめ」，「発話中の文頭」などでの「間投詞的使用」が多い。「発話中の文頭」で正しく使用しているのも，年齢の別なく多い。「他の意味のところに誤って使用」する場合では，年少は「そして」の意味のところに「それで」を使用する例が多い。「それで」の接続詞は，前文が原因（条件）で，後文がおきするという意味があるのを厳密に意識して使っていないためだろう。年長にも多いが，年少には特にめだつ。「それから」「そしたら」の意味のところに「それで」を使う例は年長に多いが年少には補助資料以外にはない。また，「一方」とか，「それなのに」「だけど」の意味のところに「それで」を使う例は年少には全くなかった。このような文脈で話すことが少ないためだろうか。

文中の「て＋それで」の使用は年長，年中に多いが年少には少ない。文を長く続けて話すことが，年少児ではまだできないからだだろう。「て＋それで」以外の接続詞による「から，たら，で＋それで」の形式も補助資料以外にはない。しかし年長には非常に多く，幼児が文を長く続けて話

す場合に愛用している。とはいっても、そのような文は前後の関係がはっきりしなかったり、主述の対応ができていなかったり、意味することが理解できなかったりする文が多いのである。3章の「複文の構造と用法」のところで、接続助詞について述べたが、接続助詞「ので」を年長になっても幼児はほとんど使用しない。それを、「て＋それで」の形式ですませているように思われる。「ので」などで接続できる形式を習得するまでの過渡的現象だろうか。「から」は幼児はわりに使っている。しかし「て＋それで」の影響か「から＋それで」の形式もある。「それで」は不用の語である。この形式も年少はほとんど使っていない。小学校段階では「ので」の使用、「て＋それで」の形式がどう展開していくか調べてみたい課題である。この形式については、次のようにも考えられる。幼児は前因果的思考をするため、原因、理由を示す「ので」を使用せず「て」ですませるといふところがある。第3章でみた。そこで、「て＋それで」というふうにとめた形で考えないで、「て」を以上のように考え、「それで」は文をつなぐ形式として、ただつけ加えたに過ぎないとみることもできる。あるいは幼児は思考の時間のテンポが大人に比べてゆっくりしているので、「それで」で間をもたせて考えをすすめているのではないかなどというふうにも考えられるのである。ともに推察にすぎない。

発話中の文中では、やはり「間投詞的使用」が多い。「一応正しく使用」は年長に多い。「他の意味のところに使用」については、「そしたら」が年少では補助資料以外になく、年中は引用した例のみである。「その他」の例は年少には全くない。

「たら、から、で他＋それで」は年少には補助資料以外にない。年中には一例のみである。

次のような補助資料が年中にみられた。「サクラ(人名) チッチャイデネ ソイデ サクラ オッキヨット イッテンノ。」(小-谷男4:11-9)これは接続助詞「のに」の使用ができないためのものである。3章で述べたが接続助詞「のに」は使用数も少ない。幼児にとってはむずかしい表現らしい。

「文中の例」としては、文頭でなく、文中に語順が移動したもので、間投詞的用法と正しい使用のものがある。また、あとに話が續かないで、「それで」が文末の位置になった形式がある。これは、次に話すことが出ないで、ここで中断したもので、年少にはない。

「で」を独立の接続詞とすべきかどうか問題は残るが、ここでは、「それで」の「それ」の省略されたものとして、あげておいた。年齢を問わず、「発話のはじめ」「発話中」の別なく「間投詞的用法」が多い。年長、年中では同一幼児が7回～12回も使っている。年少でもひとりで3回使っている幼児がいた。どうも話しぐせのようで、意味もなく、間投詞的に使っているのである。前に述べた『談話語の実態』によると大人の話しことばでは使用数の多い順に「それで」「だから」について第3位を占めている。しかし、幼児の場合、年少は、使用数も使用人数も少ない。

6.2-2 それから

「それで」に比べると使用数は約3割ほど少ない。これも「間投詞的用法」が多い。「発話中」の文頭、文中の別なく、「他の意味」のところに使用のものは少ない。使用するときにはほぼ正しく使用しているのである。年少には「それで」と使用する例はなかった。文中の場合は並列の意で使う。中でも語と語を接続する言い方が年齢を問わず多い。年長は特によく使っている。「て＋それから」の使用例は年少には少ない。「他の意味」のところに使用では「そしたら」の意のこ

ろに「それから」を使用している例が年長に一例みられた。「から+それから」の言い方も年長に一例みられた。

「それから」を略して「から」という言い方もあるが、使用数は少ない。

6.2-3 そして

「発話のはじめ」に間投詞的に使う言い方が、年齢を問わず多いが、特に年中、年少に多い。

「発話中」、文頭で「間投詞的」に使用する例は年長にも多い。「正しく」使用する例が少なくらいである。「他の意味」のところに使用の例では、「それから」の意のところに「そして」を使っているのが年齢を問わずある。時間的経過の意識が幼児の場合おくれるということもあるが、「そして」と「それから」は意味が似ていて同じように使われているからでもある。「そしたら」の意で「そして」を使っている例は年少には見られなかった。年中では「そして」と使用してのち、「そしたら」と訂正して、正しく使う例がみられた。年少にはこのような例はもちろんない。といっても年少で、接続詞「そしたら」が使えないというわけではない。12%の人が使っている。ただし、正しく使用しているのはもっと少ない。これらのことから、幼児に「そしたら」の接続詞の意識がよりはっきりして使えるようになるのは、平均的にではあるが年中を過ぎてからではないかと思われる。「他の意味」に使用では「そして」を「だけど、それなのに」の意味のところに使っている例が年中に二例みられた。「だけど」を使用している幼児は年中で5人に過ぎないので、「そして」で代用して使っている場合があるのだろう。「だけど」は年長で、7人、年中で5人、年少で4人の幼児しか使用していない。逆接の言い方は幼児にはむずかしいのであろう。「それで」の意に使う場合も年少では補助資料にみられたのみである。理由づけをすることも年少にはむずかしいようである。

文中の「て+そして」の言い方はどうであろう。年少はこれまでの接続詞と同様、この形式は少ない。「て+そして」の言い方は、「て」で文をつないでも間に合うところと同じ意味の「そして」が間投詞的に入っているとみられる例で、話の間をとっているのだろうか。年長に多い。「他の意味」に使用では、「それから」「そしたら」「それで」の意のところに使用するのが年長、年中ではみられるが、年少にはほとんどない。全体に少ないといえる。むしろ間投詞的使用が多いのである。

「たら、からその他+そして」の言い方は年齢を問わず使用しているが用例は少ない。

「そして」の使用を一言でいうと、間投詞的用法か並列の意である。

「そして」を略して「して」と使う言い方は少ない。

6.2-4 そしたら

年長は使用している幼児が多い。ただし、「そして」「それで」の意味のところに使っている場合とか話しぐせもある。年少は使用する幼児が少ないが、使っている幼児は口ぐせのように使っていたりする。文中の「て+そしたら」の場合は年少にはない。年長、年中には「それから」の意で使う例があった。「たら+そしたら」の使用は年齢を問わずみられる。これは、「そしたら」がなくても「たら」で間に合う文である。幼児は、文をつなぐ場合、接続詞を必ず入れなければならないというふうに考えているのだろうか、接続助詞のみでつなげることのできるころにもこのように接続詞を用いている。接続詞を使用することによって間をもたせ、次の発話を考えて

いるのだろうか。文とは何かの意識が弱いからだろうか。前にも述べたが非常に興味深いところである。なお、「そしたら」については、6.2-3「そして」のところでも述べた。

「そしたら」を略して「したら」という言い方も少ないがある。

6.2-5 だから

「AのようなわけだからB」という幼児には苦手な理由を述べる接続詞なので、使用数は年長、年中、年少とほぼ似ているが、年長のほうが正しく使用している数が多い。「て+だから」は年齢を問わずあるのだが、意味不明の例である。「て」と「だから」の結びつきがそもそもおかしいのである。「て+接続詞」の形を誤用しているのだろう。

「から+だから」は、接続助詞「から」で十分なところに、「だから」をつけ加えている。「だから」は不用である。年少に多く使われている。

6.3-6 だって

これは理由（反対）の意味をもつ接続詞であるが、幼児は年齢を問わず発話のはじめに「間投詞的」に使用している。「どうして」の質問者の質問に対して、答えるときの話の文頭に口ぐせ的につく言い方で用いている。年少が特に多く使っている。

6.2-7 だけど

これは反対の意味をもつ接続詞である。年齢を問わず少なかった。年長で7人、年中で5人、年少で4人の幼児のみが使用していた。幼児と質問者の問答という調査の形式によるのかもしれない。このような言い方が幼児には苦手であるかどうかを知るための調査を実験的にやってみる必要のある接続詞である。

「だけど」を略した「けど」の例が年少にみられた。

6.2-8 でも

これも反対の意味の接続詞であるが、年少はこの幼児一人で、しかも間投詞的用法である。補助資料からは正しく使用の例もみられたが、ほとんど使っていないといえる。年中は3人で年長は9人である。

6.2-9 そうすると

Aの当然の結果としてBになったという場合に使う接続詞であるが年長3人、年中3人、年少1人が使っていた。非常に少ない。

6.2-10 その他

その他の中には、幼児があまり使用しなかった接続詞を一括入れた。接続詞は指示代名詞に助詞とか助動詞がついて派生してできた形式とか、接続助詞が転化した形式が多いが、それらがこの中に入っている。いろいろの形式を使っているが、使っている幼児はそれぞれに少ない。まちがった言い方もある。「それでも」というべきところを「そして」、「それから」というところを「そしてから」あるいは「そしてっから」と。幼児はこのように言い誤まる傾向があるのだろう。

6.3 まとめ

全体を通していえることは、これまでに述べてきたことであるが、まとめてみると次のようである。

(1)発話のはじめ、発話中の文頭に用いられる場合は間投詞的用法が多い。

(2)文中では「て」で前文を中止して、接続詞でつなぐ形式があるが、この形式は年少に少ない。年長のも間投詞的用法が多い。

(3)「それから」「そして」「そしたら」の意味のところに「それで」を使ったり、「それで」「それから」の意味のところに「そして」を使ったり、「そして」の意味のところに「それで」「それから」「そしたら」を使うとか、「だけど」「一方」「それなのに」の意味のところに「それで」「そして」を使うという誤まりが年齢を問わずみられる。

(4)接続詞「そしたら」を使う幼児が年少に少ない。そのためか、年中、年長にみられた「そしたら」の意味のところに「それで」「それから」「そして」を用いる例が少ない。

(5)「だけど」「でも」などの反対をあらわす接続詞は年齢を問わず少ない。

(6)「その他」のところにも、いくらか使用例はあがっているが、幼児はさまざまな接続詞を使用せずに、日常よく使う接続詞ですませている。

(7)幼児全体をみると、よくしゃべる幼児が接続詞の種類も多いといえる。

(8)幼児によって好きな接続詞があり、それが話しぐせになって間投詞的に出てくるといいう現象もみられる。ある幼児は「それで」であり、別の幼児は「そしたら」というふうに。その他「それから」「そして」「だけど」「でも」などほとんど用いられている。

(9)大部分の幼児は、日常会話の場合、長い話をしないので、接続詞をあまり使わないのである。その点、話題を決めて話させた問答形式は成功であった。絵をみての話、道順、テレビ、物語について話した部分に間投詞的でない用例が、あやまった例もあるがみられた。

幼児の接続詞の使用例

接 続 詞	用 例			備 考
	年 長	年 中	年 少	
2 I それで				
1 発話のはじめ				○発話のはじめに、「ウントネー」「アノネー」などと同じように使用する。多い。
1.1 問投詞的	ほかにどんなことあった？ ○ウントネー ソイデ ガシユクデ ホリグ チクンタチ マクラデ サンカ シテ タ。(自-1 男6:0-7)	ほかにもあるんでしょ。○ソレデ アノネー ゾウノ オスベリ [すべり台] ニモ ノッタンダヨ。(赤-f 女4:10-9)	この絵を見ながらお話するの。○ソレデネ ウントネ コレ オドロイチャッタノ。(神-場男3:10-14)	
1.2 反復	それで？ ○ソイデネー ネチャッタノ。ウサギガ；(自-k 男5:8-23)	それで？ ○ソイデ シマウマガ ワラッタノ。(赤-h 女5:4-9)	それで？ ○ソイデ シカガ イバイキテ ナンカ ヤッテル。(神-寺男4:4-17)	○質問者の「それで」を繰返す。 ○発話のはじめとすべきか問題である。幼児の会話中におとなの感想文が入ったという感じ。 ○文頭多し
1.3 その他	～ソノマンマニ シトイタラ シンジャッタノ。/かおいそうだったわね/●ソイデ オハカ ツクツテ アゲタノ。(赤-E 女5:8-33)			
2 発話中				
2.1 文頭				
2.1-1 問投詞的	○オジサント オバアサンガ イタンダッテ。ソンデネー ソコ ワスレチャッタ。(自-u 女6:5-17)	○～ナリタクテ ショウガナイデス。ソイデネー ソーイデ ……ワカンナクナッチャ。(自-t 男5:3-22)	○ヨルンナッテ ハナビ ミルンダ。ソイデネー アメン トキモ ヤッタ。(神-寺男4:4-12)	○「ソイデネーアノネー」「アノネーソイデネーウントネ」の言い方もある。多し
2.1-2 正しく使用	○ハナガ チボンジャッタノ。ソンデミズヲ ヤッチ オヒサマニ アテタラ ナオッタノ。(赤-t 男6:0-21) ○ユウレイモ デテ キタノ。ソイデネー キヤッチ ミンナ ニゲチャッタノ。(赤-j 女5:7-10)	○トラックガネー ハシッテル トキネ ヒトリデニネ ココガ アイチャッタノ。ソイデネ クマガネ ネズミノ マネシデネ トンデ イッチャッタノ。(自-v 男4:7-11) ○シマウマガネ タクサン イデネ オ	○カザンッテ ヤマノ ドッカカラ バクハツスルノ。ソレデ カザンッテイウノ。(小-福男4:2-9) ○コウ ヤッチ ボーンテ ヤルノ。ソレデネ アスッテ ヤラレタノ。(神-秋男3:11-11)	

2.1-3 他の意味のところに使用	○ドッカ コヤガ アッタカラネ トマッタノ。ソイデ マタ ドッカ イッタノ。(自-b 男6:0-24)	ドロイテ ポント ニゲチャッタノ。ソイデ 「ワハッハッ」ト ワラッタノ。(赤-n 男5:2-9)		
2.1-3-1「それから」の意	○アレデネ フネトカ ナンカネ ボクツクテンノ。ソイデ ウカベテアソンデンノ。(自-b 男6:0-27)	○オマツリネー ハダグミマデネー イッタノ。ソイデネー マタ ゴハン タベテ ソイデ カエッタノ。ウチニ;(自-k 男4:8-2)	●ダンチヲネー〔の〕 ナカタ トオツテイクノ。ソイデネ サカラ オリ(ン)ノ。(赤-b 男4:0-9)	○年少なし(補助資料を除く以下同じ)
2.1-3-2「そして」の意	○シャシン トツタンダモノ。ソレデヤマデ オニギリ タベタノ。(自-g 女5:11-6)	○アタマガ マルクタ ケガ ナイノ。ソイデネ アシガ ア アツテ ソテガ アルノ。(自-t 男5:3-17)	○～ツレテ イツテ モラウ コト アルヨ。ソレデ ミルク ノンダ ト アルヨ。(袖-宮男3:8-3)	○年少多し
2.1-3-3「そして」の意	●オツキサマノ ハナシ ヤツテ アゲタノ。ソンデ チュマンナイツテネ オヨイデ ドッカ イツチャッタノ。(自-z 男5:8-12)	○ライオンガ サキネ ハラツパカラ デテ キタノ。ソイデネ シマウマ イタノ。(赤-n 男5:2-8)	○～ダンガ ウルトラチェブナンノ。ソイデネ ヒコウキガ イッパイ アンノ。(袖-大男3:11-8)	○年少なし
2.1-3-4「その他」の意	○オオキイカラ カケンノガ オソカッタンダツテ。ソイデネ ネズミハチツチャイカラ チョコチョコ カケテ イツタンダツテ。(一方、そして)(自-d 女5:11-30)	○テツジンガ ロボットヲ ヤツチュエンノ。ソイデ ショウタロウガ ショジュエーキデ ヤルノ。(一方、そして)(自-h 男5:5-8)	●タイヨウノトウトネ アメリカトネ イダケ ミタンダケド。ナカモハ イッタノ。ソイデ ナンカ アツタンダヨ。(赤-f 女4:2-3)	
	○カメハ オソイノ。ソイデ ウサギガ ネムツテル アイダニ カメガ ヤマーン トコニ ノボツテツテ イット ウニ ナッタノ。(だけど、それなのに)	○ウシヤギガ ハヤイノ。ソイデ カメガ イットウ ナツテ ウシヤギガ ココ デ ネテンノ。(それなのに)(自-k 男4:8-19)		

2.2 文中 で、それでの 場合	<p>(自-i 男6:4-17)</p> <p>● ジュエツト マエネ シンカンセンデン シャナンカ ツクツタノ。<u>ソンデ</u> ヤメチャツテ カイシャニ イッテン ノ。〔それを、だけんど〕(自-2男5:8-4)</p>	<p>● コウイウネ カタチシタネ ノリモノ ニ ノツデネ <u>ソレデネ</u> ウーントネ ウーントネ ソノ ノリモノガネ ウ チュウニ キチャウノ。(赤-C男5:6 -9)</p>	<p>○ ~ソレネ ウサギガ イットウ ナッ テネ <u>ソイデネ</u> <u>ソイデネ</u> アンマリ カケーツテ イッタカラネ ツカレ チャツテネ ヒトヤスミ ショウト (オモツタノ。)(赤-r 女4:10-10)</p>	<p>○ カメガ「アソコノ オヤママデ」ツテ ユツテ キョウソウシタラ ウサギガ カッタカラ モウスグダカラ ネ チャツテ <u>ソレデ</u> カメガ イットウ ン ナツタノ。(赤-o 女5:1-10)</p>	<p>○ コツカラ カケテ <u>ソイデ</u> コツカラ シ〔ひ〕カラレチャツタノ。〔文意はつき りしない〕(小-竹男4:1-8) ○ コレガ オヒサマニ アタツテルカラ アツク ナツテ <u>ソレデ</u> カレテンノ。 (小-矢女4:0-13)</p>	○ 年少,「て、それ で」の用例少な し。年長多し
2.2-2 一応正 しく使用						
2.2-3 他の意 味のところに 使用						
2.2-3-1 「そ れから」の 意		<p>○ オオカヤマカラ ナンカ オクツテ キテ <u>ソイデ</u> ミンナ ヨロコンデ タ ベテ <u>ソイデ</u> オフロニ ハイッテ ネタノ。(赤-k 女6:2-3)</p>	<p>○ マタ ゴハン タベテ <u>ソイデ</u> カ エッタノ。ウチニ;(自-k 男4:8-2)</p>		<p>○ ガツコウ トオツテ イッテ ヒダリ マガツテ <u>ソイデ</u> ヤマデチェンラ 〔に〕ノツテ イクノ。〔道順〕(小-金 男4:1-7)</p>	

2.2-3-2「そ
して」の意

○オキヤクサン キタラ チュウ(中)
ダッタラ チュウ アゲテ オカネ
ヒヤクエンダッタラ クレデ ソイデ
ネ カエス トキハ オカネト エン
ベツ。(自-e 女5:7-2)

○ソレデ コンドハ タヌキヲ ミテ
オサルニ オカシ ヤツテ ソレデネ
ツキノワグマニモ ヤツテ、オセンベ
エヲ; ~ (赤-f 女4:10-8)

○コレハ クマガ イデ ソイデネ チ
イチイーッテ ネズミガ イテ クマガ
ネジュミヲ ミツカッタノ。[みつけた
の] (袖-大男3:11-12)

○この例多し

2.2-3-3「そ
したら」の
意

○~カメガ コナイ ウチ ヒトネムリ
シテ ソイデ カメガ ドンドン オ
イコシテ イッテ イチバンニ ナッ
チャッタ。(自-b 男6:0-30)

●ヨウチエンカラ モンデテ デ マッ
スグ イッテ ソイデ マガツテ ソ
イデ ツイチャウノ。(道順) (赤-i 女
5:3-8)

●マグマタイシツテ ハジメ ボウシ
カブツテナイ オトコガネ クチアエデ
ユツテネ ソイデ デテ クンノ。(赤
-e 男4:1-5)

2.2-3-4「そ
の他」の意

○ソイデ オセンタク オワツテ カ
エツテ キテ オウチニ イッテ ソ
イデ オジイサンガ ヤマカラ カ
エツテ キテ フロウト シタラ ア
カンボウガ ウマレタノ。[一方] (自
-o 男6:3-8)

○ソイデ ウサギサンガ トットコ
トットコ イッチャツテ ソイデネ
カメサン ココデ ノロノロ ノロノ
ロ アルイテツテ、~ [一方、そして]
(赤-t 男5:1-13)

●モノウリバアサンニ バケテネ ドク
ノ ハイッタネ リンゴヲネ ウリニ
キテネ ソイデネ タベチャツタン
ダツテ。シラユキヒメ(ガ); [それを]
(赤-J 女5:8-20) [のでも]

たら
から
で
他

2.2-1 間投詞
的

○~ムコウ イッテ ベンキョウシテ
カネガ ナッタラ ソイデネ カイッ
テ オトクサンチ イッテ ソイデ
オウリ。(自-t 男6:2-8)

○オヒサマガ アタツタラ ソイデ コ
ンナ ナツチャツタノ。(自-k 男4:8
-21)

●ヨウチエン トコハネ テレビガネ
チャットネー ヨル トキニ ネデタカ
ラサー ソイデ ワカンナカッタダ
ヨ。[文意はつきりしない] (赤-f 女4:
2-9)

○「そいで」がな
くても成立する
文。

2.2-2 一応正しく使用	デ シンデレラヒメニネ ハカシテ ミタラ アッタノ。(赤-B女5:8-13)			
2.2-3 その他 の意味の ところに使用	○オウチガ ヨンジュウキユウゴウカン デネー ソレデネ ヨンジュウハチゴ ウカンノ マエ トオッチ サンジュ ウサンゴウカンノ マエラ トオッチ クルノ。(赤-f女5:9-13)			
2.2-3-1「それから」の意	○シタカラ オトシテ ウーウーッテ マエニ ススマセネ、ソイデ ウエラ ムイデカラ ウッチャウ。(自-b男6: 0-6)〔そしてとも〕			
2.2-3-4「その他」の意	○フミチャン ヒトリト ソイカラ オ カアサン ヒトリデ ソイデネ ハル コチャンモ ヒトリデ ソイカラ オ バアチャンモ ヒトリデ〜〔並列〕(自 -e女5:7-1)	●サクラ チッチャイデネ ソイデ サ クラ「オッキイヨー」ッテ イッテン ノ。〔「のに」の意〕(小-谷男4:11-9)		○接続助詞「のに」 の使用は少な い。
その他の場合	○ソノ トキ ソレデネ ワルイ ゴワ スノ エンバンニ ソノ オトコノ コト オトウサント ツカマッチャッテ ソノ トキ マグマノ コドモガイ タンダヨネ。〔間投詞的〕(自-g女5:11 -11) ○〜「コアラ アシタマデ アズカッテ オク」ッテ チョッキンデ キッタ〔で〕 ヤッタノサ。アト ソレデサ ホッペ	○コンナ チッチャイ コドモデネ コ ンナ オオキナ ソイデネ ントネ ヤキユウ ヤンノ。〔間投詞的〕(自-t 男5:3-21) ○アト ソイデ シマウマガ トマッタ ラ コノ ライオンガ ツイテ キタ カラ ソイデ ツイテ キタノ。〔間投 詞的〕(赤-k女5:3-13) ●アンチャントー ソイデ ミッチー		○語順のちがった もの。

2.3 文末	タヲ〔に〕サワッテ ミルト コブガ ナインデ ヨロコンデ ウチニ カ エッテ キタノ。〔間投詞的〕(赤-w男 6:3-23)	ソレダケ オウチニ イルノ。〔並列の 意。間投詞的〕(小-山崎男4:11-2)	○～。ソイデ ライオンガ <u>ソイデ</u> … 〔中断〕(自-v男4:7-9)	○年少にはない。
くで(それでの略)				
1 発話のはじ め				
1.1 間投詞的	どうやって来たの? ○ <u>デネー</u> バー ティダチュッテ ジュースヤ イロンナ モノ タベタリ ノンダリ シテ ソ シテ オドリヤ セイブゲキヤ ヤッ タノ。(赤-w男6:3-16)	それからどんなことがあった? ○ <u>デ ネー</u> <u>デ</u> ケキ ミタノ。(自-d女4: 11-1)	それはどうしたの? ○ <u>デ</u> アレネ ダ ケドネ ボク サイショハネ ボクネ アレネ～(神-三男4:0-24)	○「で」を「それ で」の略とみる のは発生的に妥 当でもいくらか 疑問がのこる。
1.2 反復	で? ● <u>デ</u> , アトカラ オトナシク ナル。 (赤-a男5:9-2)	○ビジンナノ。 で? <u>デネー</u> (自-d 女4:11-3)		
2 発話中				
2.1 文頭				
2.1-1 間投詞 的	○ウン, ネルノ。 <u>デ</u> アト ソレカラ ロクジニ オキル。(自-a男5:8-13)	○～ネヂュミ ニゲタノ。 <u>デ</u> ソシテ クマ ネジュミヲ オーカケテンノ。 (自-n男5:5-17)	●アオイ ハコ。 <u>デネ</u> エト ナンダッ ケナー エート… (赤-t女4:4-13)	
2.1-2 正しく 使用	○～イッパイ シマウマガ イタノ。 <u>デ</u> ネ ライオンサン ビックリシチャッ テ カエッチャッタノ。(自-v男5:7 -15)	○コビトノ ウチマデ キチャッタノ。 ナガサレテ; <u>デ</u> コビトガ ワルモン ト オモッテ ユワイチャッタノ。(赤 -n男5:2-7)		

2.1-3 他の意味のところに使用	○コクテツ イッテンノ。 <u>デ</u> キシャ コフレテル トコロ アッタラ ナオ シテンノ。〔そこでとも〕(赤-w男6:3-3)	●トンチヤント ミカチヤント <u>デ</u> テ クルノ。 <u>デ</u> オネエサンガ〔も〕 <u>デ</u> テ クルノ。(赤-i女5:3-10)	
2.1-3-2「そして」の意			
2.1-3-3「それなら」の意	○～ウサギガ ココロデ サボッテ ネ チャッタノネー。 <u>デ</u> カメガ モウ ヤマノ テッペンニ イタンデ ビック リシテ アワテテ オキタノ。(赤-w 男6:3-29)		
2.1-3-4「それの他」の意	○～ナミガ スゴイノ。 <u>デ</u> ネ フカイ ホウハ アンマリ スゴイ ナミ ジャナイノ。シズカナ ナミ バッカ リナノ。(一方、だけど)(白-d女5:11-4)		
2.2 文中で、の場合	○オテガミガ <u>キテ</u> <u>デ</u> ネ「ゼヒ キテ クダサイ」ッタノ。(赤-p女6:2-13)	○ソイデ コッチ イッテ、マタ マッ スグ イッテネ、 <u>デ</u> コッチ マタ イッテ ソイデ～(自-u女5:5-5)	○アンネ シートネ ヒコウキガ アッ テネ <u>デ</u> ネ ボウチ〔し〕 カブッテン ノ。〔意味あいまい〕(袖-大男3:11-7)
2.2-1 間投詞的	○タシ～ノ ドアガ <u>アイデ</u> <u>デ</u> マ マガ ノッテ ソレカラ アタシガ イ ルッテ コト シラナイカラ サキニ ノッテ イッチャッタノ。(赤-p女6:2-18)	○～カメサンガネ ムコウノ オヤママ デ カケッコ シヨウッテ ユッテ <u>デ</u> カメサンニ スコシ ウサギサン ノ ホウノガ カッタケドネ トチュ ウデ ネチャッタカラ～イットウニ ナッタノ。(自-d女4:11-11)	

<p>から、それらの場合</p>	<p>クラス コトガ デキタ〜(赤-s 男6: 6-16)</p> <p>○〜コンドハ ナンカイモ ニダンモ バクハツ シテカラ <u>ソレカラ</u>ネー ウミニ アル アブライレ タンカー ガ シズンジャツタリ シテ〜(赤-a 男5: 11-8)</p>	<p>アル トコヲネ トオツテネ <u>ソレカラ</u> アソコニネ モンガ アルデ ショ。アソコカラ;〔道順〕(赤-g 女4: 8-5)</p>	<p>○ククノ ハナト <u>ソレカラ</u>ネー バラ ノ ハナトカ ソウ イウ ハナ ツ ンダノ。(赤-t 男5: 1-5)</p> <p>●ノボッチャツテ ノボッタリ <u>ソレカラ</u> <u>ソレカラ</u> アションダリ チョレカラ… (神-柳男4: 5-5)</p> <p>○オスナバデ アソンダリ シテ <u>ソレカラ</u>… (赤-f 女4: 10-3)</p>	<p>○カツノリクント <u>ソレカラ</u> ボクノ オカアサント カツノリクンノ オバアサント タケノ プール イッタノ。(神-秋男3: 11-6)</p> <p>○「それから」は 不用。</p>
<p>並列の意の場合</p>	<p>○ツナヒキトカ <u>ソレカラ</u>ー バトンリ レートカ <u>ソレカラ</u>ー カケツコトカ ナンカ オドツタリ シタリ。(赤-k 女6: 2-10)</p> <p>○ツリニ イッタリ フミエチャンチニ イッタリ <u>ソイカラ</u>ネ ハルコチャン チニ イッタリ <u>ソイカラ</u>ネ ユウエ ンチニ イッタリ デバートニ イッタリ シテタノ。(自-e 女5: 7-4)</p>	<p>○ゴハント ミルクヤ アト メロン ヤ…<u>ソレカラ</u>…〔考え中〕(自-t 男6: 2-10)</p>	<p>○ライオンガ ヒックリカエッテルミタイ (ダカラ)。/で?/<u>カラ</u> シマウマト ライオンガ ニランデルミタイ。〔間投詞的〕(自-d 女4: 11-10)</p>	<p>○クルマモ アンノ。<u>カラ</u> <u>ソイデ</u>ネ カイジユウ ナイ トキネ ウルトラ マンガ ダンガネ ツ〔し〕ェブン ナ ンノ。〔間投詞的〕(神-大男3: 11-8)</p>
<p>2.3 文末</p>	<p>○ソイカラ ソラントカ。/それから? /<u>カラ</u>ネ テツジントカ バピート カ。〔間投詞的〕(自-i 男6: 4-7)</p> <p>○〜スゴイ オオキイ イヌトカ <u>カラ</u> ヒトツメゴゾウノ オバケダトカ。〔並列の意〕(赤-w 男6: 3-19)</p>	<p>○ソイカラ ソラントカ。/それから? /<u>カラ</u>ネ テツジントカ バピート カ。〔間投詞的〕(自-i 男6: 4-7)</p> <p>○〜スゴイ オオキイ イヌトカ <u>カラ</u> ヒトツメゴゾウノ オバケダトカ。〔並列の意〕(赤-w 男6: 3-19)</p>	<p>○ライオンガ ヒックリカエッテルミタイ (ダカラ)。/で?/<u>カラ</u> シマウマト ライオンガ ニランデルミタイ。〔間投詞的〕(自-d 女4: 11-10)</p>	<p>○クルマモ アンノ。<u>カラ</u> <u>ソイデ</u>ネ カイジユウ ナイ トキネ ウルトラ マンガ ダンガネ ツ〔し〕ェブン ナ ンノ。〔間投詞的〕(神-大男3: 11-8)</p>
<p>くから(それからの略)</p>	<p>○ソイカラ ソラントカ。/それから? /<u>カラ</u>ネ テツジントカ バピート カ。〔間投詞的〕(自-i 男6: 4-7)</p> <p>○〜スゴイ オオキイ イヌトカ <u>カラ</u> ヒトツメゴゾウノ オバケダトカ。〔並列の意〕(赤-w 男6: 3-19)</p>	<p>○ライオンガ ヒックリカエッテルミタイ (ダカラ)。/で?/<u>カラ</u> シマウマト ライオンガ ニランデルミタイ。〔間投詞的〕(自-d 女4: 11-10)</p>	<p>○クルマモ アンノ。<u>カラ</u> <u>ソイデ</u>ネ カイジユウ ナイ トキネ ウルトラ マンガ ダンガネ ツ〔し〕ェブン ナ ンノ。〔間投詞的〕(神-大男3: 11-8)</p>	<p>○クルマモ アンノ。<u>カラ</u> <u>ソイデ</u>ネ カイジユウ ナイ トキネ ウルトラ マンガ ダンガネ ツ〔し〕ェブン ナ ンノ。〔間投詞的〕(神-大男3: 11-8)</p>

3 そして

1 発話のはじめ

1.1 問投詞的

それからにしたの？きのうは。○ソシ
テネー レーシング。(赤-x 女6:2-7)

1.2 反復

そして？ ○ソシテネ ココニ エネル
ギーガ アッテ ナンカ…(白-m 男6:
4-8)

2 発話中

2.1 文頭

2.1-1 問投詞 的

○～オソバナンカ タノンダノ。ソシテ
ネ ソシテー オワッタトキ キタナ
ク ナッチャッタデショウ。(赤-x 女
6:2-11)

2.1-2 正しく 使用

●ソレハネ クマガネ ネズミガ〔を〕ネ
オイカケテルノ。ソウシテネ クルマ
ナンカ ハシッテル トコニネ シラ
ナイデ デタカラネ ダンブカーニ
ブツカッチャッタノ。(白-t 女6:4
-22)

2.1-3 他の意 味のところに 使用

2.1-3-1「それ から」の意

○～カミサマニ オコラレタノ。ソシテ
ネ オボウサンガ トオッチ タスケ
テ クレテ ケライン ナッチ ソウ
シテ ワルモン ヤッツケタリ シテ
インドマデ イッタノ。(赤-u 男6:5

その時のお話聞かせて？ ○ソウシテ
ネー ボクガ ミテタ トキ オッカ
ナイカラ オウチイ スグ カイッ
タノ。(白-p 男4:7-5)

そして？ ○ソシテネ マタ ココカラ
ズーット キタノ。(白-s 男4:10-23)

○～オニシヤンガネ コゴサネ オミ
ジュ カケタノ。ソシテネー ママネ
サッキ カイシヤ イッタタンダ。(白
-p 男4:7-18)

○～マホウツカイノ コエガ キコエタ
ノ。ソシテネー マホウツカイガ
「コッチ オイデ」ナンテ ユッタカラ
ヘンデルト グレーテル イッタノ。
(白-h 女4:7-9)

●オバアサンガ モッチ カエッタノネ。
ソウシテネ オジイサンガ カエッチ
キテ キロウト シタラ ヒトリデニ
ワレテ モモタロウガ デテ キタ
ノ。(赤-e 女4:9-6)

もうないよ。これ。○ソシテネー コ
レ カミ アッ アルジャナイ。(小
-加男4:1-8)

そうして？ ○ソウシテネー クモガ
デテ キテ ニンゲン ヤッツケン
ノ。(小-相男4:4-10)

○ウナッテンノ。ソウシテネー ソーシ
テ ネコト アルイデタラ ヒヨコガ
イタノ。(小-相男4:4-13)

○クルマガ キタラ トマルノ。ソシテ
ネ クルマガ トマッタラ ワタル
ノ。(神-鈴男3:6-13)

○オモテデ アションドリ シテンノ。
ソシテ オフロ ワタリデ イッ
タノ。(神-狗女4:3-8)

○年中、年少特に
多し

○これも多し

○「そして」「それ
から」の区別
はつきりしない
が一応ここに入
れてみた。

2.1-3-3「そし
たら」の意

●ソイデ ミズヲ マイタノ。ソシテ
コンナ フウニ オッキク ナッタ
ノ。(赤-p 男5:11-17)

●「〜ヒルゴハンニ イイヤ」ツテネ
オイケタノ。ソシテ シマウマガ
キガ ツイタノ。(赤-m 女6:3-24)

2.1-3-4「その
他」の意

- マッスグ イッテネ ズーット マッ
スグ イクノ。ソシテ ヒトツ ワタ
ンノ。〔道順〕(小-小島女4:2-10)
- ウマガ イタカラ ライオンガ トビ
コンジャッタノ。ソシテネ コノ ウ
マハ ニゲダシタノ。(自-p 男4:7
-16)
- ズーット ムコウ イッテ コッチ
ガワ マガルノ。ソシテネ スグ オ
ウチ ツクノ。〔道順〕(赤-x 女5:2-6)
- ライオンガ オイケケタノ。ソウシテ
ネ ハリノ トコダカラ ライオン
サシタノ。(赤-u 男5:6-9)
- コレ ナニカ トラエタカラ(キ)テ
オッカケテンノ。ソウシテネ ソシタ
ラネ ハンタイニ コッチ オイケケ
テ キ。〔訂正〕(赤-d 男5:4-13)
- カメガ カチニ ナッチャッタノ。ソ
シテネ ソシタラ ウサギ ハヤイカ
ラ ウサギノ ホウガ カッテ ドッ
チガ カッタノカ ワカンナイ。〔訂
正〕(自-h 女4:7-13)
- イチエカネ オーワダニ イッタ ト
キハネ カエル オッキイノ イタデ
ショ。ソシテ ニゲライチャッタノ。
〔だけど〕(自-p 男4:7-8)
- カメサンガ ノソノソ キタノ。ソシ
テ カメサンガ イットウ ナッテ
ソレカラ キタ トキニハ カメサン
ガ テッペンニ イタノ。〔だけど、そ
れなのに、それでも〕(赤-w 男5:3-10)

○年中の例は、「そ
して」と言っ
てのち「そしたら」
と訂正してい
る。

2.1-3-5「それで」の意	○ソシテ ウサチャンガ ココン トコロネチャツテネ サキ カメサンガイッチャツタノ。 <u>ソシテ</u> ウサチャンガ オソクナッチャツタノ。(自-r女5:7-17)	○～ライオンガ シマウマ オイカケテンノ。 <u>ソシテ</u> コドモタチ ミテタノ。 <u>それを</u> (自-a男4:9-10)	○ショレチャツタノ。 <u>ソシテ</u> ミズカケテ コウ イウ ハナニ シタノ。(赤-w男5:3-10)	○タイヨウガ ココニ、オシ(ひ)サン トコロニ キタノ。 <u>ソシテ</u> タハナガネ タオレタノ。 <u>はっきり</u> ない (自-k男3:4-7)	○指示代名詞を使うところを「そして」でずませている。
2.2 文中で、その場合	●ミズ マコウト シタラ カレテ <u>ソシテ</u> ネ マタ オミズ マイタラ カレチャツタノ。 <u>「そしてまた」</u> 口ぐせ。文意もおかしい (自-x男6:1-4)	○パピーッテ ココニ ペンダント サゲテテ <u>ソイデ</u> コウ ヤツテ カタホウノ アシ コウ アゲテ カタホウヒザ ツケテ <u>ソシテ</u> ネ コツカラコウツト バケチャウ。(赤-w男5:3-8)	○マエノ ホウ コウ ヤツテ ミテタラ <u>ブツカッチャツテ</u> <u>ソシテ</u> ネ ヒロコガ タオレチャツタノ。 <u>「文おかし」</u> (神-佐女3:7-15)	○タベテ <u>ソシテ</u> ネ <u>ソーシテ</u> ネ ルノ。(神-柿男3:7-2)	○年長多し
2.2-2 一応正しく使用	○パーティダ チュッテ ジュースヤイロンナ モノ タベタリ ノンダリシテ <u>ソシテ</u> ネ オドリヤ セイブゲキヤ ヤツタノ。(赤-w男6:3-16)	○ソシテ ヤネハ チョコレートダカラヤネノ チョコレート <u>タベテ</u> <u>ソシテ</u> ネ マホウツカイノ コエガ キコエタノ。(自-h女4:7-9)	○コウ イッテ <u>ソシテ</u> サ ココニコノ クライノ ミチ アルデショ。コ	○間投詞的とも。	○理由の意味の場合年少なし。
2.2-3 他の意味のところに使用	○ニジュウヨンゴウカンテ イウトツカラ <u>ソシテ</u> コウ イッテ <u>ソシテ</u> マタ マガッテ <u>ソシテ</u> ココラヘンヨウチエンダカラ <u>スグニ</u> ツイチャウノ。 <u>〔道順〕</u> (赤-m男5:10-11)				

2.2-3-5「それで」の意	○ダラネ ミイラダトカ ガイコツダト カ カイブツノ フネダトカ アツテ ソシテ ミンナ ミテ キタノ。〔それ を〕(赤-w男6:3-25)	コカラ センセエト ナランデ クル ノ。(赤-w男5:3-6) ●ソウシタラ カゼガ フイテ キテ ソウシテ オウチ ハイッタノ。(神 -師女4:11-10)	○「そして」不用。
2.2-3-6「その他」の意	○ニジュウヨンゴウカンテ イウトッカ ラ ソシテ コウ イッテ ソシテ マタ マガツテ ソシテ ココラヘン ヨウチエンダカラ スグニ ツイチャ ウノ。〔道順〕(赤-m男5:10-11)	○コノ オハナガ カレチャツテ ミ ジュ カケタラ ソシテ オテンキニ ナツテ ソシテ マッスグン ナッタ ノ。(自-s男4:10-26) ○ソシテ コゴ〔これ?〕ガ チュウシャ デ ソシテ〔て〕 コゴニ シロイ ク スリガ チイーット ハイッテ ク ロイノガ チイーット ハイッテ ヤ ルト イタイノ。(自-p男4:7-12) ●エーカキトネ ソシテネ ツミキデ アソブノトネー シュウウカイ。〔並列〕 (神-村男4:3-10)	○ヒダリガワニ ニゲヨウト オモッタ ラ ソシテ ソシテ ブツカッタノ。 (神-佐女3:7-15)
その他の場合	○ナンカ エ カイタリ ソウシテネ アト ホン ヨンダリ アト ネンド デ ナンカ ツクッタリ スンノ。〔並 列〕(赤-m男5:10-6)	／で どうなったの? / ○シヨシテ カ メガ ソシテ コウ ナッテンノ。〔く りかえし〕(神-高男4:4-22)	
2.3 文末	○～オイシヤサンナノ。ソシテネ…(赤 -x女6:2-2)		
くして(そして)の略>			
2 発話中			
2.1 文頭		○～キバ フタツ アルノ。シテネ オ ハナガ ナガクテ ソシテ ミミガ オッキイノ。(自-s男4:10-3) ●ボウヤダチガネ エンソクニ キテ ネー シテネー オウマガ イッパイ	○～カイジュウ ヤッチュケチャウ。シ テネ ハックダツテ デルヨ。〔間投詞 的〕(神-高男4:4-15)
2.2 文中	○ライオンガネ ヒトーリボツチニ ナツチャツテネ シテネ ココマデ		

	<p>アルイテ キテネ～(間投詞的)(赤-x 女6:2-17)</p>	<p>キテネ ライオンノ コト ヤツツケ タノ。〔一方?〕(小-村男4:9-17)</p> <p>●「〔略〕」 ッテ ユッテネ シテネ</p> <p>「〔略〕」 ッテ ユッテ「〔略〕」 ッテ イッ タノ。〔それで、したら〕(神-閨女5:0-21)</p>	
<p>4 そしたら</p>	<p>1 発話のはじめ</p>		
<p>1.1 間投詞的</p>	<p>そいで? ○ソシタラネ オッカケタノ。(赤-r 女5:10-10)</p>	<p>それから? ○ソシタラネ ゴハン タベサシテ ウエデ タベナイデ シタ デ タベタノ。(自-a 男4:9-1)</p>	<p>そんで? ○ソシタラネ コドモガ ヒトリデ イッタラ マイゴニ ナッ チャウカラ ダメ。〔したらが口ぐせ〕(神-佐女3:7-12)</p> <p>したら? ○ソシタラネ キリンガ デテ キテ キリンガ フタツ イルノ。(神-鈴男3:6-11)</p>
<p>1.2 反復</p>	<p>そしたら? ○ソシタラネ ポウヤガ ミズ オハナニ アゲニ キタノ。(自-m 男6:4-14)</p>		
<p>1.3 その他</p>	<p>○～ヨウチエンダカラ スグニ ツイチャウノ。／いいね近くて／○ソシタラ ミンナデ ムシトカ ソウイウノ ッ カマエニ イク。(赤-m 男5:10-2)</p>	<p>○シマ〔うま〕ガネ ハシッテ イッタ ノ。ソウシタラ トラガ イタノ。(赤-v 男5:1-7)</p> <p>○クマガ ネズミヲ ミテ ソシテネ オイカケタノ。ソシタラ ダンブカーガ キテ ハネトバサレチャッタノ。(赤-u 男5:6-10)</p>	<p>○前文につづいて いるのがはつきりしているの で、その他に入れた。</p> <p>○年長に多し。</p>
<p>2 発話中</p>	<p>2.1 文頭</p>	<p>○～ミンナ ナイタノ。ソシタラ ドロ ボウタチガ ビックリシテ コノ オウチカラ ニゲダシタノ。(自-d 女5:11-21)</p> <p>○オジイサンガ キッタンダッテ。ソウ シタラ カワイイ アカチャンガ ウマレタンダッテ。(自-u 女6:5-18)</p>	<p>○エンツツノ アナガ〔から〕 ハイッテ クルノ。ソシタラ アッチッチチッ チ。(小-竹男4:1-10)</p> <p>○バクダン? バクダンサー。ソシタラ シュグ ニゲチャウモン。(神-高男4:4-8)</p>

2.1-3 他の意味のところ
に使用

2.1-3-2 「そして」の意

○シマウマガ アンナニ イタノ。ソシ
タラネ コンド シマウマガ ワラッ
テタノ。(はっきりにしない)(赤-r 女5
10-10)

●〜モモガ ナガレテ キタカラネ ヒ
ロツテネ オバアサンハネ ウチニ
カエツタノネ。ソシタラ モモ タベ
ヨウト シテネ ナカラ ポタト ア
ケタラ カワイイ アカチヤン〜 (赤
-L 女5:9-11)

2.1-3-5 「それ
で」の意

○〜カエツテ キタノネ。ソシタラ 「オ
ソカッタネー」ツテ イッタラ 「ウ
ン」テ イツテ ソレデ ヨク ナッ
タラ モウ オワツチャッタノ。(赤
-o 女6:1-22)

2.2 文中
で、そしたら
の場合

2.2-2 一応正
しく使用

○〜ミシカラ デテ イツチャツテ ク
ルマガ トオル ミチニ イツテ ソ
シタラ トラックト クマガ アツ
カツチャツテ ソレデ オオケガラ
シタ トコロ。(赤-o 女6:1-31)
○シマウマガ イッピキ イテ ライオ
ンガ オイカケテ イツテ ソシタラ
アンマリ オオゼイニ ナツチャツタ
リ シテ ビックリ シチャッタノ。

○ネズミガ イテ クマガ イタノネ。
ソウシタラ クマガ ネズミノ コト
オイカケタノネ。(赤-o 女5:1-11)

○ウサギサンガ イットウ ハヤイデ
シヨ。ソシタラ ウサギサン オヤマ
ノ チヨット デッペンマデ{で}ヒル
ネ シチャッタノ。(赤-f 女4:10-11)

●〜トツテ ウサギガ サキニ ソイデ
トチュウデ ナカナカ カメ コナイ
ノデ ネチャツテ ソウシタラ カメ
ガ サキニ イツテ カケテ イット
ウシヨウニ ナツチャッタノ。(小-久
女4:7-29)

○〜ヒトリデ イッタラ マイゴニ
ナツチャウカラ ダメ。ソシタラ オ
カアサン イッシヨニ イクノ。(神
-佐女3:7-12)

○佐女は「そした
ら」が口ぐせ。

2.3-3 他の意味のところ に使用	2.2-3-1「それから」の意	(自-j 女5:7-11)	○ネテ アサニ ナツテカラ ゴハンヲ タベテ <u>ソシタラ</u> アタ〔さ〕 ハヲ ミガイテ <u>タベタラ</u> ソイデ ニコ トマツテ、〔意味不明〕(自-b 男6:0-2)	③～チャント マツチュグ イツテネ オオダンホドウヲ トオツテ アノー <u>ソシタラ</u> マタ オオダンホドウガ アル トコヲ トオツテ ソレカラ アソコニ モンガ アルデシヨ。(赤 -g 女4:8-5)	④オバアサンノ トコロヘ オオキナ モモガ ナガレテ キテ <u>ソシタラ</u> オバアサンガ ヒロツテ オウチヘ モツテツテ～〔それで、それを〕(神-師 女4:11-7)	⑤～「ドウ ヤツテ ハイルノカ」ツテ ハイッテ イクノ オシエテ モラッ タラ <u>ソシタラ</u> オシリヲ オシテ ソイデ オウチヘ カエレタツテ イ ウノ。〔「ヘンデルとグレーテル」の話 省略がある〕(赤-i 女5:3-8)	⑥ウサギガ コウフニ ビョンビョン ハネテ <u>イッタカラ</u> <u>ソシタラ</u> クモノ ワタガネ フワリツ <u>クラク</u> ナッ チャッタノ。(神-遠男5:1-28) 〔はっきししない〕	○コレハ アタマト ブツト () トッ テッタラ <u>ソシタラ</u> バネ イタイッ テ。〔意味不明〕(小-藤女3:10-11)	○「そしたら」不 用。	
2.2-3-4「そ の他」の意	その他の場合	○「カイモノ イッタンダヨ」ツテ オ シエタラ <u>ソシタラ</u> オトウサンガ オコツテ キデ ソイデ ウマゴヤガ アラサレテタノ。〔意味不明〕(赤-o 女 6:1-20)	○～タイチヨウガ 「ムコウ イッテ クタサイ」ツテ ユッタラ ムコウ イッテ ハヤト〔た〕ガ ダレカニ ハナヲ モラツチャッタノ。 <u>ソシタラ</u> ; 〔語順〕(赤-m 男5:10-1)							

くしたら他(そしたらの略)>

5 だから 1 発話のはじめ	○クマガ ネズミヲ オイカケテタラネ ネズミハ ドウロヲ ワタツテネ タ ラネ ダンブカーガ ボカーンテ キ テネ クマト ブツツカッタノ。〔間投 詞的〕(赤-c 男6:3-24)	●～「クマー」ッテ ナイタノ。シタラ シマウマガ キテネ カケッコ シヨ ウカ～(赤-i 女5:3-14)	／そして?／●シタラネ カワガ〔に〕 ネ ドブンテ ハイッチャッタノ。〔間 投詞的〕(自-1 女3:3-5)
1.1 間投詞的	どうしたの? ○ダカラネ <u>ダカラネ</u> <u>ダカラ</u> <u>ダカラネ</u> <u>ダカラ</u> <u>アタシ</u> オワリノ ホウデ 「オトウサンナ カ アンナ コト シナイヨネ」 ダッテ。(自-g 女5:11-6)	だからピーターパンのどこが好き? ○ <u>ダカラネー</u> ヤッバリ イチバン サ イシヨ。(自-d 女4:11-6)	どういふの? ○ネ <u>ダカラネ</u> ネ イ ワナイノ。(神-古男4:5-29)
1.3 その他		● <u>ダカラ</u> <u>コンナ</u> (ニ) <u>タオル</u> <u>オイテ</u> <u>アルノ</u> ? (小-窪女4:8-17)	○前の文をひきつ いで、そのため と使っている。
2 発話中 2.1 文頭 2.1-1 間投詞 的	○～ヨンジュウニゴウカンノ コガ (ト アバイ) スルカッテ キタノネ。ダ カラ ソレデ ダマッテ カズマサク ンテ イウ コヲ ヨビニ イッタノ ネー。(訂正) (赤-w 男6:3-10)		○ウチニ オカシ アルンダ。ダカラ コンド ウチ シッテル?〔話題の変 更。その他に行くべきか〕(小-神女4: 1-4)
2.1-2 正しく 使用	○コレハ タイヨウニ バッカシ ア タッテルト シオレチャウデシヨウ。 <u>ダカラ</u> ミズヲ スコシ ヤンナ キヤー ダメ。(赤-w 男6:3-30)	○ライオンガ タベヨウト シタノ。 <u>ダカラネー</u> シマハ ニゲチャッテ ライオンガ オイカケチャッタノ。 〔はっきりしない〕(赤-n 男5:2-8)	○～ミズバ オハナニ カレテルカラ カケテンノ。 <u>ダカラネ</u> ハナガ チャ ント ウエニ ナッデンノ。(神-寺男 4:4-18)
○ウサギハ イネムリシテンノ。ダカラ カメノ ホウガ イットウニ ナッタ			○年長に多し。

<p>2.2 文中 で、だからの 場合</p>	<p>ノ。(赤-b 男6:5-18)</p> <p>●アサン ナッテ アタシ イチバン ハヤク オキテネ <u>ダカラ</u> オカアサ ンハ ヨル ミルクネ <u>アッタカイ</u> トコ(ロ)へ オイトクノ。(意味不明) (赤-E 女5:8-35)</p>	<p>○オテンキガ アルカラ ハナ モウ オレナイデ アタラシイ ハナト ト リカエテ <u>ダカラ</u> ココニ オイテ アンノ。(意味不明) (赤-k 女5:3-16)</p>	<p>○〜クマガ オッコッチャッテ <u>ダカラ</u> クマハ () <u>トラック</u> ナッチャウ ノ。[意味不明] (神-折女4:3-15)</p>
<p>から、だから の場合</p>	<p>○〜ゼンゼン <u>トレナカッタカラ</u> <u>ダカラ</u> <u>ラ</u> ミツケヨウト オモッテ イナク ナッチャッタカラ オサンボカラ カ エッテ キタンダヨ。ホイクエンニ; [意味不明] (自-k 男5:8-12)</p>	<p>○ウチガ ビンボトカラ <u>ダカラ</u>ネー ウシノ チチ シボッテ カアサン ガ、ノ大きい声でいってノ(自-r 女4: 8-14)</p>	<p>○コレハ オオカミガ <u>キタカラ</u> <u>ダカ</u> <u>ラ</u> コウ ヤッテ ナッテンノ。(小 -原女3:7-15)</p>
<p>2.3 文末</p>	<p>○ナニカガ ツカマッタ トキ ツカ マッタッテ イウデシヨウ。<u>ダカラ</u>; [はっきりしない] (赤-x 女6:2-15)</p>	<p>●〜ハジメ ハヤカッタノニ ウサギ オヒルネ シチヤッタカラ <u>ダカラ</u> カメガ ハヤク ナッチャッタノ。(神 -師女4:11-11)</p>	<p>○クマガ ネズミ <u>キライダカラ</u> <u>ダカ</u> <u>ラネ</u> ホエツケテンノ。(小-矢女4:0 -13)</p>
<p>6 だって 1 発話のはじ め</p>	<p>どういうとこいいの? ○<u>ダッテ</u>ネー アンマリ オコラナイ トコ。(赤-m 男5:10-2)</p> <p>どうしてやなの? ○<u>ダッテ</u>サ スワル ンダモン。(赤-v 男6:1-3)</p>	<p>アリババのお話聞かせてくれる? ○ <u>ダッテ</u> ワカンナク ナッチャッタ。 (赤-u 男5:6-8)</p> <p>どうしてお父さんいいの? ○<u>ダッテ</u> ハ トライテ オカネ イッパイ モッテ</p>	<p>○「から」だけで 十分なのに「だ から」を口ぐせ 的に入れる。年 少にめだつ。</p>
<p>1.1 間投詞的</p>	<p>よくおぼえていたわね。○<u>ダッテ</u> ボク ズーット マエニ ガラガラドン ヨ ンダカラ オボエタノ。(神-三男4:0- 46)</p> <p>どうして? ○<u>ダッテ</u>ー ワルイ モン</p>	<p>○「どうして」の 質問に対して、 答の文頭につく 口ぐせ的用法。 間投詞的と名づ</p>	

<p>2 発話中 2.1 文頭 2.1-2 一応正しく使用</p>	<p>○ソレモ〔遊星仮面のこと〕シラナイ。 ダッテネ テレビダカラ ワカンナイ ノ。(自-b 男6:0-19)</p>	<p>クンダモン。(自-o 男5:4-3)</p> <p>●デモ カタツムリハ ヘイキダヨ。ネ ラレルヨ。ダッテサ アタマヤナカンカ ヒツコンデサ アレ ネラレルジャナ イ。(小-海男4:3-17)</p> <p>●ワカンナイゾー。ダッテ イマ ヤッ テ ナインダモン。(小-上男4:7-8)</p>	<p>ヤッチェケルンダモン。(小-金男4:1-6)</p> <p>どうして? ○ドウシテモ。然 <u>ダッテ</u> ウルトラセブンノ ホウガ ツヨイモ ン。(神-宮男3:8-6)</p> <p>●キツ ソウダヨ。ソウダヨ。<u>ダッテ</u> カオガサ ライオンノ カオジャ ナ インダモン。(赤-d 男4:2-12)</p>	<p>けてよいか疑問 だが。</p>
<p>7 だけと 1 発話のはじめ</p>	<p>なんでつなひきおもしろい? ○<u>ダケド</u> ボク ヤダナ ツナヒキ。(赤-v 男6: 1-3)</p>	<p>ダレモ オトモダチ イナイノ。／だっ て幼稚園にいったほうがいいでしよ。／○ <u>ダケド</u> エモ アソブ ヒト イナインダ モン。(自-r 女4:8-8)</p>	<p>三匹の山羊のがらがらどんのお話でき る? やってみて。○<u>ダケド</u> ゴホン ナクツチャ ダメ。(神-場男3:10-16)</p> <p>○デ アレネ <u>ダケド</u> ネ ボク サイ ショハネ ボクネ アレネ アノ ヒ トダト オモツチャッタ。(神-三男4: 0-25)</p>	<p>○質問とか前文に つながっている という意識が幼 児にあるのだろ うか。むしろ、 「その他」の項 に入れるべき か。</p>
<p>2 発話中 2.1 文頭 2.1-2 一応正しく使用</p>	<p>○オカアサンヤ オトウサン イママデ タタカッテタノ。<u>ダケド</u> モウ オカ アサンヤ オトウサン モドッテ キ タカラ コンドデ オワリニ ナッ チャウノ。(赤-r 女5:10-7)</p>	<p>○シンデレラモ 「イキタイナー」ッテ。 「<u>ダケド</u> アタシハ オカアサンカラ イッパイ オシゴトガ イイツケラレ テンデスモノ」ッテ ユッテ オシゴ トヲ ヤッテタラ〜(赤-p 女5:2-12)</p>	<p>○マダ アルノ。〔いちご〕／そう／<u>ダケ</u> <u>ドー</u> タベナイノ。(神-寺男4:4-7)</p> <p>○チョット チカイケド <u>ダケド</u> コウ エン イク トキハ <u>ハイル</u> トキハ ダイジョウブダケド オフロヘ イッ</p>	
<p>2.2 文中 けど、だけと の場合</p>				

2.3 文末		<p>㊦ ソシタラネ アナボコニ ハイッ チャッタ。フカイヨ、ダケロ。〔語順〕 (神-渡男4:6-7)</p>	<p>テ ガッコウノ トコ トオルト マ ルアロ イッタラ カエル トキガ トオイシタモン。〔「けど」文末とも。 意味はつきりしない〕(神-三男4:0 -31)</p>
くけど(だけの略)>			<p>おとうさんの仕事知ってる? ○ウン。 シッテル。／どいう仕事してるの? ／オシゴト?／ん?／ドウ ヤッテ エイコラ シテル。／ん?／ケドネ、 シラナイ。(神-場男3:10-4) ㊦ オヨガナカッタ。ミタダケ。／良かつ たね／ケド ウミン トコニ ポート デ ワッタッテ ミタノ。(赤-e 男4:1 -2)</p>
<p>8 でも</p> <p>1 発話のは じめ</p> <p>1.1 間投詞的</p> <p>2 発話中</p> <p>2.1 文頭</p> <p>2.1-1 間投詞 的</p>		<p>聞かせてちょうだい／㊦ デモ イイヨ。 (小-海男4:3-15)</p> <p>㊦ イナカ。／そう。／デモ サ カボチャ オイシイカラ カボチャ ツクッテ クレタノ。(神-桑女4:10-26)</p>	<p>幼稚園のお休みの日どっか行く? ○デ モネー イッコダケ イッタ コト アル。〔口ぐせ〕(小-神女4:1-6)</p> <p>A 子ちゃんのカバンにはどんな模様が いてる? ○ツイテナイ。デモネ ンワンノ エガ ツイテル。〔口ぐせ〕 (小-神女4:1-12)</p>

2.1-2 正しく使用	いつもなにかいてるの？ ○イツモ ヤッテ ナイカラナー。 <u>デモネー</u> ロ ケットトカ ジドウシヤ。(赤-s 男6: 6-7) 楽しかった？ ○ウン。 <u>デモ</u> ツナヒキ ン トキ コロンジャッタ。(赤-t 男 6:0-8) ○ネナカッタラ ゴールニ ツイチャ ウ。 <u>デモネ</u> ネチャッタカラ カメク ンガ イットウニ ナッチャッタ。(赤 -u 男6:5-18)	○ソレガ コワイノヨ。グルグル マ ワッテ メガ マワルノ。 <u>デモ</u> アン マリ コワク ナカッタヨ。(赤-f 女 4:10-9) ●イツモ。ノそう。ノ <u>デモネ</u> ミタクナ イ モ ノ ハ ミ ナ イ。(小-寛 女4:7 -18) ●〜トベナクナッチャッタノ。 <u>デモ</u> カ タツムリハ ヘイキダヨ。ネラレル ヨ。(小-海男4:3-17)	ノいいお母さんじゃない。ノ●ウン。 <u>デモ</u> オコンダヨ。(赤-a 女3:10-11) ノこわくなかった？ノ●コワクナイ。 <u>デモ</u> ノンナカッタヨ。(赤-b 男4:0-8)
9 そうすると 1 発話のはじめ 1.3 その他 2 発話中 2.1 文頭 2.1-1 間投詞的	○〜オイテ オクノ。ソシテネ <u>ソウス</u> ルト ユウガタノ クジン ナッテ ミルト〜「そして」でよい(白-s 男 5:9-7) ○〜イチバン マエガ コロブデシヨ。 <u>ソウス</u> ャット ダンダンニ コロンデ イクデシヨ。(赤-t 男6:0-8)		(テープ)裏返しにしてまた入れるのよ。 ○ソウスルト ドウ スンノ[なんの]？ (小-佐男4:3-18)
2.1-2 一応正しく使用		○イチバン (コレ)。(ソウスルト) コレ ナニカ トラエタカラ (キテ) オツ カケテンノ。[意味不明] [間投詞的] (赤-d 男5:4-13)	

2.1-3 他の意味のところに使用					
2.1-3-1 「それから」の意					
2.1-3-2 「そして」の意	○〜ツクツテ オクノ。カゴノ ワナヲ; ソウスツトネ クダモンモ オイトイ テネ ソウスルトネ タベヨウト シ テ ハイッタラ バツテ ツカマエル ノ。(自-s 男5:9-9)	●〜ズツト マッスグ イッチャウノネ。 ソウスルトネ コツチヘ マガルノ。 ヒダリニ;(小-弘女5:1-7)			
2.2 文中で、そうするとの場合	○ダンダンニ コロンデ イクデショ。ソ ウスルト コロンジャウノ。ミンナ; (赤-t 男6:0-8)				
2.2-2 一応正しく使用	○クダモンモ オイトイト <u>ソウスルト</u> <u>ネ</u> タベヨウト シテ <u>ハイッタラ</u> <u>バツテ</u> ツカマエルノ。(自-s 男5:9-9)	●ソコヲネ ワタツテ <u>ソウスルト</u> ボ クンチヘ チュクノ。(小-永男4:4-6)			
10 その他	○コレデ イイノ?/そう。/ <u>ジャネ</u> シマウマノ トコ <u>イッタノ</u> 。ミツケ タラ;(赤-r 女5:10-10) /田舎でもいいし/ <u>○ウー</u> ン <u>ジャー</u> イナカノネ。(自-k 男5:8-4)	○こっちが一番よ。/ <u>○ウー</u> ン <u>ジャー</u> ド(ウ)シテ ココ <u>サンツテ</u> <u>カイテ</u> アルノ? (赤-d 男5:4-16) ● <u>ジャー</u> ミレバ イイジャナイ。(神-規 男4:6-11)	持っていないだもん。○ <u>ジャ</u> <u>カッテ</u> クレバ。[間投詞的・口ぐせ](小-原女 3:7-26) ○〜ウチ シツテル?/知らない。/ <u>ジャ</u> <u>コンド</u> <u>ウチニ</u> <u>クル</u> <u>トキニ</u> <u>ハ</u> <u>オシエテ</u> <u>アゲル</u> 。(小-神女4:1-4) 死なないよ。勉強しないだって。○ <u>ジャ</u>	○話題の転換	

それに	／交通事故なんて見たことある？／○ ～トラックニネー ホラ シタニ ハ イッチャッタリネー タクシーニ プ ツカッタリネー <u>ソレニネー</u> スピー ドイハンダッタリ。(赤-0 女6:1-25) ／それから？／● <u>ソレニ</u> ドナルドダッ ク。(白-t 女6:4-12)	○ハタグミニ イッテ ソイデ オニギ リ タベテ アト ギユウニユウ タ ベテ <u>ソレニ</u> オセンベエ コイダケ タベテ。(自-k 男4:8-11) ● <u>タン</u> ポポノ ハナヤ。／ <u>そう</u> 。／ <u>ソレ</u> <u>ニ</u> カーネーション アルデショ。(神 -桑 女4:10-11) ○ホイク タイソウトネ ナガグツヲ ハイタ ネコトネ…… カケッコデ ショ。 <u>ソレトネー</u> ハトポッポタイソ ウトネ…… (赤-r 女4:10-3)	● <u>バツタダ</u> ッテ ダレカニ ヤッタ コ ト アルンダカラ。 <u>ソレニネー</u> イロノ ツイテル バツタミタイナ カタチノ ボク ミツケタンダカラナー。(赤-d 男4:2-14)	ナニガ シム〔死〕ノ？ (小-佐 男4:3 -7)	○累加の意
それと		○ <u>ソレダカラ</u> ミズニ〔を〕 ヤッタノ。 (小-成 男4:7-17)	○ <u>オテテ</u> デ ヤッタノ。 <u>ソイダカラ</u> ネ アーカイヤッテ ヤッテシンノ。〔意味不 明〕 (小-矢 女4:0-15)		○条件、展開
それだから	● <u>オハナ</u> カレチャッタノ。 <u>ソンダカラ</u> ミジュ カケヨウト モッタノ。(自-z 男5:8-15) ● <u>ソイデ</u> ネ <u>ソレダカラ</u> ネ モウネ ユ カチャンチ イカナイノ。(自-0 女6: 1-6)				○条件、逆接
それでも	○ <u>オジイサン</u> モ ユッタノ。 <u>ソンデ</u> モ イクッテッタラ オジイサント オバ アサンハ「ソンナラ イッテラッシャ イッ」チュッテ～(自-u 女6:5-19) たのしいことは。○アノ ナイケド ネー。ソイデモネー ボールナンカ アソブノガ タノシイ。(赤-a 男5:11 -12)〔間投詞的〕 ● <u>ナンダカ</u> チンナイケド <u>ソレデ</u> モ ガマンシデモ ナンダカ ケンカシタ				

そんなら	イノ。〔間投詞的〕(自-y 男6:0-15)	●ゴカラ ギャク?/そう。/ソシナラ ゴー ヨン サン ニイ イチ ゼ ロ。(神-井男5:0-15)	○「ソシナラ オマエヲ タベチャウゾ」 〔物語〕(神-高男4:4-25)	○条件, 展開
(それ)だった ら	○ウサギサンネ カメヨリ ハヤイカラ ジマンシテネ <u>ダッタラネ</u> カメクン ガネ ムコウノ ヤママデ キョウソ ウシテ ミヨウツテ ユツテ~(赤-u 男6:5-17)	●~ハネナガラ ニゲタノ。トコロガネ イシニ <u>ブツカッテネ</u> カメノ ホウガ イチバン ハヤクテネ ウサギハネ タオレチャッタノ。(神-規男4:6-20)	○条件, 展開	○条件, 展開
そうすれば	○~コンドハ コッチイ マガッチャヘ バ イイノネ。ソウスレバ <u>ツクノ</u> 。 (赤-a 男5:11-14)		●アー ソウイエバサー オオモリノ オバーチャンチ カラーダヨ。(赤-a 女3:10-16)	○仮定, 展開
そういえば			どっち好き? アタクナンバンワン。 /どんなお話?/●ソレトモネー シ ラナイケド。〔言いざし〕(赤-t 女4:4 -6)	○選択
それとも				○条件, 逆接
ところが				○条件, 逆接
じゃなくて			○マッハゴーゴートネ マグマタイシ。 ジャナクテネ ロボタントネ オオカ	○反対

どうして(か) っていうと			ミショウネントネ アト シラナイ。 (小-神女4:1-9)	○理由, 説明
それをもって	● ~イツノマニカ タマツチャッタノ。 ソレデモツテ ホイデ ハジメ ジュ ウエン ダッタタンダヨー。〔語が変わっ ていく、おかしい〕 (自-y男6:0-11)	○ ~ボク ニトウ。／速いね。／ン <u>ドウ</u> <u>シテカツテ</u> <u>イウト</u> <u>サイショ</u> <u>ハヤ</u> <u>クツツテ</u> <u>アレ</u> <u>ヤスン</u> <u>ジャッタカ</u> <u>ラ</u> 。〔意味不明〕 (赤-d 男5:4-3) ○ センセイニ ナリタイ。／どして? / <u>ドシテツテ</u> <u>イウトネー</u> <u>ナンデモ</u> <u>デキルカラ</u> 。 (赤-r 女4:10-5) ● <u>ドシ</u> <u>ドシテカトイウトネ</u> <u>ソノ</u> <u>ショウジョフレンド</u> <u>トイウ</u> <u>オモシ</u> <u>ロイ</u> <u>コワイケド</u> <u>オモシロイネ</u> <u>ソ</u> <u>レヲネ</u> <u>ミルタンビニ</u> <u>カイニ</u> <u>イク</u> <u>ノ</u> 。 (赤-q 女5:2-18)		○条件, 展開
誤用	○ ~プールニ トビコンデルカラ ミニ イッタンダヨネ。 <u>ソシテモ</u> <u>プールガ</u> <u>ナイノ</u> 。 <u>イクラ</u> <u>サガシテモ</u> ; [そし たら, それでも] (自-b 男6:0-25) ○ ~ネッコロガツテ シンダ マネツテ ヤツテ <u>ソシテモネ</u> <u>ミンナ</u> <u>クビヲ</u> <u>フツテ</u> , <u>ムコウニ</u> <u>イッタラ</u> ~ [そし たら, それでも?] (自-t 男6:2-22) ○ オトウチャン <u>イッテカラ</u> 。 <u>フジサ</u> <u>ン</u> ; <u>ソシテカラネ</u> <u>オカアチャン</u> <u>コンド</u> <u>イッタノ</u> 。 [それから] (自-e 女5:7-7)	● ~コッチノ ホウ イクノネ。 <u>ソウシ</u> <u>テカラネ</u> <u>ズーッ</u> <u>イッチャツテネ</u> [そして, それから] (小-弘女5:1-7)	○ コレハネ アタマトネ ウン プ(ツ) トネ () トツテッタラネ ソシタ ラバネ イタイッテ。(小-藤 女3:10 -11) [そしたら]	

	<p>それたべるの？そして？ ○ソシテッカ ラネー ネムク ナッタラ ネテ ソ イデ オカアサンガ カエッテ キタ ラ イツモ オフロ イクノ。〔それか ら、そして〕(自-i 男6:4-11) ● ~ソイデ カタヅケテネ ソウシテカ ラネ バイバイシテ~〔そして〕(自-i 男5:7-1)</p>			
--	---	--	--	--

お わ り に

——まとめと将来への考察——

幼児の話しことばの文構造の研究は、現代語を研究するものにとって、興味深い研究対象ではあったが、なかなか荷の重い仕事でもあった。十分に調査研究がなされたとはいえない。問題を残したままの段階でまとめたような状態である。しかし、この調査からでもわかったことは多い。本文で述べてきたわけだが、ここに箇条書きにして気づいたことを要約する。

①3歳から6歳の幼児は、年齢を問わず、わりによくしゃべり、不整文もあるとはいえ、いろいろの構文を使用している。

②とはいっても、このような調査では、上位の幼児の用例が取られるきらいがあるので、全体からいうと、単文では五つ以上の文節からなる文、複文では主語五つ以上からなる構文は十分に使えないといえそうである。年少、年中は全体の幼児からいうと単純な文構造の文で話しているのである。

③具体的な用例はそれぞれの使用例をみていただくことにして、構文の上では、年少と年長の間に一段のめざましい違いがあり、年中が、その橋渡しの役目をしているといえる。したがって年少では使用できない構文が年中でよく使用されているというような場合もみられる。特に複文のうち、接続助詞を二つ以上もつ形式で主語四つからなる文までについては、年少の使用数が少なく、年中はよく使用している。また、連体修飾語の節をもつ構文は年少にほとんどなく、これは年中でも少ない。年長にならないと使えないのである。複文構造では特に年少において前後の関係をはっきり理由づけて話せず、「から」よりむしろ「て」を用いて並列的に述べる傾向がみられる。「から」をもつ文は「から」文末の省略文あるいは補足文ともいえる文に多い。

④文末形式では、使用のまちがいが少しはみられるがほとんどの年少児が簡単な形式は用いている。使役の助動詞については逆にほとんどの幼児が使えない。推定の「らしい」もむずかしいようである。

⑤接続詞については、「それで」「そして」を間投詞的に愛用している。接続助詞「て」と結びついた「て、それで」「て、そして」などの言い方を好む。文を接続して話す時、幼児はまだ簡潔な要領のよい複文構造の話し方ができないからだろう。「～て～て」で接続する複文構造で話す傾向もあるが、これらとともに、文意識の未発達のためと思われる。

⑥個人別文節数を調べたが、長く話すことと、きちんとした構文を話すこととの相関はどうか。数字であらわせないが、少ししか話せない幼児は問題外にして、きちんとした構文で話している幼児は中以上の長さの話をしているようである。

用例によく登場してくる幼児は、文節数の多いほうに属する幼児であることはもちろんであるが、整わない話し方として用例にあがる幼児と、整った話し方をして登場する二種の幼児群がある。年長でみると自s男と自j女は前者の例で、赤w男と赤o女は後者の例である。年少では神三男が前者で、小佐男が後者といえる。しかしこれとて厳密な結果ではない。このような面からの資料の用い方もあるのである。

次に思いつくままに調査の反省も含めて今後の研究課題について述べる。

(1)用例をあげるときに、必要に応じて主語の欠けたものはかぎっこで補い、補語については一部を補った。格助詞、副助詞の欠けているものは内容の理解できるものは補わなかった。接続助詞の「て」の意味が「ので」となるところは、幼児が「ので」をうまく使用できないので補ったところもある。「(ので)」の使用数は少ない)これらについては問題もあるが、構文の分析をする場合、幼児の深層に入って分析したほうが、わかりやすいと思ったからである。深層に入ったつもりが、そうっていないことを恐れる。

(2)数をあげたことについて——この調査は数を調べるのが目的でなく、幼児の文の構造とその発達をみることをめざしており、もともと時間制限をせずに話題をいくつか決め、幼児に自由に話させたものである。しかし、どのくらいの数が使えものかを知りたくなり、調査者の心覚えにメモしておいたものをそのまま原稿にのせた。そのような数字である。

(3)どのような方法論で分析調査をやるかということは何よりも大切なことで、ここでは調査者の文法観が問われるだろう。その点反省することが多いが、今後すぐれた現代語文法が確立された時点で、そのような観点から調査してみたいと思う。今見えなかった幼児の文構造の特色もそこでは見えてくるかもしれない。

しかし、そのような本質論にさかのぼらないでも、この幼児の話しことばの資料を使ってさまざまな研究をすることができる。たとえば次のようである。

話題として、幼児の家族について「おうちにだれとだれがいますか」という質問をした。その答の構文はさまざまであった。この一問答からも文の構造の発達が見られるのである。

この質問に対する答は大体「Aト Bト C」という並立構文が多い。その他、「Aト Bト ソレダケ」の構文。これらは年齢を問わずある。そのほかの構文をあげて、年齢的発達を見ると、数字を入れたり、文末に動詞を入れる構文を使っている。4歳以前に比べると表現に発達が見られるのである。語彙の発達とも密接に関連している。

○コドモガ オネエサンガネ サンニンデネ ヨウチエンガ ヒトリデネ オジイチャンガネ
シンジャッテネ ショウ (この中は聞きとれなかった) ガネ イテネ オトウサンモ イテ
オカアサンモ (イル)。 (小少-相男4:4)

年中になると自分も家族のメンバーになる。「あたし」「ぼく」が言える。年齢でいうと5歳前後からである。たとえば、

○ノリコトネ ママト オトウサント ボク。(赤中-s 男5:6)

○イモウトトネ オカアサント オトウサント アタシシカ イナイ。(赤中-q 女5:2)

次のような構文も出てくる。

○カゾクデ? / そう [質問者の返答] / パパト ママト オニイチャン イマス。(赤中-p 女5:2)

「家族」などということばや「います」とていねい語を使う幼児もでてきている。年長には次のような構文もある。

○イマハネ オトウサン シッショウ シテルノ。 イマハネ オカアサント オネエサント
ネ ボク。(赤長-c 男6:3)

「今はね」と限定して答えているところなど、なかなか正確である。こんなふうに関への反応の発達を見ることによって、幼児の言語の発達の様相もみることができるのである。その他質問者の質問に二つのことがらがあった場合、はじめに反応するのではなく終わりの部分に反応するか、どのような質問に対してはどのような反応がえってくるかとか、という伝達の問題もある。文構造の発達研究についても調査し残したことは多い。本文でそれぞれ述べた。今後の課題にしたい。

付 録

付1 幼児の話す長さ

問答形式によって、話題をきめて幼児と話した場合、幼児はどれくらいの話をするものか調べてみた。

調べかたにいろいろの方法があるが、ここではまず次のようなものの平均数をみた。幼児はこれまでと同様、年中、年長同一幼児、年少は神谷、小川の幼児である。(1)文節数、(2)文数、(3)発話数、(4)一文中的文節数、(5)一発話中の文節数、(6)アノネ、ウーントネ数、(7)アノネ…を一文節として数えた場合の全文節に対する割合。次表がそれである。

種々の方法でみた幼児の話す長さ

年齢	性別	(1)文節数	(2)文数	(3)発話数	(4)一文中的 文節数	(5)一発話中 の文節数	(6)アノネ～ の数	(7)アノネの 割合
年 長	男	400.55	91.64	66.14	4.37	6.06	49.91	12.46 %
	女	378.69	82.38	57.75	4.60	6.56	32.69	8.63 %
	計	391.34	87.74	62.61	4.46	6.25	42.66	10.90 %
年 中	男	221.05	66.36	45.27	3.33	4.88	29.45	13.33 %
	女	236.94	60.31	43.94	3.93	5.39	28.19	11.90 %
	計	227.74	63.82	44.71	3.57	5.09	28.92	12.70 %
年 少	男	335.18	112.14	72.32	2.99	4.63	46.27	13.81 %
	女	266.77	94.54	64.15	2.82	4.16	28.00	10.50 %
	計	309.77	105.60	69.29	2.93	4.47	39.49	12.75 %

年中と年長は同一幼児なので比較できる。平均的にみると、文節数も文数も発話数ともに年齢があがるにしたがって多くなっているのがわかる。年少児が年中児より数が多くなっているのは、たまたま調査時に先生から聞いていた物語を長く話していたことと、一人の幼児が特別におしゃべりで、年長児よりも多く（採集例の中でトップ）話していたことなどの影響である。

一文中的文節数をみると、年少児は、話した文数も文節数も年長児より多いにもかかわらず少なくなっている。短い文をたくさん話していることがわかって面白い。

「アノネ」「ウーントネ」の数を調べたり、文節中の割合をみたのは、次のような理由による。

①これら間投詞を幼児が非常によく使う。②これら間投詞があることによって幼児の切れない長い文も理解できるとか、文が飛躍しても理解できるなどのこともある。これら間投詞は別に研究してもよい問題である。③しかし、この調査では、用例として幼児の話しことばを使用する場合、紙面には煩雑ということなどもあって、必要な場合以外は省略した。

そこで、なんらかの形で、このような形式のあることを残すために、調査してみたわけだが、全文節に対する割合は約一割ということになる。年齢を問わず女児より男児にいくらか多い。

次に、最高、最低の文節数と発話数その他をみると次表のようになる。

最高, 最低文節数他

	年 長		年 中		年 少	
	男	女	男	女	男	女
文 節 数	780～159	724～141	605～56	550～112	1,496～34	647～10
文 数	141～57	138～33	169～32	94～37	430～24	321～9
発 話 数	92～38	80～32	70～29	76～30	142～20	185～10
アノネ…数	98～10	108～5	130～1	86～4	174～0	65～1

文節数では年齢を問わず男児が最高文節数で話している。年長児は最高 780, 最低 141 文節を話し, 年中児は最高 605, 最低 56, 年少児は最高 1,496, 最低 10 という数字が出ている。最高はともかく, 最低数では, 年少児から年中, 年長へと話す数がふえていることがわかる。その他については表をみていただきたい。ここにあげた数は, なんらかの話をした幼児のもので, 全くしゃべらない幼児がークラスに一, 二名はいるのである。

なお, 個人別文節数については第 1 部で述べておいた。

この調査では, 話題をきめて幼児に答えてもらったが, これら話題についての幼児の反応を文節数で調べてみた。以下の表のようである。

話題別にみた文節数 (平均)

年齢と性別 \ 話題	①親の仕事	②生活報告	③テレビ	④お話	⑤道順	⑥ライオン	⑦かめ	⑧花	⑨熊
年長	13.08	67.08	65.03	47.32	17.52	25.34	29.87	16.05	15.53
年中	8.71	38.16	25.42	26.18	11.95	20.18	22.18	12.89	15.26
年少	10.25	45.71	28.11	8.40	9.51	11.71	13.14	9.74	10.74
男	13.14	53.45	42.20	24.68	13.41	21.06	21.33	12.67	13.21
女	7.07	46.02	36.35	33.29	12.62	16.66	22.89	13.44	14.98
全体	10.67	50.44	39.83	27.81	13.09	19.28	21.96	12.98	13.93

九つの話題について平均文節数をみたことになるが, 幼児が一番長く話してくれた話題は, ②の生活報告と③のテレビで, ついで④のお話という順である。⑤は道順, ⑥以下は絵をみての話である。年齢別にみても, 生活報告, テレビ, ついで物語の順で, 性別からみても同じである。生活報告とテレビとお話の差は, 年長にいくほど話す長さが接近している。年少はテレビとお話を話す長さが, 生活報告よりうんと短かく, 年中は, テレビとお話は短かくなっているが, 年少がお話がうんと短かいのに比べて, テレビより少し長く話している。(年中の女兒にお話を長く話した幼児がいたので平均に影響しているのかもしれない。)

もう一つ興味のあることは, 男児はテレビでみた漫画などを長く話し, 女兒は聞いたり読んだりした物語を長く話していることである。また, 年少では, 物語を話すよりも, テレビで視聴した話をするほうが長かったということである。その他, ①親の仕事については, 父親の仕事を知っている幼児は少なかったが, それでも長く話したほうは男児で, 女兒が短かいのが年齢を問わず

めだっていた。⑤道順もむずかしい。この報告書では用例としては、接続詞のところで主として用いた。絵をみての話では⑦⑥⑨⑧の順序で文節数は短くなっている。これら話は、理解して話すというのではなく、絵があるから、描かれているまを順々に話せばよいというような傾向がみられた。深く追求しなかったが、絵を用いての調査は今後の課題にしたい。

次に話題別の最高、最低文節数をみると、その話題について全くしゃべらなかった幼児のあることがわかる。

話題別最高、最低文節数

話 題 年齢と 性別	①親の 仕事	②生活 報告	③テレ ビ	④お話	⑤道順	⑥ライ オン	⑦かめ	⑧花	⑨熊
年長	0～71	11～241	6～261	0～238	0～78	11～57	9～142	9～35	7～37
年中	0～99	0～164	0～118	0～173	0～62	0～56	3～52	0～26	0～48
年少	1～61	1～126	2～158	2～68	1～63	1～43	2～35	3～23	5～47
男	1～99	0～241	0～190	0～161	0～78	0～57	2～68	0～32	0～48
女	0～25	1～170	2～261	0～238	0～62	0～53	2～142	0～35	0～47
全体	0～99	0～241	0～261	0～238	0～78	0～57	2～142	0～35	0～48

付2 補足文の構造の分析

2.1 補足文の構造

文の中では、述部が最後にきている構造が普通であるが、話しことばのため、(1)文の成分の欠けているものを追加補充した構文と、(2)内容の追加や成分の訂正補充をした構文、その他に大きく分けられる文の構造がある。補足した成分をもつ文というわけで、ここでは補足文と名づけた。^(注1)この補足文をなお細分化して、幼児にはどのような構造が多いか以下にみていくことにする。用例に使った幼児は、これまでと同様に年長、年中は同一幼児、年少は神谷、小川の幼児である。なお、補助資料の用例も●であげておいた。章末には使用例をあげる。

2.1-1 文の成分の欠けているものの追加補充

これはいわゆる倒置といわれる形式のものを多く含んでいる。この中を13に細分化して用例をあげる。

1.1 主語の補充

1.2 補語の補充

文の成分のところで述べた(第2部第2章)補語₁、補語₂がこの中に入る。

(注1) 国立国語研究所報告18『話しことばの文型(1)』(70~80ぺ)によると、宮地裕氏は倒置の表現として扱っている。そして、倒置の表現は、間に無理がなく、後置成分の可逆性のものに限定している。ついでにいうと似た形態をとっても不可逆性のものは、その後置成分を単独の省略文または独立の一文と認めるとして、倒置文では扱っていないのである。また別のところで「文+省略の不完全文」を名づけて補充の表現というほうがよいかと思うが、名称のことはしばらくおくと述べている。そして、大人の話しことばでは、概括的に言えば、後置部分は「単純な連用修飾格に立つ成分一つのものが多い」といってよいと述べ、数と用例をあげている。数をあげておく。

			例数
全 293 例	I	1 成分後置 240 例	(1) 主格後置 89
			(2) 用修格後置 143
			(うち)副 詞 (52)
			数 詞 (4)
			その他 (87)
			(3) 体修格後置 6
			(4) 独立格後置 2
			(うち)接続詞 (2)
			II 2 成分後置 28
			III ★印 25
(くりかえしの表現のもの)			

(☆) ここに述べてある間についてであるが、幼児の資料は質問者(筆者)が幼児に話しよい場をつくってやるために「そう」とか「うん」とかで合づちをうった。(紙面では然で代表してある。)そのため、不必要に合づちが多い。そこで、この種の合づちは全部取ることにした。そのため、間が引用例には見られないのである。もっと厳密に補足文の研究をする場合は、録音文字化の段階で、間かどうかの区別をすべきであろう。

1.3 場所の補充

補語₃に相当するものの補充である。

1.4 連用修飾語の補充

この中には、節の補充とか、単位文の補充がある。

1.5 時の補充

1.6 理由の補充

1.7 連体修飾語の補充

1.8 接続詞の補充

1.9 独立語の補充

1.10 題目語の補充

1.11 成分の一部の追加補充

1.12 これらの成分の重なっている補充

1.13 文中に挿入しての成分補充

「て＋それで」「から＋それから」他で接続している文の「て」と「それで」の中間に前文の補足として追加されるもの。主語、補語、連用修飾語、理由の成分補充がある。

2.1-2 内容の追加や成分の訂正補充

2.1 文や文中に内容を追加補充

これは、一応文が完成したのち、文の内容の不十分さや、内容を豊かにするために追加補充するもので、以下の二種類の形式がある。

2.1-1 内容の追加補充

この中には、節を含む文の追加もある。

2.1-2 文中に挿入しての内容の追加補充

2.2 前に話した成分の訂正補充

前に話したことばの不十分さを訂正して、正確なことばで伝えようとするのだとか、ただ訂正という場合もある。前のことばが形式としてあらわれているもので、それにも傍線をつけた。成分に分けてどのことばの訂正が多いかみた。

2.2-1 主語の訂正補充

2.2-2 補語の訂正補充

2.2-3 場所（補語₃）の訂正補充

2.2-4 連用修飾語の訂正補充

2.2-5 時の訂正補充

2.2-6 理由の訂正補充

2.2-7 連体修飾語の訂正補充

2.3 文末部分の訂正補充

この中には訂正のみでなく、内容の補充も入っている。位置が文末の場合である。

2.4 成分および内容など二重の追加補充

成分と内容の補充だったり、補足文をまた補足するというものだったりする。

2.1-3 くりかえしての追加

これは、文の中で大事だと思われるところをもう一度くりかえして話しているようにもとれるが、それほど深い意味でなく、反復に過ぎないもののようでもある。数は多くない。

2.1-4 意味不明のもの

2.2 まとめ

幼児の補足文がどのような割合を示しているか数字をあげてみると別表のようである。(数字については前に述べた参考程度とみていただきたい)

1の文の成分の欠けているものの追加補充が年齢に関係なく多い。特に年少に多い。中でも主語、補語の補充が多いのは、大切な成分で、それを補わないと意味がとれないと自覚しているのだろうか。年少児には主語補充が多い。但し、話しことばなので、いつも倒置的な文で話す幼児も(大人にもある)いるわけで、話しぐせということもあるので、そのように言ってしまってもよいか疑問がのこる。年長児は理由の補充が多く、年少児は場所の補充とか連用修飾語の補充が多くなっているのがめだっている。連用修飾語補充は年中も多い。連用修飾語補充が節をなしたり、つまり、連用修飾部になっているのは全体に少ない。時の補充は年齢を問わず少ないが、年長の例は用例をみるとわかるように、「ヒチジハン」などと数字をくわしくあげている。(語彙の発達ともみられる)成分の一部の追加補充は、姓名のうち姓を追加したり、並列してあげなければならぬうちの一方をのちに追加するもので例は少ない。補助資料にあった。文中に挿入しての成分補充は、年少に見られなかった。

2のうち、内容の追加補充をみると、全体には1のように多くないが、年長、年中が多く、年少は少ない。2.1の内容の追加は、前文の内容の不十分さを補充したりするもので、相当高いレベルの知能が要求されるからだろう。年少にはなかった。文中挿入の内容追加補充の例は年長のみに二例みられた。

「前に話した成分の訂正補充」はただの訂正もあるが、そればかりでなく正確な内容に訂正するための補充もあるので年少は少ない。成分を細分化してみるとどうであろうか。時、理由の補充は年中、年少ともない。連体修飾語、連用修飾語の補充は年長でも補助資料にみられたに過ぎない。訂正されることばの中には、「これ」とか「ここ」とかの指示代名詞のものがめだつ。

文末部分の訂正補充も、年少に少ない。成分および内容などの二重追加補充は、正確に表現しようとする意図のあらわれで、高度のレベルに属している。そのため全体に使用数も少ないし、年少では特に少なく、使っている幼児も限られている。

3のくりかえしの補充は、強調の意味もあるかもしれないが、あまり好ましい現象ではない。

4意味不明のもの——この中には録音不明瞭で意味不明のものは入っていない。意味のとれないもののみである。

全体の文(きめのあらいものであるが調査した文数付1にあげたもの)に対して補足文がどのくらいの割合であるかを参考のためあげておいた。補足文がめだつのに比して、3～5%という割合で少ないことがわかる。

幼児の補足文には成分追加の補足文、いわゆる倒置文が多く、内容追加、訂正補充の補足文は

非常に少ないこと、年少でそれが特に顕著であることがわかった。また、文の成分の面からみると、1、2に関係なく、時の補充、理由の補充、挿入的補充が全体に少なく、特に年少では少ないこともめだつ現象であった。これは第2部の文構造の分析のところででも述べたことで、幼児の文構造の特色と言える。この種の語彙の発達も関係しているだろう。

前にも述べたが補足文が話しぐせの幼児がいることもみられた。補助資料から年少児の一例をあげてみる。1の主語補充(8)、補語補充(4)、場所補充(1)、時の補充(1)、理由の補充(1)、連用修飾語補充(2)、成分の重なっている補充(1)、2の内容追加(2)、訂正補充(1)、計21回にもなっている。

幼児の補足文の形式の割合

補足文の形式	年 齢	年 長	年 中	年 少
	割 合	%	%	%
1 文の成分の欠けているものの追加補充		65.7	55.8	82.4
1.1 主語の補充		8.4	12.5	15.2
1.2 補語(補語 _{1,2})の補充		14.5	2.9	13.6
1.3 場所(補語 ₃)の補充		7.2	8.7	16.8
1.4 連用修飾語の補充		7.7	11.5	17.6
1.5 時の補充		3.9	1.9	3.2
1.6 理由の補充		15.5	7.7	7.2
1.7 連体修飾語の補充		0.7	4.8	3.2
1.8 接続詞の補充		1.3	0	2.4
1.9 独立語の補充		0	0	0.8
1.10 題目語の補充		0.7	1.0	0
1.11 成分の一部の追加補充		0.7	0	0
1.12 これらの成分の重なっている補充		1.9	2.9	2.4
1.13 文中に挿入しての成分補充		3.2	1.9	0
2 内容の追加や成分の訂正補充		25.2	25.0	7.2
2.1 文や文中に内容を追加補充		6.5	4.8	0
2.1-1 内容の追加補充		5.2	4.8	0
2.1-2 文中に挿入しての内容の追加補充		1.3	0	0
2.2 前に話した成分の訂正補充		9.0	10.6	4.0
2.2-1 主語の訂正補充		1.3	2.9	0.8
2.2-2 補語の訂正補充		3.2	4.8	3.2
2.2-3 場所(補語 ₃)の訂正補充		1.9	2.9	0
2.2-4 連用修飾語の訂正補充		0	0	0
2.2-5 時の訂正補充		0.7	0	0
2.2-6 理由の訂正補充		1.9	0	0
2.2-7 連体修飾語の訂正補充		0	0	0
2.3 文末部分の訂正補充		8.4	7.7	1.6
2.4 成分および内容など二重の追加補充		1.3	1.9	1.6
3 くりかえしての追加		5.8	11.5	5.6
4 意味不明のもの		3.2	7.7	4.8
使用した全体の文数に対する割合		4.7	4.3	3.4

幼児の補足文の使用例

分類	年齢	年	長	年	中	年	少	備考
1 文の成分の欠けているものの追加補充								
1.1 主語の補充								
充	○ソイデ ウントネ ネチャッタノ。ウサギガ；(自-k 男5:8-23) ○ヒョウノネ キモノ キタタノ。ター(ざん) ジャナクテネ アノ ワルイ シトガ；(赤-u 男6:5-9) ○チットモ コワクナイ。アタシハ；(自-g 女5:11-13)	○ソイデ ネ(逃) ギテ ユクノ。シマウマガ；(自-k 男4:8-16) ○〜テッポウ カッテ クレタノ。パパガ；(自-a 男4:9-6) ○オバアサント ネンノ。ボク；(赤-u 男5:6-7)	○ソイデ ネズミ タベンノ。クマサンガ；(小-新男3:10-10) ○オハシヤ コウイウ オシヤジャナンカモツ ホウ。コッチハ；(袖-三男4:0-28)					
1.2 補語(補語1,2)の補充								
充	●コノゴロネ ヨマナイデ ミルダケニスンノ。ゴホン；(赤-o 男6:2-17) ○カタズケテルヨ。ゴハントカ ソウイウモノ；(自-v 男5:7-12) ●ソウジキナンデネ ピストルミタイニシチャウングヨ。メダルデ；(自-e 男6:1-12)	○シラナイヨ。ソレモ；(赤-j 女4:7-6) ○ウマガ ケットバシタノ。ウシロノアシデ；(自-b 男5:1-10) ●〜ゴハン タベタノ。オトウチャント；(袖-山男4:9-2)	○ウシャギガ カユイ カユイッテ カイテル。ホッペ；(袖-坂女4:0-8) ○〜イク トキナンカ シューッテ〜ハヤインダ。チョウトッキュウヨリ；(袖-三男4:0-26) ○シラナイ。ソレモ；(小-原女3:7-28) ○ガッコウガ オヤスミ トキネ バッタトリニ イッタノ。サブチャント；(袖-場男3:10-5)					
1.3 場所(補語3)の補充								
充	○〜カラ オキテ ミタラ カメサンガノボツチャッタノ。テッペンマデ；(赤-m 男5:10-22) ○ソイデ デチャッター。タタミノ ウエニ (自-m 男6:4-5)	○ママネ オシゴト シテルノ。オウチデ；(自-r 女4:8-2) ○〜ドブネ ジュミガ クワエテ イッチャッタノ。アナノ ナカニ；(自-j 女4:7-17)	○オトコノ コガネ マタ イタノ。ビョウインニ；(袖-佐女3:7-16) ○ソイデ タバコヤサンガ アルデショ。ソノ アガッタ トチュウニ；(袖-三男4:0-30)					
1.4 連用修飾語の補充								
充	○ソウスレバ イルヨ。イッパイ；(自-s 男5:9-6) ○〜ケドネ ニチヨウビダケ トキドキネ	○モウ イナイノ。サンニンシカ。(自-r 女4:8-2) ○ソイデネ コビトノネ ウチマデ キ	○ソコニ オモチャバコガ アンノ。ヒトツ；(袖-三男4:0-10) ○〜ソイデ ウチデ ネテル。ズート；					

<p>ガラスヲネ マドノ ガラスヲ フク トキ アル。オニイサント イッショニ; (赤-k 女6:2-6)</p> <p>○〜テレビノ アル ハンタイガワノ レ コードガ アル ホウニ イッテ アソ ンデンノ。ナンカ シテ; (赤-a 男5:11 -18)</p> <p>○〜テネ オバケガネー イタズラスル ノ。オナカニ ジー カイタリ シテ; (赤-a 男5:11-11)</p>	<p>チャッタノ。ナカサレテ; (赤-n 男5:2 -7)</p> <p>○ソイデ トビダシタノ。マタ; (赤-t 男 5:1-10)</p> <p>○〜カッチャンダノ ダレカ クンダヨ。 アト チュイテ; (自-p 男4:7-8)</p> <p>●アソブノ。ナンカ シテ; (小-関男5:0 -3)</p>	<p>(小-神女4:1-2)</p> <p>●〜ドッカデネ ハナビガ キコエタノ。 パチパチッテ; (赤-b 男4:0-4)</p> <p>○センセイハ アノ ミニ キタノ? <u>ワ ルイコガ ドコニ イルカッテ; (神-三 男4:0-15)</u></p> <p>○〜ッテ ヤルトサ テーモ ナンニモ コロガッテサ シンジャウダモン。チ ガ デテ; (神-宮男3:8-9)</p>
<p>○ソンデネ 「レイ」 トカ イウノ。ハジ メ; (自-u 女6:5-13)</p> <p>○ソイデネ アサモ オハヨウコドモショ ウッテ ノガ アルノ。ヒチジハンカラ ネ; (赤-f 女5:9-10)</p>	<p>○イッパイ イッタンダヨ。ヤスンデタ トキ; (自-s 男4:10-9)</p> <p>●〜ロンパールーム ミナイデショ。コノ ゴロ; (小-久女4:7-16)</p>	<p>○イチゴガ ナカッタ アツタケドネ。マ エネ; (神-寺男4:4-6)</p> <p>○ズット マエハ キタケド ズーッ コナインダモン。コンド (ハ) (このご ろ?); (神-三男4:0-4)</p> <p>●ババト チュウシヤジョウ イッタ。ヨ ルニ; (赤-q 男4:1-3)</p>
<p>○モーニングショートカ ソウイウノ ミ ル。ウタガ アルカラ; (赤-k 女6:2 -21)</p> <p>○〜ホン カオウト オモッタンダヨネ。 テツジンノ ホント スーパージェッ ター ホン ウッテタカラ; (自-b 男6: 0-15)</p> <p>○ウンドウカイ デナカッタヨ。オヤスミ シテ; (赤-a 男5:11-4)</p> <p>○カメサンガ カッタノ。ウサギサン ネムクナッテ ネタカラ; (自-p 男5: 6-13)</p>	<p>○モウ ワスレチャッタナ。キノウ ヤッ タ (ケド); (赤-m 男4:10-7)</p> <p>○ヒトリ ネラ^(レ)ンノ。イツツダカラ; (自-s 男4:10-18)</p> <p>●ドンナ コトカ ワカンナイ。テレビガ [を] キカナイト; (小-成男4:3-17)</p>	<p>○ジャイアメントロボッテ シー [ひ] ニハ ヨワイノ。テチュダカラ; (神-古男4:5 -13)</p> <p>○テレビ ミナイ。ツマンナイカラ; (神 -宮男3:8-7)</p> <p>○〜トコロニ ヤッチャ ダメナノ。ツボ ンジャウカラ; (神-折女4:3-14)</p>

1.5 時の補充

1.6 理由の補
充

1.7 連体修飾語の補充	○オニイチャンニ カンサツガ アルカラ。ホンノ; [はっきりしない] (赤-m男5:10-11) ●レコードガ アルシサ。パピーノ; (赤-i男6:2-11)	○ウンテンシュニ ナリタイヨ。デンシヤノ; (赤-a男4:11-6) ○オソト デタ。ノブオチャンノ ソバノ; (赤-a男4:11-3)	○マリノ ウチハネ スグネ トナリナノ。ヨウチエンノ; (神-渡女3:10-7) ○ソイカラ アカチャンモ インノ。オトコノ; (小-加男4:1-1) ○ウチノ オニイチャン。チュ (ツ) ギノ; (神-寺男4:4-4)
1.8 接続詞の補充	○～ユツタラ ムコウ イッテネ ハヤトガネ ダレカニ ハナヲ モラッチャッタノ。ソシタラ; (赤-m男5:10-16)	●ジドウシヤニ プツカッタノ。ソイデ; (神-松女4:8-24)	○チョウチヨガ トンデ キチャッデネ ミンナ コワシチャッタノ。ソシテ; (小-長男3:5-12)
1.9 独立語の補充			○ソレデ (オワッ) タジヨ。(ホラ); (小-金男4:1-5)
1.10 題目語の補充	○～カメサンガ ハヤクッテネ ウサギサンガ オソイノ。ココガ; (自-n男6:5-18)	○～シマウマガ アシデネ ウシロアシデケッテネ コロンジャッタノ。コレ; (自-g女5:0-10) ●ニンゲン カイタノ。(コレハ); (神-師女4:11-9)	
1.11 成分の一部の追加補充	○～ジャナイ ケンチャン。カシマ; (自-a男5:8-12) ●オカアサンハネ センタクト ホンヨンダリ シテル。クツ アラッタリ; (赤-p男5:11-4) ●オバアチャン マダネ シンデナイケド。ト イナカノ オジイチャンハ; (自-p女6:1-12)		●カメモ スキナダヨ。オサカナモ; (赤-q男4:1-3) ●サンダーバードガ モラエルンダッテ。カッテ; (赤-d男4:2-10)
1.12 これら成分の重なる補充	○ミル トキダッテ アルヨ。ヨルニューースバッカリダカラ; (自-p男5:6-10) ●ウサギ ネムッテル トキ カメガイッチャッタ。チカラモチダカラ。カメ	●フタツ シカ ナイ。タッタノ、ボクンチハサ; (自-c男4:7-7) ○アソンデンノ。ヒトリデ、オモチャデ; (自-b男5:1-6) ●クミチャンネ(自分) ホン ヨンダダ。	○ヨル ヤッテンノ。マダ カイシヤガ[は]; (意味はつきりしない) (小-福男4:2-2) ●ヤッ(つ)(ケ)ルノ。カイジウヲ バーシッテ; (赤-r男3:8-6)

1.13 文中に 挿入しての 成分補充	チャンハ；(赤-1 男6:3-16)	<p>○ソンデ タカラモノヲ モラッテー、オニタチニ、ソンデ～(自-u 女6:5-21)</p> <p>○オカアチャンダケ イッタノ。オトウチャン イッテカラネ、フジサン、ソシテカラネ(自-e 女5:7-7)</p> <p>○ウミ イッテネ プール アソンデネ、イッパイネ ウーン～(自-a 男5:8-4)</p> <p>●ソレデ ユカチャンネ アッチデ マッテネ、オカアサンガ クルマデ、ソレデ(自-o 女6:1-2)</p>	<p>ヒトリデ、キノウ；(小-山中女5:0-20)</p> <p>○～オサルニ オカシ ヤッテ ソレデ ツキノワグマニモ ヤッテ、オセンベエヲ、ソレカラ コンダハ～。(赤-f 女4:10-8)</p> <p>○～ドッチガ ハヤイカ ヤッタラ、コノヤママデネ、カメガ ノロイカラネ ノロノロ イッテ～。(赤-n 男5:2-10)</p>	●シテ クレナカッタカナ。オハナシハナンニモ；(赤-d 男4:2-113)
2 内容の追加や成分の訂正補充	2.1 文や文中 に内容を追 加補充	<p>○ブラモデルモ チュクッテ クレル。コンナ オッキイノ；(自-b 男6:0-5)</p> <p>○オハナシナンカ シテ クレナカッタ。ホンキリ；(自-p 男5:6-9)</p> <p>○ソノ ハナシハハネ オボエテルヨ。アタシ ナンデモ；(自-g 女5:11-14)(1.12とも)</p>	<p>○オトコダケドネ ハナガネ ウエニ アンノ。(次のこと)ビジンナノ；(自-d 女4:11-3)</p> <p>○ママダケ ツレデッテ クレナイノ。オツカイッキリ；(自-p 男4:7-7)</p> <p>○カラダガネ マールクッテネ テツジンガネ ショウタロウガネ イウトネ クンノ。キカイ アルト；(自-a 男4:9-7)</p>	
2.1-2 文中に 挿入しての 内容の追加 補充	<p>○オバキユウニハネ オウチニ ショウチャンデ イウノガ イデネー、オトコノ コデ、ソイカラ～(赤-f 女5:9-9)</p> <p>○スポーツカーネ カッテ モラッテネ、オモチャノダ、ト レーシングカー～(自-a 男5:8-7)</p>			

2.2 前に話し

た成分の訂
正補充

2.2-1 主語の
訂正補充

- ～オカアサン マモルノ オカアサント
ババガ イルシ。マモルノ ババ；(自
-a 男5:8-10)
●シトガ ノッカッテタ。オッキイ シト；
(赤-p 男5:11-3)

2.2-2 補語の
訂正補充

- ～ドウロニ デヨウト シテテネー ジ
ドウシャニ ハネラレチャッタノ。ト
ラク；(赤-d 男6:4-19)
○～カクレテテネ ワナヲ ツクッテ オ
クノ。カゴノ ワナヲ；(自-s 男5:9-9)

2.2-3 場所
(補語_s)の
訂正補充

- ～ウント ウエマデ イッタノ。ヤマノ
チョウジョウ；(自-o 男6:3-12)
○ココニネ ボク イルノ。ヒヤクナナ；
(赤-w 男6:3-27)

2.2-4 連用修
飾語の訂正
補充

- デモ ココマデシカ ハイナナイノ。
ハンブンシカ；(赤-D 男5:11-5)
●スコシ ウツル。ヤット；(赤-v 男6:5
-8)

○訂正のみ
でなくく
わしく説
明もある。

- コレ ヒカレチャッタ。ネズミガ；(小
-原女3:7-12)
○～ナニ カイジュウダッテ デテ クル
ヨ。ウルトラマンダッテ ウルトラシェ
ブンダッテ；(神-高男4:4-17)

- ニチヨウビハネ ヒル オトモダチト
アソブノ。ヒロチャント；(小-矢女4:0
-4)

- アメ フッタ トキネ ナンカ キテ
イッタノ。カッパ キテ；(神-三男4:0
-5)

- コレニ ノッチャウ。オモチャ；(赤-m
男4:1-2)

- ミチ アルイチャッタノ。コッチノ ミ
チ；(自-d 男3:10-13)

- オトウチャンハ カイシャヘ イッテ
オシゴト シテンノ。アブーデ イッ
テ；(小-加男4:1-2)

- イッパイ イルヨ。モウ スコシ；(赤
-b 男4:0-7)

- エガ デタ。カミ；(赤-i 女5:3-4)
○アトラシイ ノリモノガ デキタノ。タ
コ；(赤-f 女4:10-8)
●ソングカラネ オンマ イタネ。アカ
チャン ウマモ；(小-端男4:2-6)

- カイヤ、イカナイデネ キカイヲ
ヤッテンノ。オッキイ キカイ；(自-s
男4:10-14)

- マンガトカ ソウイウノガ ダイスキデ
ネ。ウタトカ；(赤-p 女5:2-6)

- ～ロマンスカー ノッテ キュウコウ
レシヤ ノッテ ズット ヨコハマ
イッチャッタノ。イナカニ；(自-s 男4:
10-10)

- タイフウ キタ トキネ トナリノネ
シタノネ トコデ ネチャッタノ。マエ
ノ ヘヤ；(自-c 男4:7-11)

- モウ イク [か] ナイ。マダ；(神-永男
4:1-23)

2.2-5 時の訂 正補充	○ハバガネ オンセンヘ イッテネ デ オソク カエッテ キタノ。ヨル；(赤 -x 女6:2-6) ●～イツモ イツモ ヨルニ ナルト アノ オクスリ ヌルノ。ヨルト アサ；(自 -p 女6:1-5)	●ゾウサンネ ハナデ コウ ヤッテネ タベテンノ。オクチニ イレデ；(赤-b 男4:0-8)
2.2-6 理由の 訂正補充	○ソシテモ プールガ ナイノ。イクラ サガシテモ；(自-b 男6:0-25) ●ミズ マコウト シタラ カレチャッタ ノ。ミズ マイタラ；(自-x 男6:1-14) ○オカシニカラ。ビッコヲ ヒイテルカラ； (自-t 男6:2-25)	
2.2-7 連体修 飾語の訂正 補充	●ツナヒキハ ムコウノ イチクミノ ホ ウガ カッタノ。アカグミノ；(赤-i 男 6:2-4)	
2.3 文末部分 の訂正補充	○～チツチャイ オトコノ コガネ ミズ ヲ ヤッテタノ。ヤッタノ；(赤-o 女6: 1-29) ○～ナカマノ トコニ キタカラ アト イッチャッタノカ。ソウダナ イッチャ ツタンダ；(赤-m 男5:10-21) ○カメハ「コロロ ココマデ アノネ コ ラレナイデショ」ッテ ユツタンダッテ。 オモッタノ；(自-d 女5:11-27) ○～オトナノ コノクライナダヨ。クビ	○～ニゲデテネ カメガ ウエニ ノッ カッテ ナンカ ヤッテンノ。タッテン ノ；(神-寺男4:4-18) ●トビダスト ケガスルノ。シンジャウノ； (赤-v 女4:0-8)

	ノ トコマデ ナンダヨ; (自-k 男5:8-18)		
2.4 成分および内容など二重の追加補充	<p>○オトウサンダッテ キョウ ユッタヨ。 <u>ダメッテ</u>, <u>マンガ</u> <u>ミンノッテ</u>; (自-p 男5:6-3)</p> <p>○～サルニ <u>アッタ</u>ンダツケ。<u>イヌダ</u>, <u>イヌニ</u> <u>アッタ</u>ノ; (自-u 女6:5-19)</p>	<p>○ソレデ <u>フンスイ</u>ノ <u>ナカハ</u> <u>スゴ</u>ーイノ。<u>キカイ</u>デ, <u>バイブガ</u> <u>イ</u>ーッバイトオッテ; (赤-f 女4:10-8)</p> <p>○ソレデネ <u>バビー</u>ノ <u>ナカマハ</u>ネ <u>～</u>ストロングガ <u>イル</u>ノ。<u>オッキイ</u>ノ, <u>カラダガ</u> <u>オッキイ</u>ノ; (赤-f 女4:10-7)</p>	<p>○ジドウシヤガ [に]ネ <u>シカレ</u>テンノ。 <u>コレ</u>, <u>ネズミ</u>モ; (小-矢女4:0-13)</p> <p>○ムカチ <u>コウ</u> <u>ヤッテ</u>サ <u>コウ</u> <u>ヤッテ</u>ルノデサ <u>ヤッテ</u>ンジャナイ。<u>ボール</u>デ, <u>ソレ</u>デ; (神-秋男3:11-11)</p>
3 くりかえしの追加	<p>○～ウサギガネ <u>ネチャ</u>ッタラネ <u>サキニ</u> <u>カメガ</u> <u>イッテ</u>ネ, <u>イト</u>トウ <u>ナツ</u>チャ <u>ッタ</u>ノ。<u>カメガ</u>; (自-l 男6:0-19)</p> <p>○ライオンガ <u>イタ</u>ノネ。<u>ライ</u>オンガ; (赤-n 男6:2-11)</p>	<p>○チャンバラゴッコ <u>オジイ</u>チャント <u>バツカリ</u> <u>マイニ</u>チ <u>シテ</u>ンノ。<u>チャン</u> <u>バラ</u>ゴッコ; (自-t 男5:3-9)</p> <p>○オミズ <u>ヤッタ</u>ラ <u>マタ</u> <u>ノビ</u>チャッタ <u>ノ</u>。<u>マタ</u>ネ; (赤-t 男5:1-14)</p>	<p>○～チイタンチデネ <u>ゴハン</u> <u>タベ</u>テ <u>キ</u> <u>タ</u>ノ。<u>ゴハン</u>; (神-大男3:11-6)</p> <p>○<u>チョウ</u>チデネ <u>オツ</u>キガ <u>デ</u>タノ。<u>ツ</u>キ <u>ガ</u>; (神-村女3:6-8)</p> <p>○ライボ [お] <u>ンモ</u> <u>デ</u>テ <u>キ</u>タノ。<u>ライ</u> <u>オンモ</u>; (神-三男4:0-26)</p> <p>●サカラ <u>オリ</u>ンノ。<u>オリ</u>ンノ。(赤-b 男 4:0-9)</p>
4 意味不明のもの	<p>○ジュウ <u>ナッタ</u>ラ <u>モウ</u> <u>コツ</u>チ <u>マケ</u> <u>チャウ</u>ノ。<u>ソノ</u> <u>カッタ</u> <u>ホウ</u>; (自-u 女6:5-5)</p>	<p>○ミズ <u>カケ</u>タカラ。<u>イシ</u> <u>イジ</u>ッテ; (赤-m 男4:10-10)</p>	<p>○ガッコウガ <u>アル</u>ヨ。<u>ボク</u>ンチ; (小-佐 男4:3-15)</p> <p>○ソコノネ <u>ハイ</u>ッテル <u>トコ</u>ハネ <u>コウ</u> <u>ビニール</u>デ <u>コウ</u> <u>カゴ</u>ガ <u>ハイ</u>ッテン <u>ノ</u>。<u>ソ</u>ン <u>ナカ</u>; (神-三男4:0-20)</p>

昭和 48 年 3 月

国 立 国 語 研 究 所

東京都北区西が丘 3 丁目 9 番 14 号
電 話 東京 (900) 3 1 1 1 (代表)

UDC 809.56-56-053.4

NDC 815.9

本書の市販品発行所
〔〒162〕東京都新宿区納戸町 40 (03) 260-5281
株式会社 秀英出版

国立国語研究所刊行書一覧

国立国語研究所報告

1	八 丈 島 の 言 語 調 査	秀英出版刊	品切れ
2	言 語 生 活 の 実 態 —白河市および付近の農村における—	〃	〃
3	現 代 語 の 助 詞 ・ 助 動 詞 —用 法 と 実 例—	〃	700円
4	婦 人 雑 誌 の 用 語 —現代語の語彙調査—	〃	500円
5	地 域 社 会 の 言 語 生 活 —鶴岡における実態調査—	〃	600円
6	少 年 と 新 聞 —小学生・中学生の新聞への接近と理解—	〃	180円
7	入 門 期 の 言 語 能 力	〃	200円
8	談 話 語 の 実 態	〃	品切れ
9	読 み の 実 験 的 研 究 —音読にあらわれた読みあやまりの分析—	〃	〃
10	低 学 年 の 読 み 書 き 能 力	〃	〃
11	敬 語 と 敬 語 意 識	〃	〃
12	総 合 雑 誌 の 用 語 (前編) —現代語の語彙調査—	〃	〃
13	総 合 雑 誌 の 用 語 (後編) —現代語の語彙調査—	〃	〃
14	中 学 生 の 読 み 書 き 能 力	〃	400円
15	明 治 初 期 の 新 聞 の 用 語	〃	品切れ
16	日 本 方 言 の 記 述 的 研 究	明治書院刊	〃
17	高 学 年 の 読 み 書 き 能 力	秀英出版刊	〃
18	話 し こ と ば の 文 型 (1) —対談資料による研究—	〃	800円
19	総 合 雑 誌 の 用 字	〃	品切れ
20	同 音 語 の 研 究	〃	550円
21	現 代 雑 誌 九 十 種 の 用 語 用 字 (1) —総記および語彙表—	〃	1,000円
22	現 代 雑 誌 九 十 種 の 用 語 用 字 (2) —漢 字 表—	〃	1,000円
23	話 し こ と ば の 文 型 (2) —独語資料による研究—	〃	品切れ
24	横 組 の 字 形 に 関 す る 研 究	〃	350円
25	現 代 雑 誌 九 十 種 の 用 語 用 字 (3) —分 析—	〃	1,000円
26	小 学 生 の 言 語 能 力 の 発 達	明治図書刊	2,100円
27	共 通 語 化 の 過 程 —北海道における親子三代のことは—	秀英出版刊	品切れ
28	類 義 語 の 研 究	〃	750円
29	戦 後 の 国 民 各 層 の 文 字 生 活	〃	400円
30-1	日 本 言 語 地 図 (1)	大蔵省印刷局刊	品切れ
30-2	日 本 言 語 地 図 (2)	〃	〃
30-3	日 本 言 語 地 図 (3)	〃	〃
30-4	日 本 言 語 地 図 (4)	〃	8,000円

30-5	日 本 言 語 地 図 (5)	大蔵省印刷局刊	9,000円
31	電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究	秀英出版刊	450円
32	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(1) —親族語彙と社会構造—	〃	250円
33	家庭における子どものコミュニケーション意識	〃	350円
34	電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究(Ⅱ) —新聞の用語用字調査の処理組織—	〃	450円
35	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(2) —マキ・マケと親族呼称—	〃	450円
36	中学生の漢字習得に関する研究	〃	5,000円
37	電子計算機による新聞の語彙調査	〃	1,300円
38	電子計算機による新聞の語彙調査(Ⅱ)	〃	2,800円
39	電子計算機による国語研究(Ⅲ)	〃	700円
40	送 り が な 意 識 の 調 査	〃	1,500円
41	待 遇 表 現 の 実 態 —松江24時間調査資料から—	〃	900円
42	電子計算機による新聞の語彙調査(Ⅲ)	〃	1,200円
43	動詞の意味・用法の記述的研究	〃	5,000円
44	形容詞の意味・用法の記述的研究	〃	3,000円
45	幼児の読み書き能力	東京書籍刊	4,500円
46	電子計算機による国語研究(Ⅳ)	秀英出版刊	700円
47	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(3)	〃	600円
48	電子計算機による新聞の語彙調査(Ⅳ)	〃	3,000円
49	電子計算機による国語研究(Ⅴ)	〃	700円
50	幼 児 の 文 構 造 の 発 達 —3～6才児の場合—	〃	1,000円

国立国語研究所資料集

1	国 語 関 係 刊 行 書 目 (昭和17～24年)	秀英出版刊	45円
2	語 彙 調 査 —現代新聞用語の一例—	〃	品切れ
3	送 り 仮 名 法 資 料 集	〃	〃
4	明 治 以 降 国 語 学 関 係 刊 行 書 目	秀英出版刊	300円
5	沖 縄 語 辞 典	大蔵省印刷局刊	品切れ
6	分 類 語 彙 表	秀英出版刊	1,400円
7	動 詞 ・ 形 容 詞 問 題 語 用 例 集	〃	1,700円
8	現 代 新 聞 の 漢 字 調 査 (中間報告)	〃	500円

国立国語研究所論集

1	こ と ば の 研 究	秀英出版刊	品切れ
2	こ と ば の 研 究 第 2 集	〃	750円
3	こ と ば の 研 究 第 3 集	〃	800円

国立国語研究所年報 秀英出版刊

1	昭 和 24 年 度	品切れ	5	昭 和 28 年 度	240円
2	昭 和 25 年 度	〃	6	昭 和 29 年 度	200円
3	昭 和 26 年 度	160円	7	昭 和 30 年 度	品切れ
4	昭 和 27 年 度	品切れ	8	昭 和 31 年 度	220円

9	昭和 32 年 度	200円	17	昭和 40 年 度	250円
10	昭和 33 年 度	品切れ	18	昭和 41 年 度	300円
11	昭和 34 年 度	品切れ	19	昭和 42 年 度	300円
12	昭和 35 年 度	350円	20	昭和 43 年 度	350円
13	昭和 36 年 度	160円	21	昭和 44 年 度	400円
14	昭和 37 年 度	220円	22	昭和 45 年 度	400円
15	昭和 38 年 度	250円	23	昭和 46 年 度	450円
16	昭和 39 年 度	品切れ			

国 語 年 鑑 秀英出版刊

昭和 29 年 版	品切れ	昭和 39 年 版	980円
昭和 30 年 版	"	昭和 40 年 版	1,100円
昭和 31 年 版	"	昭和 41 年 版	1,100円
昭和 32 年 版	"	昭和 42 年 版	1,100円
昭和 33 年 版	"	昭和 43 年 版	品切れ
昭和 34 年 版	"	昭和 44 年 版	1,500円
昭和 35 年 版	550円	昭和 45 年 版	1,500円
昭和 36 年 版	800円	昭和 46 年 版	2,000円
昭和 37 年 版	品切れ	昭和 47 年 版	2,200円
昭和 38 年 版	品切れ		

高 校 生 と 新 聞	国立国語研究所 共編 日本新聞協会	秀英出版刊	280円
青年とマス・コミュニケーション	日本新聞協会 共著 国立国語研究所	金沢書店刊	品切れ

THE DEVELOPMENT OF SYNTACTIC STRUCTURES IN CHILDREN'S SPEECH FROM 3 TO 6

CONTENTS

Preface

Part One

1. Outline of Research
2. On The Nature of Children's Speech

Part Two

1. Methods of Analysis of Sentence Structure
2. Structures and Uses of Children's Simple Sentences
3. Structures and Uses of Children's Complex Sentences
4. Structures and Uses of Adjectives and Adjectival Phrases and Clauses
5. Structures and Uses of Sentence-ending-forms
6. Uses of Conjunctions

Appendix

1. Length of Children's Utterances
2. Structural Analysis of Additional Sentences

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE
3-9-14 NISIGAOKA, KITA-KU, TOKYO

1973